

令和 5 年度

会津若松市 子ども・子育て支援事業計画策
定に係るニーズ調査の報告

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査設計	1
4. 回収結果	1
5. 注意事項	1
第2章 調査結果（未就学児の保護者）	3
1. 住まいの地区	3
2. 子どもの年齢	4
3. 養育している子どもの数	4
4. 調査票の回答者	5
5. 配偶関係	5
6. 子育てを主に行っている人	6
7. 公的制度（生活保護/児童扶養手当/ひとり親家庭医療費助成事業/就学援助）の利用状況	7
8. 世帯年収	7
9. 子育てに日常的に関わっている人	8
10. 子育てに影響すると思われる環境	9
11. 子育てについて気軽に相談できる人（場所）の有無	9
12. 子育てについて気軽に相談できる先	10
13. 子育てに関する不安や負担の有無	12
14. 子育てに関して不安や負担に思う理由	12
15. 【母親】子どもと過ごす時間（平日）	14
16. 【母親】子どもと過ごす時間（休日）	15
17. 【母親】子どもと過ごす時間数をどのように感じているか	16
18. 【父親】子どもと過ごす時間（平日）	17
19. 【父親】子どもと過ごす時間（休日）	18
20. 【父親】子どもと過ごす時間数をどのように感じているか	19
21. 理想と考える子どもの人数	20
22. 実際、持とうとしている（持っている）子どもの人数	21
23. 理想的と考える子どもの人数を持てない・持たない理由	22
24. 【母親】「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【希望】	24
25. 【母親】「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【現実】	24
26. 【父親】「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【希望】	25
27. 【父親】「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【現実】	25
28. 【母親】現在の就労状況	26
29. 【母親】就労日数（ひと月あたり）	27
30. 【父親】現在の就労状況	28
31. 【父親】就労日数（ひと月あたり）	29
32. 【母親】フルタイムへの転換希望の有無	30

33. 【父親】フルタイムへの転換希望の有無	31
34. 【母親】就労したい希望	31
35. 【父親】就労したい希望	32
36. 定期的な教育・保育事業（幼稚園や保育所など）の利用について	32
37. 希望した保育サービスを利用できているか	33
38. 【月曜日～金曜日】定期的に利用している教育・保育事業	33
39. 【月曜日～金曜日】現在定期的に利用している教育・保育事業の利用日数/1週あたり	34
40. 【月曜日～金曜日】現在定期的に利用している教育・保育事業の利用時間数/1日あたり	34
41. 【月曜日～金曜日】現在定期的に利用している教育・保育事業の開始時間	35
42. 【月曜日～金曜日】現在定期的に利用している教育・保育事業の終了時間	35
43. 【月曜日～金曜日】希望する教育・保育事業の利用日数/1週あたり	36
44. 【月曜日～金曜日】希望する教育・保育事業の利用時間数/1日あたり	36
45. 【月曜日～金曜日】希望する教育・保育事業の開始時間	37
46. 【月曜日～金曜日】希望する教育・保育事業の終了時間	37
47. 【月曜日～金曜日】定期的に利用している教育・保育事業の場所	38
48. 【月曜日～金曜日】定期的に利用している理由	38
49. 【月曜日～金曜日】定期的に利用していない理由	39
50. 【月曜日～金曜日】定期的に利用したいと考える事業	39
51. 【月曜日～金曜日】現在、利用している、していないにかかわらず、定期的に幼稚園、認可保育所、認定こども園などの事業を利用したいと考えた際、幼稚園の利用を強く希望するか ..	40
52. 【月曜日～金曜日】教育・保育事業を利用したい場所	40
53. 国が検討している「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、利用を希望するか ..	41
54. 「子ども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、利用したい人のうち1日あたりに利用したい時間	41
55. 利用している地域子育て支援拠点事業等	42
56. 地域子育て支援拠点事業について、利用したいもしくは日数を増やしたいという希望	42
57. 【事業の利用状況】①家庭教育に関する学級・講座	43
58. 【事業の利用状況】②家庭児童相談室	43
59. 【事業の利用状況】③子育て世代包括支援センター	43
60. 【事業の利用状況】④教育相談室	44
61. 【事業の利用状況】⑤保育所、認定こども園、幼稚園の園庭等の解放	44
62. 【事業の利用状況】⑥地域子育て支援センター	44
63. 【事業の利用状況】⑦児童館	45
64. 【事業の利用状況】⑧認定こども園	45
65. 【事業の利用状況】⑨特定保育	45
66. 【事業の利用状況】⑩ファミリー・サポート・センター	46
67. 【事業の利用状況】⑪夜間急病センター	46
68. 【事業の利用状況】⑫休日当番医制事業	46
69. 【事業の利用状況】⑬障がい児相談支援・障がい福祉サービス	47
70. 【事業の利用状況】⑭子育て支援チラシ	47
71. 【事業の利用状況】⑮市政だより、市のホームページ	47

72. 【事業の利用状況】⑯虐待が心配な場合の市への通報制度	48
73. 【事業の利用状況】⑰子ども未来基金助成事業	48
74. 【事業の利用状況】⑱生活保護、児童扶養手当、就学支援	48
75. 【土曜日】定期的な教育・保育事業の利用希望	49
76. 【日曜日・祝日】定期的な教育・保育事業の利用希望	49
77. 教育・保育事業をたまに利用したい理由	50
78. 幼稚園または認定こども園の幼稚園機能部分を利用している方の、長期休み中（夏休み・冬休みなど）の教育・保育事業の利用希望	50
79. 病気やケガで普段利用している事業が利用できなかったことはあるか	51
80. 利用できなかった場合の対処方法	51
81. 事業が利用できなかった際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったか	52
82. 病児・病後児を預ける場合の、望ましい事業形態	52
83. 病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思わない理由	53
84. 「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思ったか	54
85. 「休んで看ことは難しい」と思う理由	54
【「その他」の内訳（一部抜粋）】	56
86. 不定期に利用している事業（私用、親の通院、不定期の就労等の目的）	57
87. 不定期の事業を利用していない理由	57
88. 不定期に事業を利用する必要があるか	58
89. 不定期に事業を利用したい理由	58
90. 子どもを預ける場合の、望ましい事業形態	59
91. 短期入所生活援助事業（ショートステイ）（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）の利用希望の有無	59
92. 利用したい場合の施設を利用する状況	60
93. 小学校の放課後に過ごさせたい場所（1～3年生）	60
94. 小学校の放課後に過ごさせたい場所（4～6年生）	61
95. 【母親】子どもが生まれたとき、育児休業を取得したか	62
96. 【母親】育児休業を取得していない理由	63
97. 【父親】子どもが生まれたとき、育児休業を取得したか	64
98. 【父親】育児休業を取得していない理由	65
99. 育児休業給付の支給、保険料が免除になる仕組みについて	67
100. 【母親】育児休業取得後の職場復帰状況（予定含む）	68
101. 【父親】育児休業取得後の職場復帰状況（予定含む）	68
102. 【母親】復帰したのは、年度初めの保育所等の入所に合わせたタイミングだったか	69
103. 【父親】復帰したのは、年度初めの保育所等の入所に合わせたタイミングだったか	69
104. 【母親】「希望」より早く復帰した理由	70
105. 【父親】「希望」より早く復帰した理由	71
106. 【母親】「希望」より遅く復帰した理由	72
107. 【父親】「希望」より遅く復帰した理由	72
108. 【母親】職場復帰時に短時間勤務制度を利用したか	73

109. 【父親】 職場復帰時に短時間勤務制度を利用したか	73
110. 【母親】 短時間勤務制度を利用しなかった理由	74
111. 【父親】 短時間勤務制度を利用しなかった理由	75
112. 【母親】 子どもが1歳になるまで育児休業を取得するか	76
113. 【父親】 子どもが1歳になるまで育児休業を取得するか	76
114. 【天気が良い時】 遊び場として利用する施設・場所	77
115. 【天気が良い時】 施設・場所の利用料	78
116. 【天気が良い時】 所要移動時間	79
117. 【天気が悪い時】 遊び場として利用する施設・場所	80
118. 【天気が悪い時】 施設・場所の利用料	81
119. 【天気が悪い時】 所要移動時間	82
120. 遊び場を利用する時や探す際に困る・困ったこと	83
121. 有料の子どもの遊び場の利用希望	85
122. 負担してもよい金額	86
123. 遊び場の近くや施設内にあればよいと思う施設	87
124. 子育ての環境や支援に関してご意見（一部抜粋）	89
第3章 調査結果（小学生の保護者）	95
1. 子どもが通学している学校	95
2. 子どもの学年	96
3. 調査票の回答者	96
4. 公的制度（生活保護/児童扶養手当/ひとり親家庭医療費助成制度/就学支援）の利用状況	97
5. 世帯年収	97
6. 子育てに関する不安や負担の有無	98
7. 子育てに関して不安や負担に思う理由	99
8. 【母親】 子どもと過ごす時間（平日）	101
9. 【母親】 子どもと過ごす時間（休日）	102
10. 【母親】 /子どもと過ごす時間数をどのように感じているか	103
11. 【父親】 子どもと過ごす時間（平日）	104
12. 【父親】 子どもと過ごす時間（休日）	105
13. 【父親】 /子どもと過ごす時間数をどの様に感じているか	106
14. 理想と考える子どもの人数	107
15. 実際、持とうとしている（持っている）子どもの人数	108
16. 理想的と考える人数の子どもを持てない・持たない理由	109
17. 【母親】 「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【希望】	111
18. 【母親】 「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【現実】	112
19. 【父親】 「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【希望】	113
20. 【父親】 「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【現実】	114
21. 子育てについて気軽に相談できる人（場所）の有無	115
22. 子育てについて気軽に相談できる先	116
23. 【事業の利用状況】 ①家庭教育講座	118
24. 【事業の利用状況】 ②家庭児童相談室	118

25. 【事業の利用状況】③子育て世代包括支援センター	118
26. 【事業の利用状況】④教育相談室	119
27. 【事業の利用状況】⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放	119
28. 【事業の利用状況】⑥地域子育て支援センター	119
29. 【事業の利用状況】⑦児童館.....	120
30. 【事業の利用状況】⑧認定こども園.....	120
31. 【事業の利用状況】⑨特定保育	120
32. 【事業の利用状況】⑩ファミリーサポート・センター	121
33. 【事業の利用状況】⑪夜間急病センター	121
34. 【事業の利用状況】⑫休日当番医制事業	121
35. 【事業の利用状況】⑬障がい児相談支援・障がい福祉サービス.....	122
36. 【事業の利用状況】⑭子育て支援チラシ	122
37. 【事業の利用状況】⑮市政だより、市のホームページ	122
38. 【事業の利用状況】⑯虐待が心配な場合の市への通報制度	123
39. 【事業の利用状況】⑰子ども未来基金助成事業	123
40. 【事業の利用状況】⑱生活保護、児童扶養手当、就学援助	123
41. 短期入所生活援助事業の利用の有無.....	124
42. 放課後に過ごす場所/【現在の状況】	125
43. 放課後に過ごす場所/【保護者としての思い】	125
44. 学校が休みの日(夏休みなどを含む)に過ごす場所/【現在の状況】	126
45. 【学校が休みの日(夏休みなどを含む)に過ごす場所/保護者としての思い】	128
46. 子ども会への加入の有無.....	130
47. 子ども会への参加頻度	131
48. 子ども会に加入して良かったこと	132
49. 子ども会に加入したことがない、または過去に加入していたがやめた理由.....	134
50. 子ども会に求める活動	136
51. 会津若松市の子育て支援事業について	138
52. 充実させるべき事業	139
53. 遊び場 利用する施設・場所【天気の良い時】	143
54. 遊び場 施設・場所の利用料【天気の良い時】	145
55. 遊び場 所要移動時間【天気の良い時】	147
56. 遊び場 利用する施設・場所【天気が悪い時】	149
57. 遊び場 施設・場所の利用料【天気が悪い時】	151
58. 遊び場 施設・場所までの所要移動時間【天気が悪い時】	153
59. 遊び場を利用する時や探す時に困る事、困った事.....	155
60. 屋内施設を利用したいか.....	157
61. 屋内施設の利用料金の負担額(目安)	158
62. 子どもと遊ぶ施設・施設内に有れば良い施設.....	159
63. 子育ての環境や支援に関してご意見(一部抜粋)	161

第 1 章 調査の概要

1. 調査目的

会津若松市内の子ども・子育て支援に関する現状と課題の把握を行い、次期子ども・子育て支援事業計画を策定するにあたっての基礎資料作成を目的とする。

2. 調査対象

令和 6 年 1 月時点において、会津若松市に居住する児童の保護者について次のとおり対象とした。

- (1) 未就学児童の保護者 3,603 件
- (2) 小学生児童の保護者 1,794 件

3. 調査設計

- (1) 調査方法 郵送または学校を通じての配付。郵送、WEB または学校を通じての回収。
- (2) 調査期間 令和 6 年 1 月～令和 6 年 3 月
- (3) 調査機関 一般社団法人 AIZU GATE

4. 回収結果

本調査の回収結果は次のとおり。回収件数及び回収率は、各調査における調査票自体の件数及び対象数に占める割合を示している。

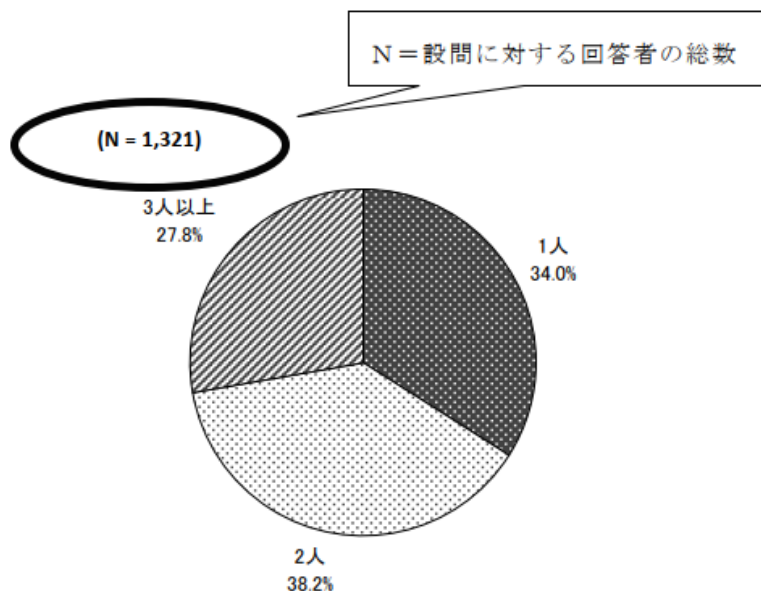
- (1) 未就学児童の保護者
回収件数 1,364 件／回収率 37.9%
- (2) 小学生児童の保護者
回収件数 1,141 件／回収率 63.6%

5. 注意事項

- (1) 図表中の「N」(Number of cases の略) は、設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比(%)を算出するための基数となる。
- (2) 図表中の構成比は、小数点第 2 位以下を四捨五入している。そのため、合計した値が 100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答の設問についても、設問に対する回答者の総数(=当該設問全体の回答件数)を基数(N)とし、各選択肢を回答した件数の割合を算出している。回答は 2 つ以上ありうるため、合計は 100%を超えることがある。
- (4) 各設問において、特に記載のない限り無回答は除外して集計している。

【例：「N」について】

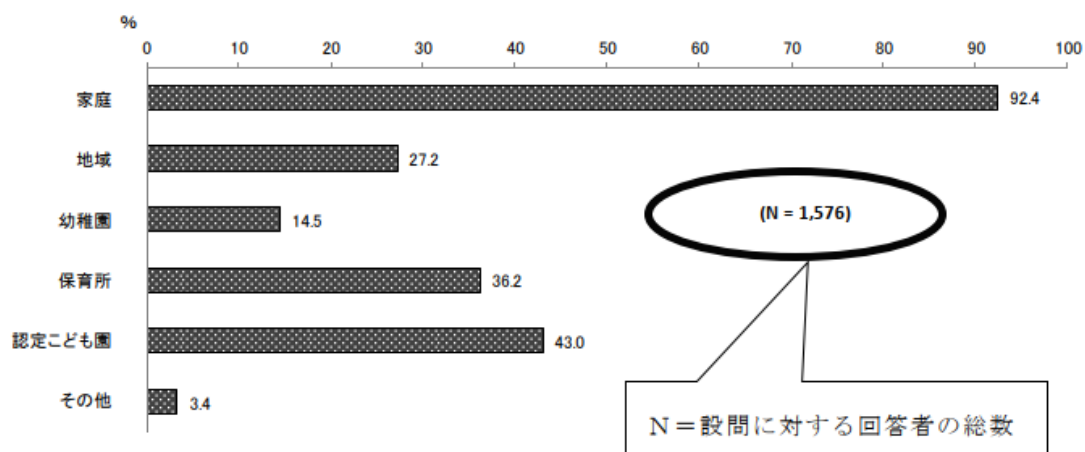
図表中の「N」(Number of cases の略) は、設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比(%)を算出するための基数となる。



【例：複数回答の設問について】

複数回答の設問について、当該設問全体の回答件数を基数(N)とし、各選択肢を回答した件数の割合を算出している。

例えば、下記のグラフにおいて、回答者 1,576 人のうちの 92.4% (1,457 人) が「家庭」と回答したことを示している。複数回答を可としているため、各選択肢において回答者の重複がありうる。

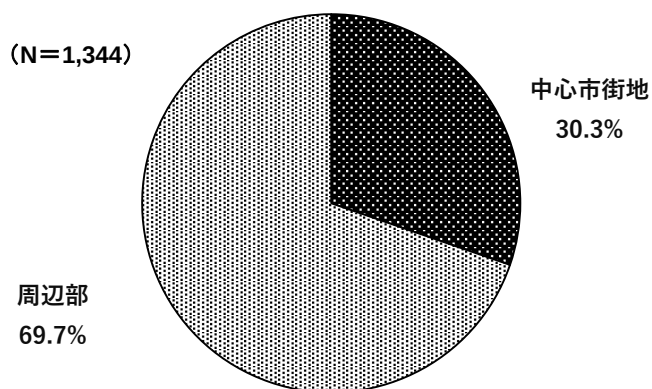
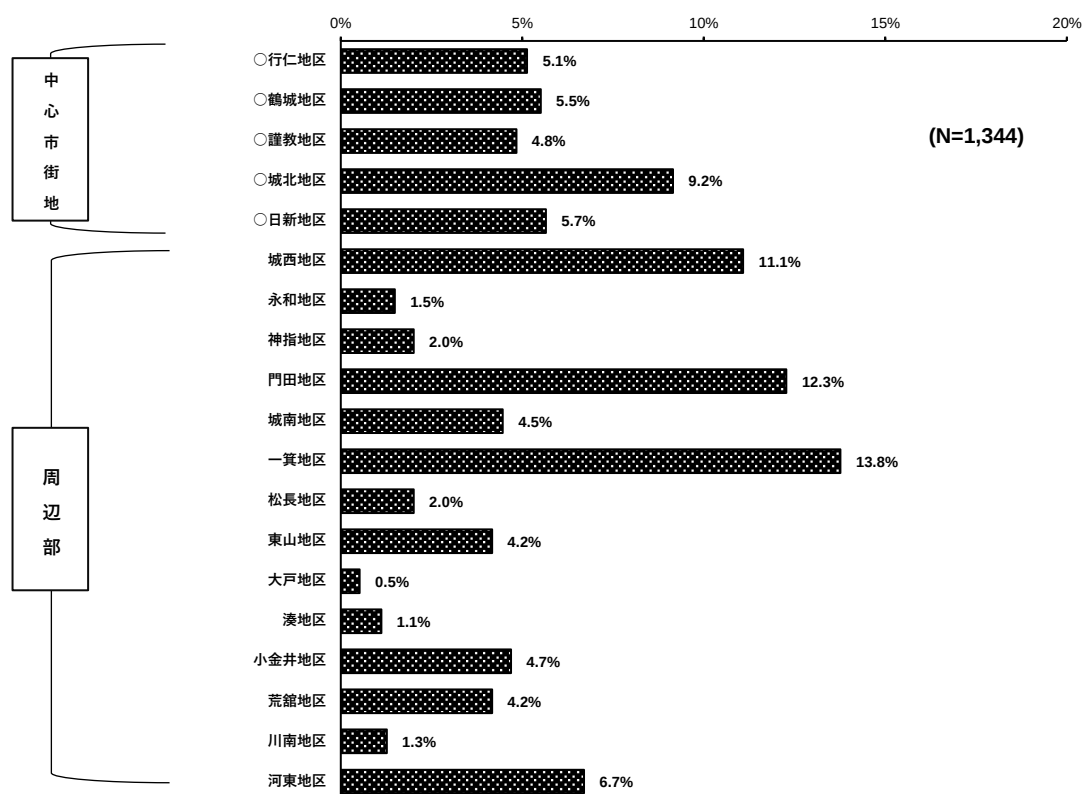


第2章 調査結果（未就学児の保護者）

1. 住まいの地区

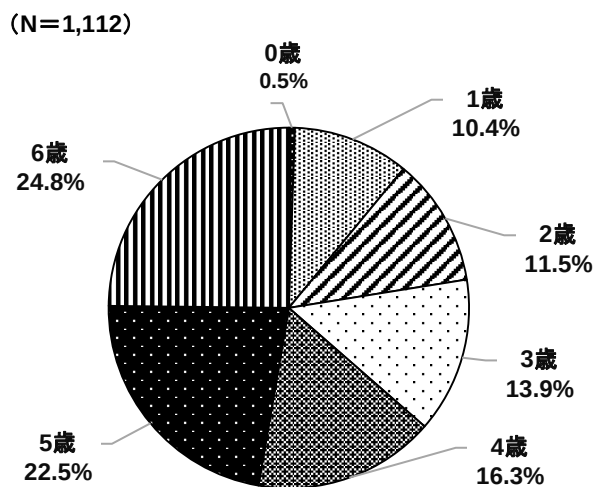
「一箕地区」が13.8%と最も高く、次いで「門田地区」が12.3%、「城西地区」が11.1%となっている。地区別にみたとき、「中心市街地」は30.3%、「周辺部」は69.7%であった。（※）

（※）本章において、グラフ中の地区名に○のある行仁地区、鶴城地区、謹教地区、城北地区、日新地区の5地区を「中心市街地」とし、それ以外の地区を「周辺部」として集計している。



2. 子どもの年齢

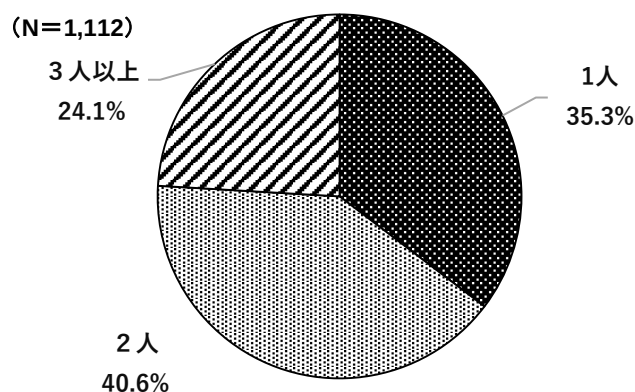
「6歳」が24.8%と最も高く、次いで「5歳」が22.5%、「4歳」が16.3%となっている。



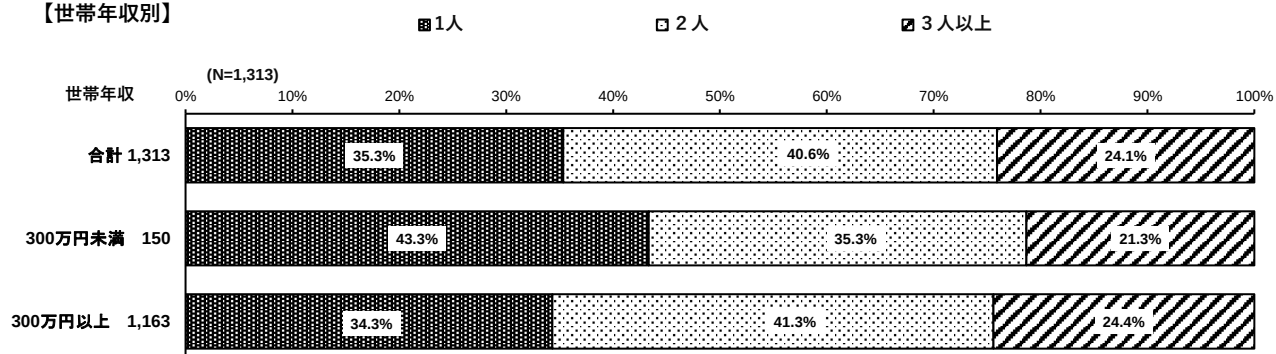
3. 養育している子どもの数

「2人」が40.6%と最も高く、次いで「1人」が35.3%、「3人以上」が24.1%となっている。

世帯年収別でみたとき、300万円未満の世帯において「1人」の割合が300万円以上の世帯と比べて9ポイント高くなっている。

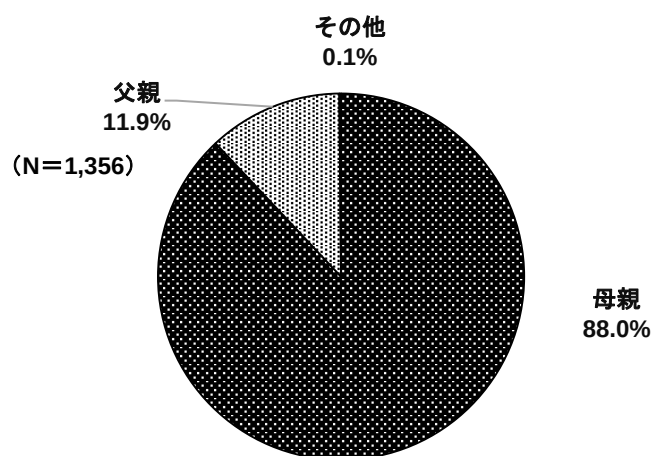


【世帯年収別】



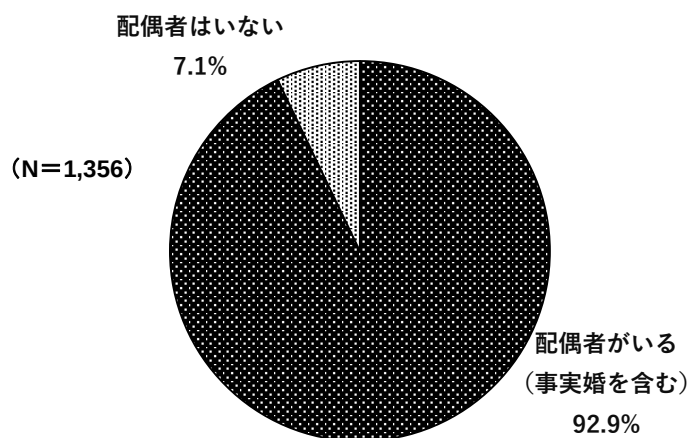
4. 調査票の回答者

「母親」が88.0%、「父親」が11.9%、「その他」が0.1%であった。

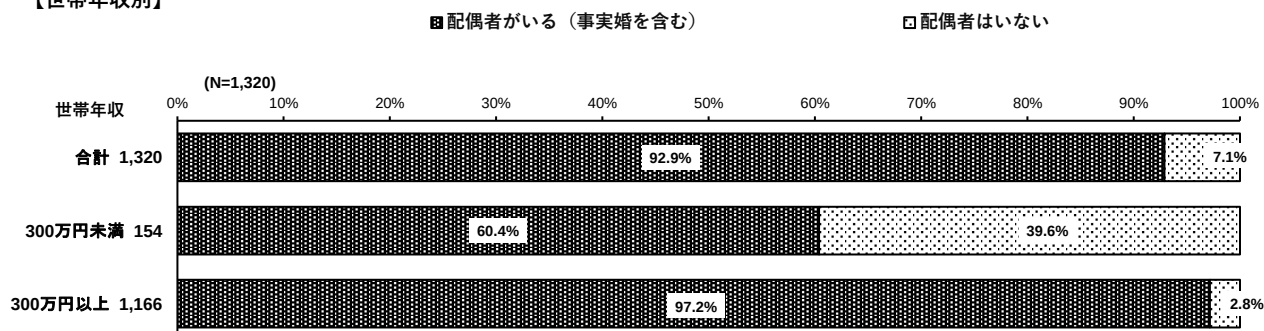


5. 配偶関係

「配偶者がいる（事実婚を含む）」は92.9%、「配偶者はいない」は7.1%であった。
世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において、「配偶者はいない」と回答した割合がおおよそ4割となっている。

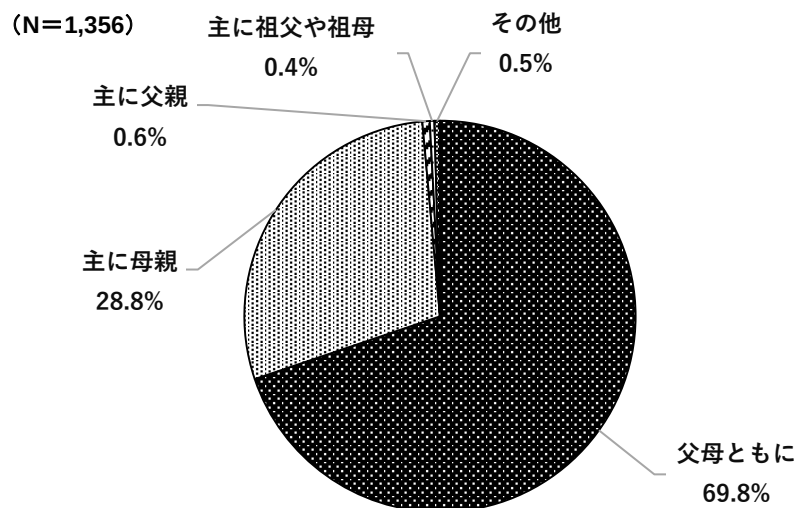


【世帯年収別】

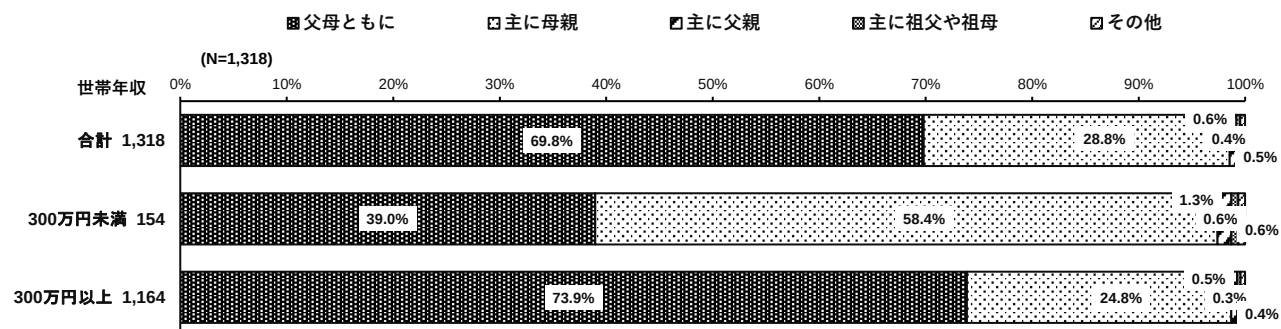


6. 子育てを主に行っている人

「父母ともに」が69.8%と最も高く、次いで「主に母親」が28.8%、「主に父親」が0.6%となっている。
世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において「主に母親」と回答した割合が6割近くを占めており、300万円以上の世帯と比べて33ポイント以上高くなっている。



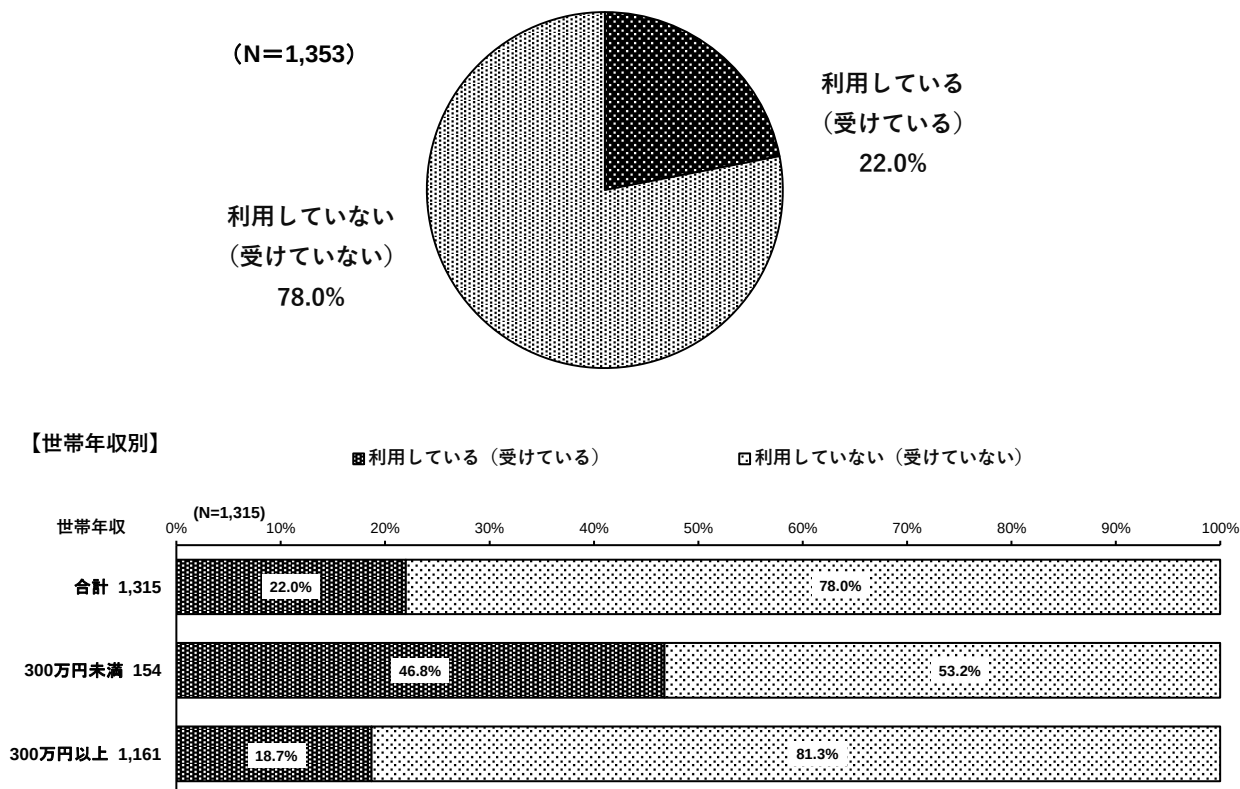
【世帯年収別】



7. 公的制度（生活保護/児童扶養手当/ひとり親家庭医療費助成事業/就学援助）の利用状況

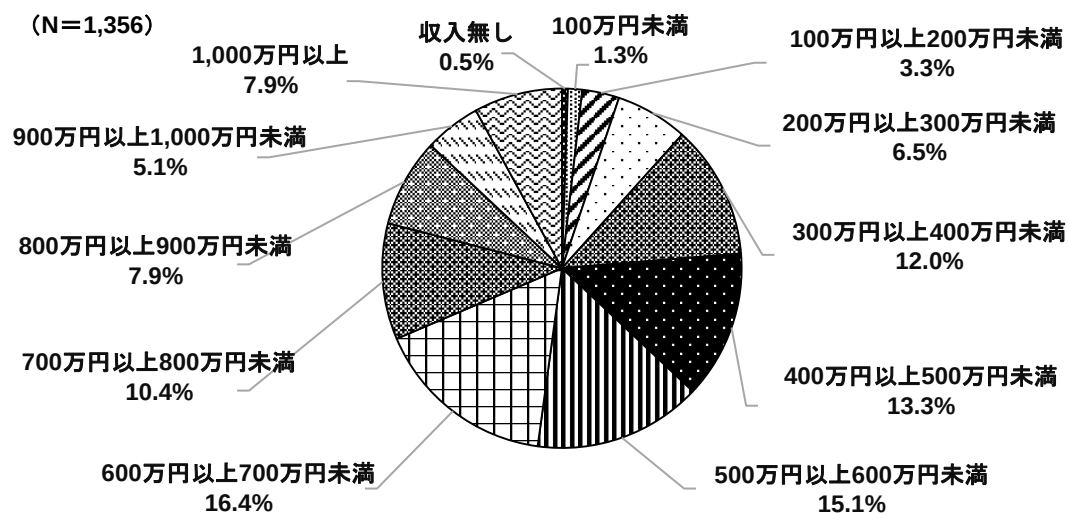
「利用している（受けている）」は22.0%、「利用していない（受けていない）」は78.0%であった。

世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において、「利用している（受けている）」の割合が4割以上を占めており、300万円以上の世帯に比べ、28ポイント以上高くなっている。



8. 世帯年収

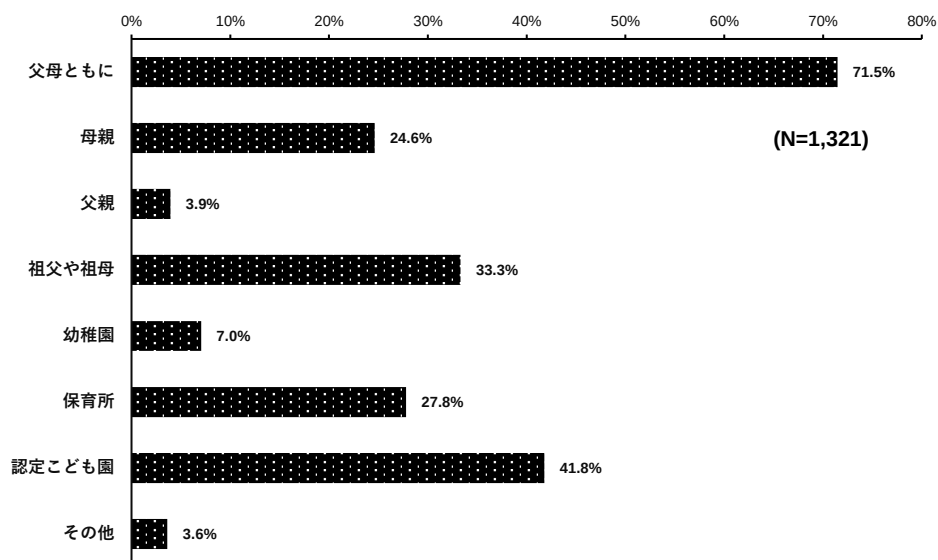
「600万円以上 700万円未満」が16.4%と最も高く、次いで「500万円以上 600万円未満」が15.1%、「400万円以上 500万円未満」が13.3%となっている。



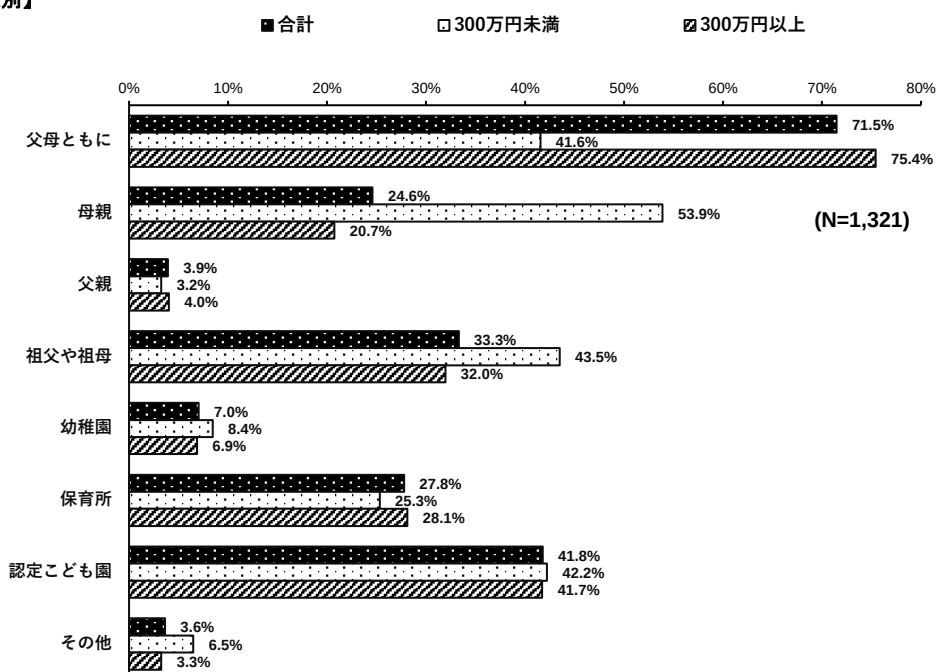
9. 子育てに日常的に関わっている人

「父母ともに」が71.5%と最も高く、次いで「認定こども園」が41.8%、「祖父や祖母」が33.3%となっている。

世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において「母親」の割合が5割を超えているのに対し、300万円以上の世帯では2割程度となっている。また、300万円以上の世帯では「父母ともに」の割合について、300万円未満の世帯より33ポイント以上高くなっている。

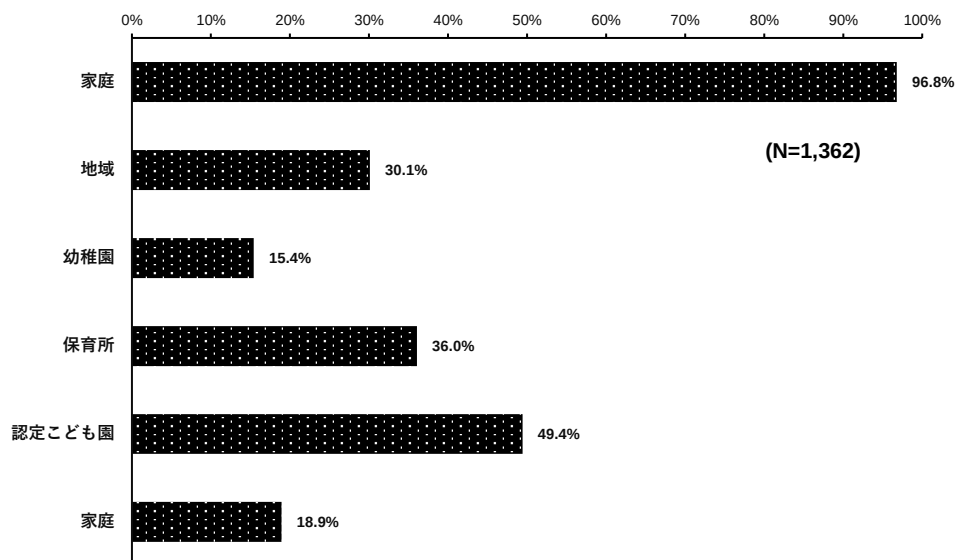


【世帯年収別】



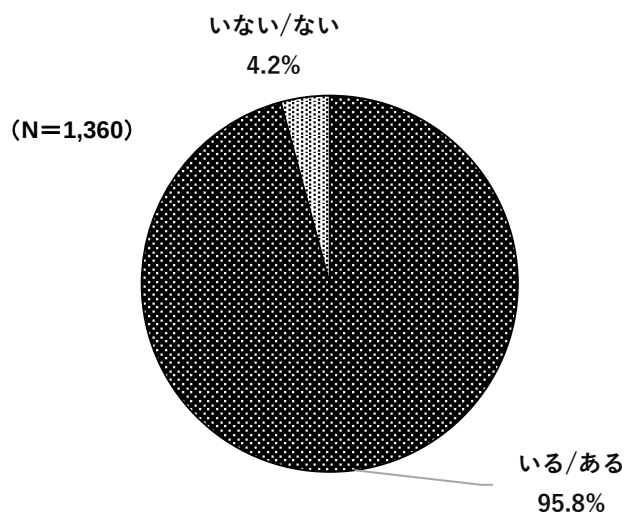
10. 子育てに影響すると思われる環境

「家庭」が96.8%と最も高く、次いで「認定こども園」が49.4%、「保育所」が36.0%となっている。



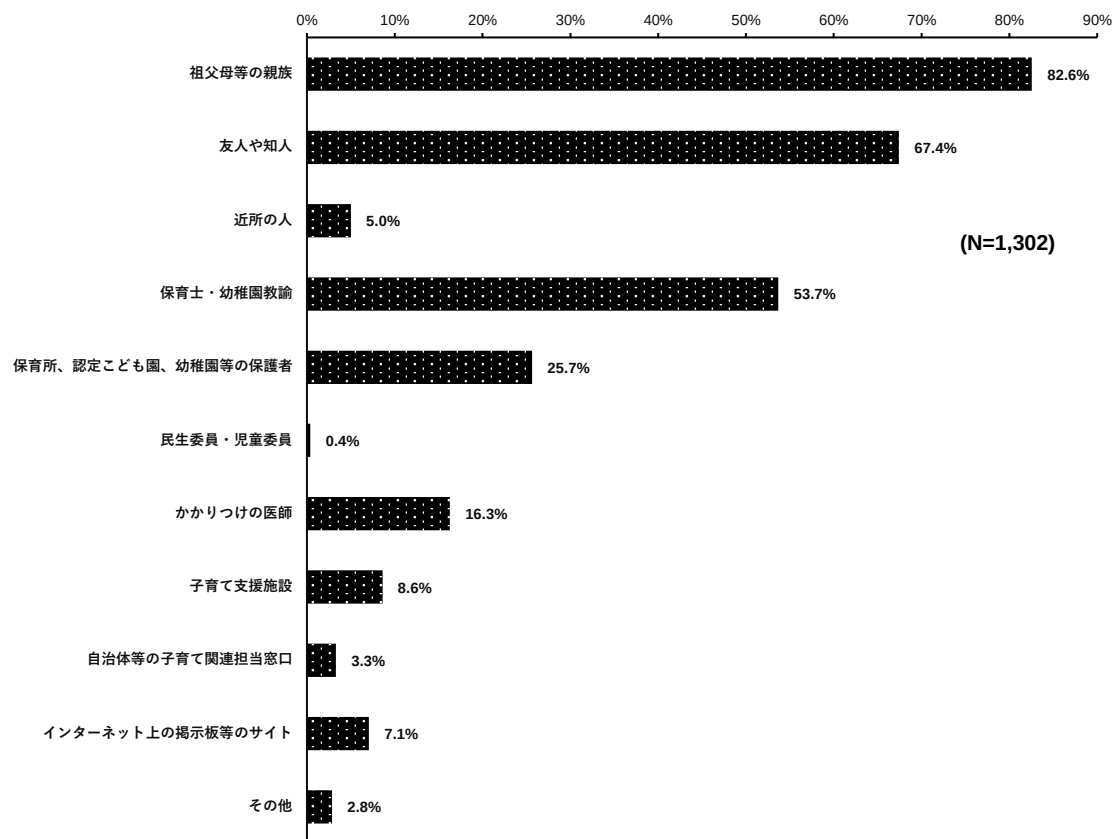
11. 子育てについて気軽に相談できる人（場所）の有無

「いる/ある」が95.8%を占める結果となった。子育てを行っている家庭のほとんどで、気軽に相談できる人もしくは場所があることがわかった。

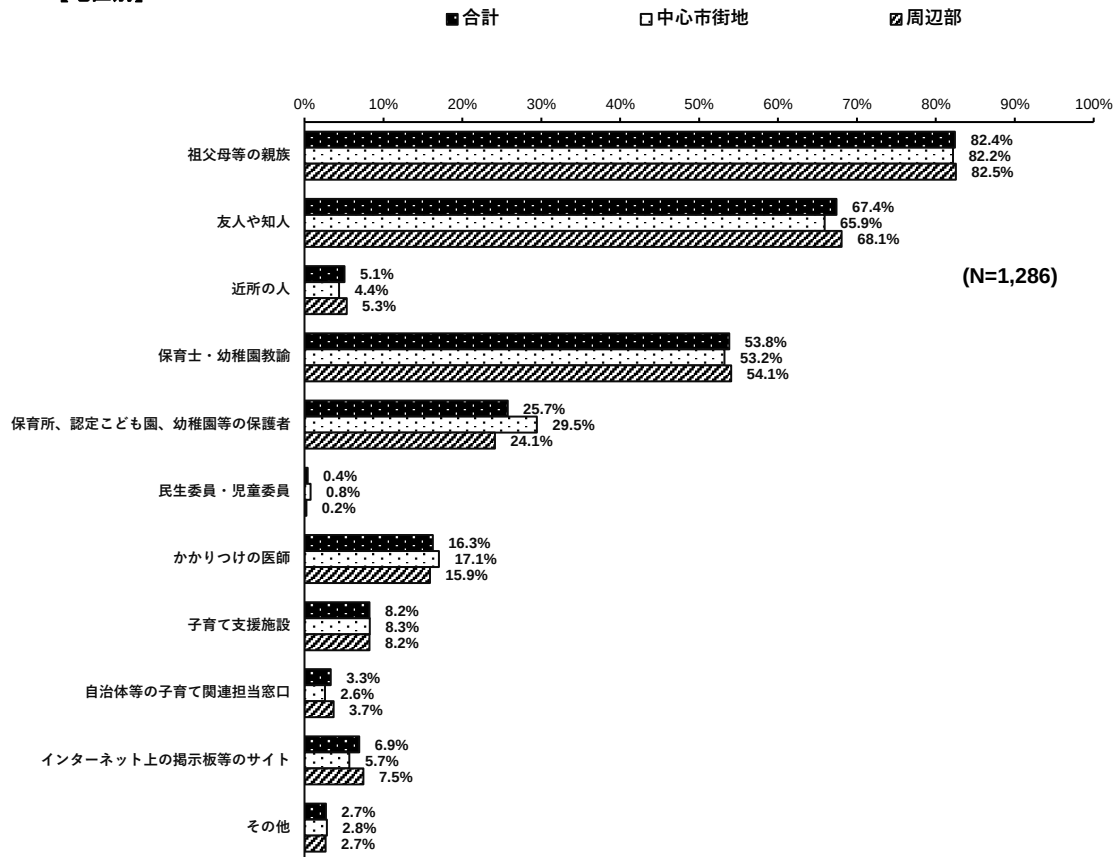


12. 子育てについて気軽に相談できる先

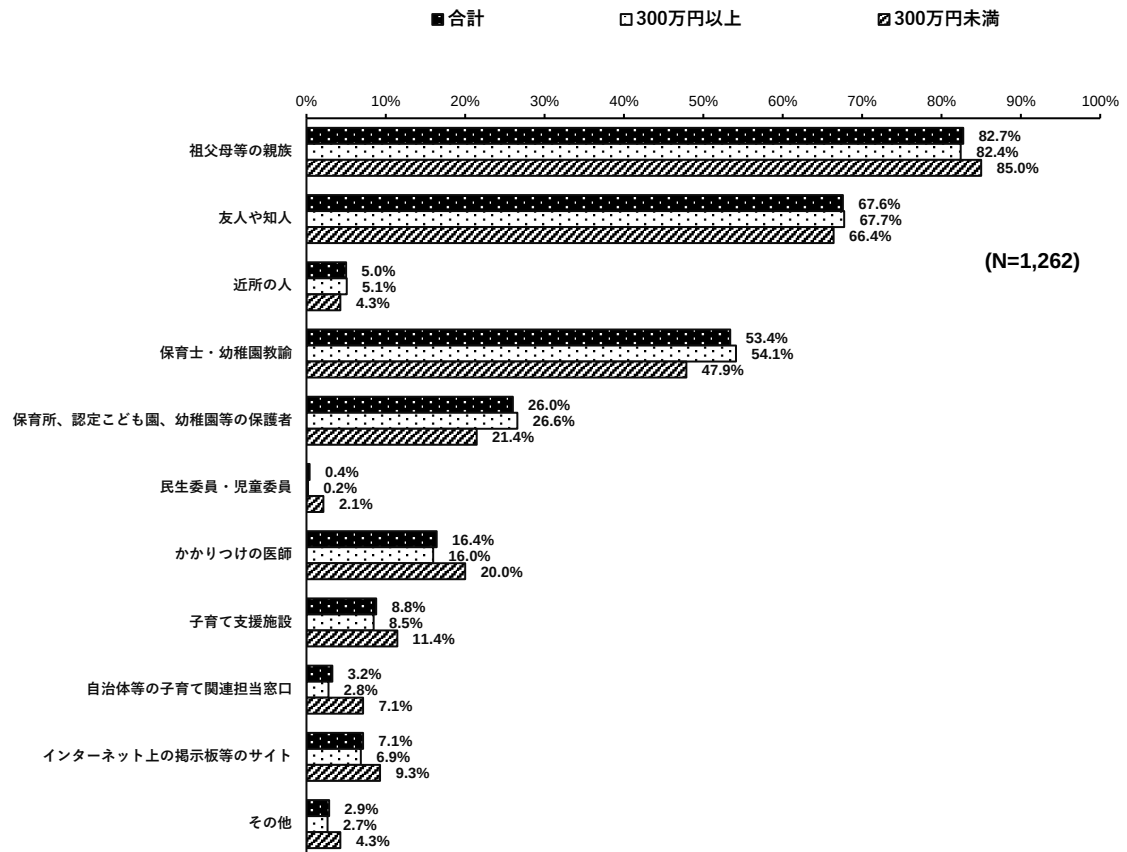
「祖父母等の親族」が82.6%と最も高く、次いで「友人や知人」が67.4%、「保育士・幼稚園教諭」が53.7%となっている。



【地区別】

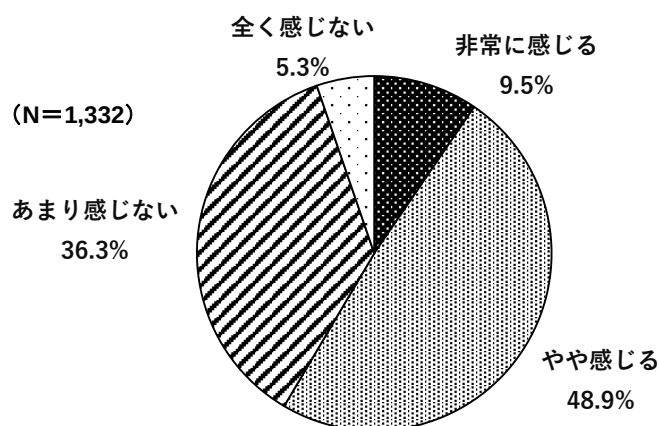


【世帯年収別】



13. 子育てに関する不安や負担の有無

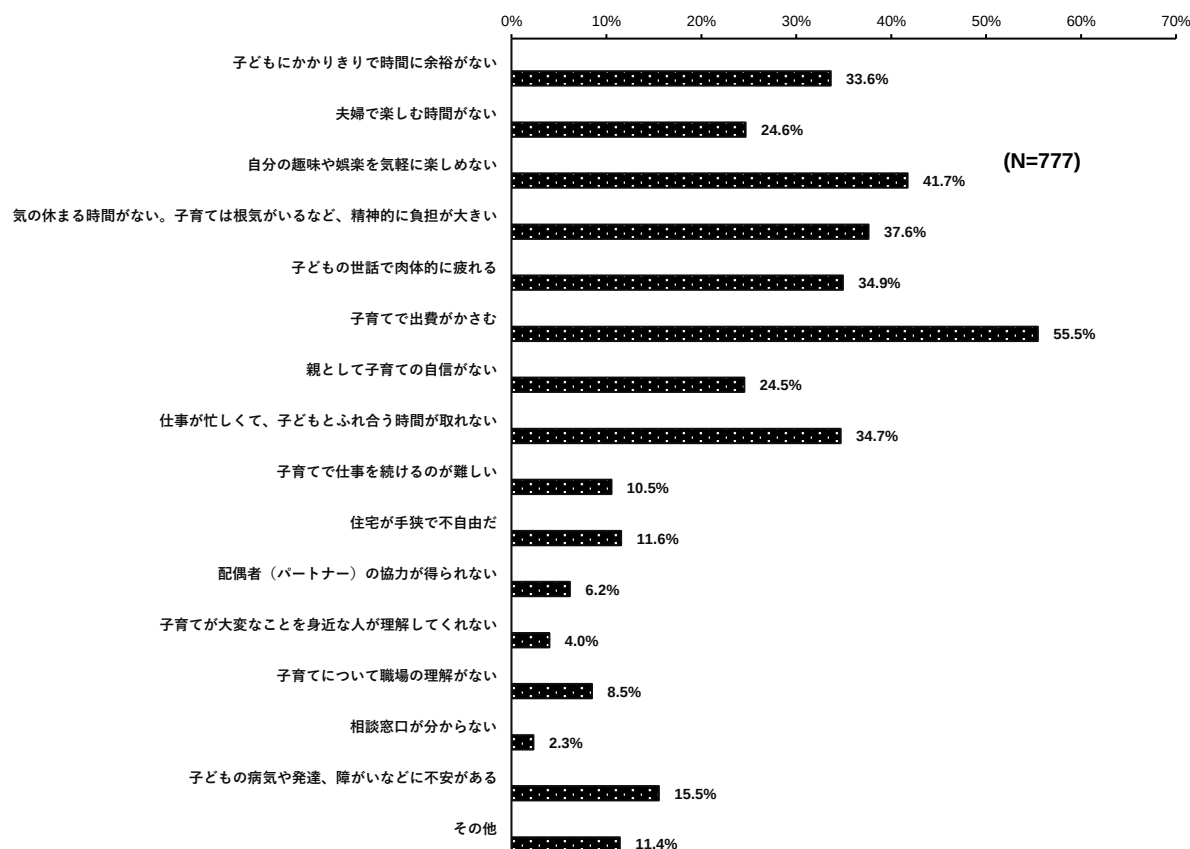
「やや感じる」が48.9%と最も高く、次いで「あまり感じない」が36.3%、「非常に感じる」が9.5%となっている。



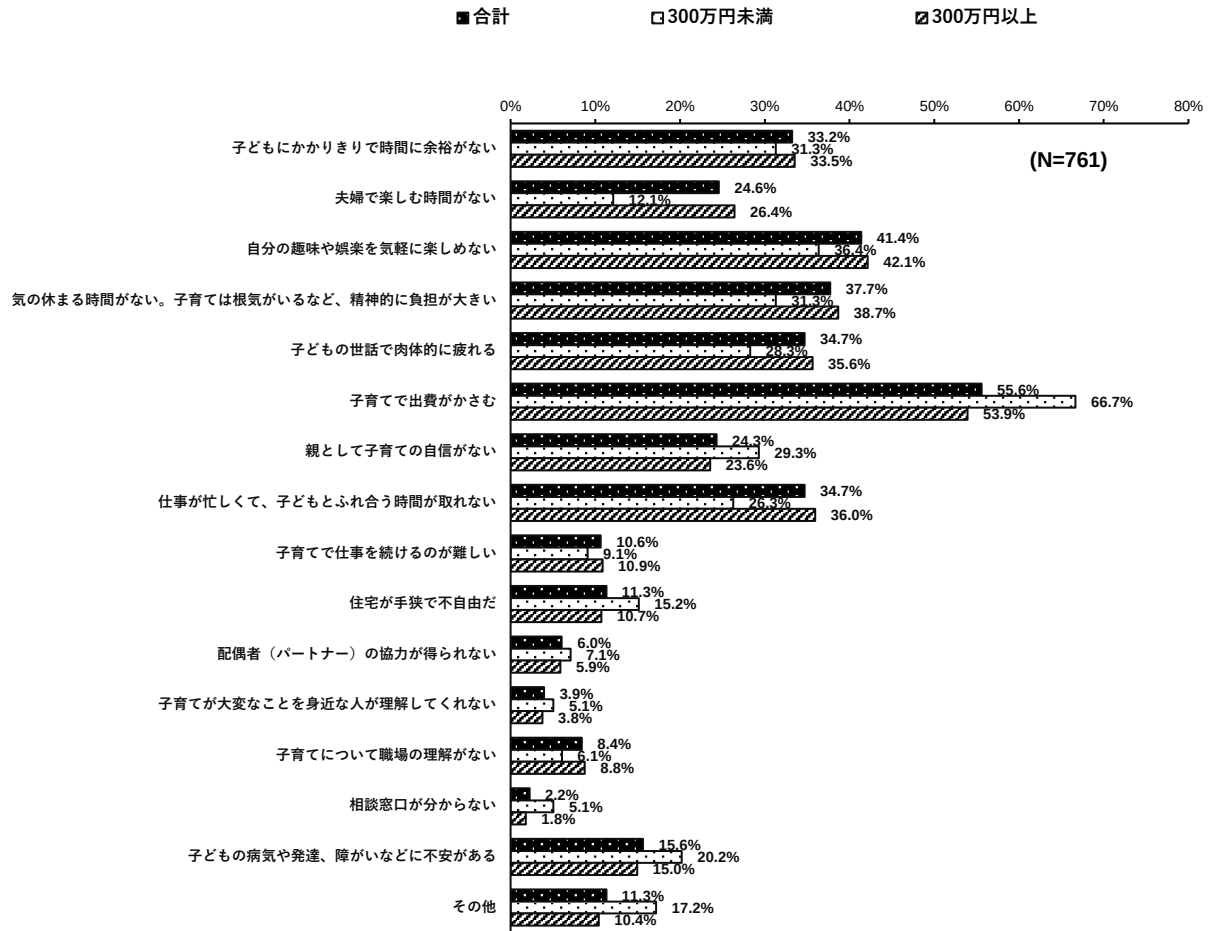
14. 子育てに関して不安や負担に思う理由

「子育てで出費がかさむ」が55.5%と最も高く、次いで「自分の趣味や娯楽を気軽に楽しめない」が41.7%、「気の休まる時間がない、子育ては根気がいるなど、精神的に負担が大きい」が37.6%となっている。

世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において、「子育てで出費がかさむ」の割合が6割を超えており、300万円以上の世帯よりも12ポイント以上高くなっている。



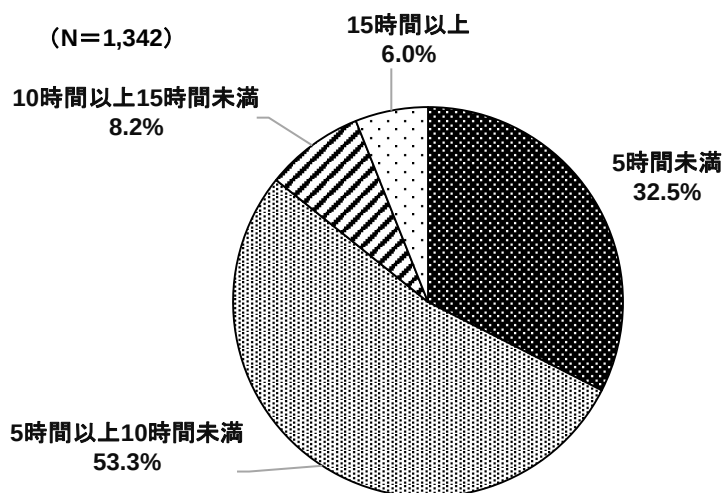
【世帯年収別】



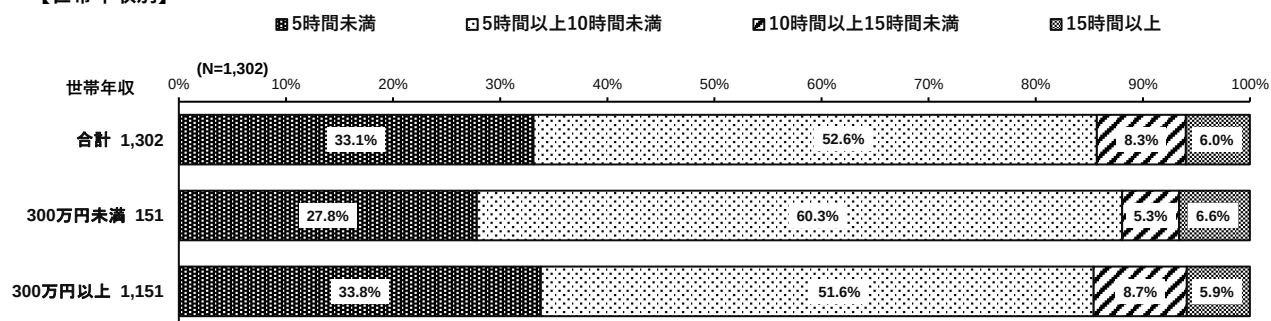
15. 【母親】子どもと過ごす時間（平日）

「5時間以上 10 時間未満」が 53.3%と最も高く、次いで「5 時間未満」が 32.5%、「10 時間以上 15 時間未満」が 8.2%となっている。

世帯年収別にみたとき、300 万円未満の世帯では「5 時間以上 10 時間未満」が 6 割以上を占めており、300 万円以上の世帯と比べて 8.7 ポイント上回っている。

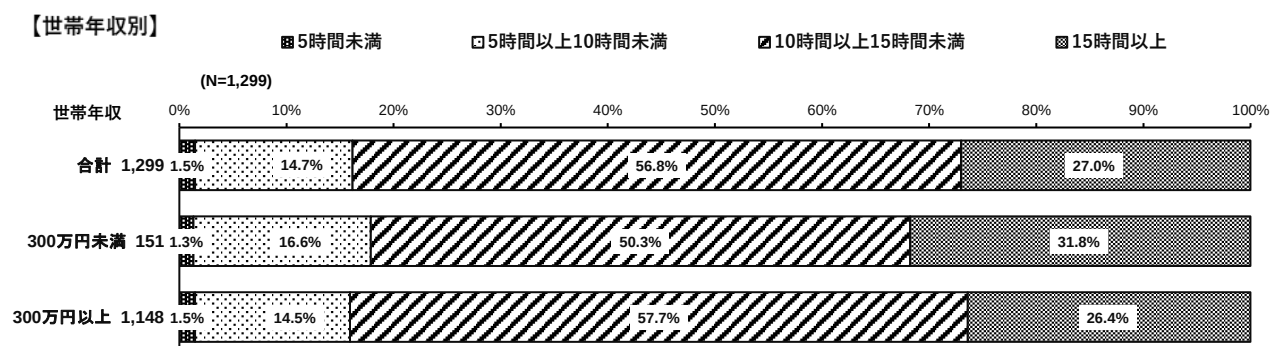
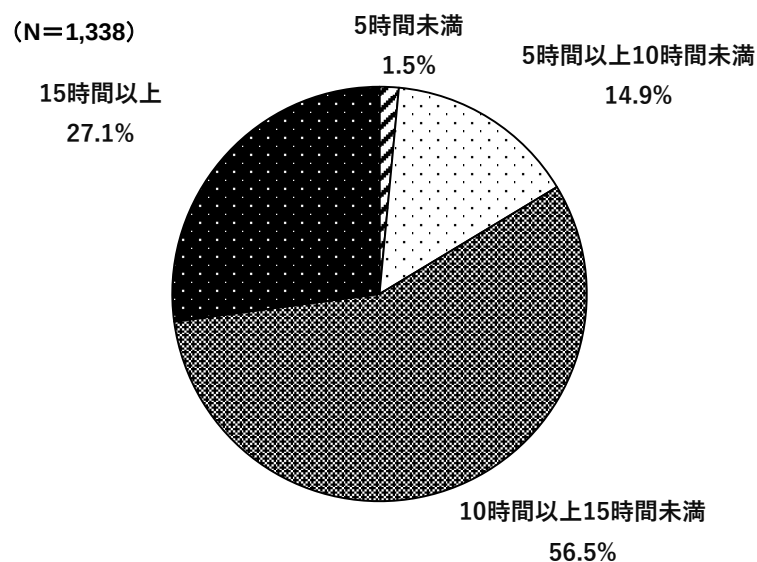


【世帯年収別】



16. 【母親】子どもと過ごす時間（休日）

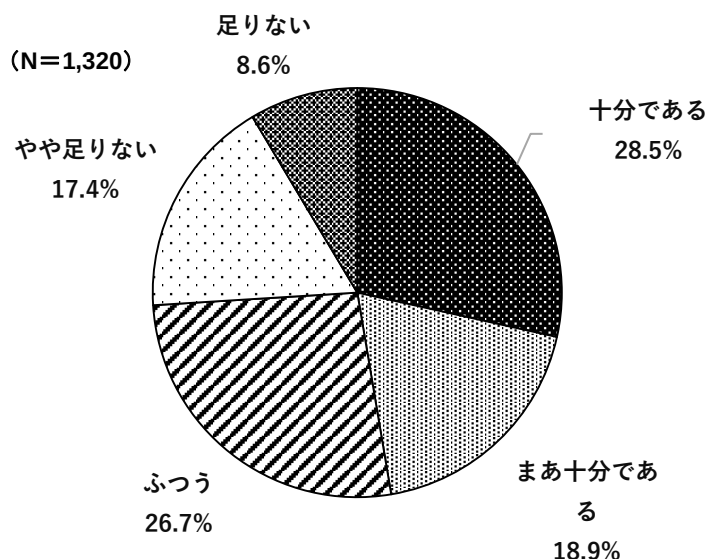
「10 時間以上 15 時間未満」が 56.5%と最も高く、次いで「15 時間以上」が 21.7%、「5 時間以上 10 時間未満」が 14.9%となっている。



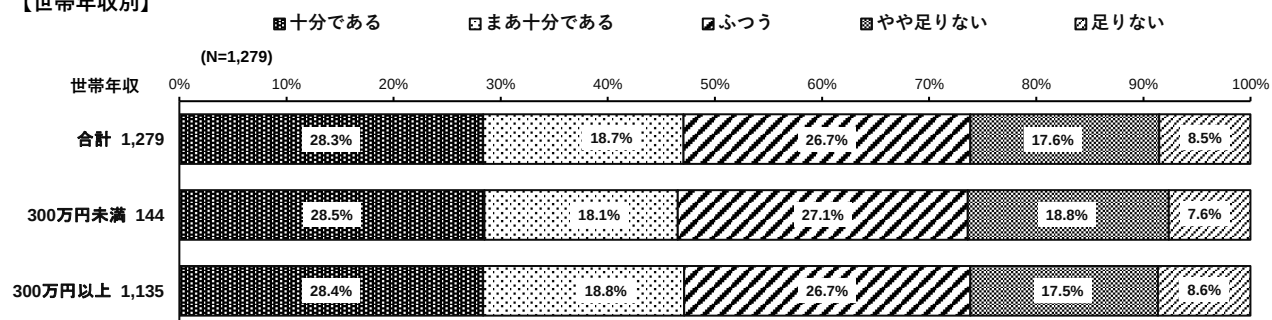
17. 【母親】子どもと過ごす時間数をどのように感じているか

「十分である」が28.5%と最も高く、次いで「ふつう」が26.7%、「まあ十分である」が18.9%となっている。

世帯年収別にみたとき、5年前の調査で「十分である」と答えた300万円未満の世帯と300万円以上の世帯には17ポイント程度の差があったが、今回の調査では、差はほとんどなくなっている。

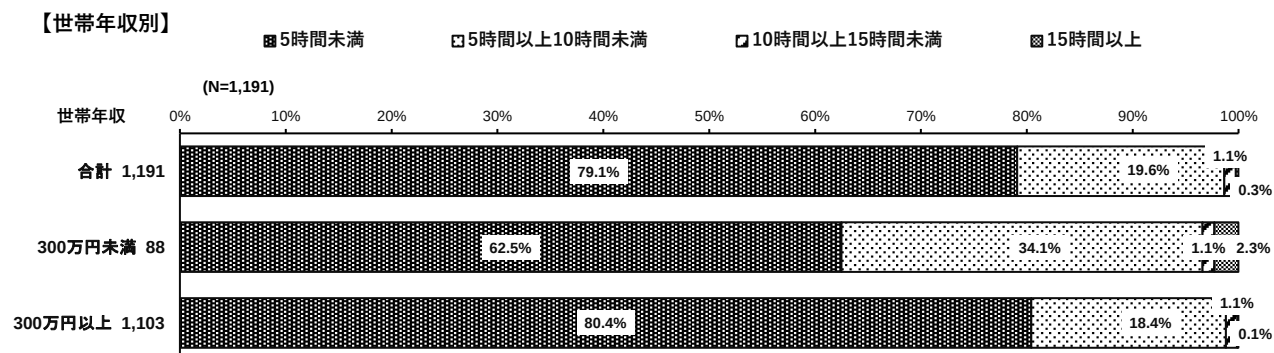
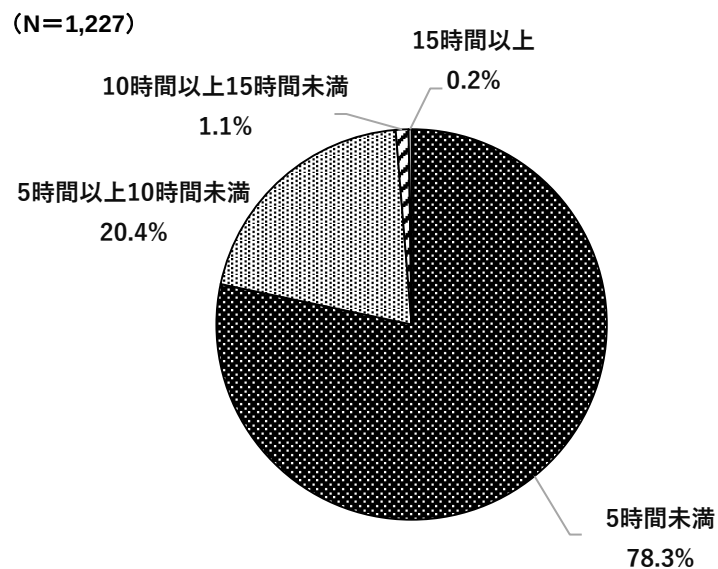


【世帯年収別】



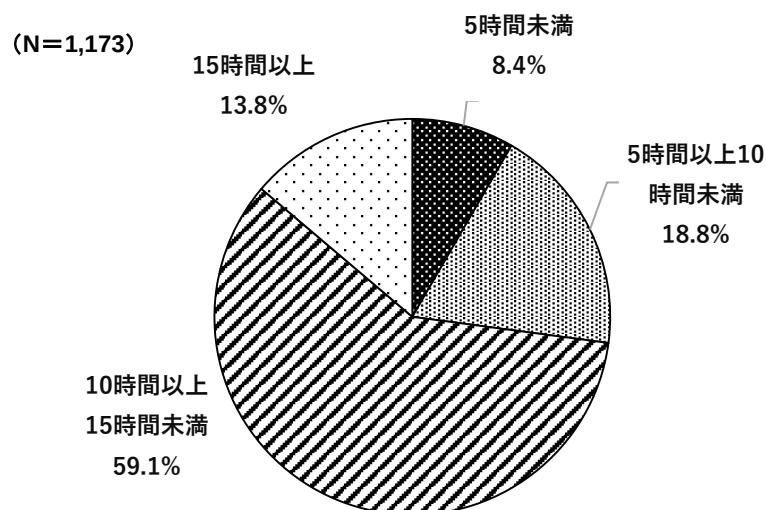
18. 【父親】子どもと過ごす時間（平日）

「5時間未満」が78.3%と最も高く、次いで「5時間以上10時間未満」が20.4%、「10時間以上15時間未満」が1.1%となっている。

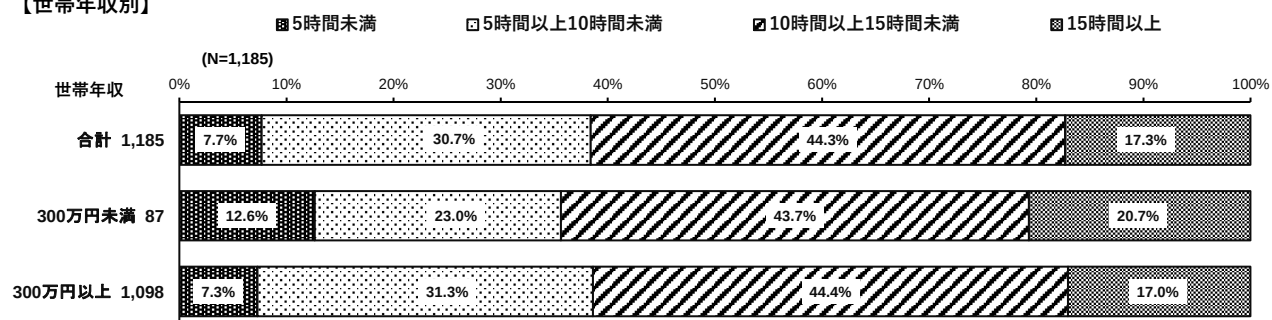


19. 【父親】子どもと過ごす時間（休日）

「10 時間以上 15 時間未満」が 59.1%と最も高く、次いで「5 時間以上 10 時間未満」が 18.8%、「15 時間以上」が 13.8%となっている。

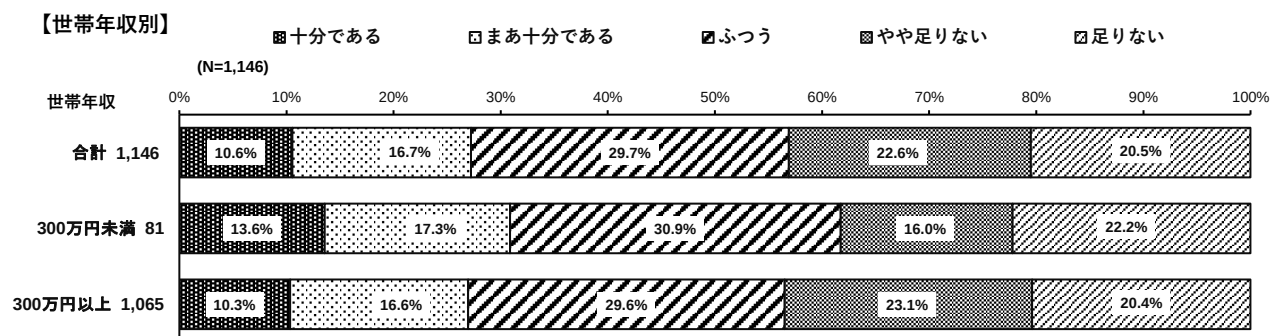
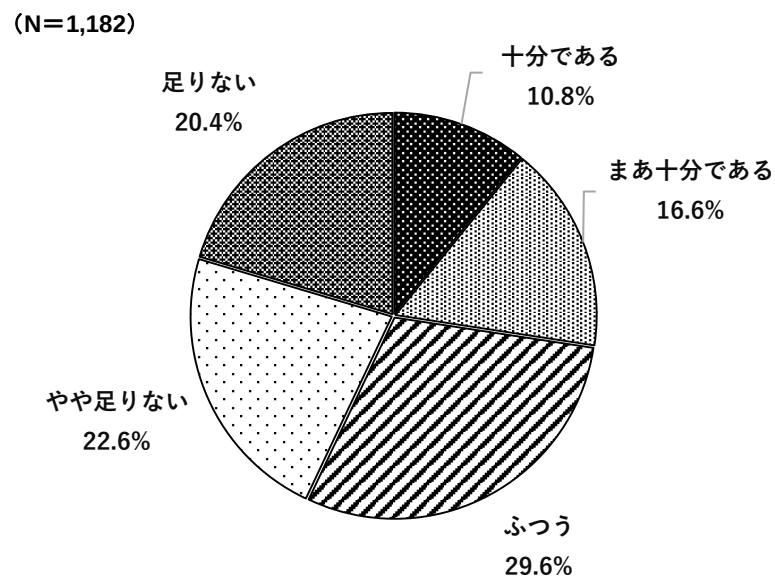


【世帯年収別】



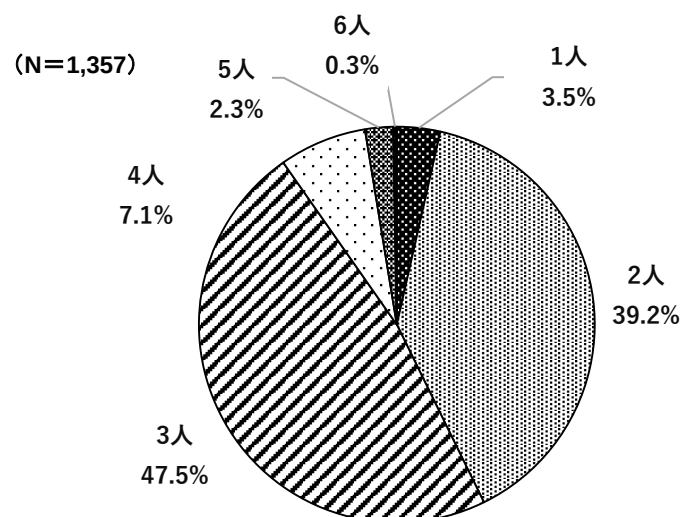
20. 【父親】子どもと過ごす時間数をどのように感じているか

「ふつう」が29.6%と最も高く、次いで「やや足りない」が22.6%、「足りない」が20.4%となっている。

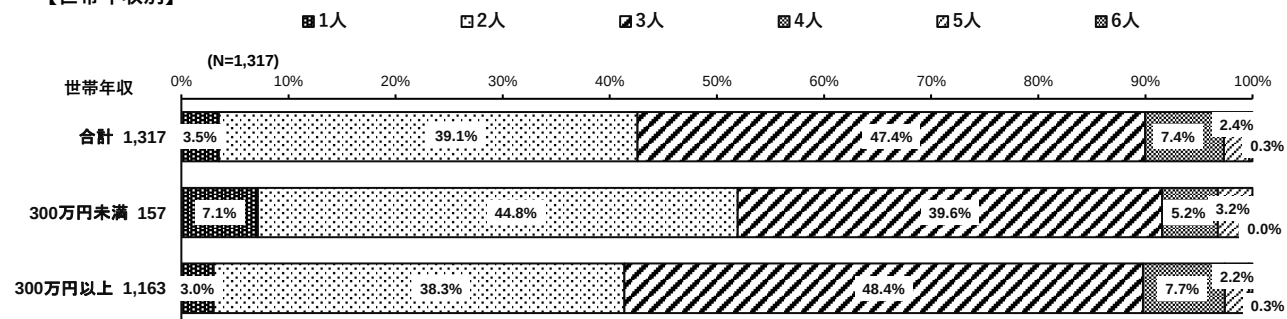


21. 理想と考える子どもの人数

「3人」が47.5%と最も高く、次いで「2人」が39.2%、「4人」が7.1%となっている。

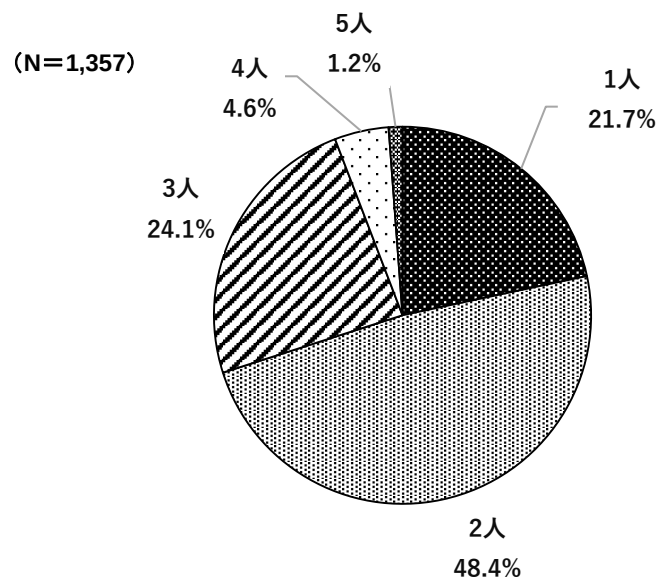


【世帯年収別】

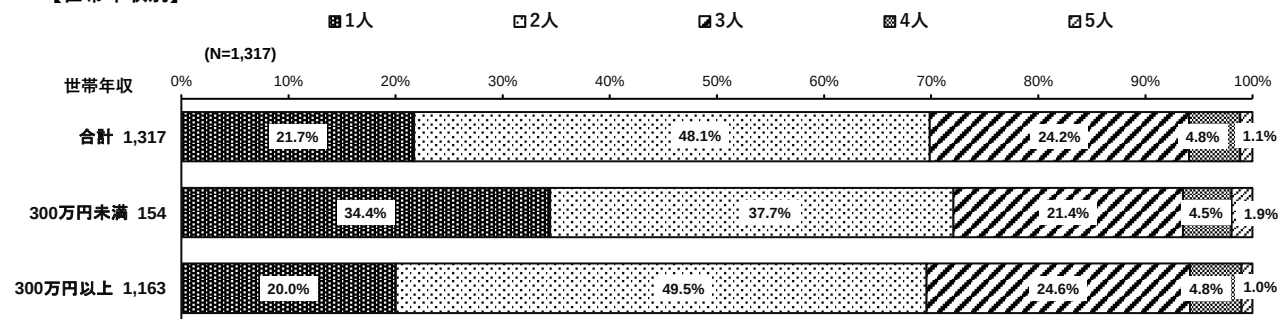


22. 実際、持とうとしている（持っている）子どもの人数

「2人」が48.4%と最も高く、次いで「3人」が24.1%、「1人」が21.7%となっている。



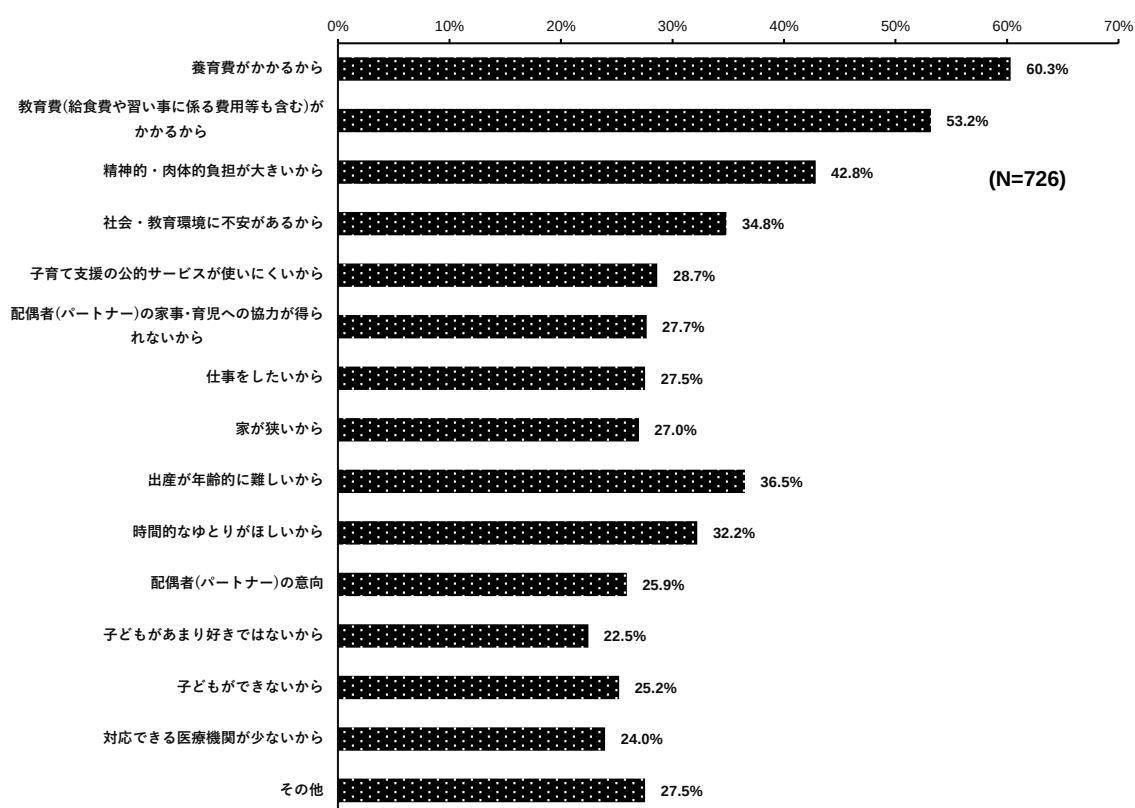
【世帯年収別】



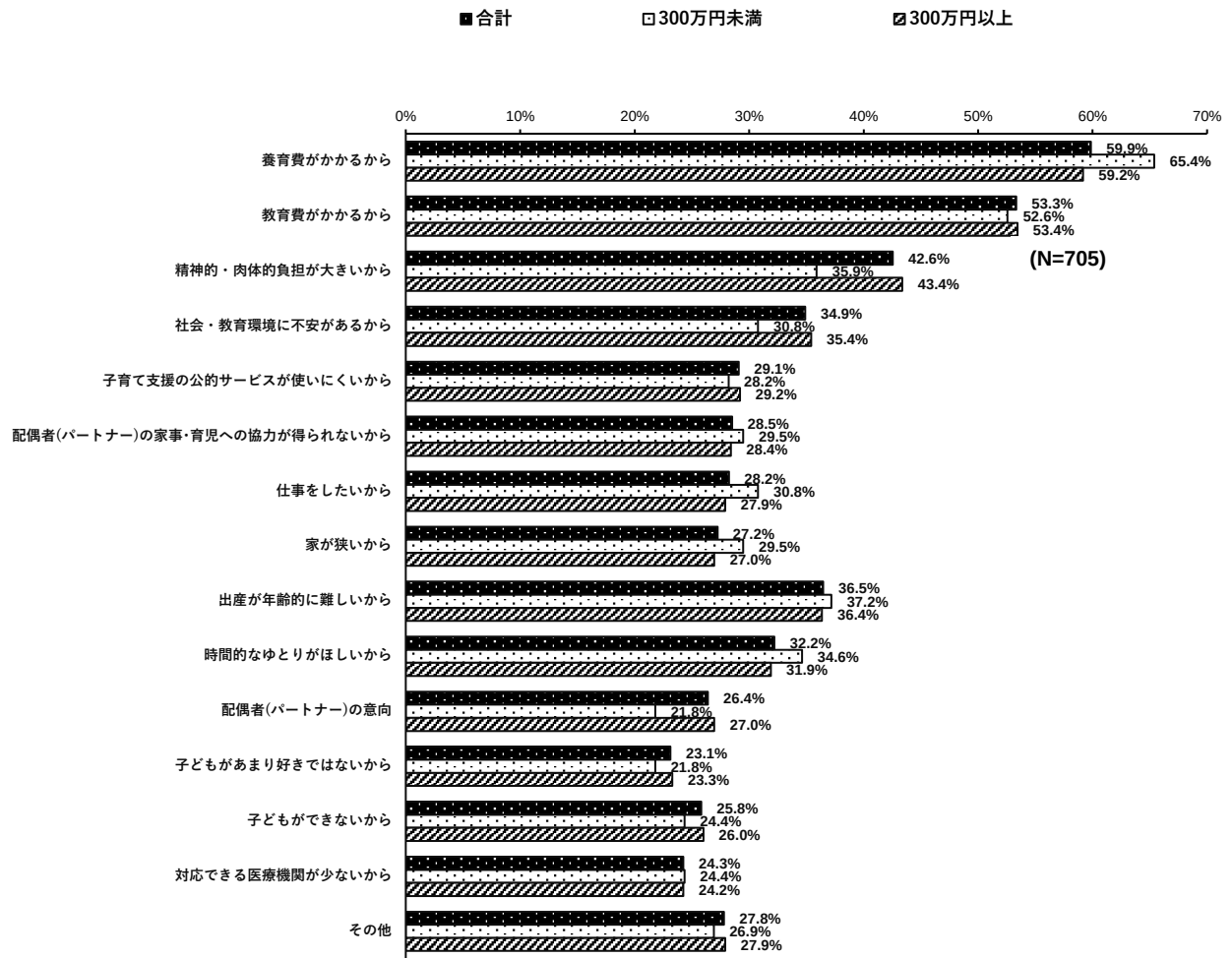
23. 理想的と考える子どもの人数を持てない・持たない理由

「養育費がかかるから」が60.3%と最も高く、次いで「教育費（給食費や習い事に係る費用等も含む）がかかるから」が53.2%、「精神的・肉体的負担が大きいから」が42.8%となっている。また、5年前の調査ではなかった「対応できる医療機関が少ないから」が24.0%となっている。

「社会・教育環境に不安があるから」「子育て支援の公的サービスが使いにくいから」「配偶者（パートナー）の家事・育児への協力が得られないから」「家が狭いから」「時間的なゆとりがほしいから」「配偶者（パートナー）の意向」「子どもがあまり好きではないから」「子どもができないから」「その他」の回答が5年前の調査と比べて10ポイント以上高くなっている。

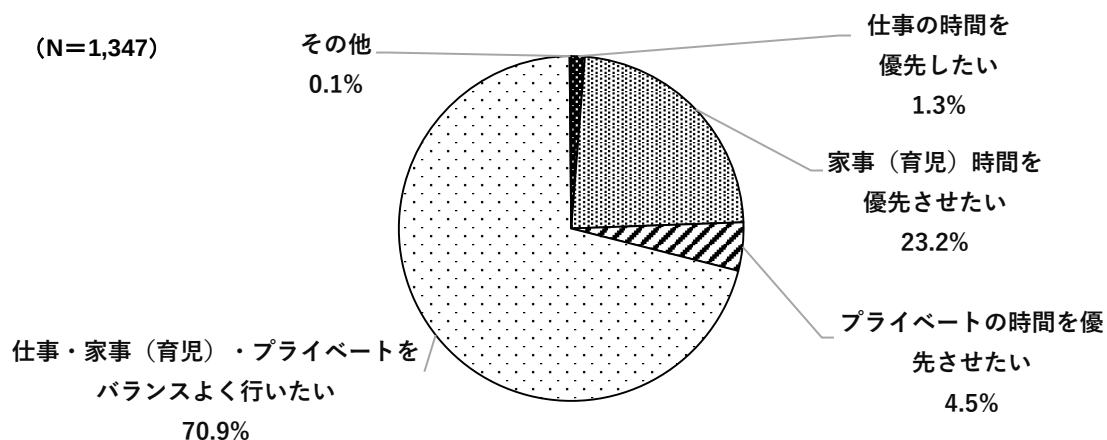


【世帯年収別】



24. 【母親】「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【希望】

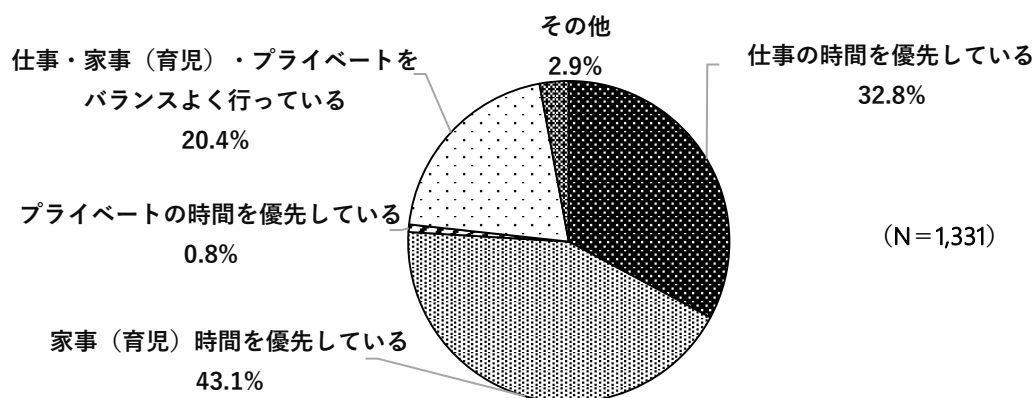
「仕事・家事（育児）・プライベートをバランスよく行いたい」が70.9%と最も高く、次いで「家事（育児）時間を優先させたい」が23.2%、「プライベートの時間を優先させたい」が4.5%となっている。



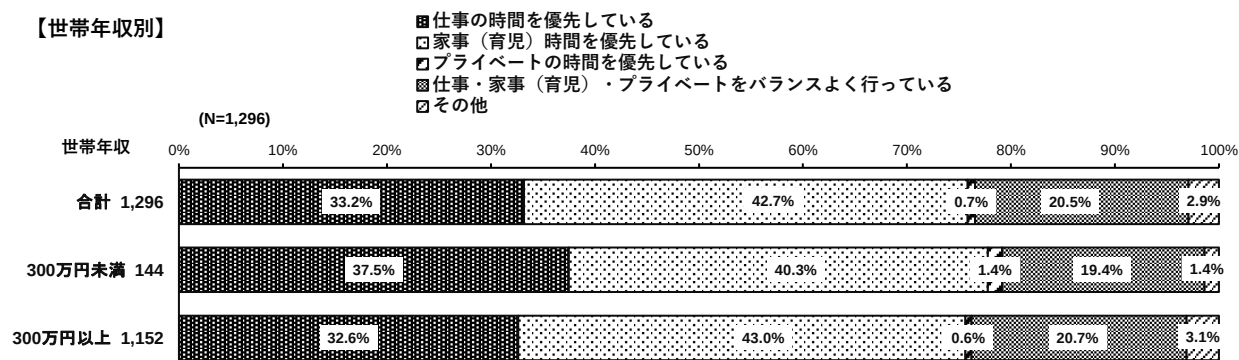
25. 【母親】「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【現実】

「家事（育児）時間を優先している」が43.1%と最も高く、次いで「仕事の時間を優先している」が32.8%、「仕事・家事（育児）・プライベートをバランスよく行っている」が20.4%となっている。

5年前の調査では、世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯では「家事（育児）時間を優先している」が5割以上を占めていて、300万円以上の世帯は「仕事の時間を優先している」が4割以上を占めていた。

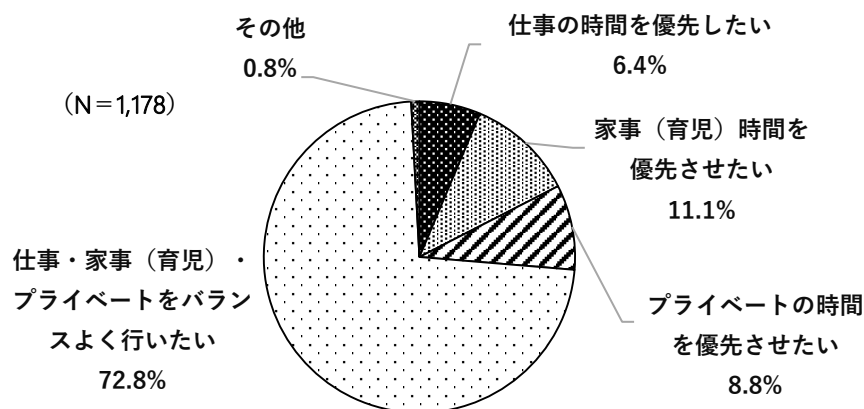


【世帯年収別】



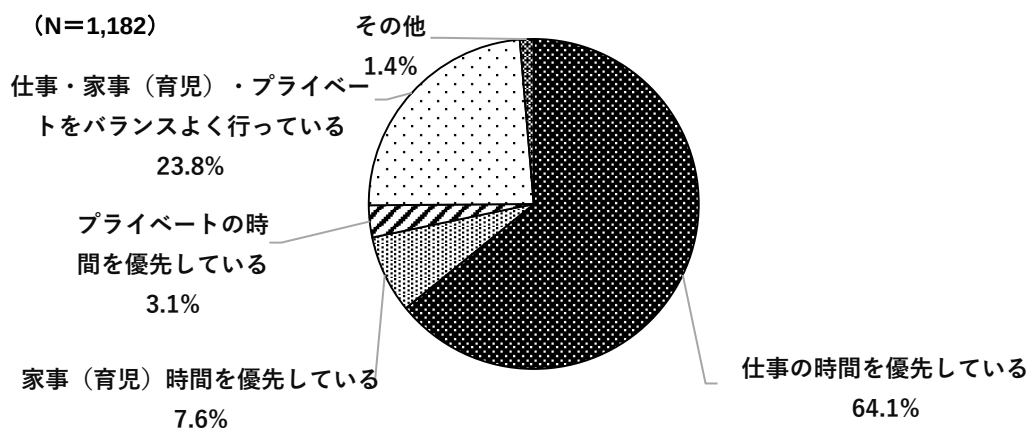
26. 【父親】「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【希望】

「仕事・家事（育児）・プライベートをバランスよく行いたい」が72.8%と最も高く、次いで「家事（育児）時間を優先させたい」が11.1%、「プライベートの時間を優先させたい」が8.8%となっている。

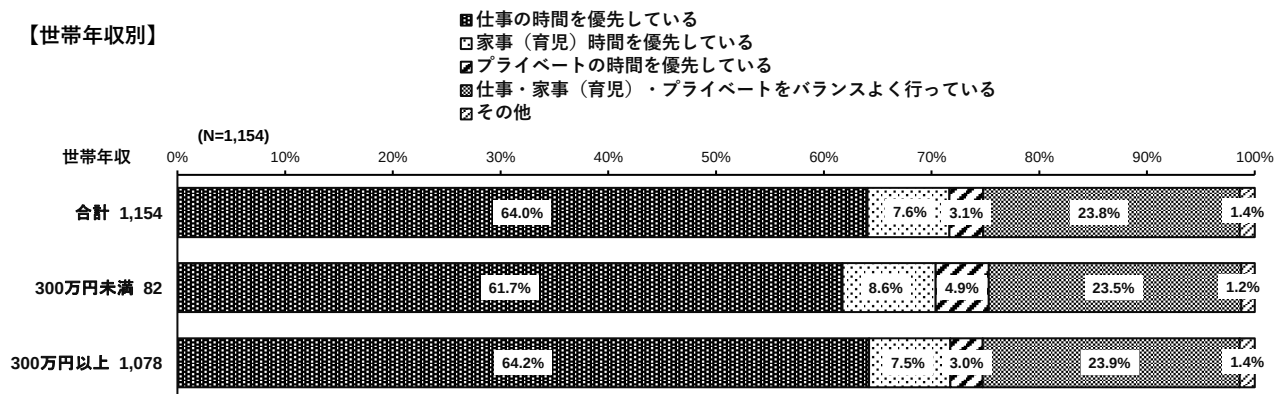


27. 【父親】「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【現実】

「仕事の時間を優先している」が64.1%と最も高く、次いで「仕事・家事（育児）・プライベートをバランスよく行っている」が23.8%、「家事（育児）時間を優先している」が7.6%となっている。



【世帯年収別】

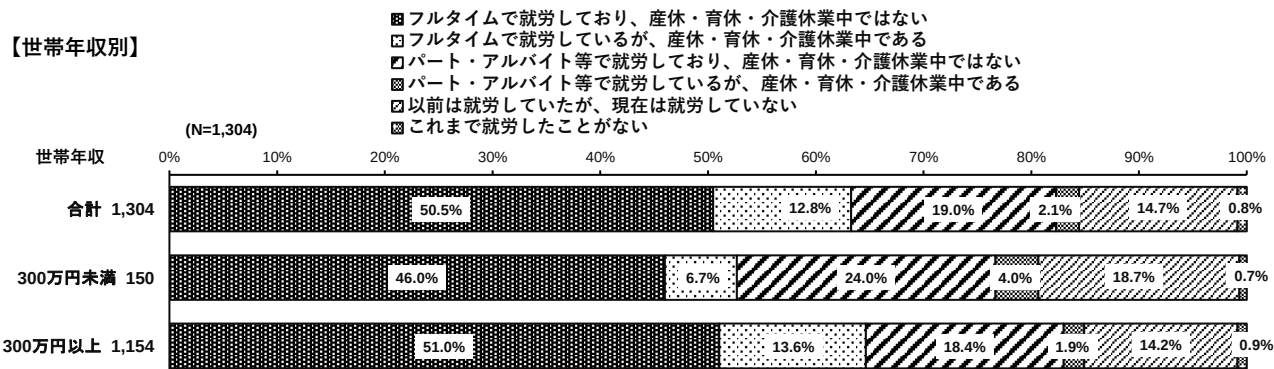
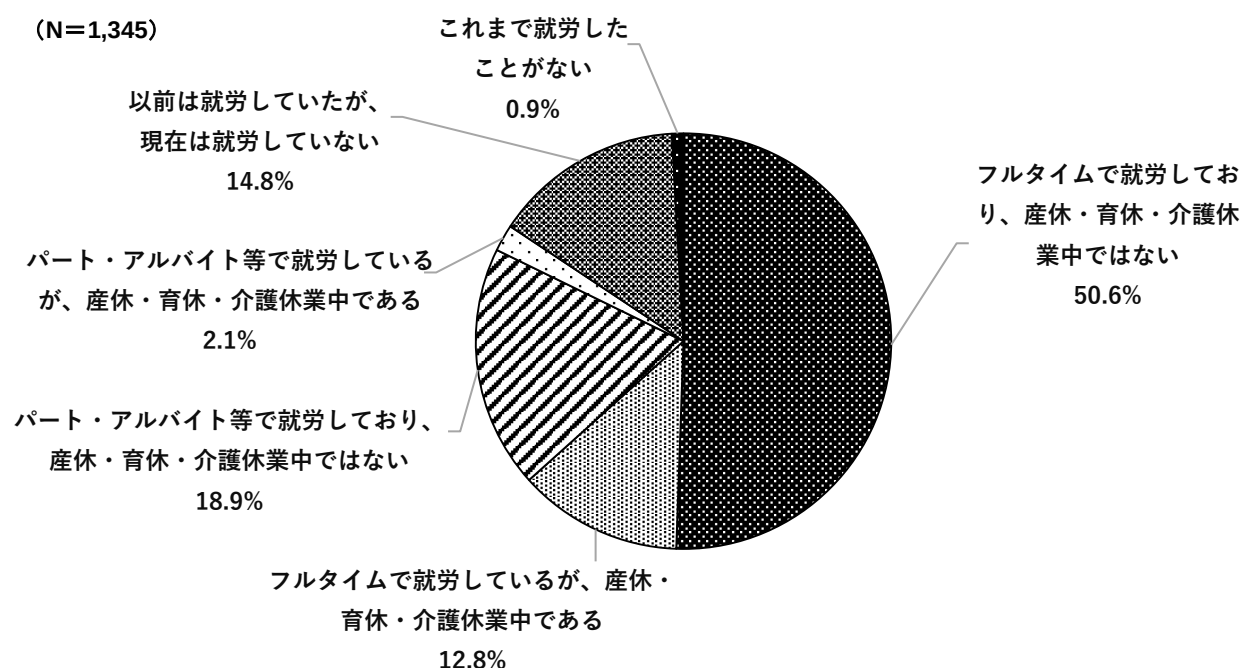


28. 【母親】現在の就労状況

「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が、50.6%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中ではない」が18.9%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が14.8%となっている。

世帯年収別にみたとき、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」において、300万円未満が46.0%、300万円以上が51.0%とほぼ半数を占めている。

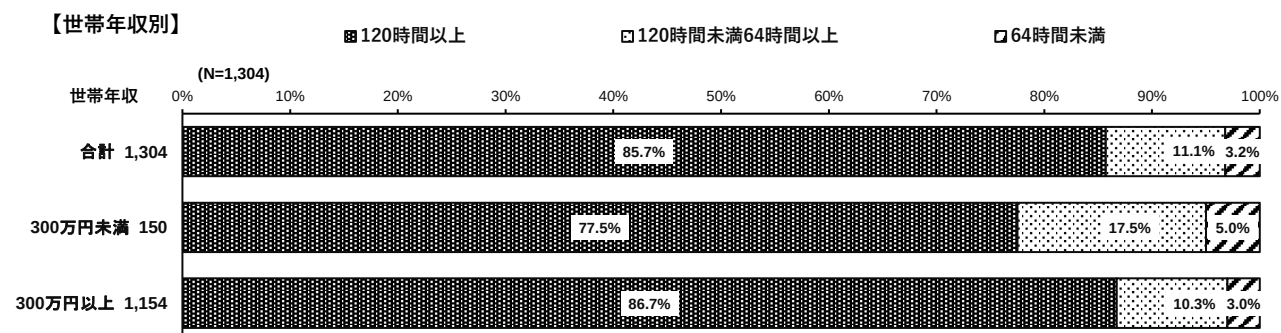
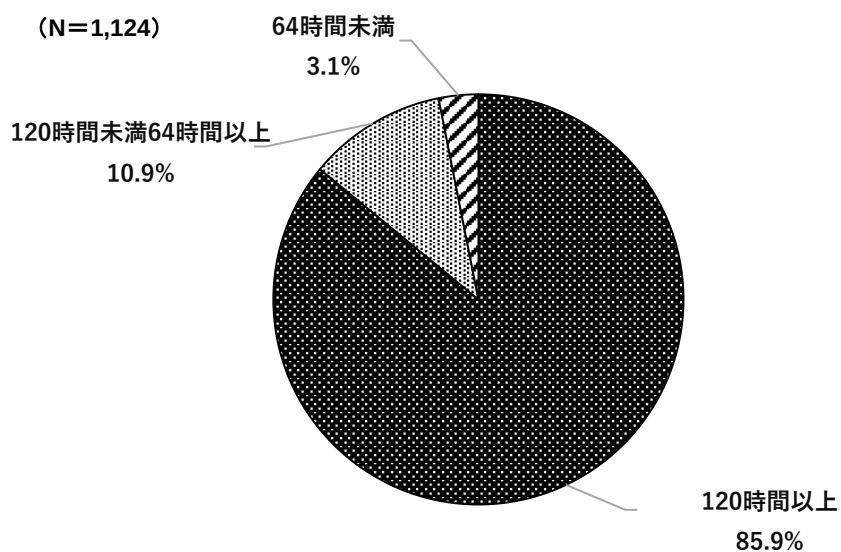
5年前の調査では、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」において、300万円未満は3割弱、300万円以上はほぼ6割を占めていた。



29. 【母親】就労日数（ひと月あたり）

「120 時間以上」が 85.9%と最も高く、次いで「120 時間未満 64 時間以上」が 10.9%、「64 時間未満」が 3.1%となっている。

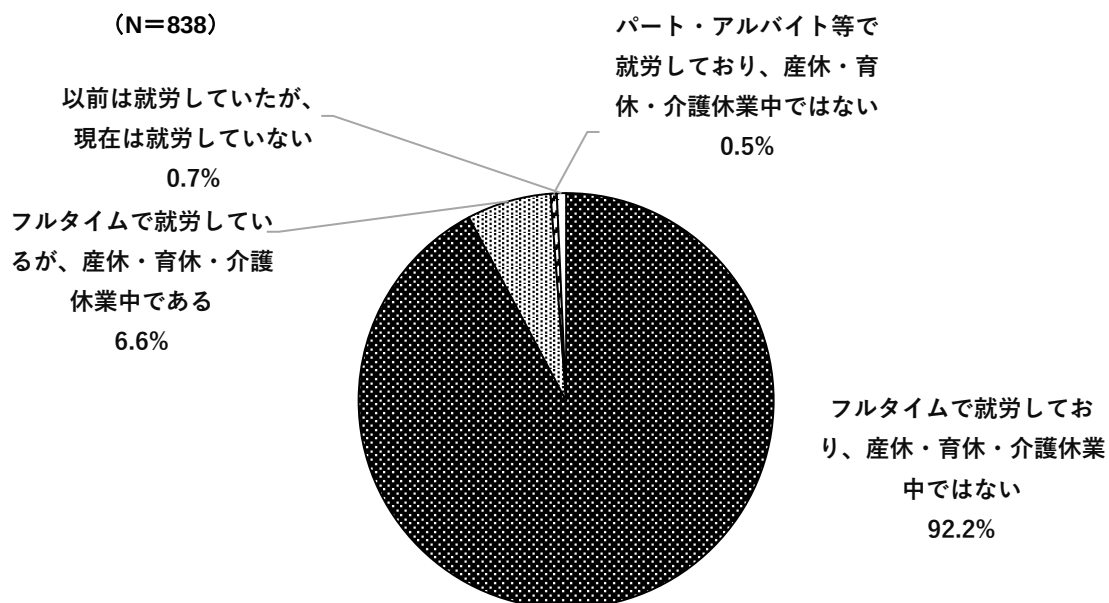
世帯年収別にみたとき、300 万円以上の世帯において、「120 時間以上」の割合が 300 万円未満の世帯と比べて 9.2 ポイント高くなっている。



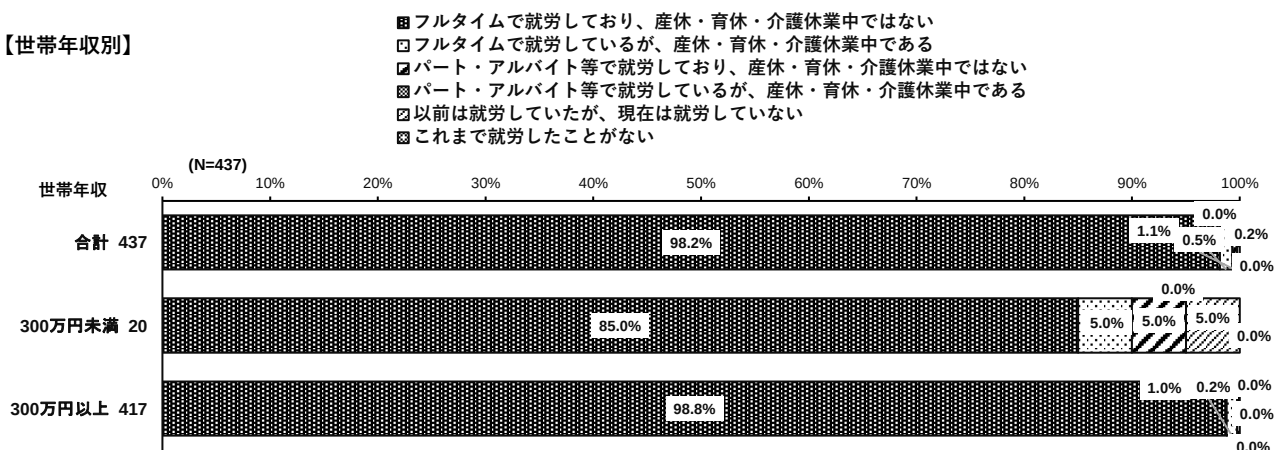
30. 【父親】現在の就労状況

「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が92.2%と最も高く、次いで「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」が6.6%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が0.7%となっている。

「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」が5年前の調査と比べて6.2ポイント高くなっている。

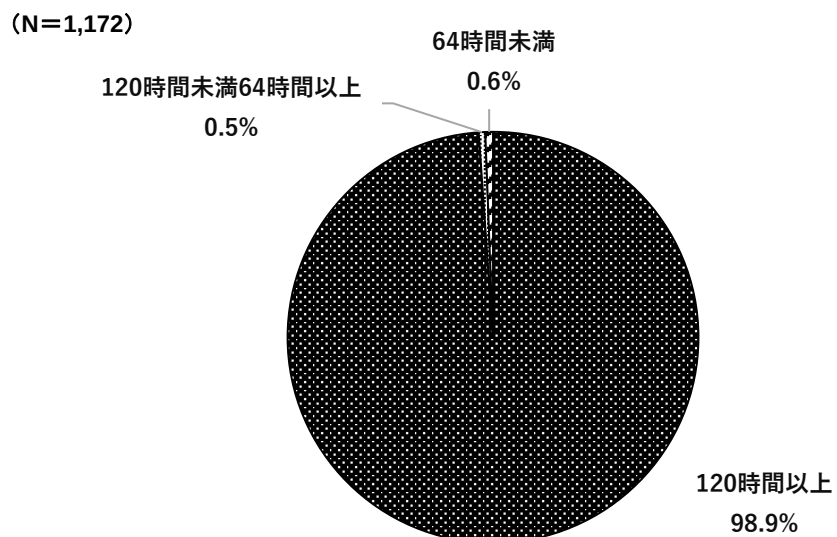


【世帯年収別】

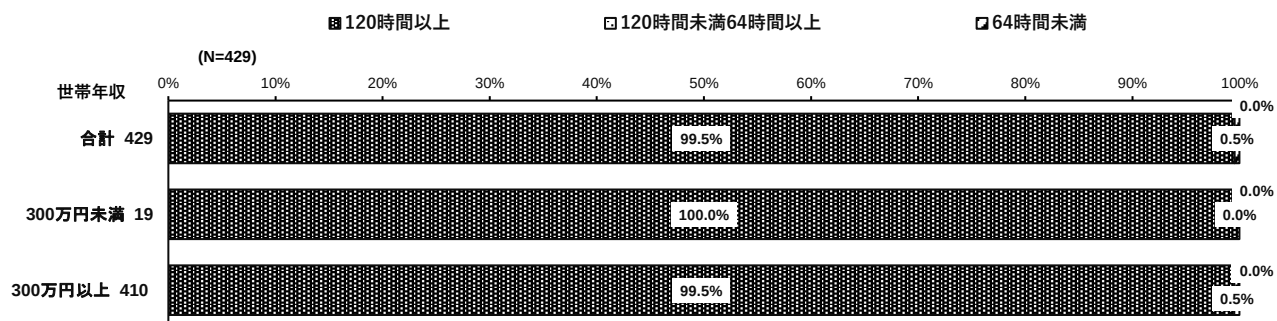


31. 【父親】就労日数（ひと月あたり）

「120 時間以上」が 98.9%と最も高く、次いで「64 時間未満」が 0.6%、「120 時間未満 64 時間以上」が 0.5%となっている。子育て家庭のほとんどで、父親は「120 時間以上」就労していることがわかる。



【世帯年収別】

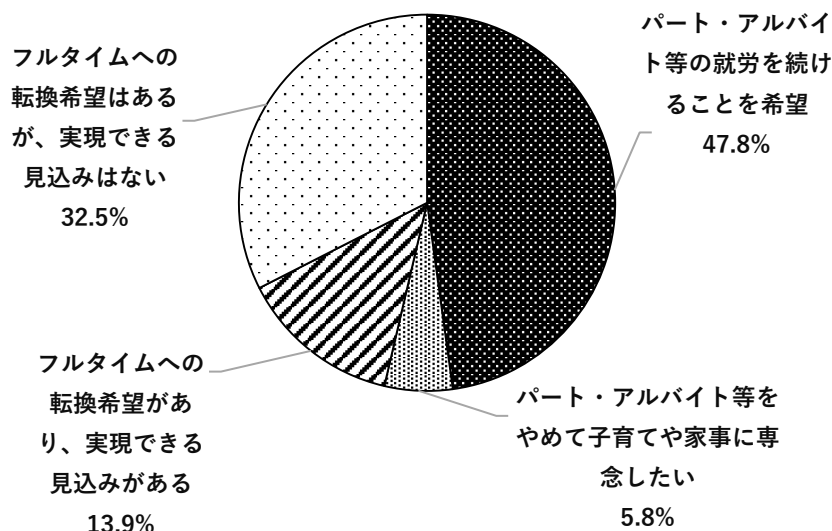


32. 【母親】フルタイムへの転換希望の有無

「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が47.8%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが実現できる見込みはない」が32.5%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が13.9%となっている。

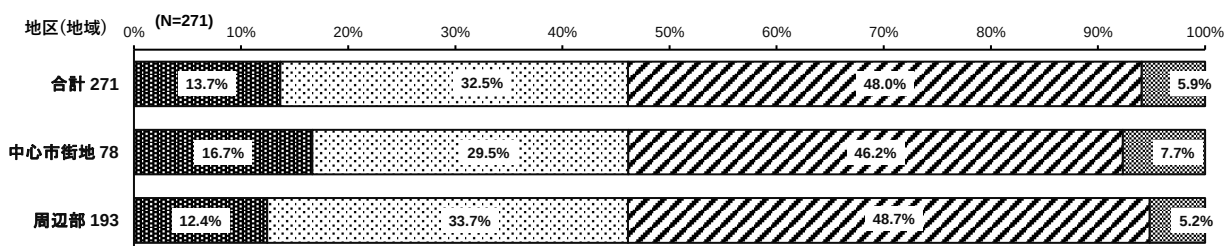
世帯年収別にみたとき、300万円以上の世帯において「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が5割以上を占め、300万円未満の世帯と比べて、21ポイント高くなっている。

(N=274)



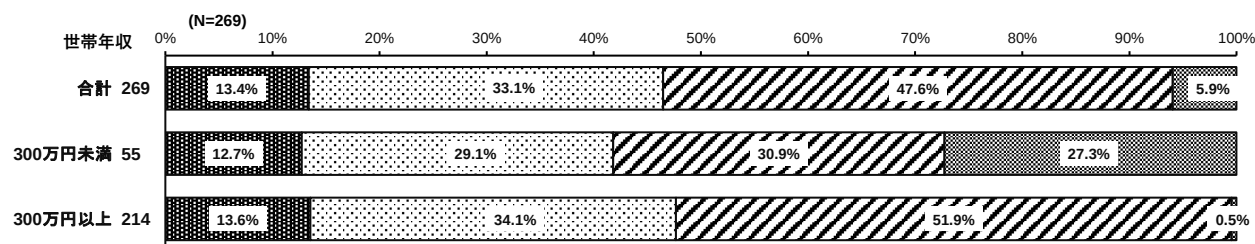
【地区別】

■ フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
 □ フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
 ▨ パート・アルバイト等の就労を続けることを希望
 ▩ パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい



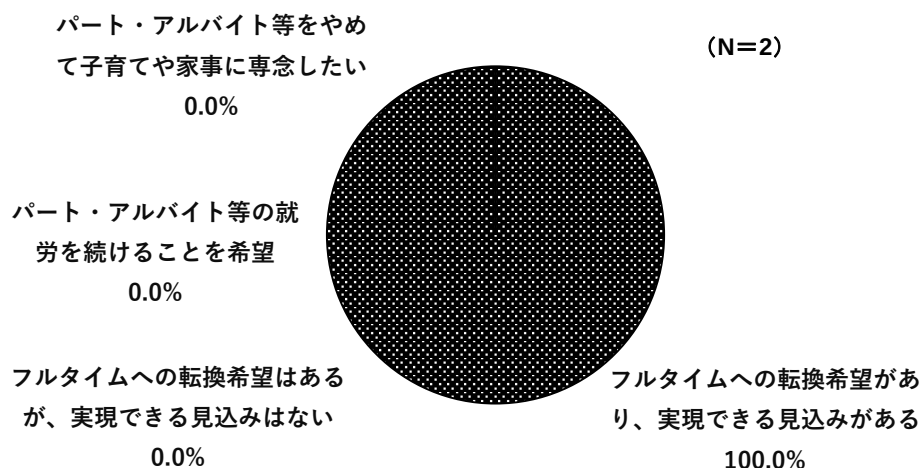
【世帯年収別】

■ フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
 □ フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
 ▨ パート・アルバイト等の就労を続けることを希望
 ▩ パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい



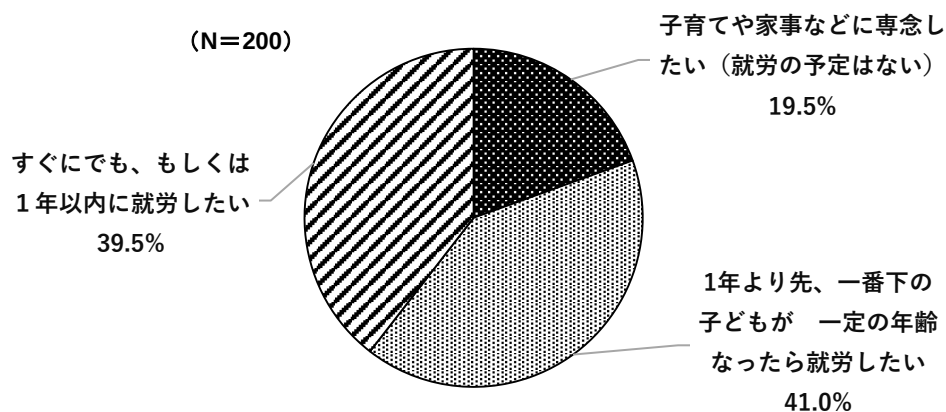
33. 【父親】フルタイムへの転換希望の有無

「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が100%となっている。
対象者が非常に少ないため、属性別の傾向については割愛する。

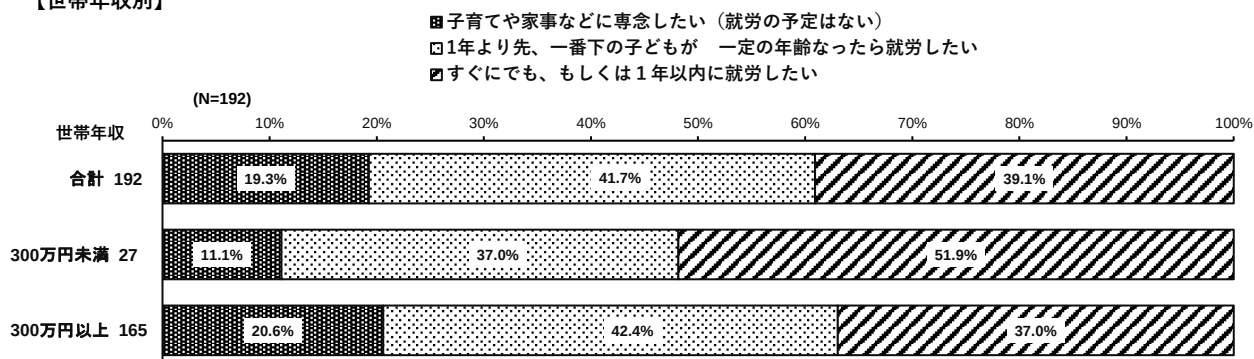


34. 【母親】就労したい希望

「1年より先、一番下の子どもが一定の年齢になったら就労したい」が41.0%と最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が39.5%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が19.5%となっている。

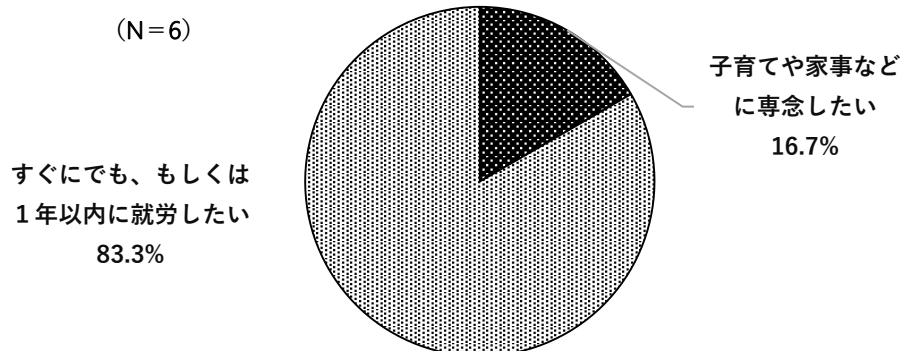


【世帯年収別】



35. 【父親】就労したい希望

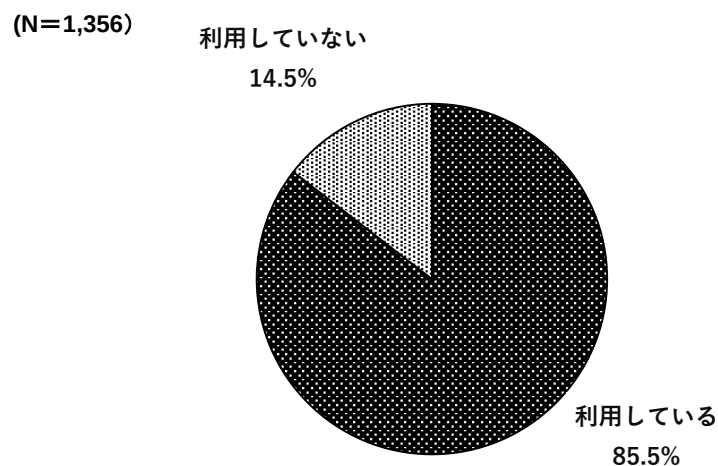
「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が83.3%と最も高く、次いで「子育てや家事などに専念したい」が16.7%となっている。



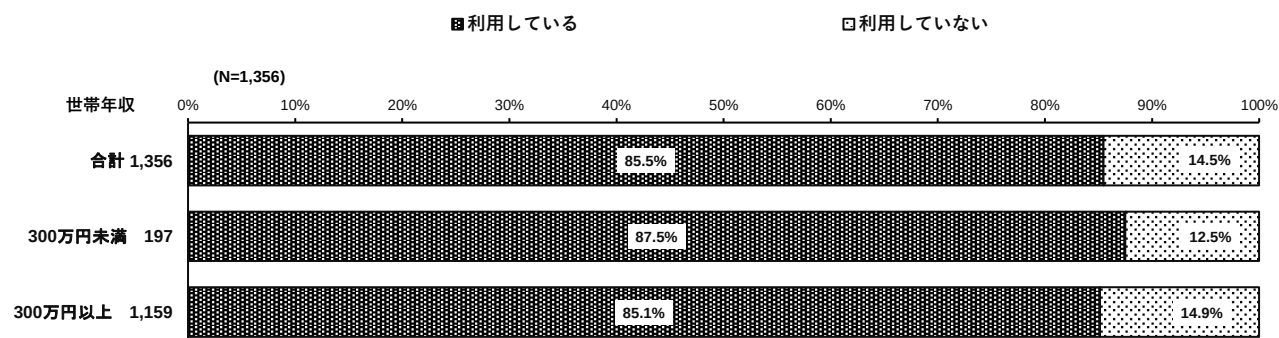
36. 定期的な教育・保育事業（幼稚園や保育所など）の利用について

「利用している」が85.5%、「利用していない」が14.5%であった。

また、300万円未満の世帯において「利用している」が5年前の調査時より、14.8ポイント高くなっている。

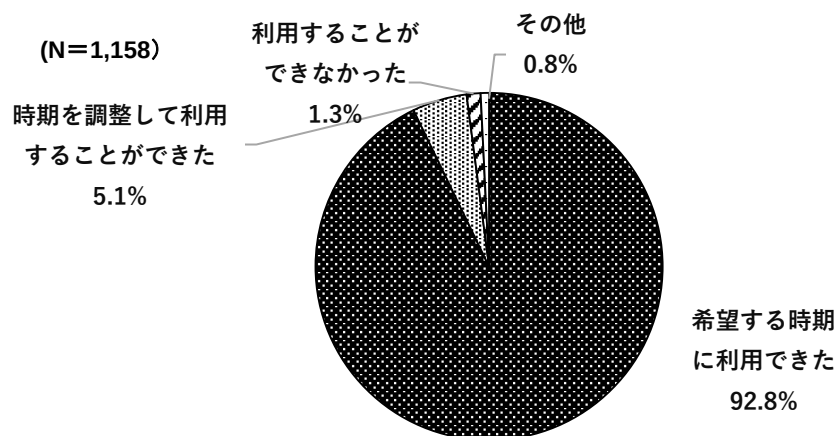


【世帯年収別】



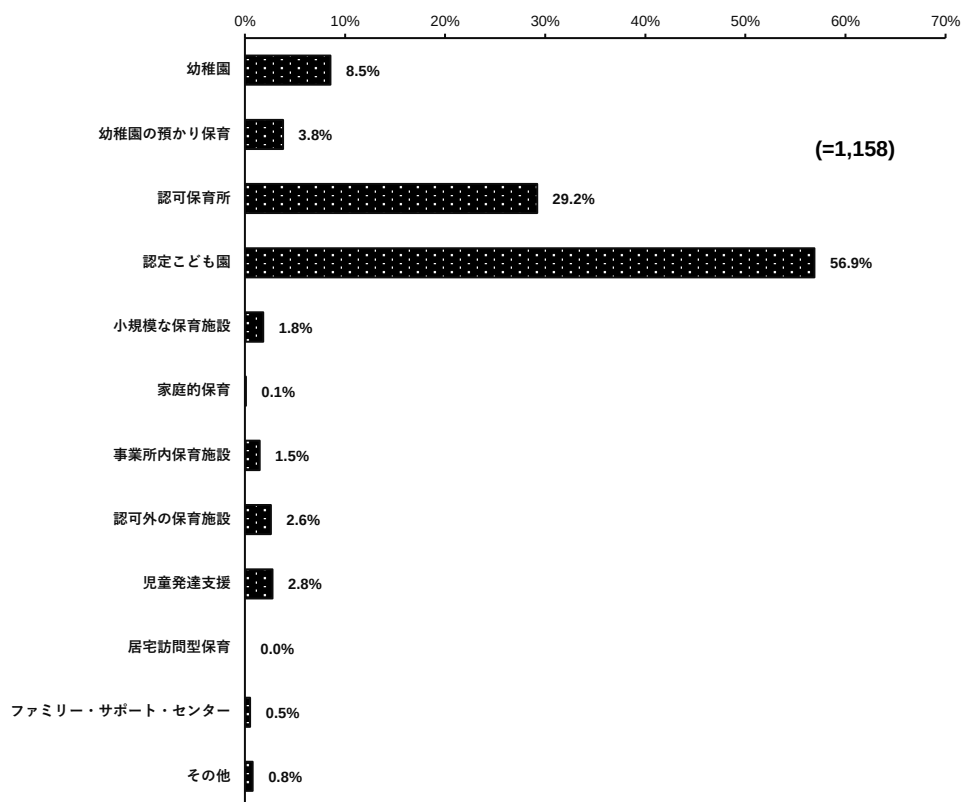
37. 希望した保育サービスを利用できているか

「希望する時期に利用できた」が92.8%と最も高く、次いで「時期を調整して利用することができた」が5.1%、「利用することができなかった」が1.3%となっている。



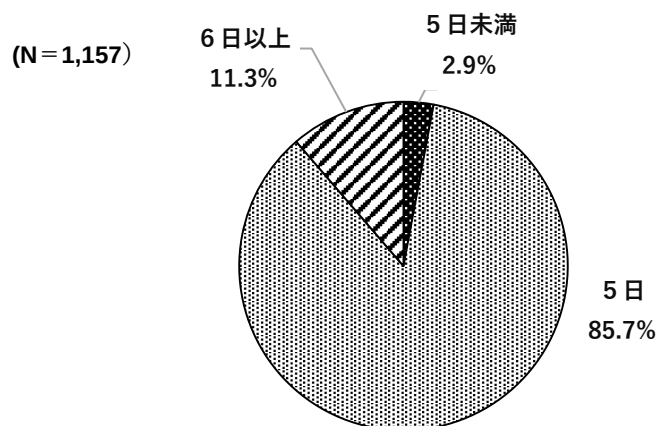
38. 【月曜日～金曜日】定期的に利用している教育・保育事業

「認定こども園」が56.9%と最も高く、次いで「認可保育園」が29.2%、「幼稚園」が8.5%となっている。



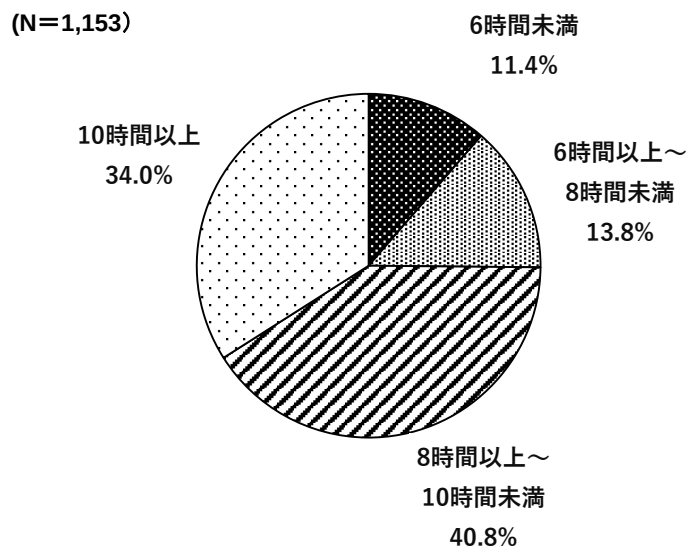
39. 【月曜日～金曜日】現在定期的に利用している教育・保育事業の利用日数/1週あたり

「5日」が85.7%と最も高く、次いで「6日以上」が11.3%となっている。



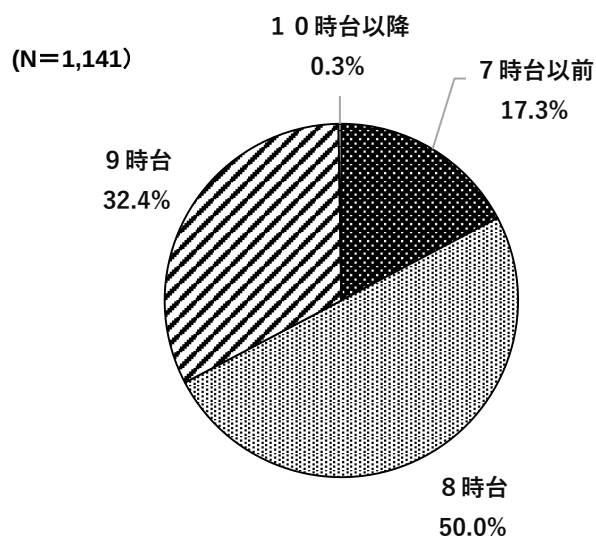
40. 【月曜日～金曜日】現在定期的に利用している教育・保育事業の利用時間数/1日あたり

「8時間以上～10時間未満」が40.8%、と最も高く、次いで「10時間以上」が34.0%、「6時間以上～8時間未満」が13.8%となっている。



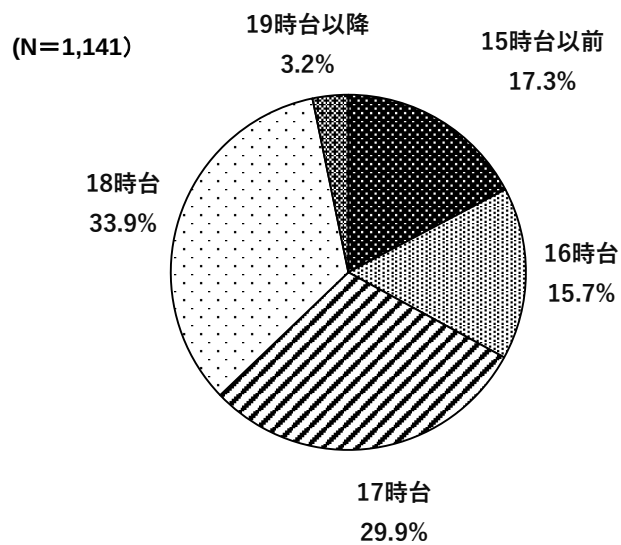
41. 【月曜日～金曜日】現在定期的に利用している教育・保育事業の開始時間

「8 時台」が 50.0%と最も高く、次いで「9 時台」が 32.4%、「7 時台以前」が 17.3%となっている。



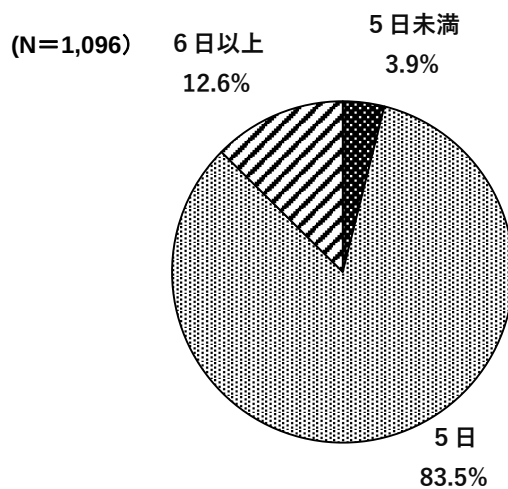
42. 【月曜日～金曜日】現在定期的に利用している教育・保育事業の終了時間

「18 時台」が 33.9%と最も高く、次いで「17 時台」が 29.9%、「15 時台以前」が 17.3%となっている。



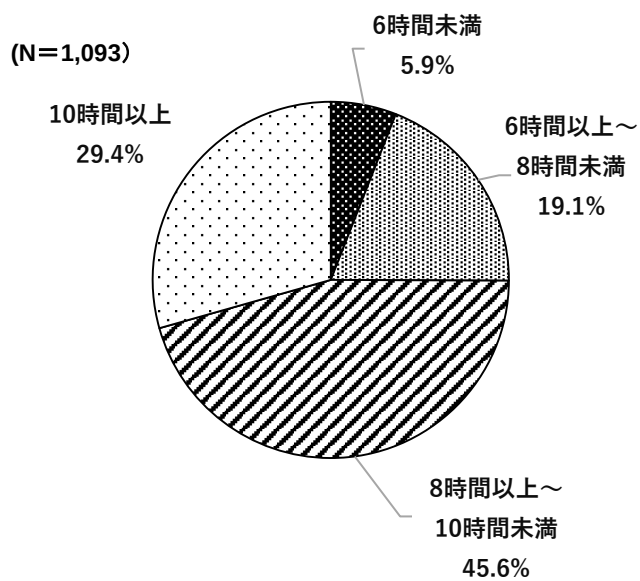
43. 【月曜日～金曜日】希望する教育・保育事業の利用日数/1週あたり

「5日」が83.5%と最も高く、次いで「6日以上」が12.6%、「5日未満」が3.9%となっている。



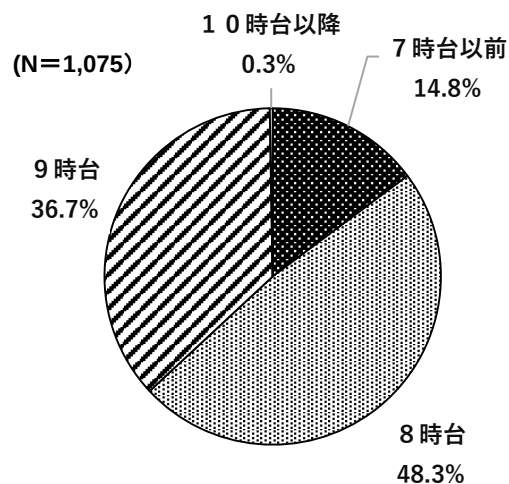
44. 【月曜日～金曜日】希望する教育・保育事業の利用時間数/1日あたり

「8時間以上～10時間未満」が45.6%と最も高く、次いで「10時間以上」が29.4%、「6時間以上～8時間未満」が19.1%となっている。



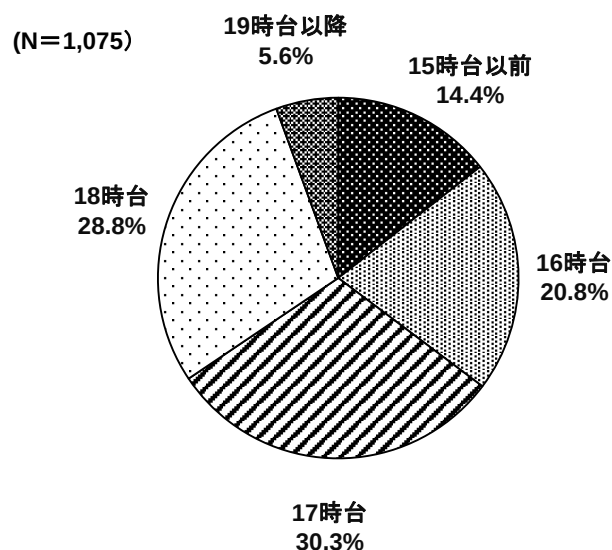
45. 【月曜日～金曜日】希望する教育・保育事業の開始時間

「8 時台」が 48.3% と最も高く、次いで「9 時台」が 36.7%、「7 時台以前」が 14.8% となっている。



46. 【月曜日～金曜日】希望する教育・保育事業の終了時間

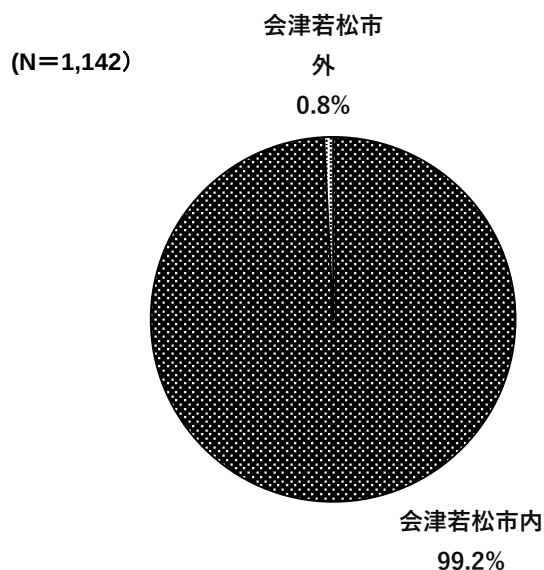
「17 時台」が 30.3% と最も高く、次いで「18 時台」が 28.8%、「16 時台」が 20.8% となっている。
5 年前の調査において「17 時台」に次いで回答の多かった「15 時台以前」が今年度は 8.2 ポイント下回り、14.4% となっている。



47. 【月曜日～金曜日】定期的に利用している教育・保育事業の場所

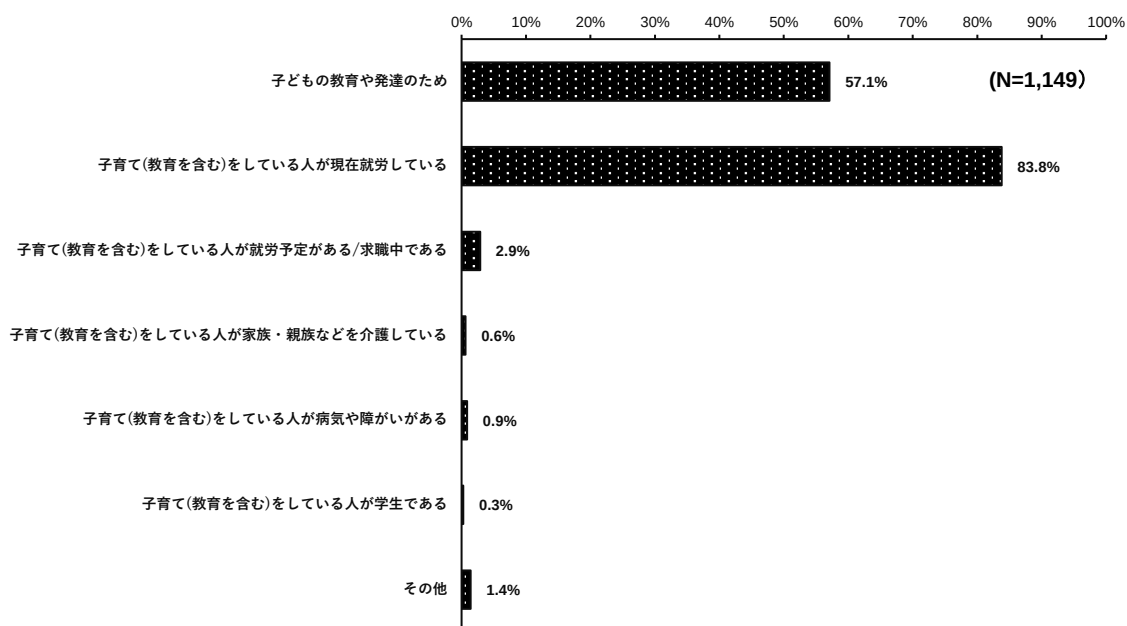
「会津若松市内」は 99.2%、「会津若松市外」は 0.8%であった。

5 年前の調査の結果と同じように、ほとんどの家庭で、会津若松市内において教育・保育事業を利用していることがわかった。



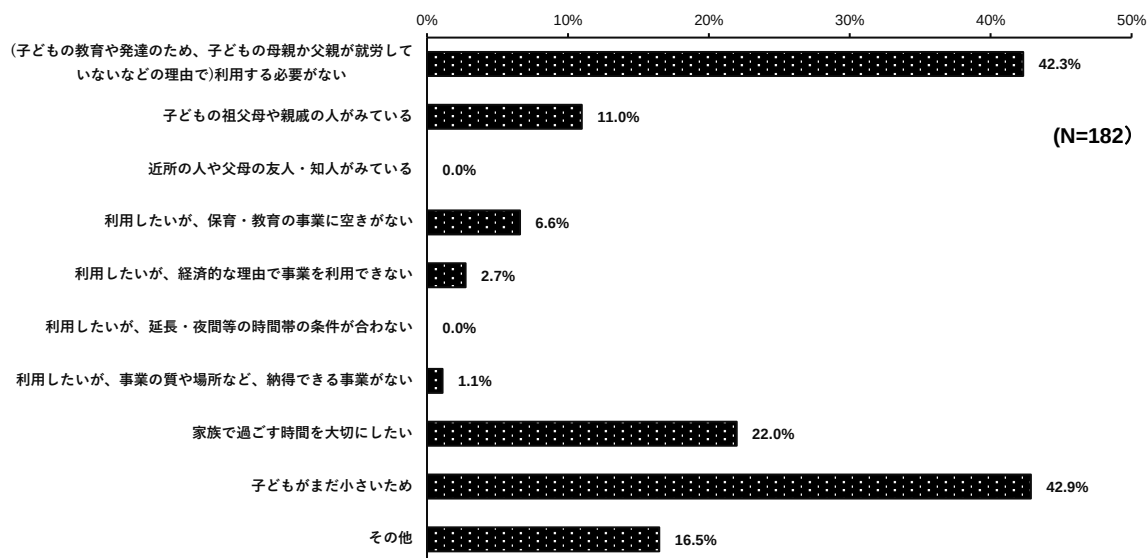
48. 【月曜日～金曜日】定期的に利用している理由

「子育て(教育を含む)をしている人が現在就労している」が 83.8%と最も高く、次いで「子どもや教育や発達のため」が 57.1%、「子育て(教育を含む)をしている人が就労予定がある/求職中である」が 2.9%となっている。



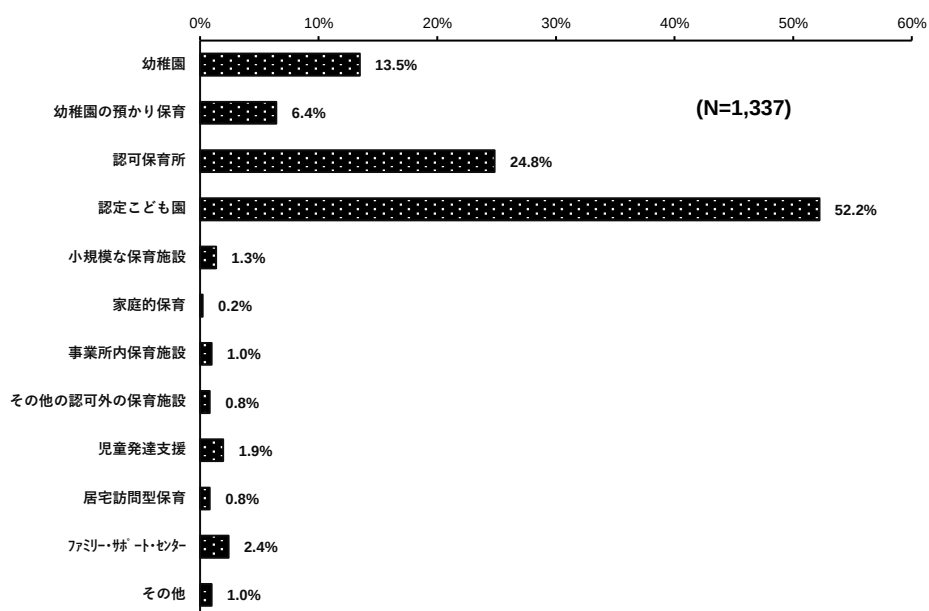
49. 【月曜日～金曜日】定期的に利用していない理由

「子どもがまだ小さいため」が42.9%と最も高く、次いで「(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で)利用する必要がない」が42.3%、「家族で過ごす時間を大切にしたい」が22.0%となっている。



50. 【月曜日～金曜日】定期的に利用したいと考える事業

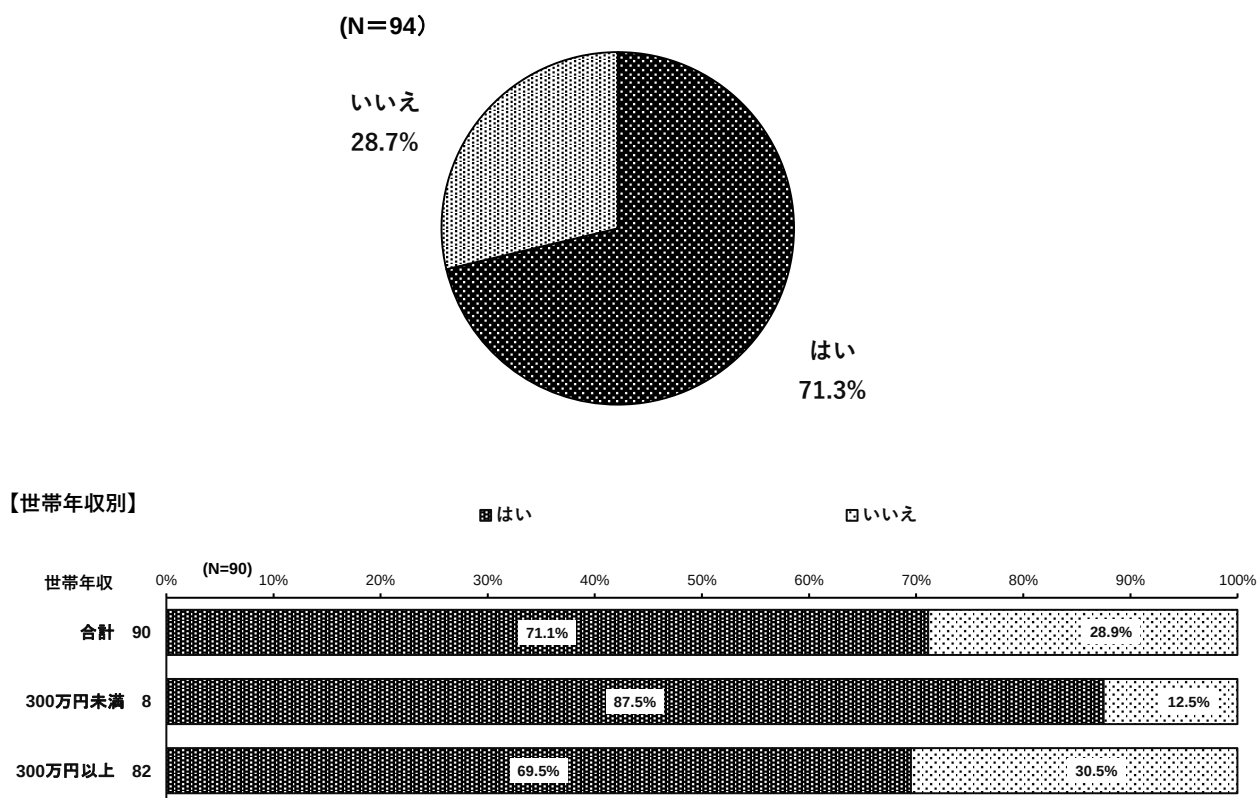
「認定こども園」が52.2%と最も高く、次いで「認可保育所」が24.8%、「幼稚園」が13.5%となっている。



51. 【月曜日～金曜日】現在、利用している、していないにかかわらず、定期的に幼稚園、認可保育所、認定こども園などの事業を利用したいと考えた際、幼稚園の利用を強く希望するか

「はい」は71.3%、「いいえ」は28.7%であった。

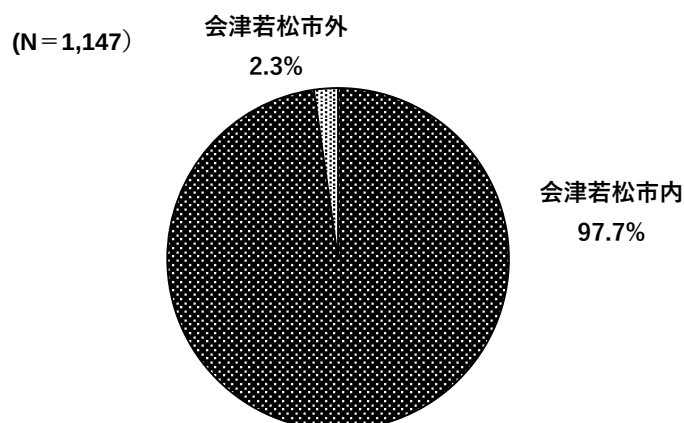
世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において「はい」が9割近くとなっており、300万円以上の世帯と比べ18ポイント高くなっている。



52. 【月曜日～金曜日】教育・保育事業を利用したい場所

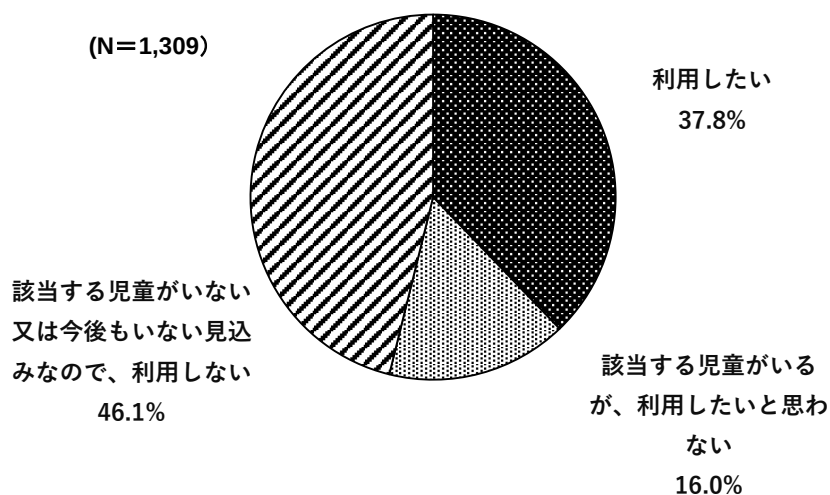
「会津若松市内」は97.7%、「会津若松市外」は2.3%であった。

5年前の調査の結果と同じように、ほとんどの家庭において会津若松市内での教育・保育事業を望んでいることがわかった。



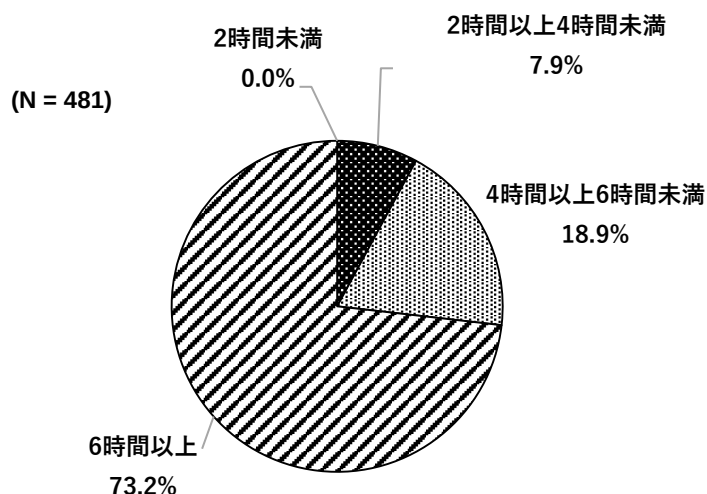
53. 国が検討している「子ども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、利用を希望するか

「該当する児童がいない又は今後もない見込みなので、利用しない」が46.1%と最も高く、次いで「利用したい」が37.8%、「該当する児童がいるが、利用したいと思わない」が16.0%となっている。



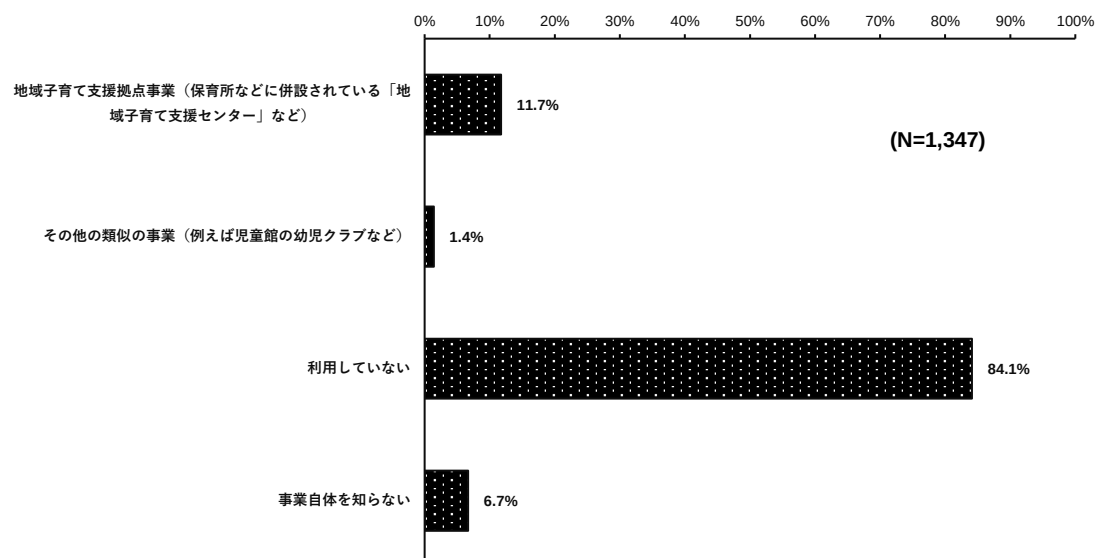
54. 「子ども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、利用したい人のうち1日あたりに利用したい時間

「6時間以上」が73.2%と最も高く、次いで「4時間以上6時間未満」が18.9%、「2時間以上4時間未満」が7.9%、「2時間未満」が0.0%となっている。



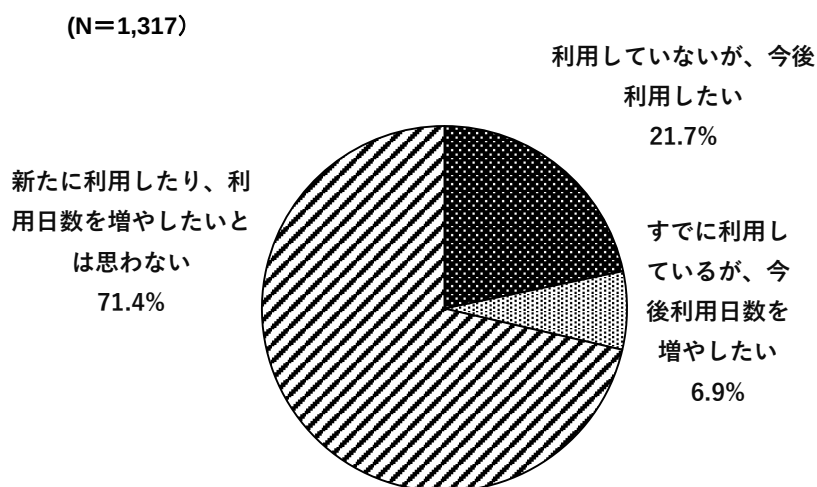
55. 利用している地域子育て支援拠点事業等

「利用していない」が84.1%と最も高く、次いで「地域子育て支援拠点事業」が11.7%、「事業自体を知らない」が6.7%となっている。

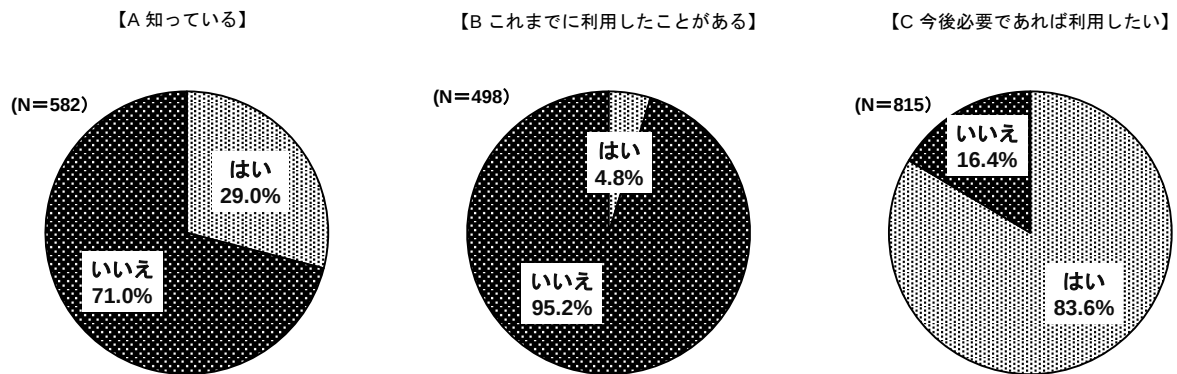


56. 地域子育て支援拠点事業について、利用したいもしくは日数を増やしたいという希望

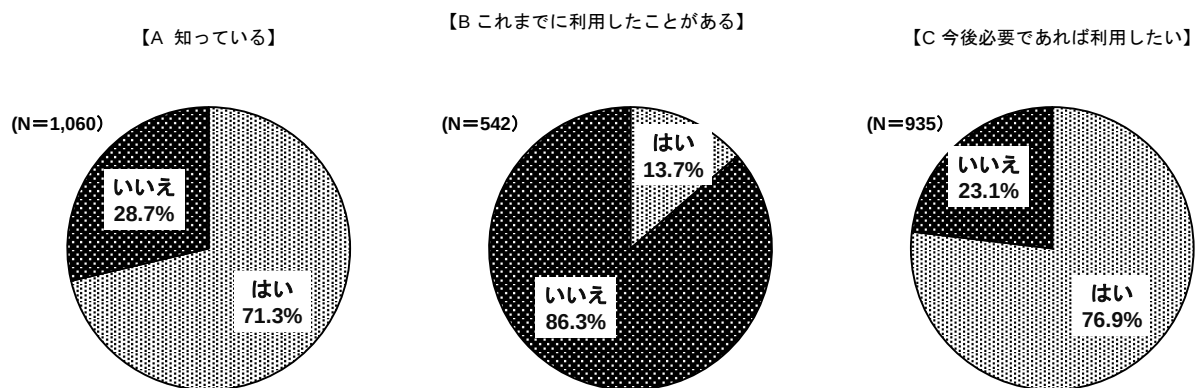
「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が71.4%と最も高く、次いで「利用していないが、今後利用したい」が21.7%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が6.9%となっている。



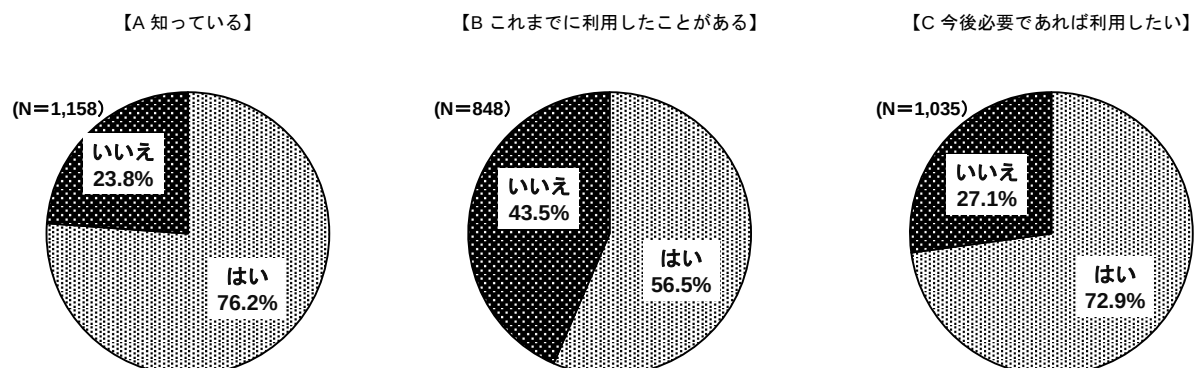
57. 【事業の利用状況】①家庭教育に関する学級・講座



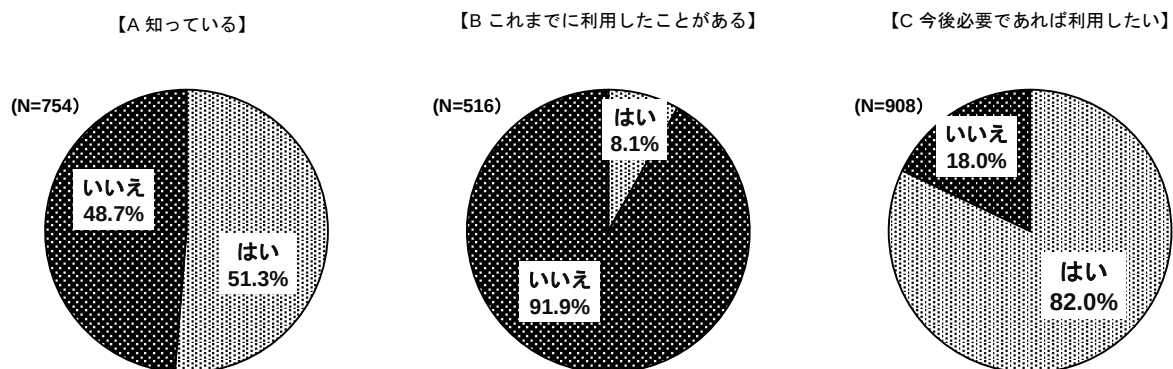
58. 【事業の利用状況】②家庭児童相談室



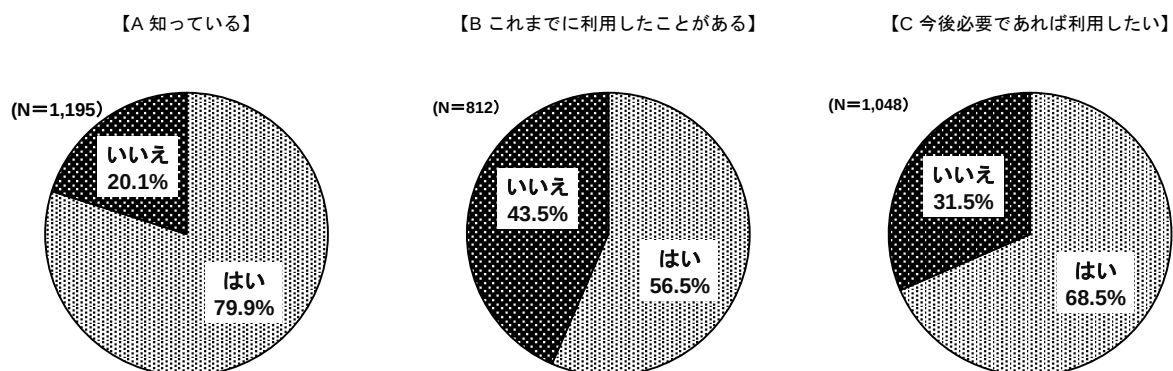
59. 【事業の利用状況】③子育て世代包括支援センター



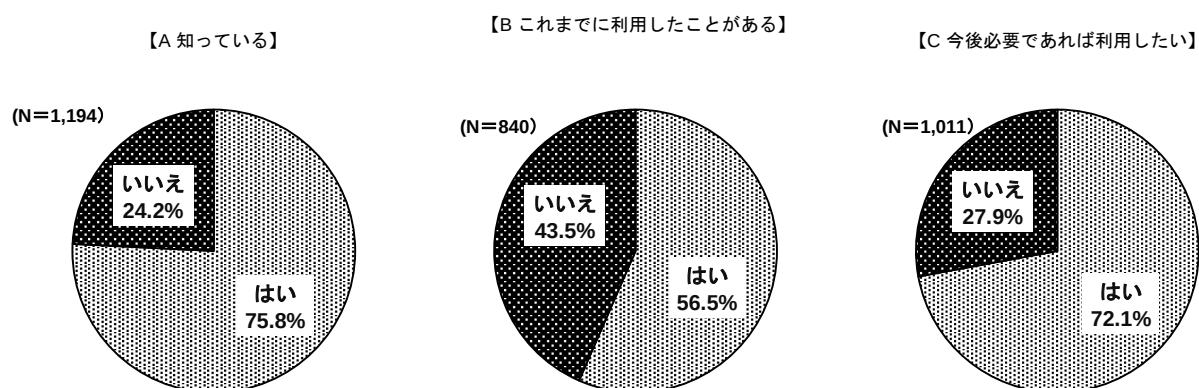
60. 【事業の利用状況】④教育相談室



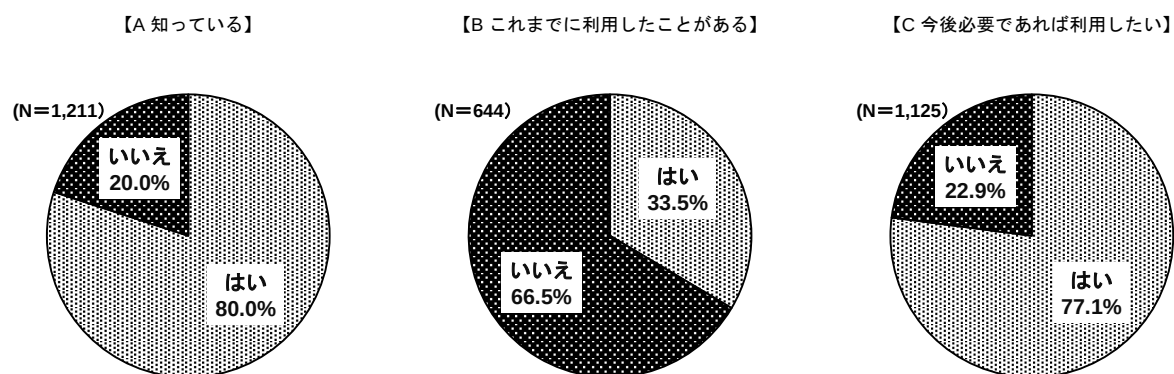
61. 【事業の利用状況】⑤保育所、認定こども園、幼稚園の園庭等の解放



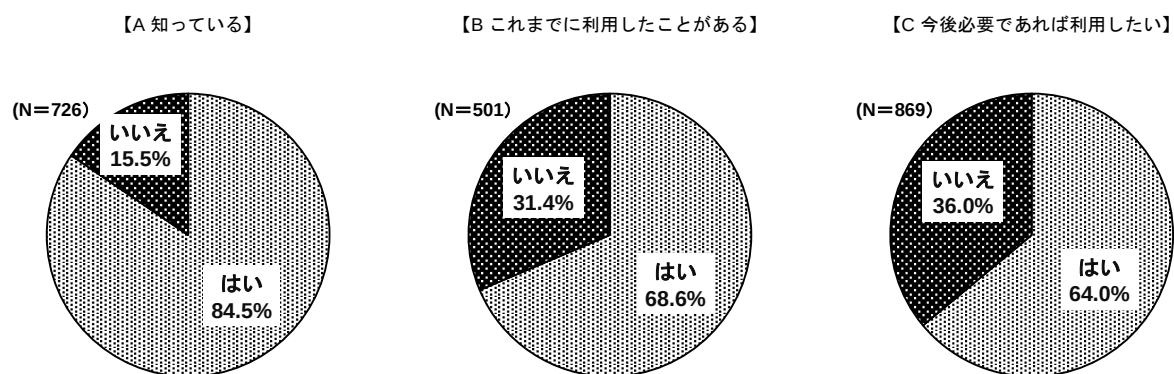
62. 【事業の利用状況】⑥地域子育て支援センター



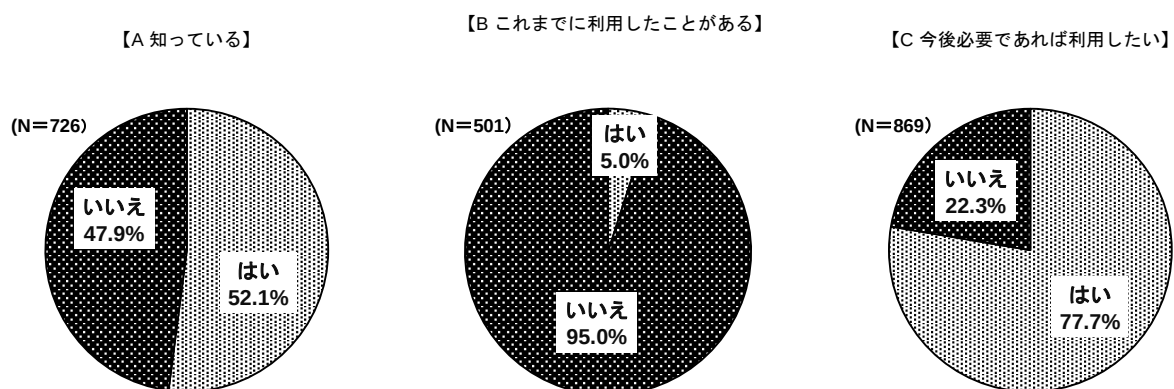
63. 【事業の利用状況】⑦児童館



64. 【事業の利用状況】⑧認定こども園

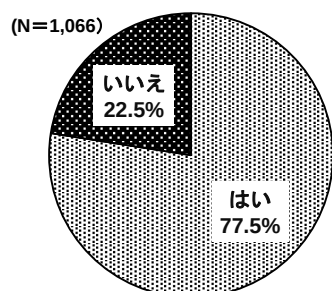


65. 【事業の利用状況】⑨特定保育

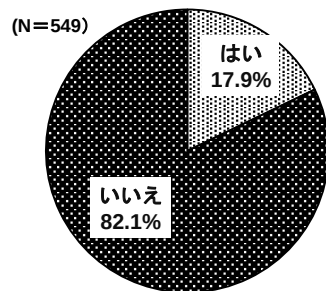


66. 【事業の利用状況】⑩ファミリー・サポート・センター

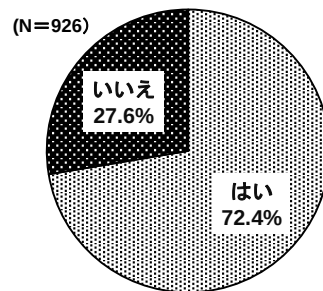
【A 知っている】



【B これまでに利用したことがある】

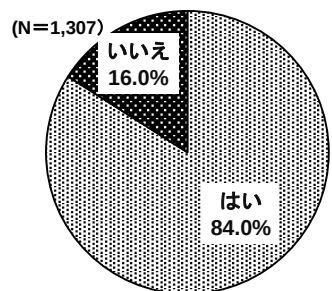


【C 今後必要であれば利用したい】

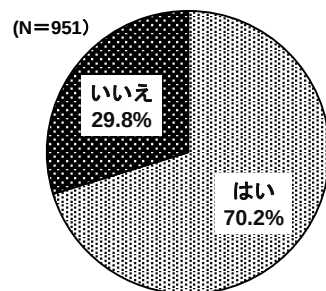


67. 【事業の利用状況】⑪夜間急病センター

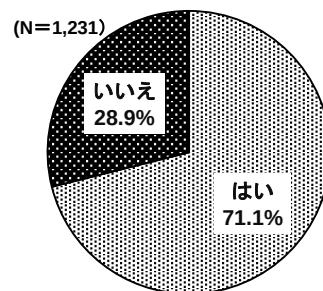
【A 知っている】



【B これまでに利用したことがある】

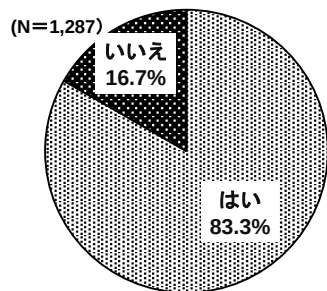


【C 今後必要であれば利用したい】

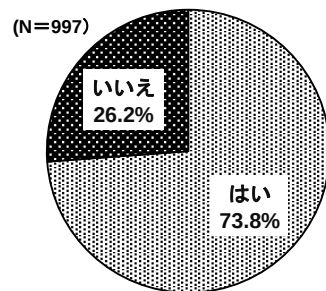


68. 【事業の利用状況】⑫休日当番医制事業

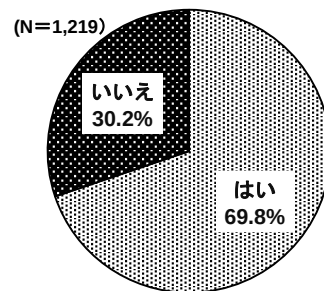
【A 知っている】



【B これまでに利用したことがある】

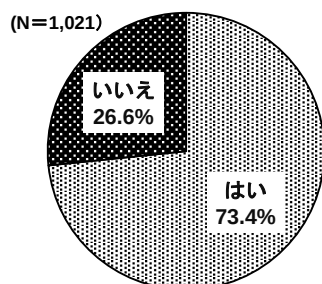


【C 今後必要であれば利用したい】

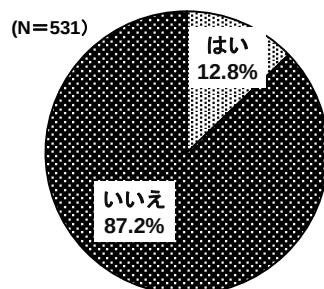


69. 【事業の利用状況】⑬障がい児相談支援・障がい福祉サービス

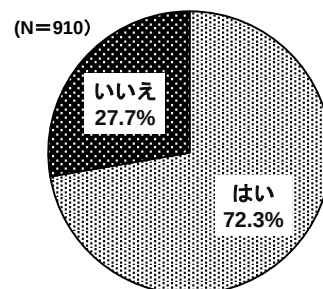
【A 知っている】



【B これまでに利用したことがある】

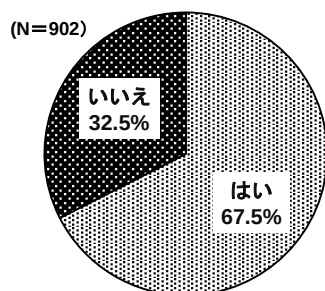


【C 今後必要であれば利用したい】

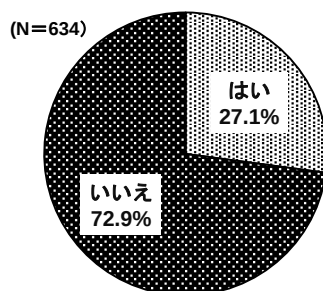


70. 【事業の利用状況】⑭子育て支援チラシ

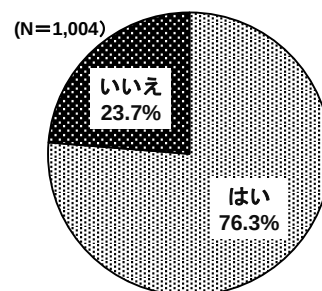
【A 知っている】



【B これまでに利用したことがある】

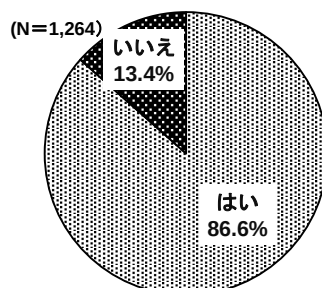


【C 今後必要であれば利用したい】

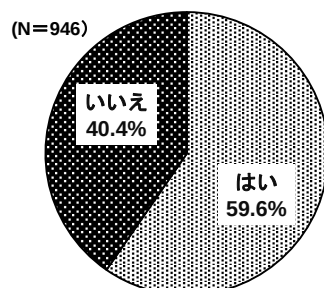


71. 【事業の利用状況】⑮市政だより、市のホームページ

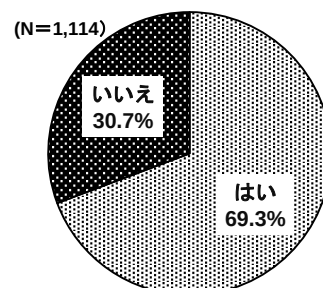
【A 知っている】



【B これまでに利用したことがある】

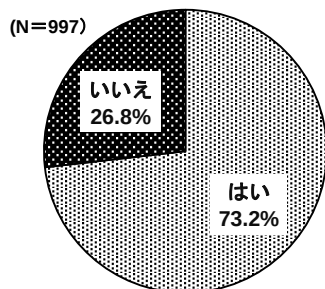


【C 今後必要であれば利用したい】

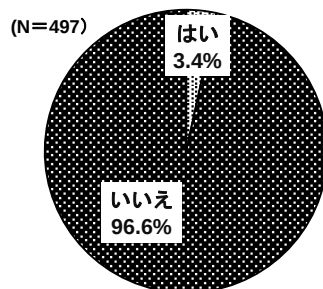


72. 【事業の利用状況】⑯虐待が心配な場合の市への通報制度

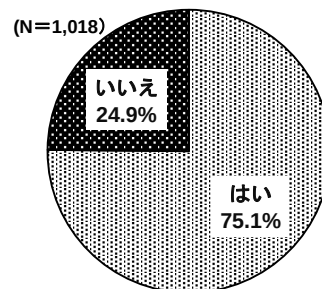
【A 知っている】



【B これまでに利用したことがある】

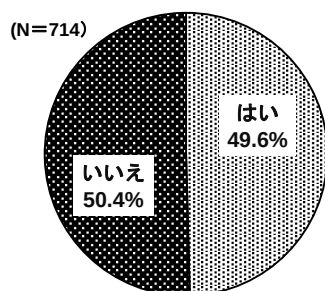


【C 今後必要であれば利用したい】

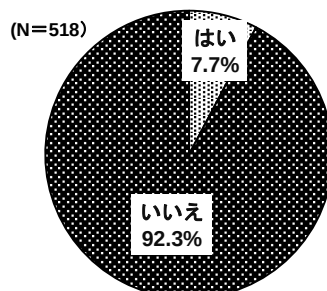


73. 【事業の利用状況】⑰子ども未来基金助成事業

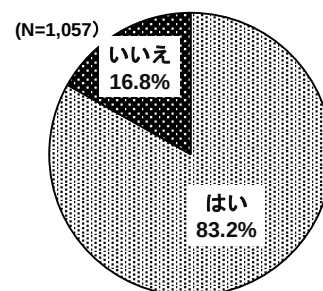
【A 知っている】



【B これまでに利用したことがある】

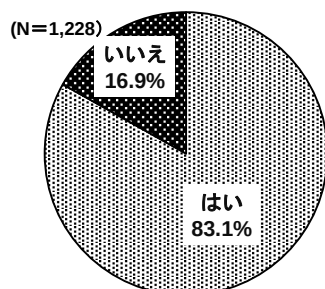


【C 今後必要であれば利用したい】

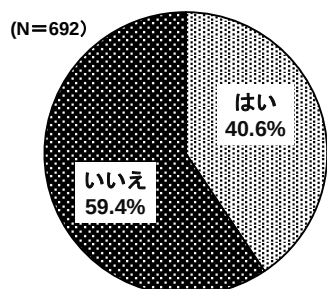


74. 【事業の利用状況】⑱生活保護、児童扶養手当、就学支援

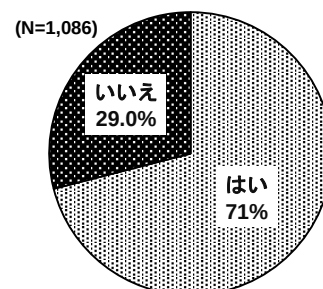
【A 知っている】



【B これまでに利用したことがある】

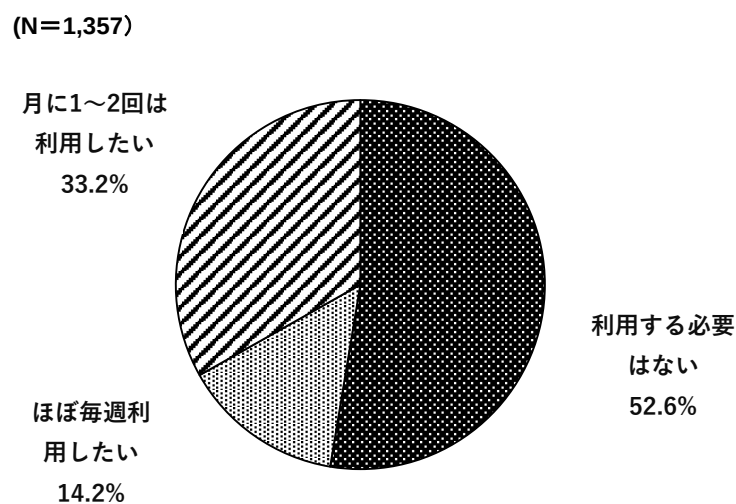


【C 今後必要であれば利用したい】



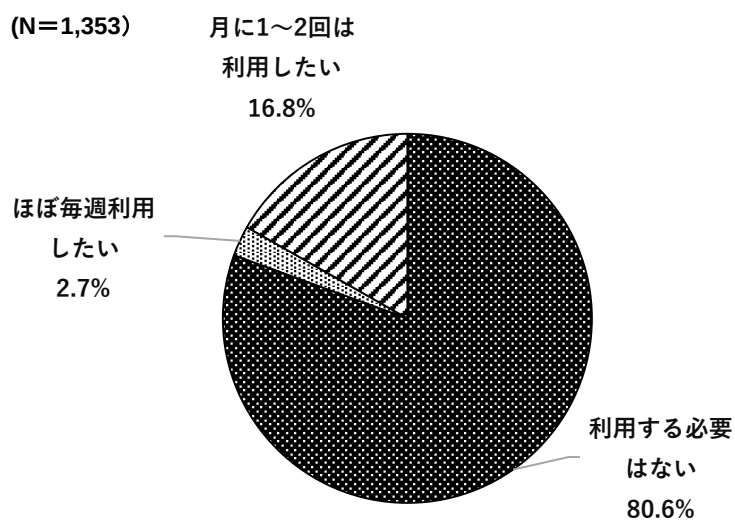
75. 【土曜日】 定期的な教育・保育事業の利用希望

「利用する必要はない」が52.6%と最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」が33.2%、「ほぼ毎週利用したい」が14.2%となっている。



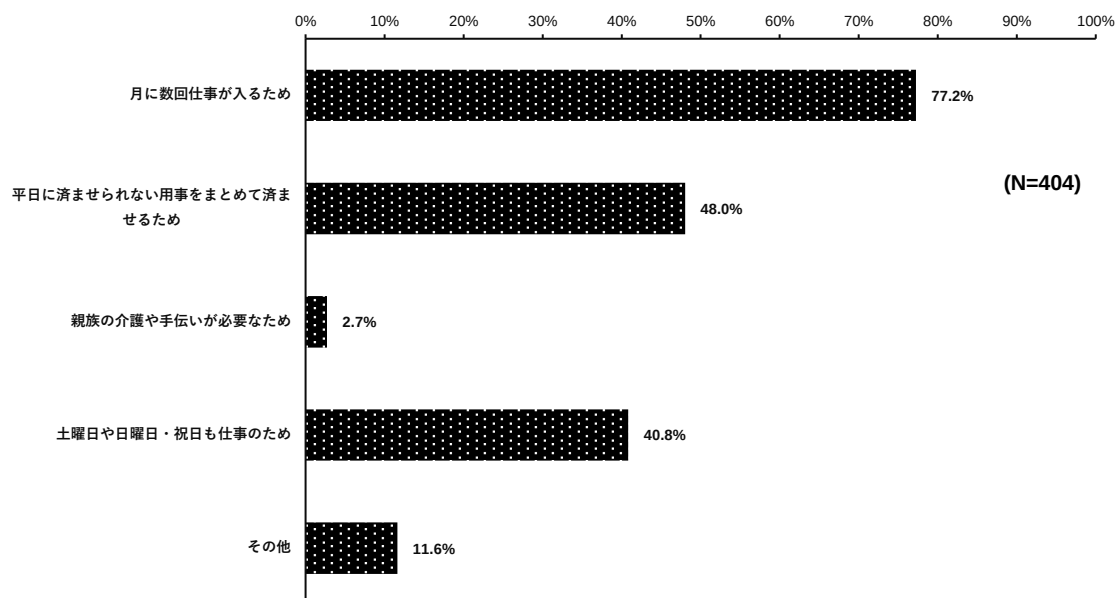
76. 【日曜日・祝日】 定期的な教育・保育事業の利用希望

「利用する必要はない」が80.6%と最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」が16.8%、「ほぼ毎週利用したい」が2.7%となっている。



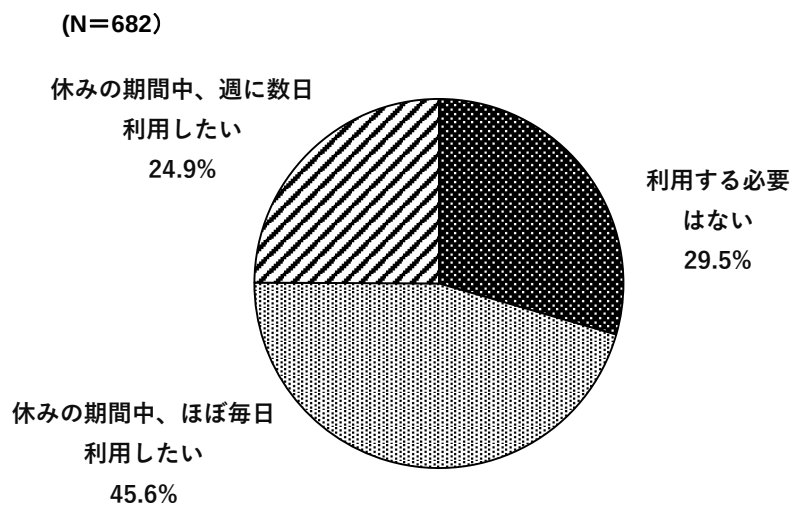
77. 教育・保育事業をたまに利用したい理由

「月に数回仕事が入るため」が77.2%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が48.0%「土曜日や日曜日・祝日も仕事のため」が40.8%となっている。



78. 幼稚園または認定こども園の幼稚園機能部分を利用している方の、長期休み中（夏休み・冬休みなど）の教育・保育事業の利用希望

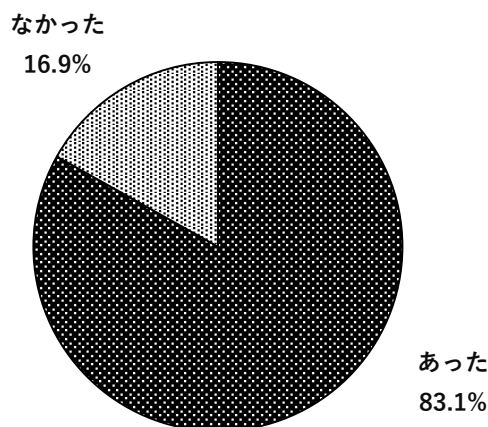
「休みの期間中ほぼ毎日利用したい」が45.6%と最も高く、次いで「利用する必要はない」が29.5%、「休みの期間中、週に数日利用したい」が24.9%となっている。



79. 病気やケガで普段利用している事業が利用できなかったことはあるか

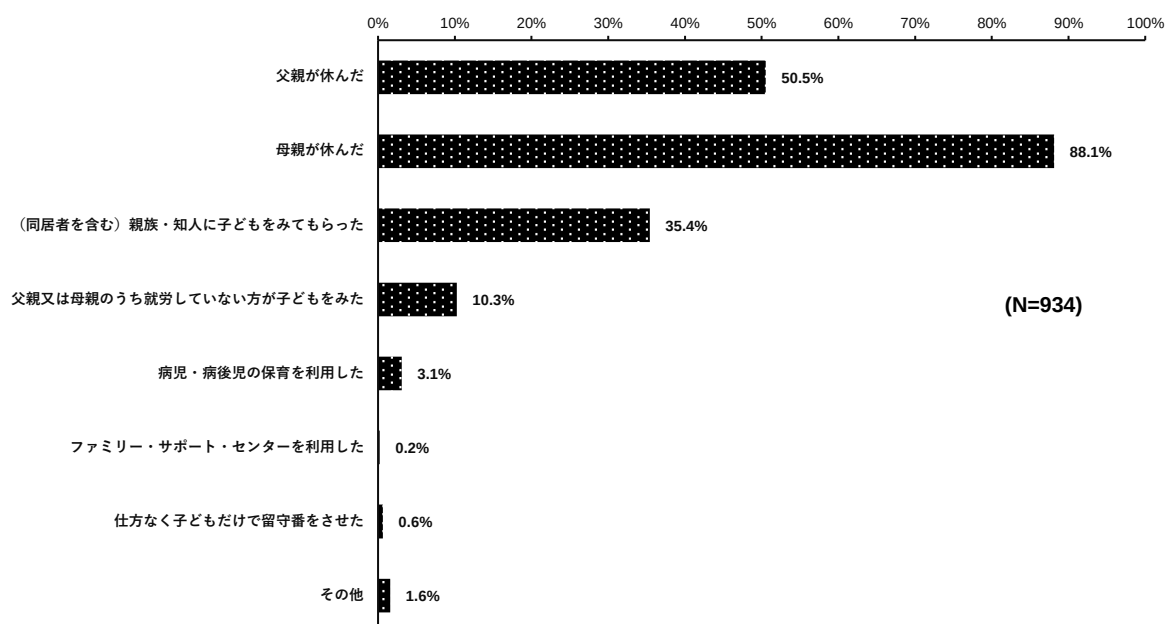
「あった」は83.1%であった、「なかった」は16.9%であった。

(N=1,113)



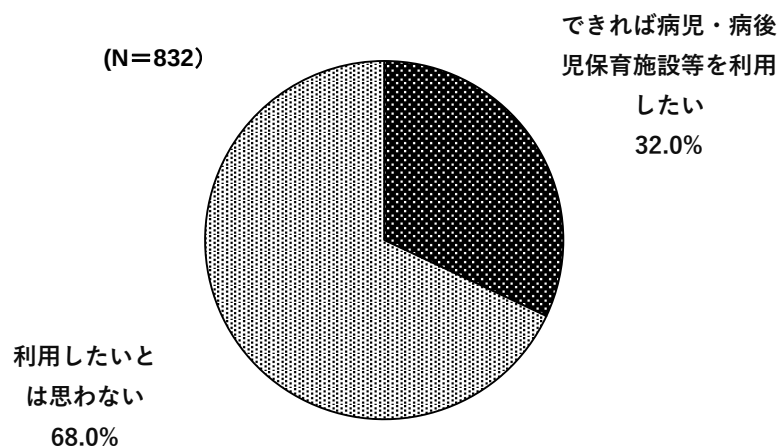
80. 利用できなかった場合の対処方法

「母親が休んだ」が88.1%と最も高く、次いで「父親が休んだ」が50.5%、「親族・知人に子どもをみてもらった」が35.4%となっている。5年前の調査において「父親が休んだ」は4割に達していなかったが、今回の調査では5割を超えている。



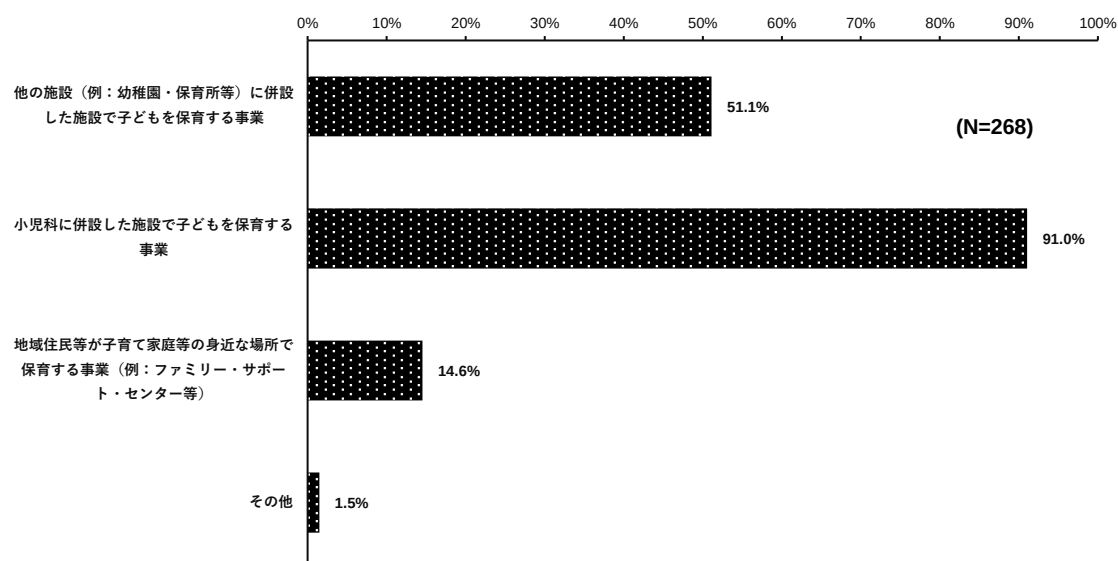
81. 事業が利用できなかった際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったか

「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が32.0%、「利用したいとは思わない」が68.0%であった。



82. 病児・病後児を預ける場合の、望ましい事業形態

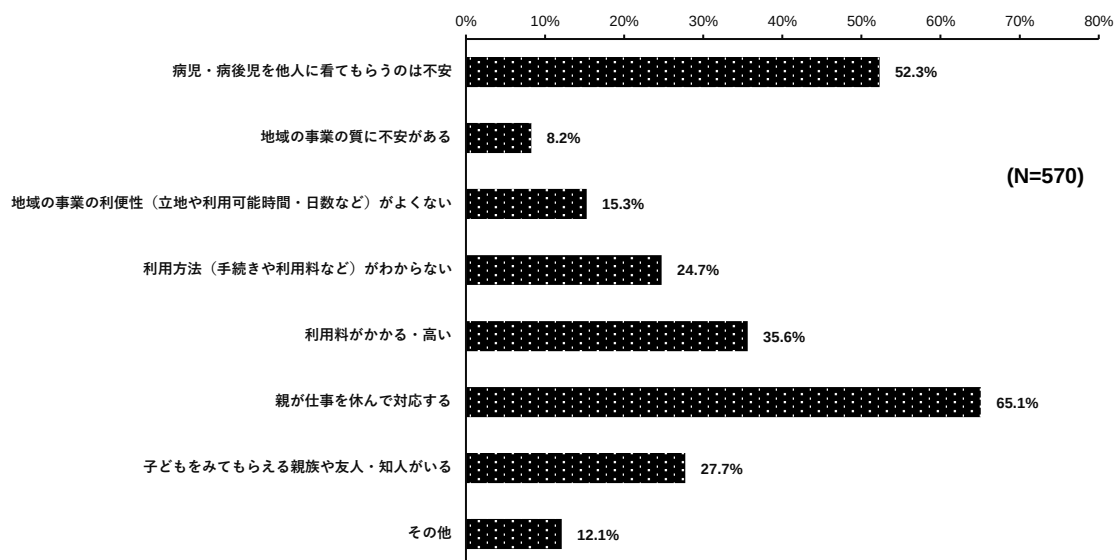
「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が91.0%と最も高く、次いで「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」が51.1%、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業（例：ファミリー・サポート・センター等）」が14.6%となっている。



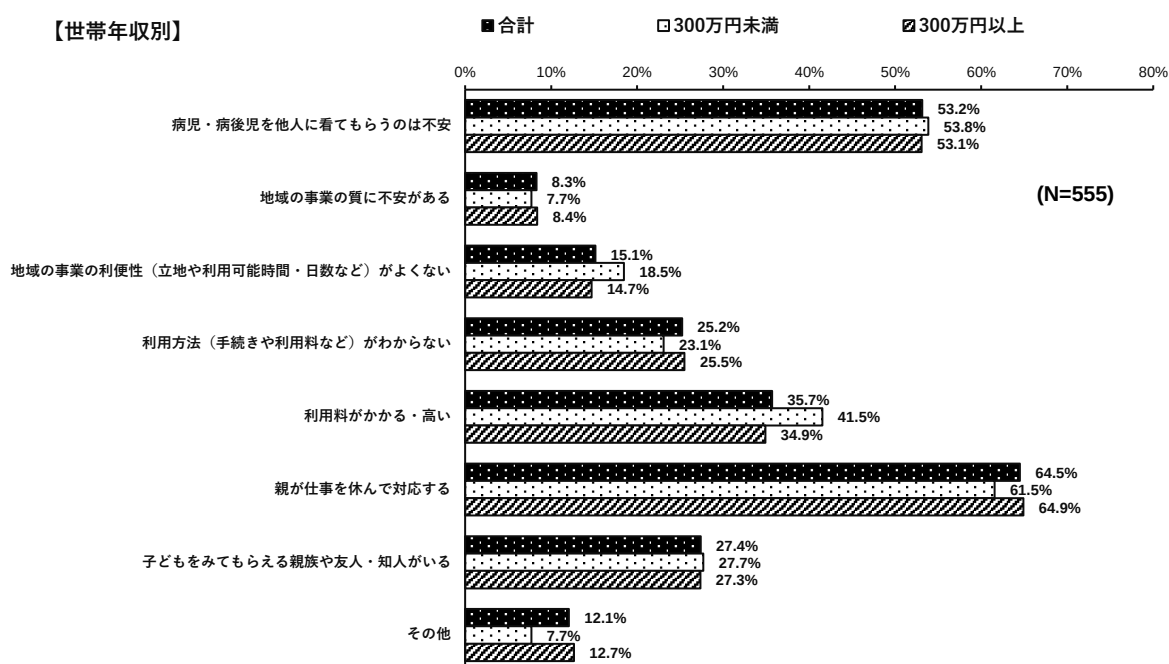
83. 病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思わない理由

「親が仕事を休んで対応する」が65.1%と最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が52.3%、「利用料がかかる・高い」が35.6%となっている。

世帯年収別にみたとき、5年前の調査と比較しても300万円未満と300万円以上の世帯において、突出した差はなくなっている。



【世帯年収別】

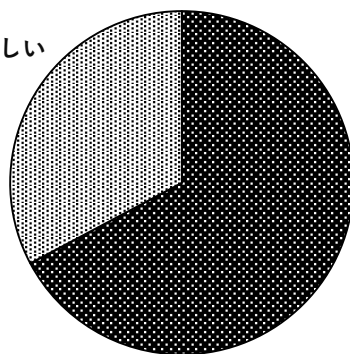


84. 「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思ったか

「できれば仕事を休んで看たい」は67.2%、「休んで看することは難しい」は32.8%であった。

(N=357)

休んで看ことは難しい
32.8%



できれば仕事を休んで看たい
67.2%

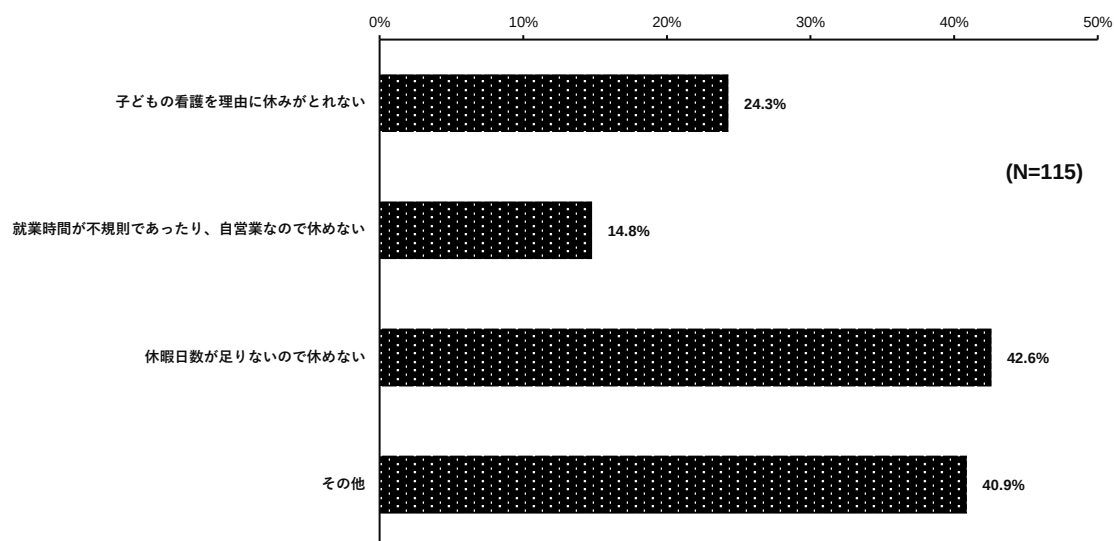
85. 「休んで看ことは難しい」と思う理由

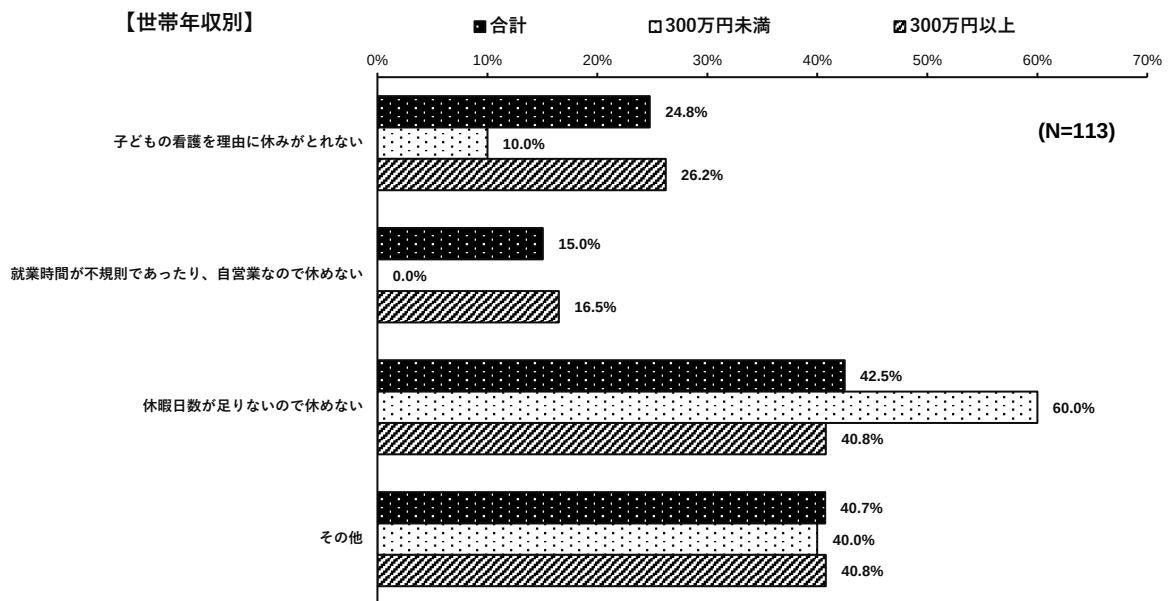
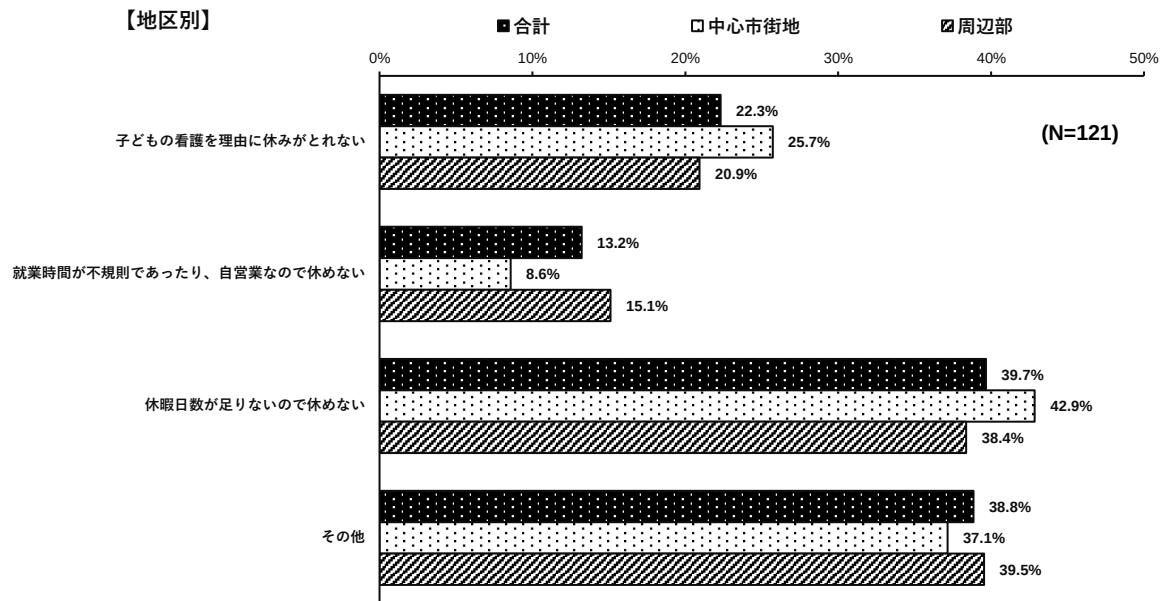
「休暇日数が足りないので休めない」が42.6%、次いで「子どもの看護を理由に休みがとれない」が24.3%となっている。なお、「その他」は40.9%となった。

「その他」の回答については、「業務都合や人手不足により、仕事を休むことができない」といった内容がほとんどであった。

5年前の調査において「休暇日数が足りないので休めない」は2割に満たなかったが、今回の調査では4割を超えている。

世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において「休暇日数が足りないので休めない」が6割となっており、300万円以上の世帯よりも19.2ポイント高くなっている。





【「その他」の内訳（一部抜粋）】

【仕事に関すること】

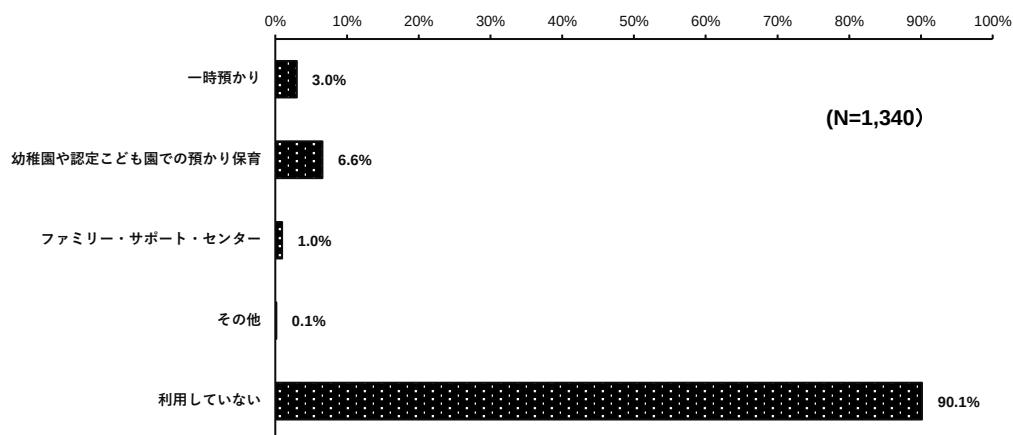
- ・職場が大変なのが分かるので申し訳ない。
- ・職場の雰囲気的に休みにくい。休むと仕事や売りに影響する。
- ・サービス業で人手不足の為急な休みがとりにくい。
- ・職場の人数がギリギリで、休むと人がいない。
- ・制度はあるものの周りへの負担を考えると長期の休みは取りづらい。
- ・休みはとれるが、職場に申し訳ない。また一人職なので自分がいないと成立しない仕事もあるため。
- ・職場の理解がない。
- ・子どもの体調不良が続き、職場に迷惑をかけていたので休みづらい。
- ・事業主の機嫌が悪いと休みが取れない。
- ・看護休みをとれなくはないがなるべく会社に迷惑をかけたくない。
- ・どうしても外せない仕事の対応が必要だから。
- ・急に休みを取ると仕事に支障が出る。
- ・シフト上休めない日もある。
- ・有給は貰えるが子どもの体調不良だけで無くなる。有給を使い切った後は欠勤になり収入が減る。
- ・有給休暇なし。欠勤になってしまう。
- ・時期によっては優先しなければならない仕事がある。
- ・時期によって、責任のある仕事の日程が変えられない。

【家庭環境に関すること】

- ・金銭的に厳しいのに、さらに厳しくなる。
- ・給料が減る。
- ・ひとり親の年休日数ではそもそも子を看れない。

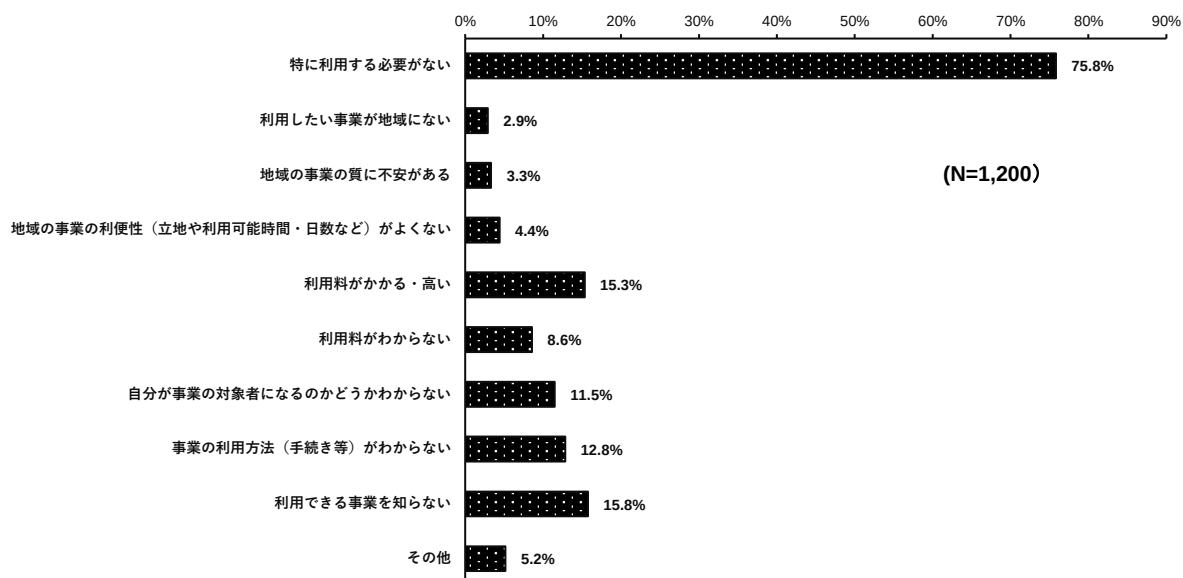
86. 不定期に利用している事業（私用、親の通院、不定期の就労等の目的）

「利用していない」が90.1%と最も高く、次いで「幼稚園や認定こども園での預かり保育」が6.6%、「一時預かり」が3.0%となっている。



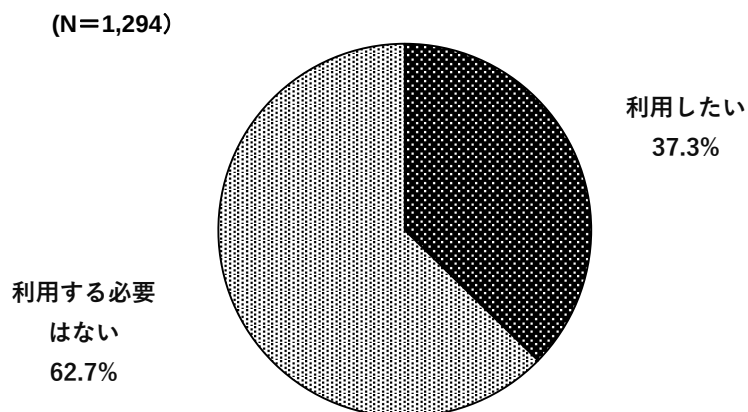
87. 不定期の事業を利用していない理由

「特に利用する必要がない」が75.8%と最も高く、次いで「利用できる事業を知らない」が15.8%、「利用料がかかる・高い」が15.3%となっている。



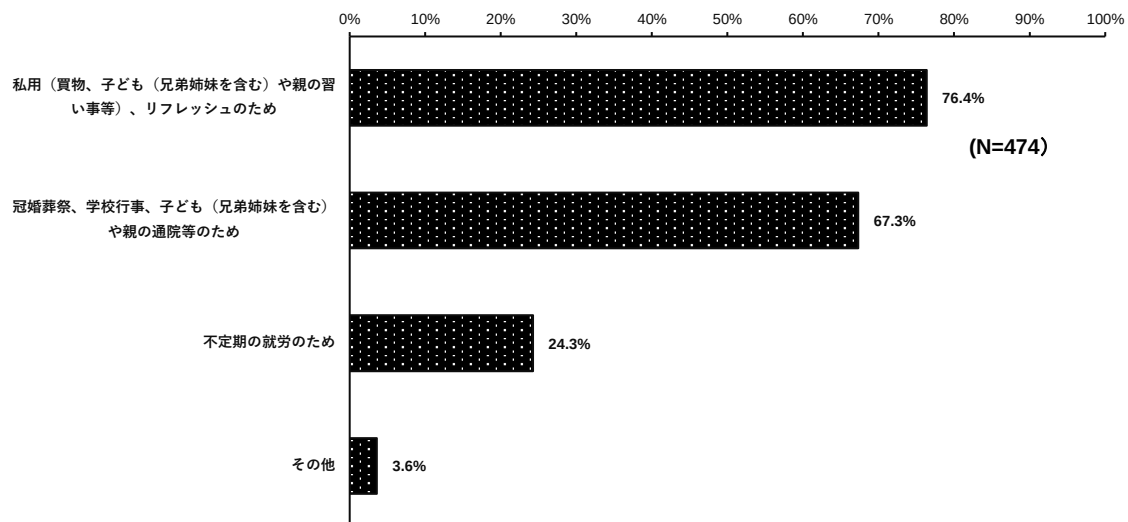
88. 不定期に事業を利用する必要があるか

「利用したい」は37.3%、「する必要はない」は62.7%であった。



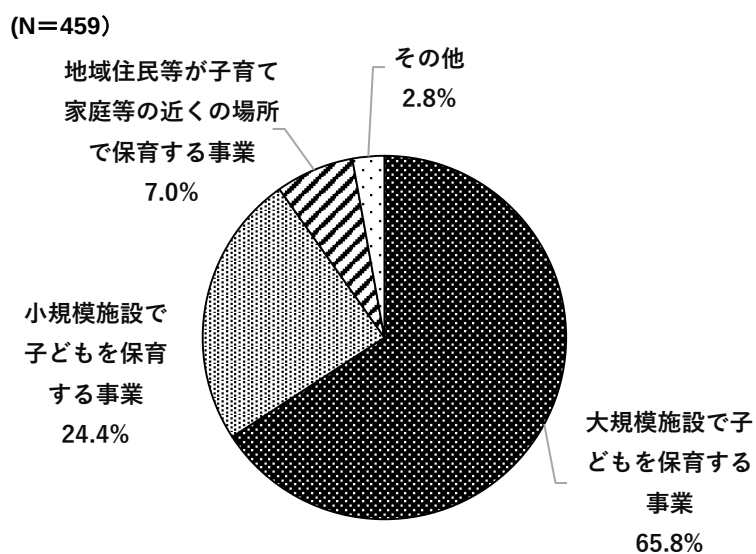
89. 不定期に事業を利用したい理由

「私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）親の習い事等）、やりフレッシュのため」が76.4%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等のため」が67.3%、「不
定期就労のため」が24.3%となっている。



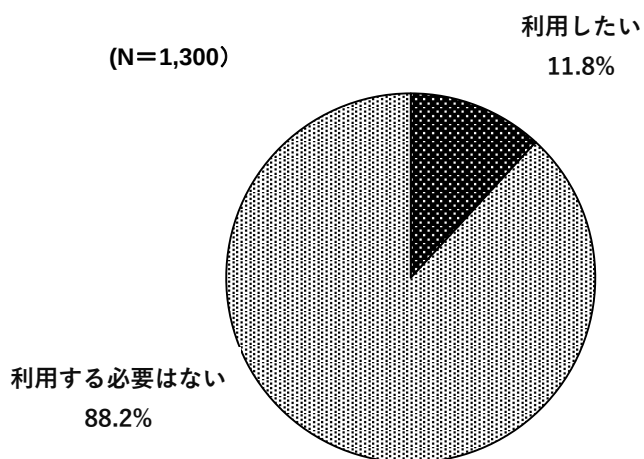
90. 子どもを預ける場合の、望ましい事業形態

「大規模施設で子どもを保育する事業」が65.8%と最も高く、次いで「小規模施設で子どもを保育する事業」が24.4%、「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業」が7.0%となっている。



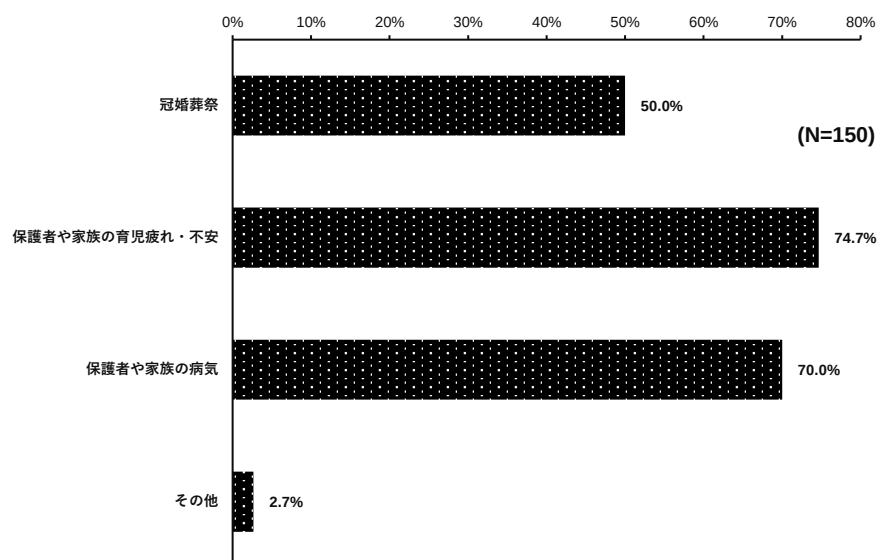
91. 短期入所生活援助事業（ショートステイ）（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）の利用希望の有無

「利用したい」が11.8%、「利用する必要はない」が88.2%であった。



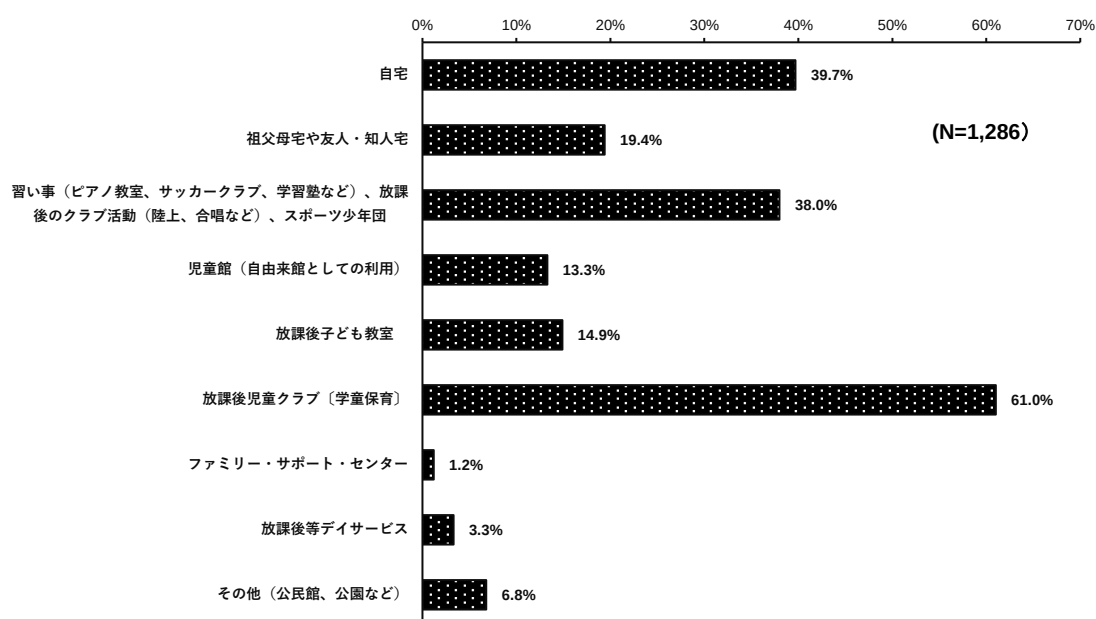
92. 利用したい場合の施設を利用する状況

保護者や家族の育児疲れ・不安」が74.7%と最も高く、次いで「保護者や家族の病気」が70.0%、「冠婚葬祭」が50.0%であった。



93. 小学校の放課後に過ごさせたい場所（1～3年生）

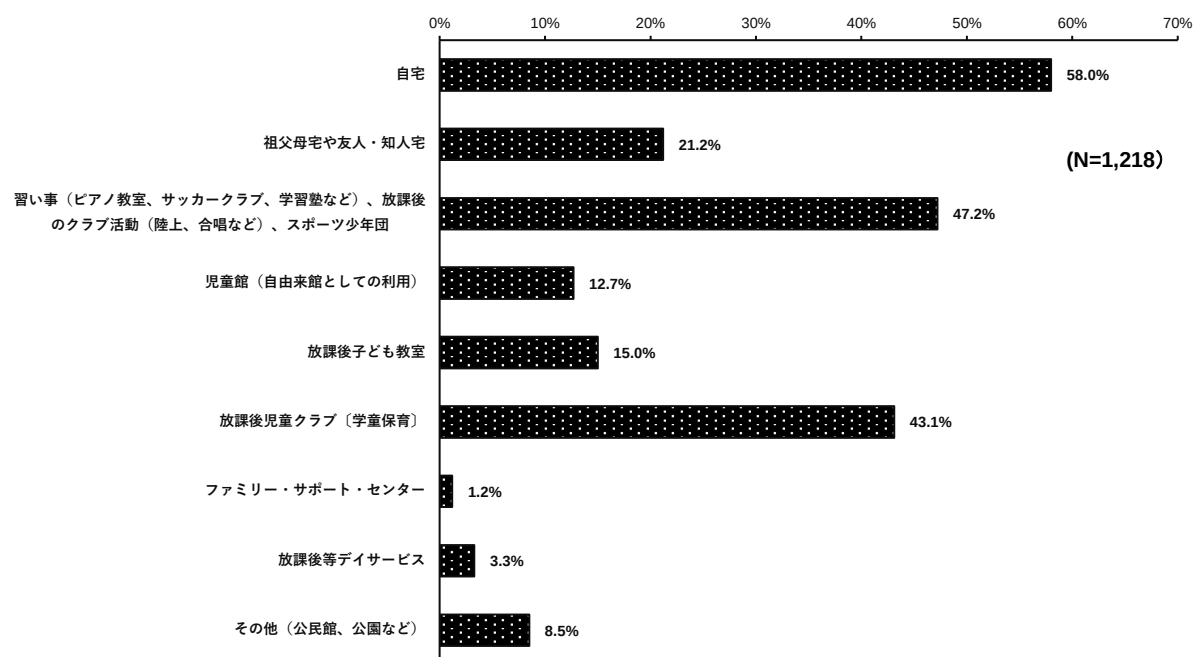
「放課後児童クラブ」が61.0%と最も高く、次いで「自宅」が39.7%、「習い事、放課後のクラブ活動、スポーツ少年団」が38.0%となっている。



94. 小学校の放課後に過ごさせたい場所（4～6年生）

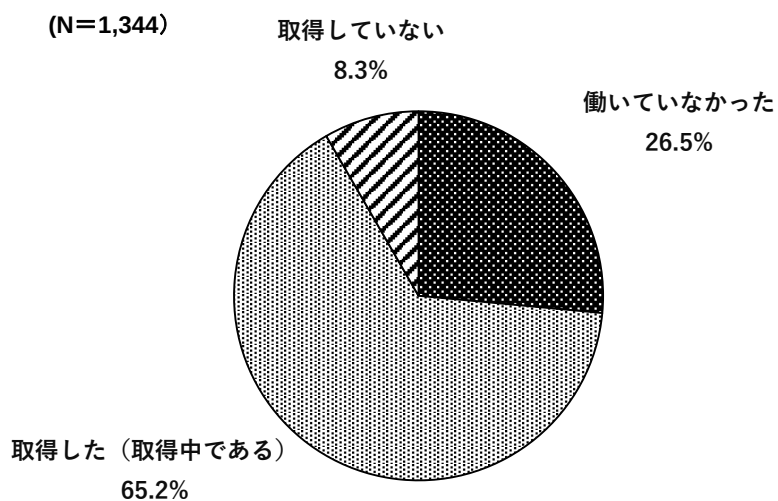
「自宅」が58.0%と最も高く、次いで「習い事、放課後のクラブ活動、スポーツ少年団」が47.2%、「放課後児童クラブ」が43.1%となっている。

1～3年生では最も高かった「放課後児童クラブ」は3位となった。

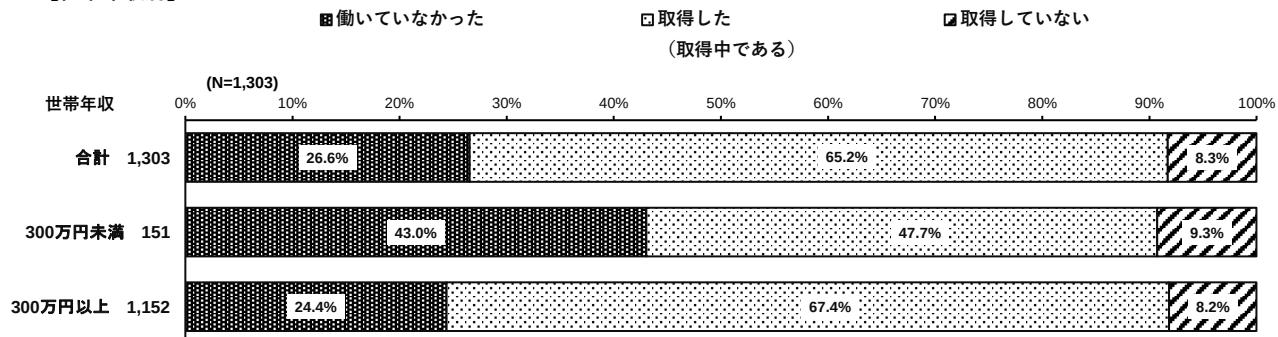


95. 【母親】子どもが生まれたとき、育児休業を取得したか

「取得した(取得中である)」が65.2%と最も高く、次いで「働いていなかった」が26.5%、「取得していない」が8.3%となっている。世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において「働いていなかった」が4割を超えており、300万円以上の世帯を18.6ポイント上回っている。



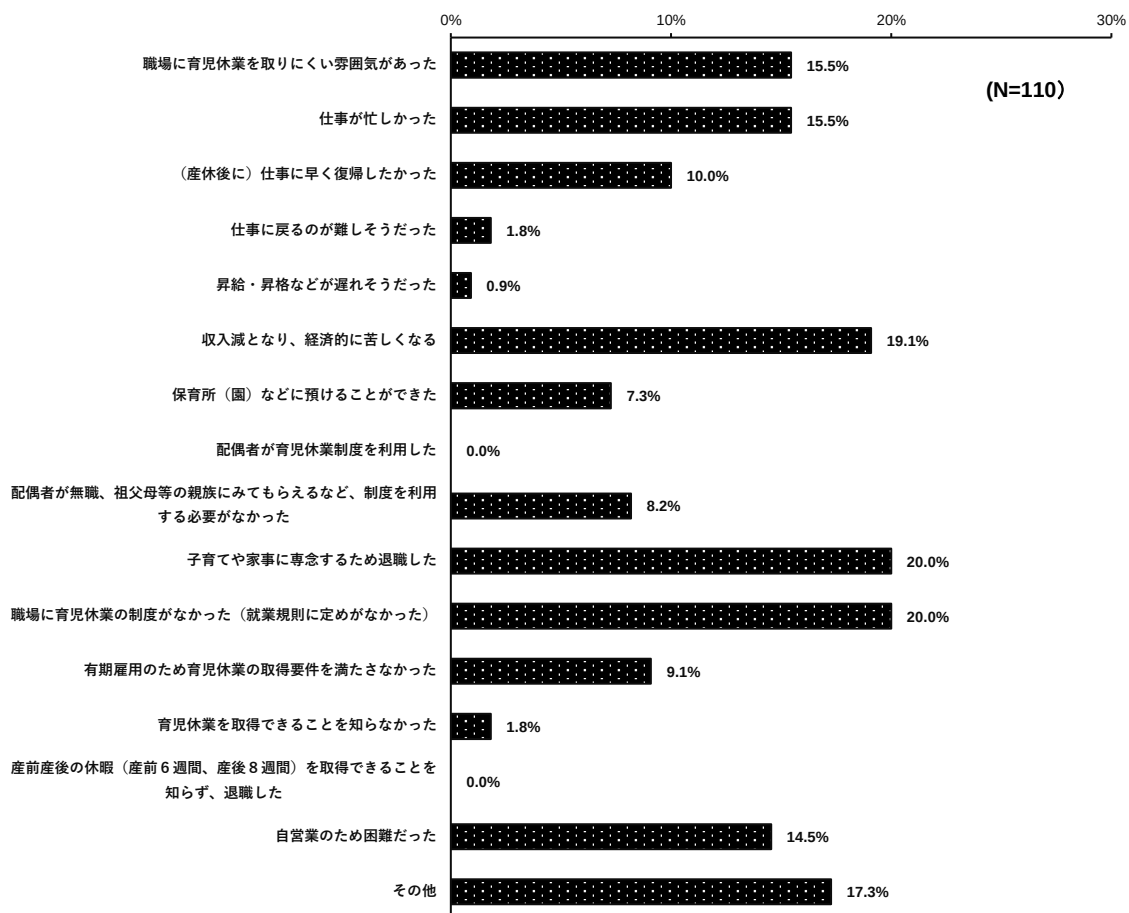
【世帯年収別】



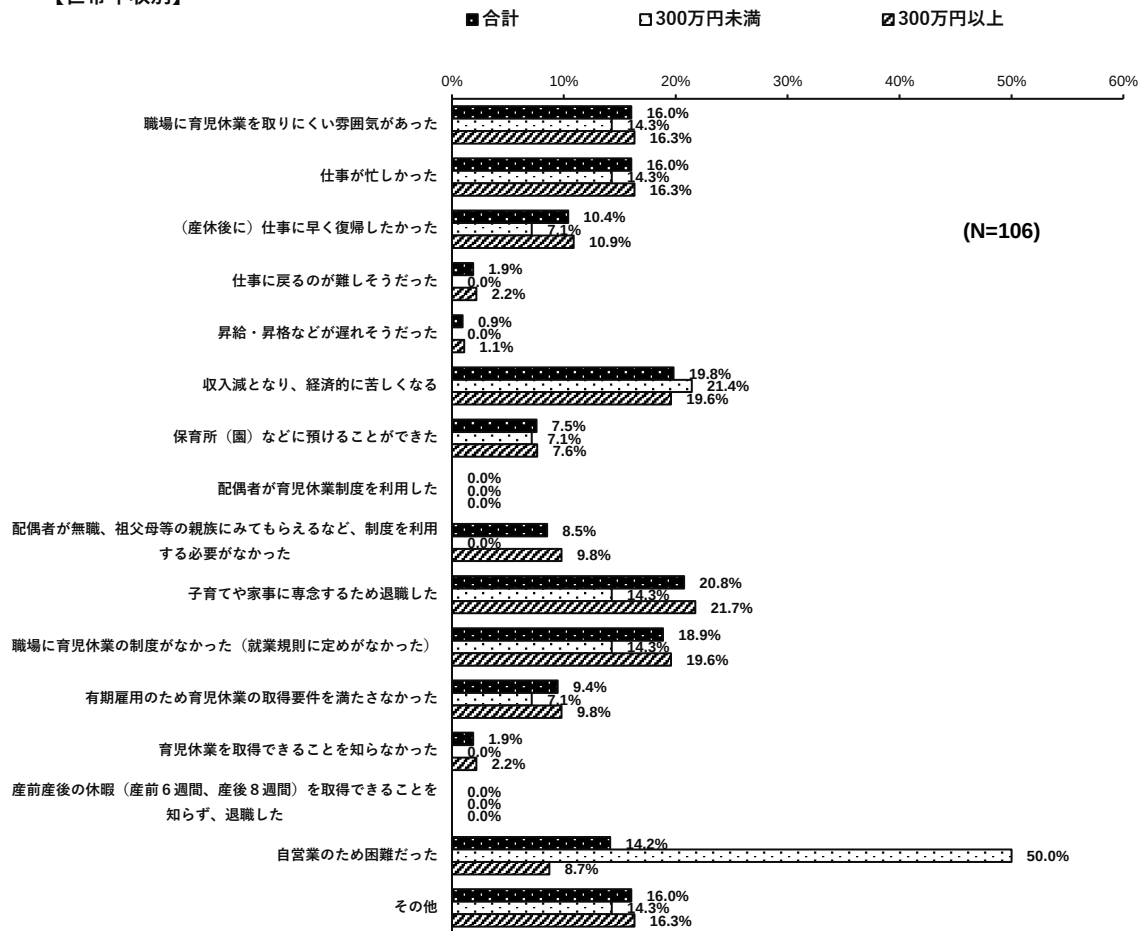
96. 【母親】育児休業を取得していない理由

「子育てや家事に専念するため退職した」「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が20.0%と最も高く、次いで「収入減となり、経済的に苦しくなる」が19.1%となっている。

世帯年収別にみたとき、300万円以上の世帯において、「子育てや家事に専念するため退職した」が21.7%となっており、300万円未満の世帯よりも7.4ポイント高くなっている。

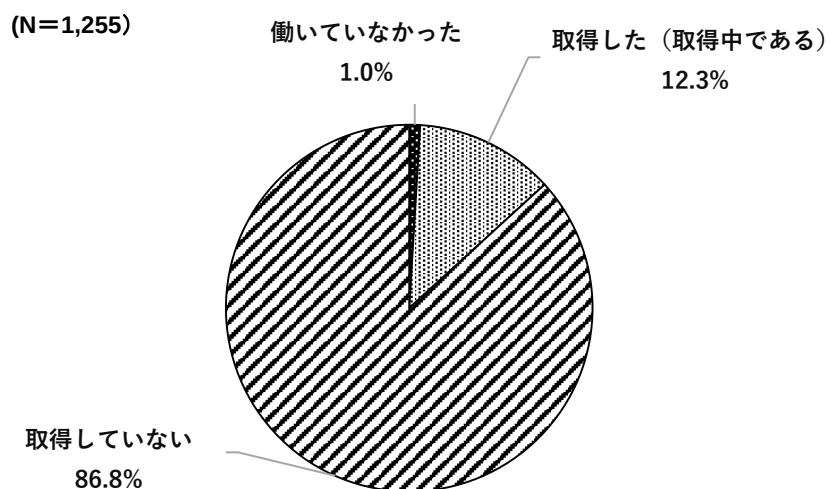


【世帯年収別】



97. 【父親】 子どもが生まれたとき、育児休業を取得したか

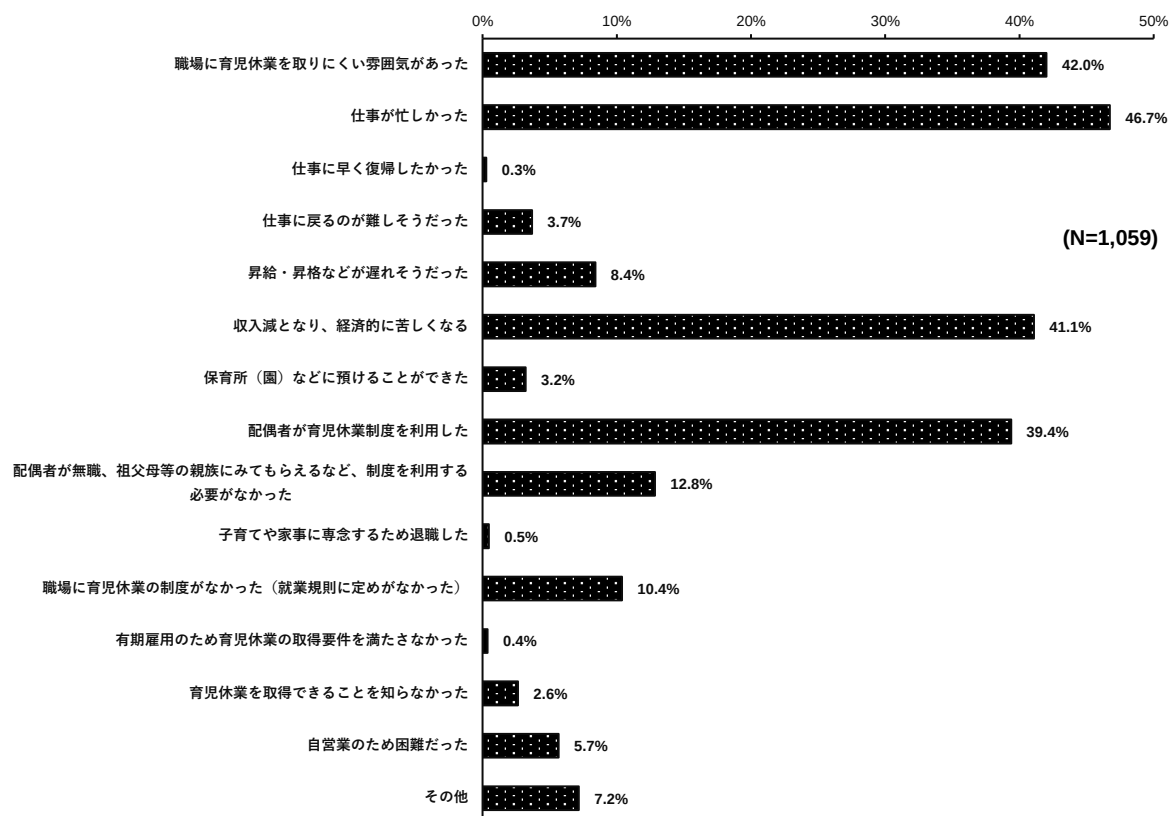
「取得していない」が86.8%と最も高く、次いで「取得した(取得中である)」が12.3%、「働いていなかった」が1.0%となっている。



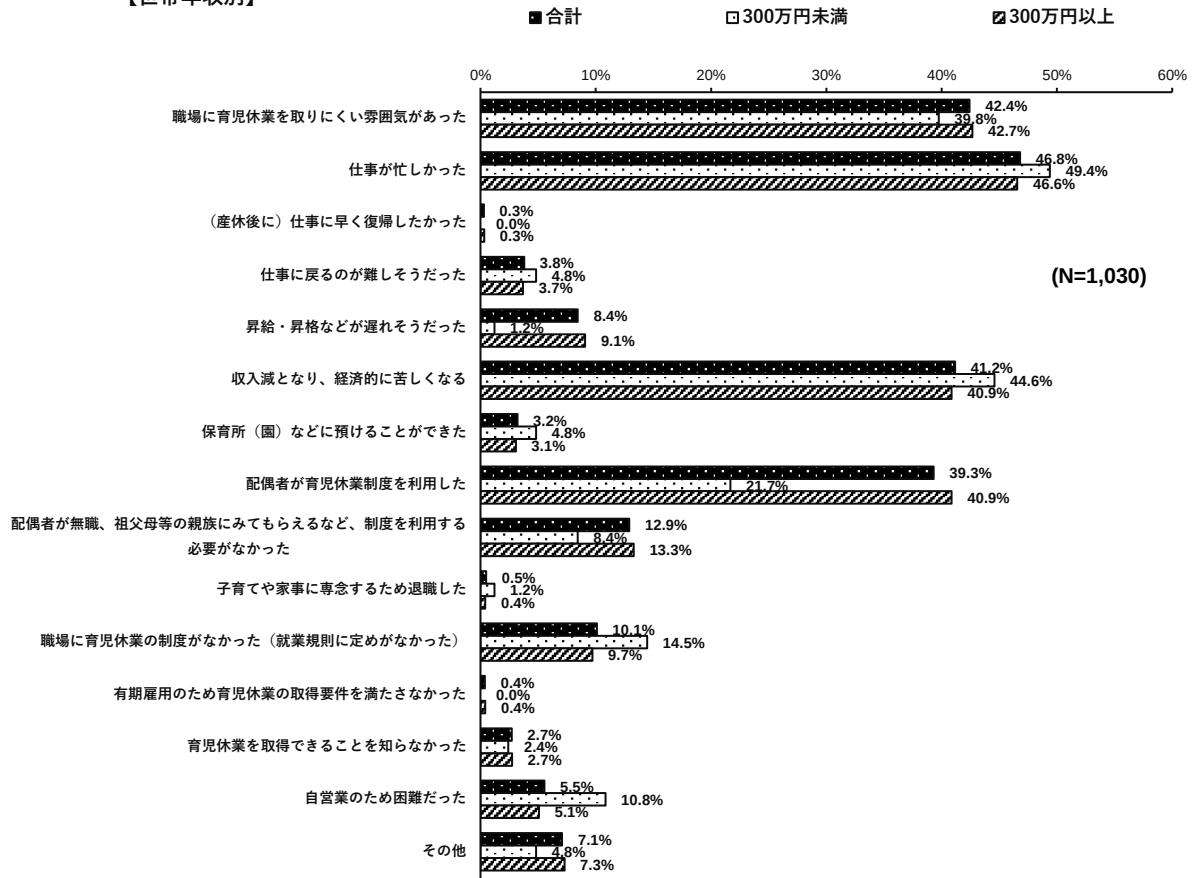
98. 【父親】育児休業を取得していない理由

「仕事が忙しかった」が46.7%と最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が42.0%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が41.1%となっている。

5年前の調査と比べ、今回の調査では「収入減となり、経済的に苦しくなる」が「配偶者が育児休業制度を利用した」を上回る結果となっている。



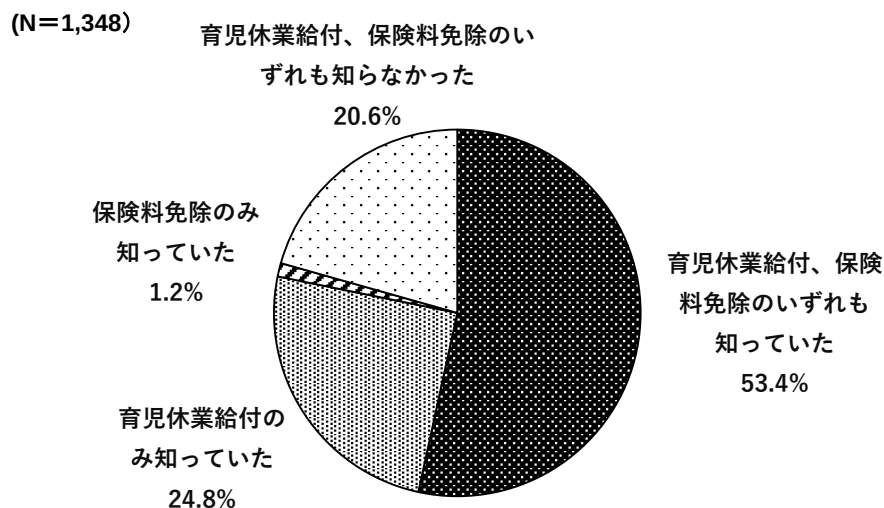
【世帯年収別】



99. 育児休業給付の支給、保険料が免除になる仕組みについて

「育児休業給付、保険料の免除のいずれも知っていた」が53.4%と最も高く、次いで「育児休業給付のみ知っていた」が24.8%、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が20.6%となっている。

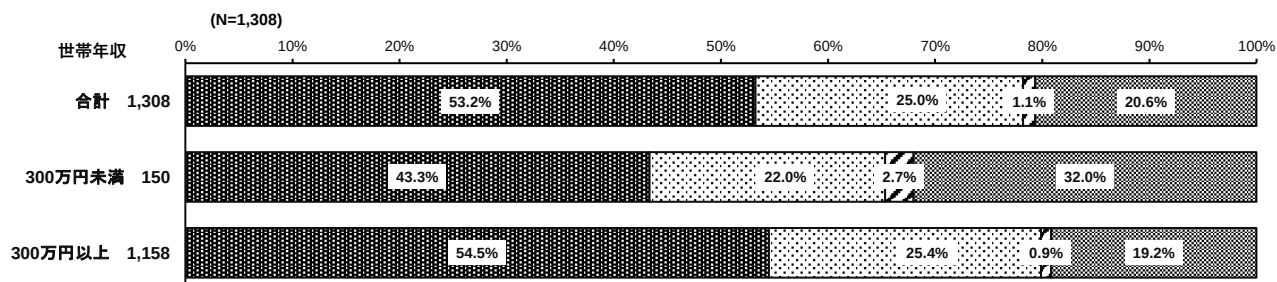
世帯年収別にみたとき、300万円以上の世帯よりも、300万円未満の世帯のほうが、育児休業給付の支給や保険料が免除になる仕組みの認知度が低くなっている。



【世帯年収別】

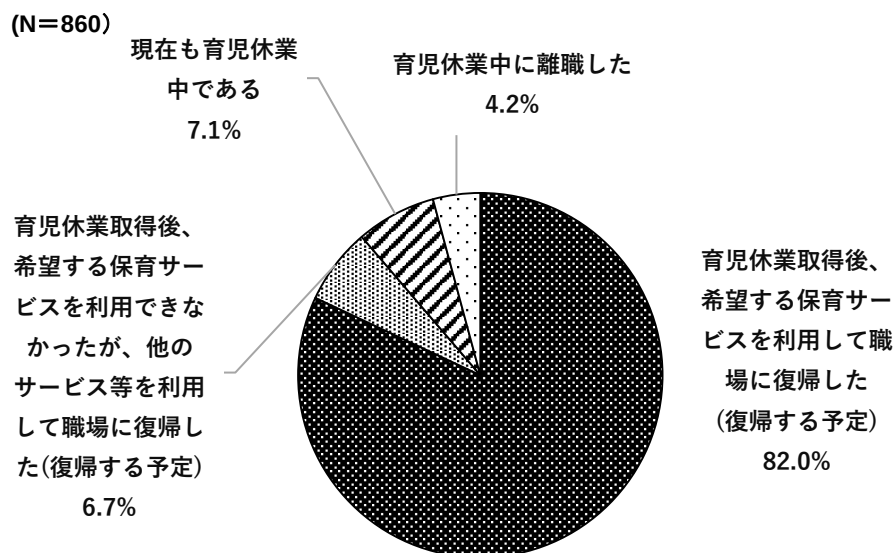
■ 育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた
▨ 保険料免除のみ知っていた

□ 育児休業給付のみ知っていた
▩ 育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった



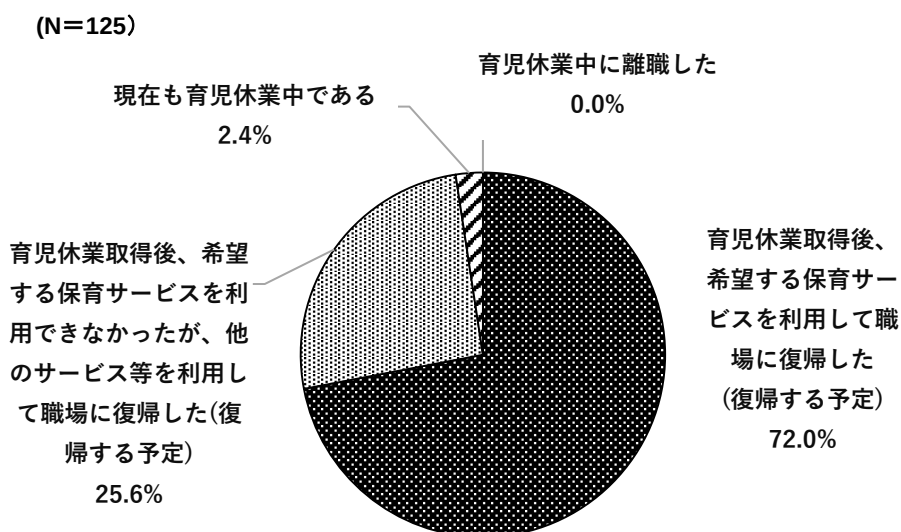
100. 【母親】 育児休業取得後の職場復帰状況（予定含む）

「育児休業取得後、希望する保育サービスを利用して職場に復帰した（復帰する予定）」が82.0%と最も高く、次いで「現在も育児休業中である」が7.1%、「育児休業取得後、希望する保育サービスを利用できなかったが、他のサービス等を利用して職場に復帰した（復帰する予定）」が6.7%となっている。



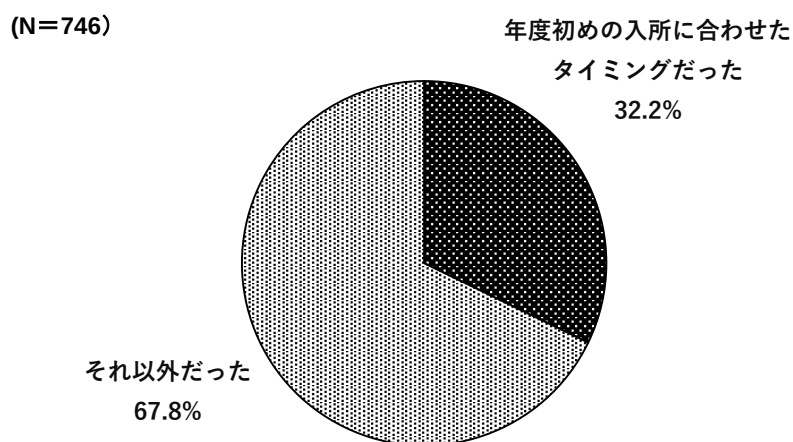
101. 【父親】 育児休業取得後の職場復帰状況（予定含む）

「育児休業取得後、希望する保育サービスを利用して職場に復帰した（復帰する予定）」が72.0%と最も高く、次いで「育児休業取得後、希望する保育サービスを利用できなかったが、他のサービス等を利用して職場に復帰した（復帰する予定）」が25.6%、「現在も育児休業中である」が2.4%となっている。



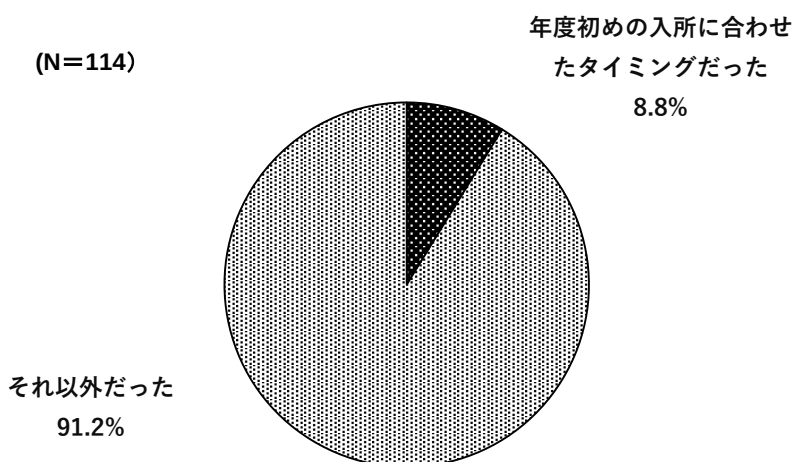
102. 【母親】復歸したのは、年度初めの保育所等の入所に合わせたタイミングだったか

「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」は32.2%、「それ以外だった」が67.8%であった。



103. 【父親】復歸したのは、年度初めの保育所等の入所に合わせたタイミングだったか

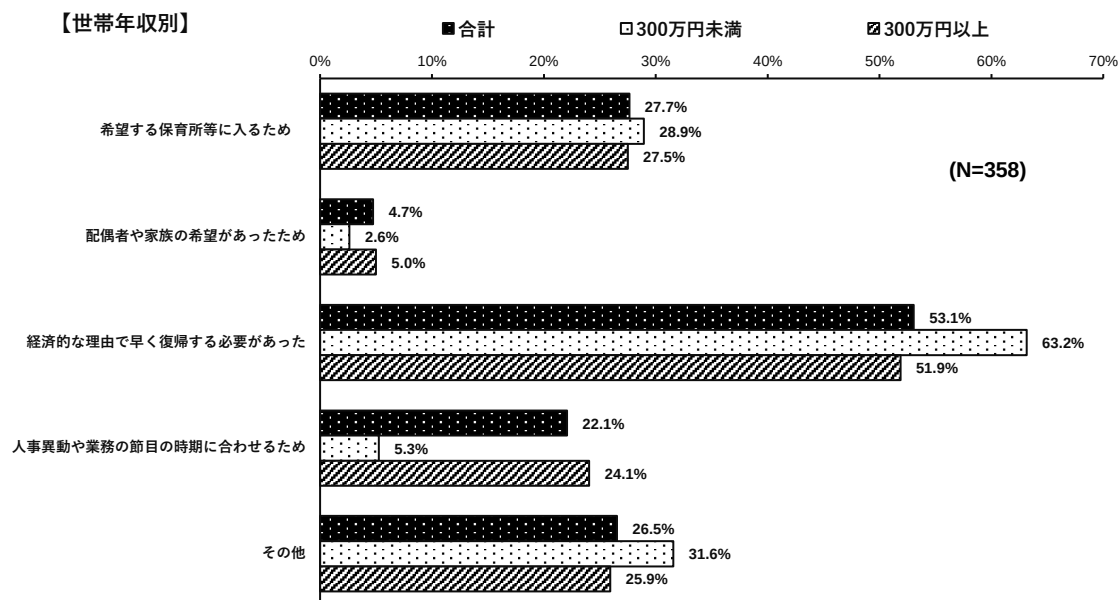
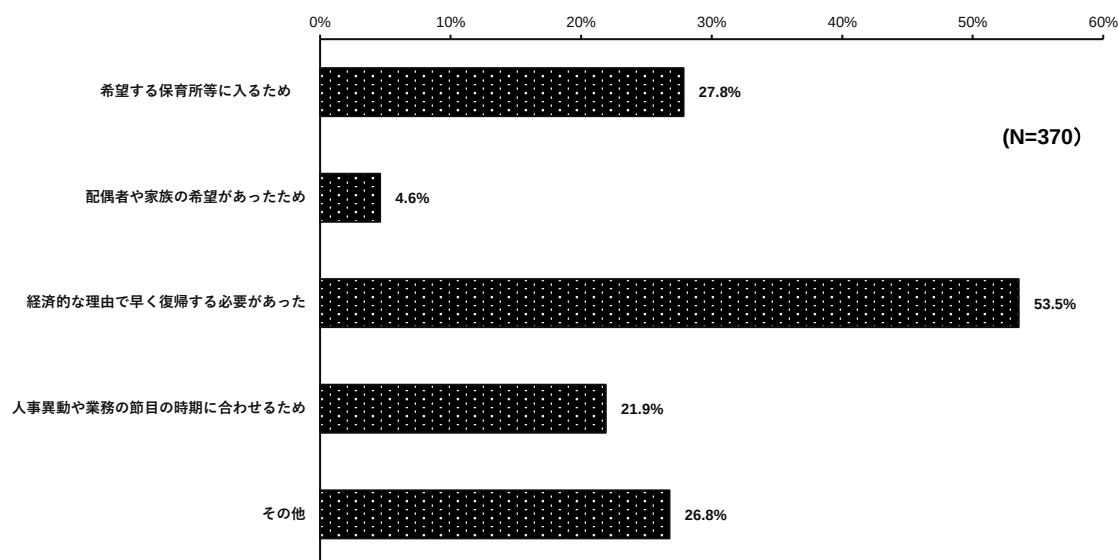
「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」は8.8%、「それ以外だった」は91.2%であった。



104. 【母親】「希望」より早く復帰した理由

「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が53.5%と最も高く、次いで「希望する保育所等に入るため」が27.8%、「その他」が26.8%となっている。

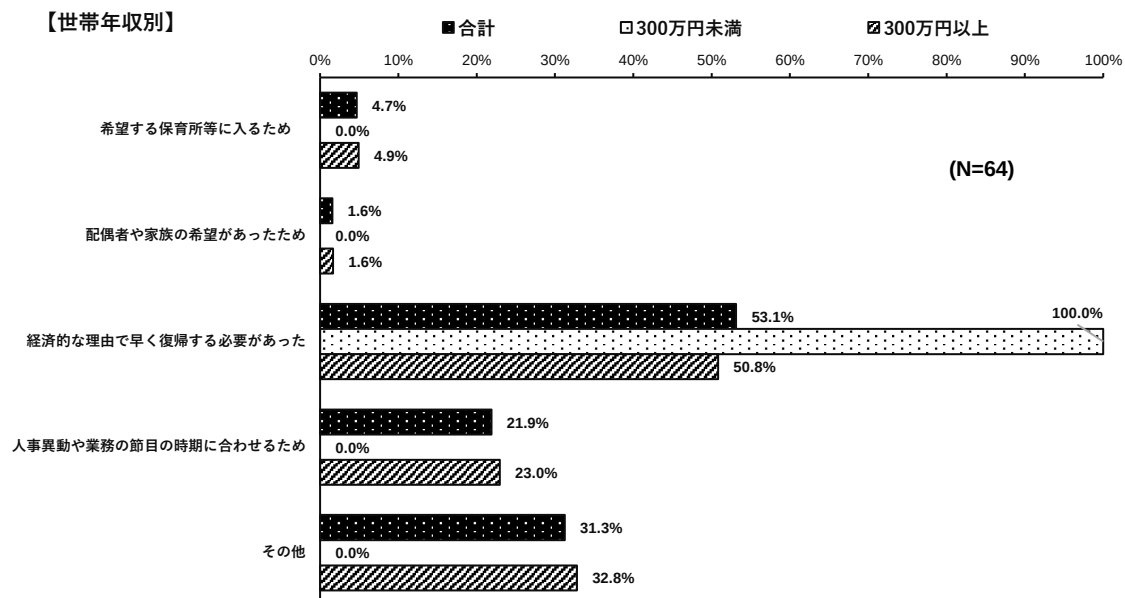
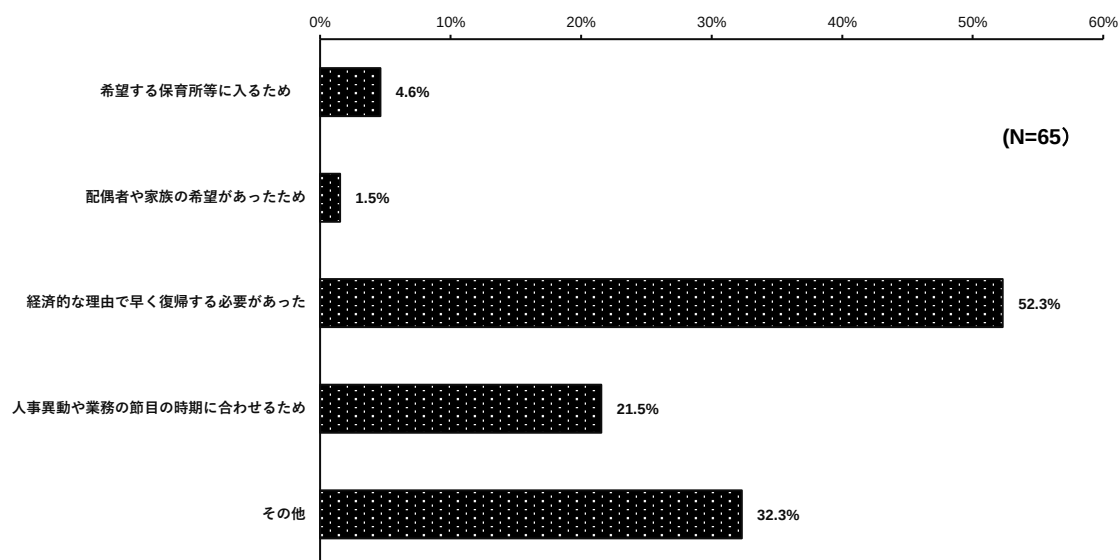
世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において「経済的な理由で早く復帰する必要があった」の割合が6割を超えており、300万円以上の世帯よりも11.3ポイント高くなっている。



105. 【父親】「希望」より早く復帰した理由

「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が52.3%と最も高く、次いで「その他」が32.3%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が21.5%となっている。

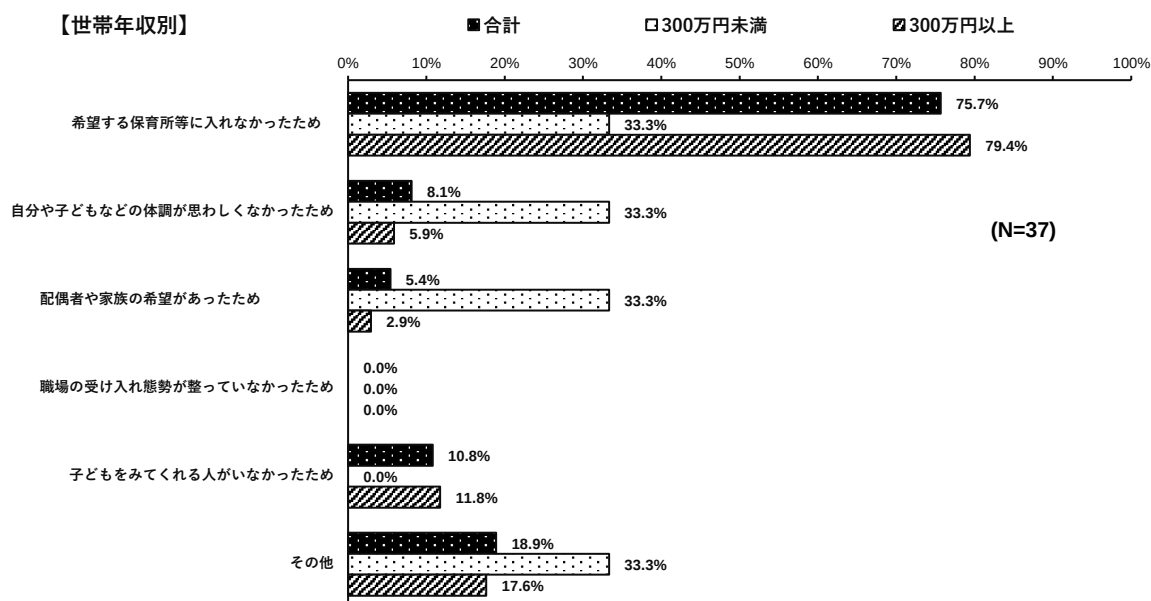
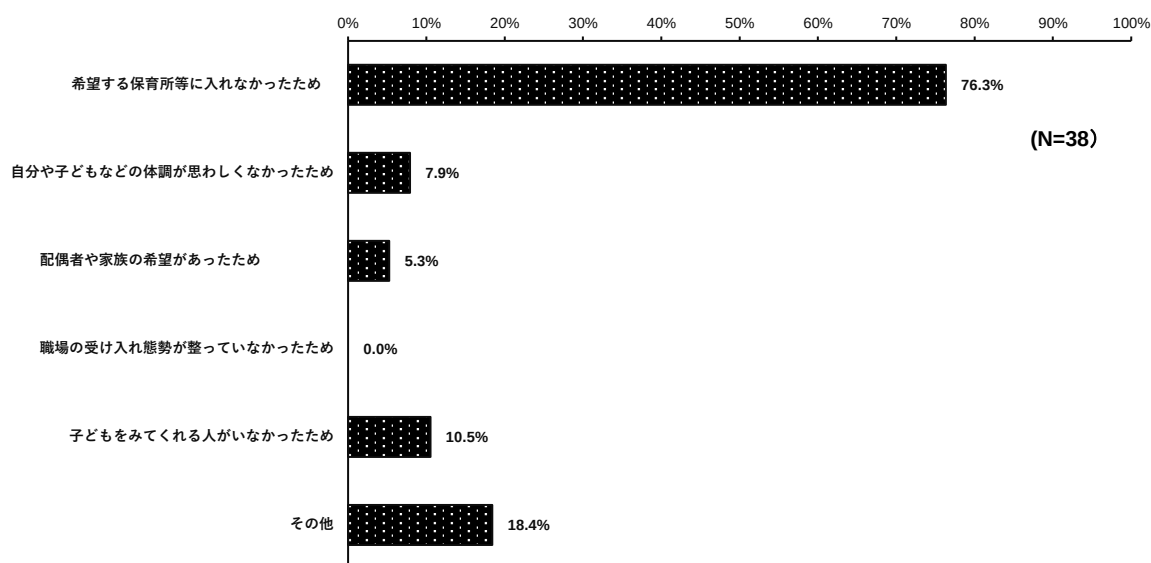
世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯においては「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が100.0%となっている。



106. 【母親】「希望」より遅く復帰した理由

「希望する保育所等に入れなかったため」が76.3%と最も高く、次いで「その他」が18.4%、「子どもをみてる人がいなかったため」が10.5%となっている。

世帯年収別にみたとき、300万円以上の世帯において「希望する保育所等に入れなかったため」が8割近くを占めている。300万円未満の世帯において「自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため」が33.3%、「配偶者や家族の希望があったため」が33.3%、「その他」が33.3%となっていて、それぞれ300万円以上の世帯よりも高くなっている。



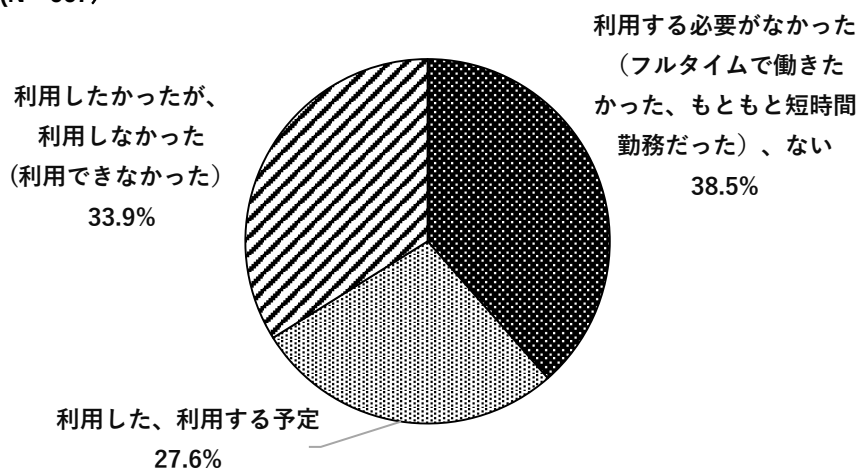
107. 【父親】「希望」より遅く復帰した理由

有効回答が0のためグラフなし。

108. 【母親】 職場復帰時に短時間勤務制度を利用したか

「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）、ない」が38.5%と最も高く、次いで「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」が33.9%、「利用した、利用する予定」が27.6%となっている。

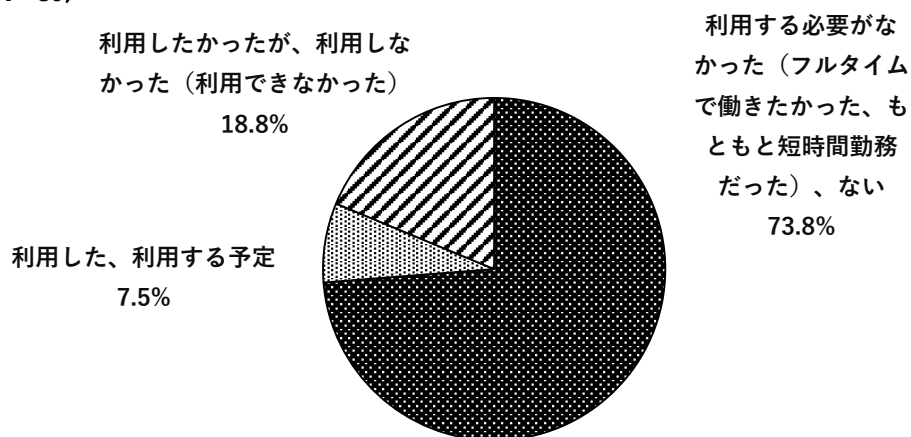
(N=667)



109. 【父親】 職場復帰時に短時間勤務制度を利用したか

「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）、ない」が73.8%と最も高く、次いで「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」が18.8%、「利用した、利用する予定」が7.5%となっている。

(N=80)

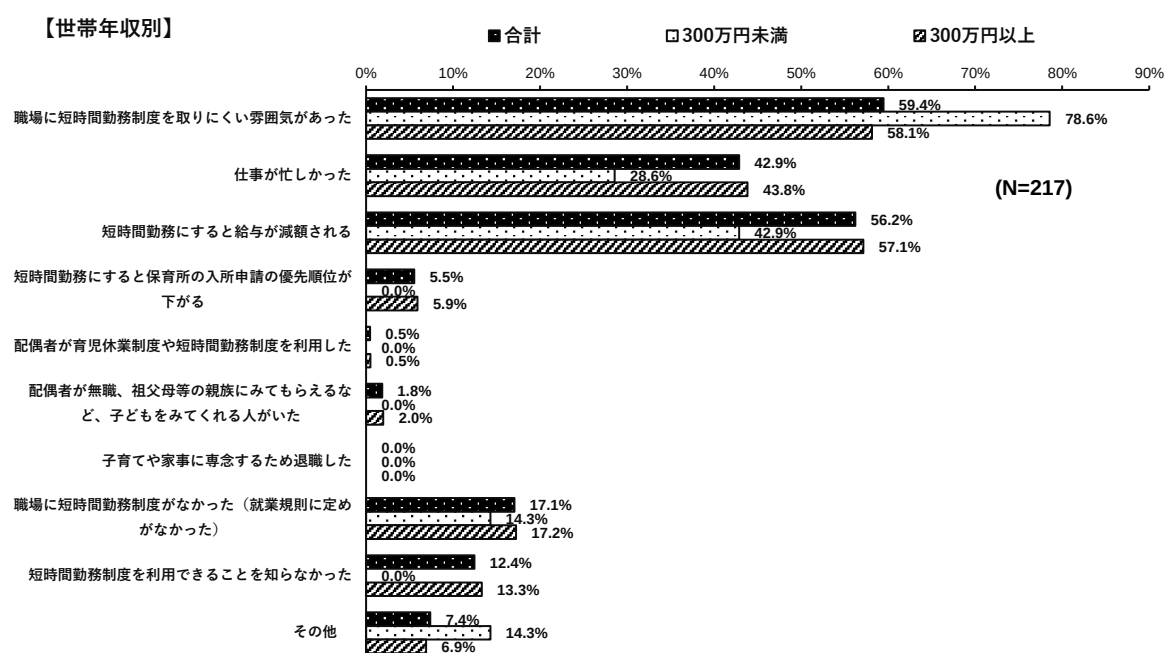
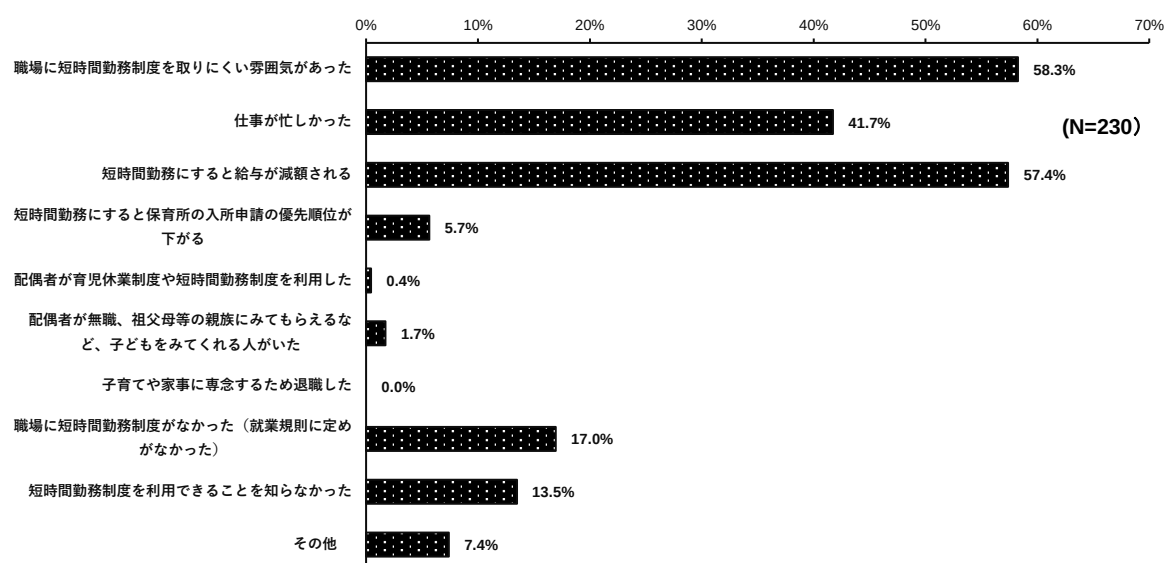


110. 【母親】短時間勤務制度を利用しなかった理由

「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」58.3%と最も高く、「短時間勤務にすると給与が減額される」が57.4%、「仕事が忙しかった」が41.7%となっている。

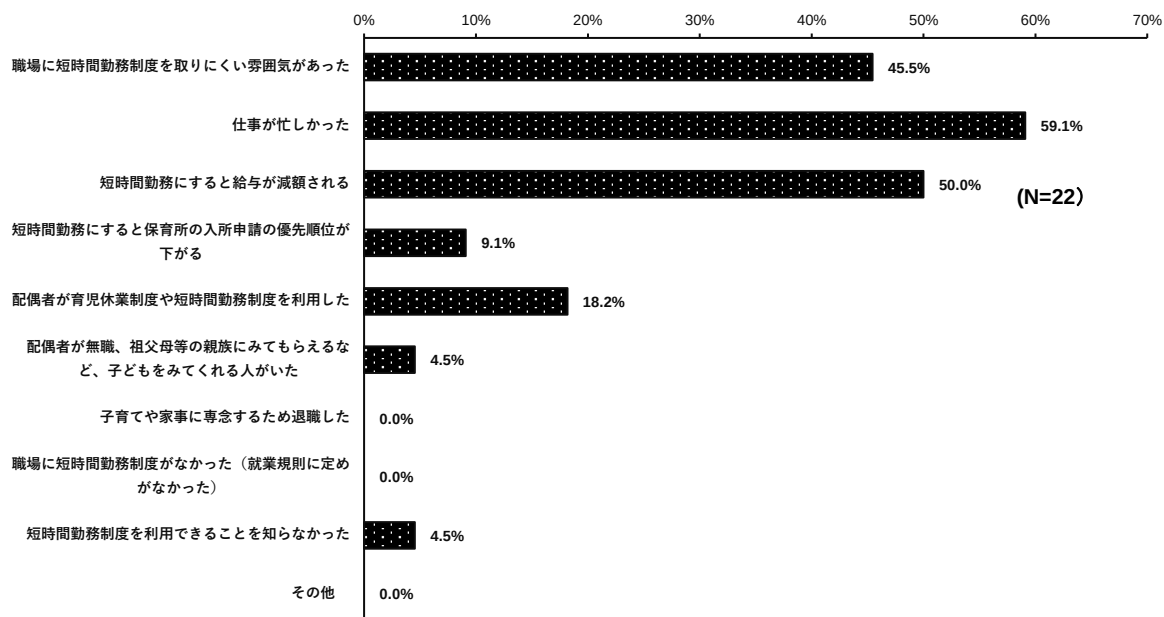
5年前の調査では「短時間勤務にすると給与が減額される」は4割未満であったが、今回の調査では6割近くを占めている。

世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が300万円以上の世帯よりも20.5ポイント高くなっている。



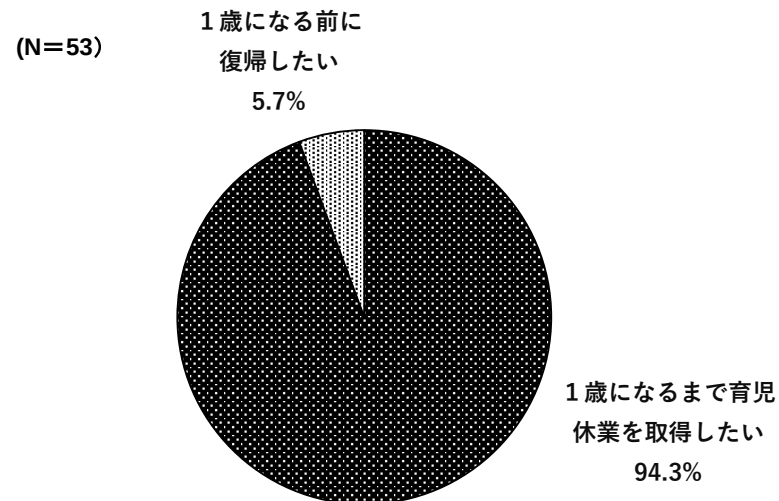
111. 【父親】短時間勤務制度を利用しなかった理由

「仕事が忙しかった」が 59.1%と最も高く、次いで「短時間勤務にすると給与が減額される」が 50.0%、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が 45.5%、「配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した」が 18.2%となっている。



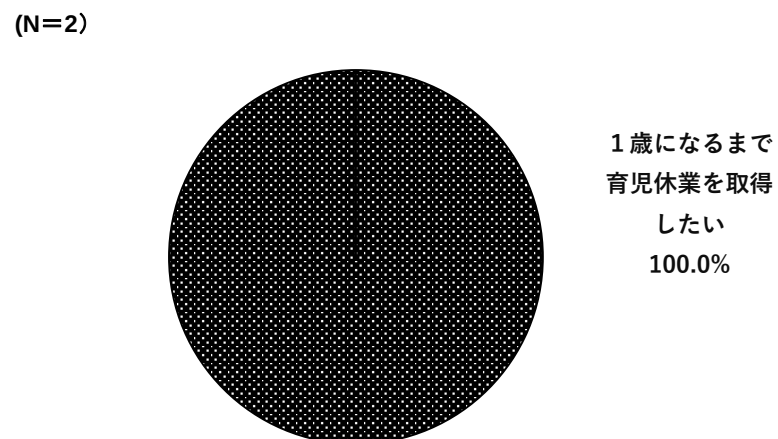
112. 【母親】子どもが1歳になるまで育児休業を取得するか

「1歳になるまで育児休業を取得したい」は94.3%、「1歳になる前に復帰したい」は5.7%であった。



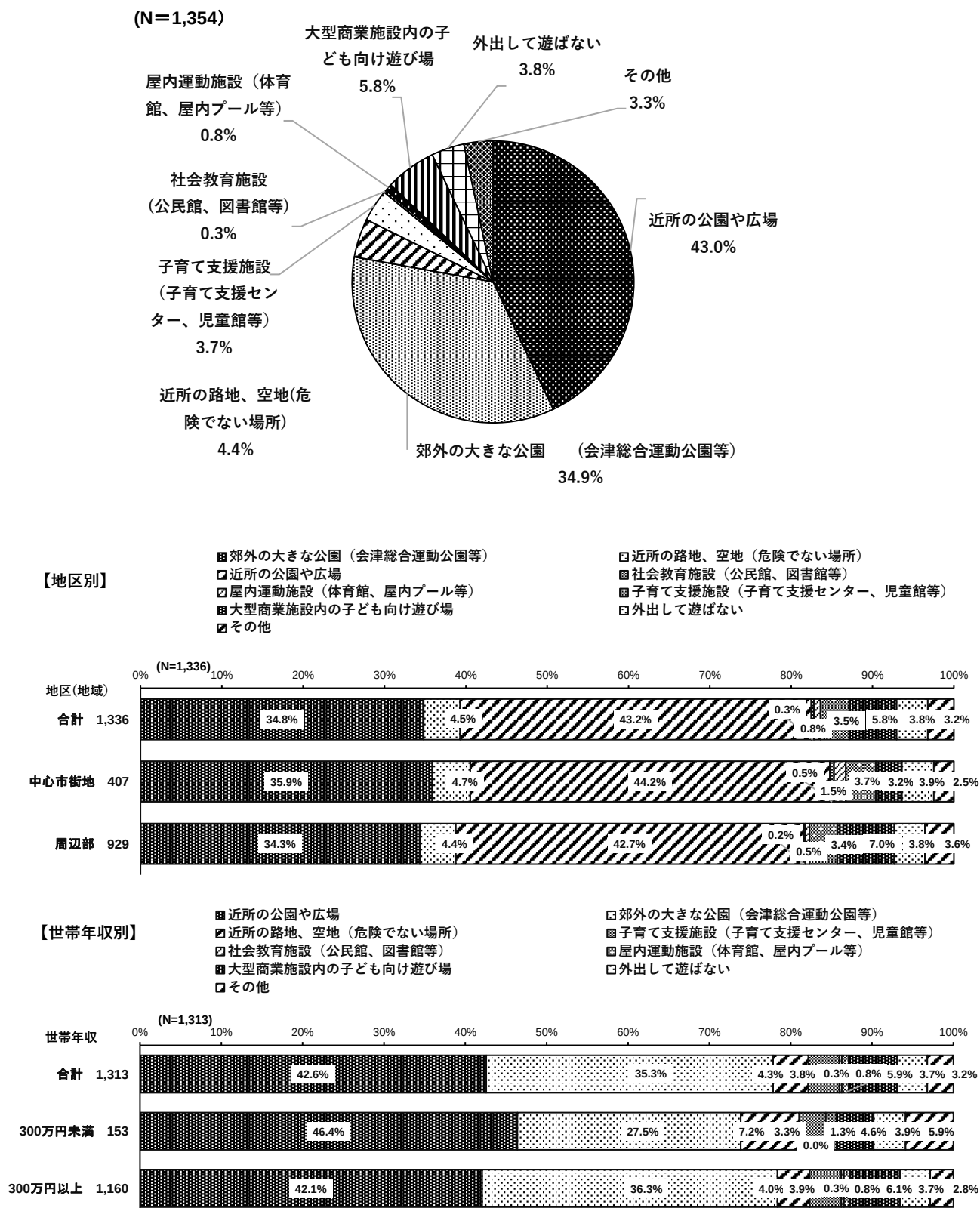
113. 【父親】子どもが1歳になるまで育児休業を取得するか

「1歳になるまで育児休業を取得したい」が100.0%となった。



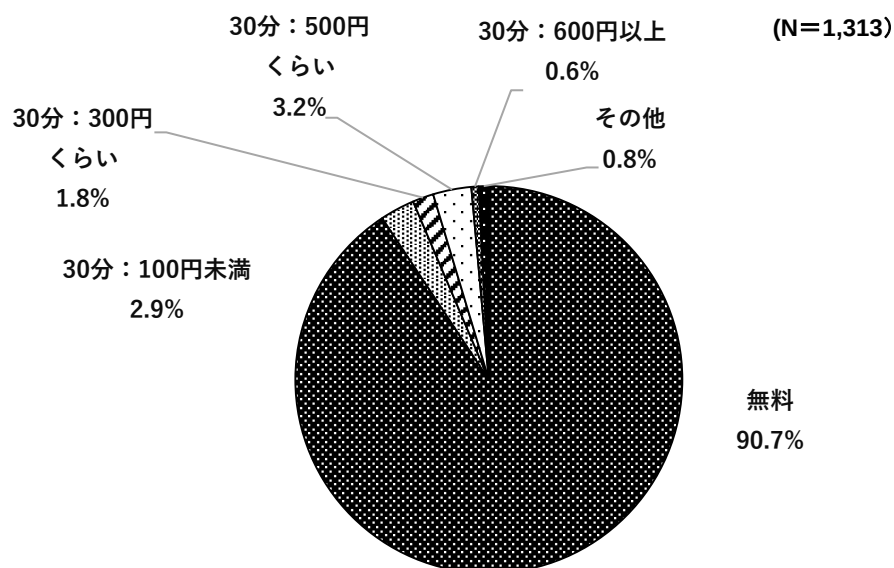
114. 【天気が良い時】遊び場として利用する施設・場所

「近所の公園や広場」が43.0%と最も高く、次いで「郊外の大きな公園(会津総合運動公園等)」が34.9%、「大型商業施設内の子ども向け遊び場」が5.8%となっている。

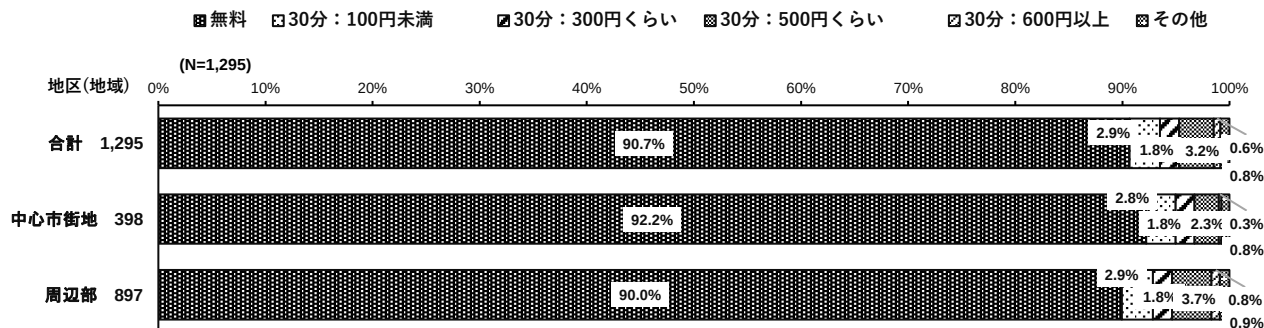


115. 【天気が良い時】施設・場所の利用料

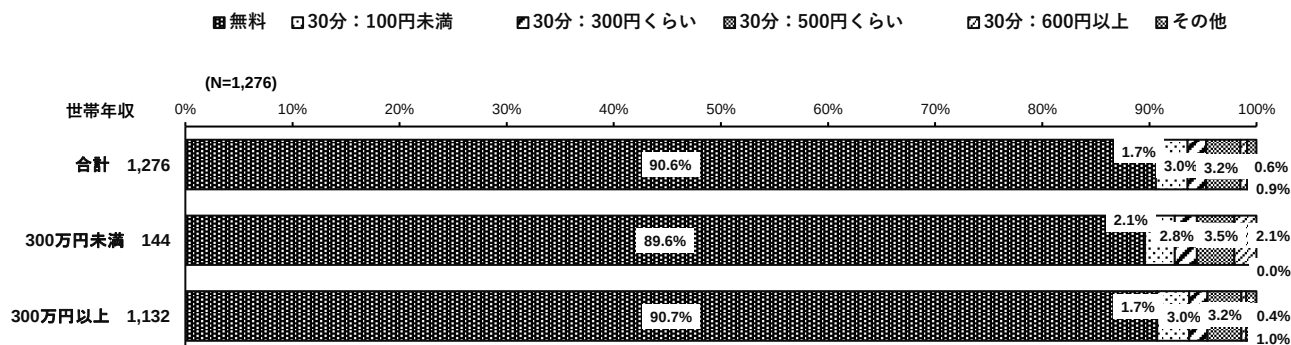
「無料」が90.7%と最も高く、次いで「30分：500円くらい」が3.2%、「300分：100円未満」が2.9%となっている。



【地区別】

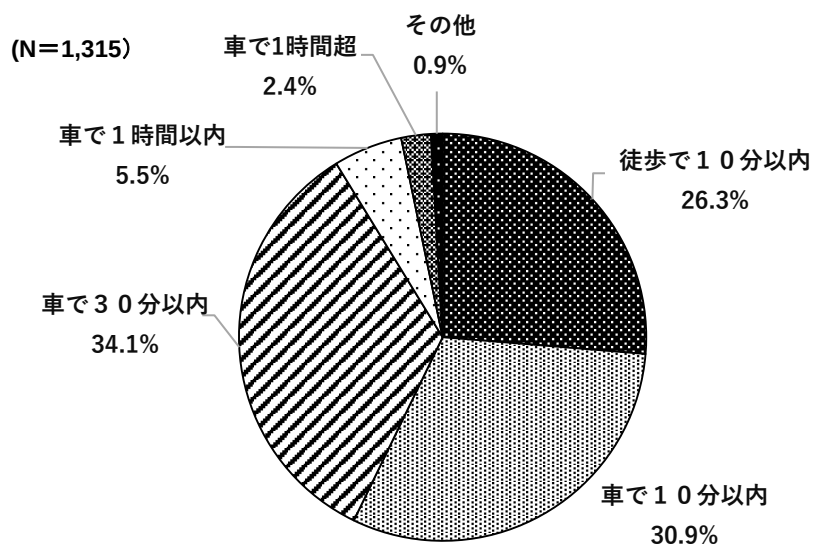


【世帯年収別】

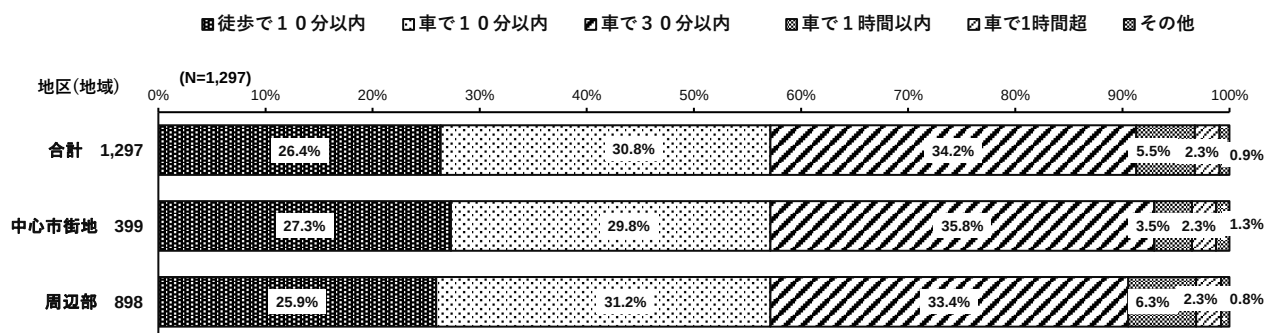


116. 【天気が良い時】所要移動時間

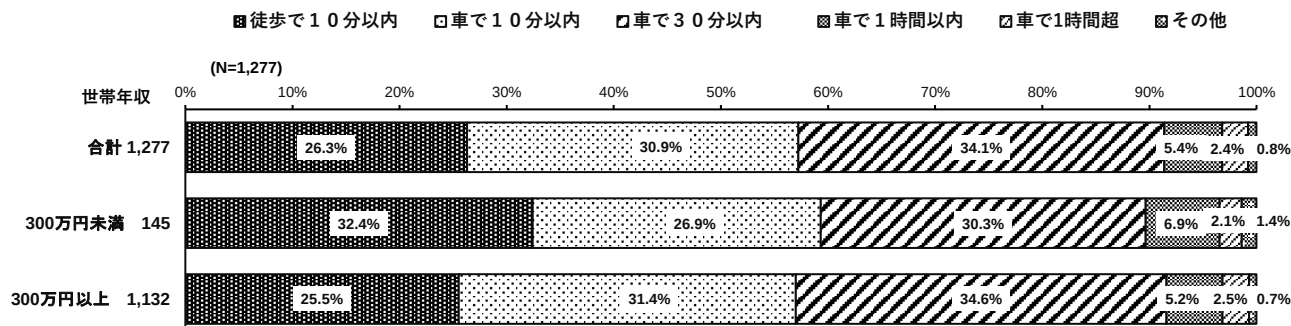
「車で30分以内」が34.1%と最も高く、次いで「車で10分以内」が30.9%、「徒歩で10分以内」が26.3%となっている。



【地区別】

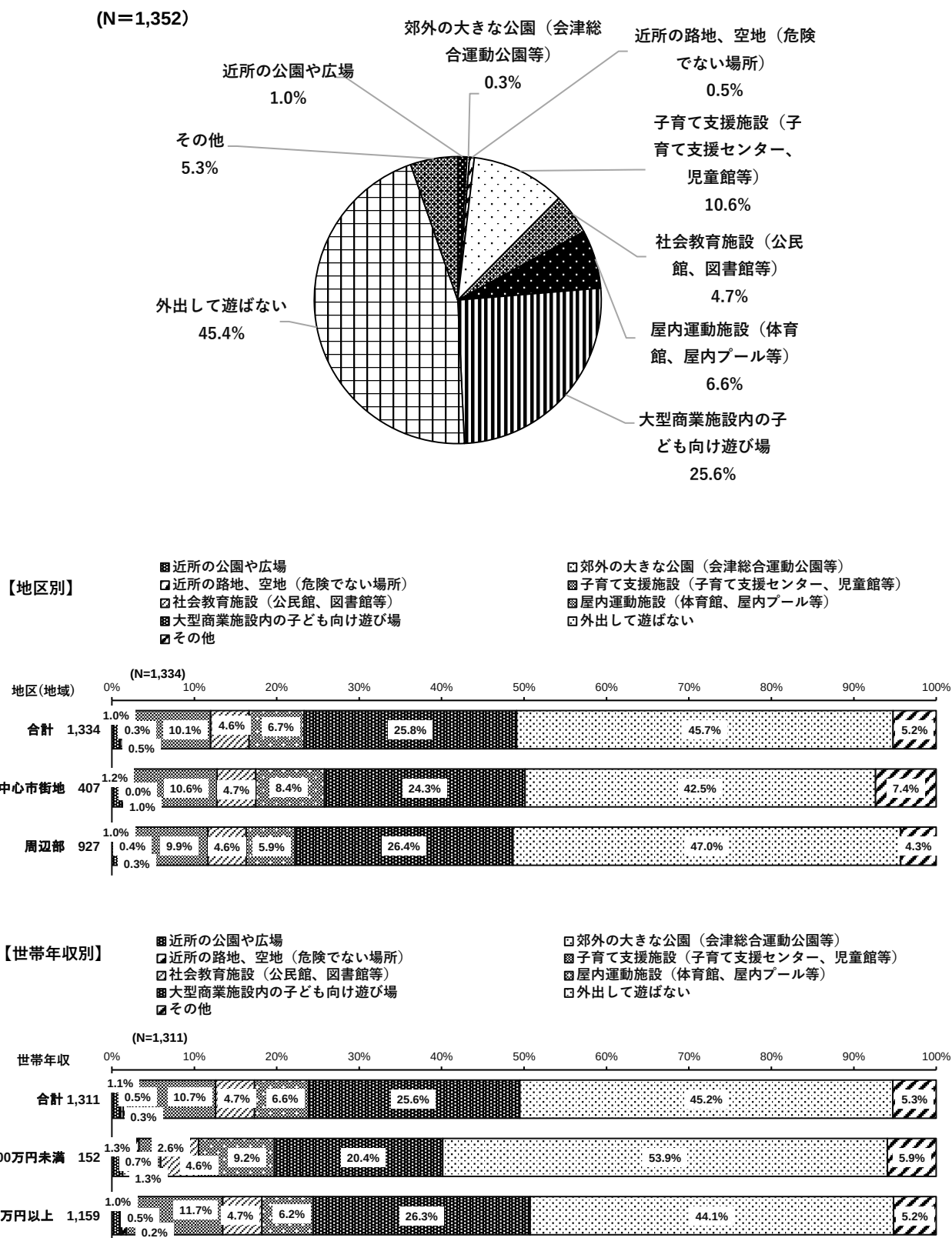


【世帯年収別】



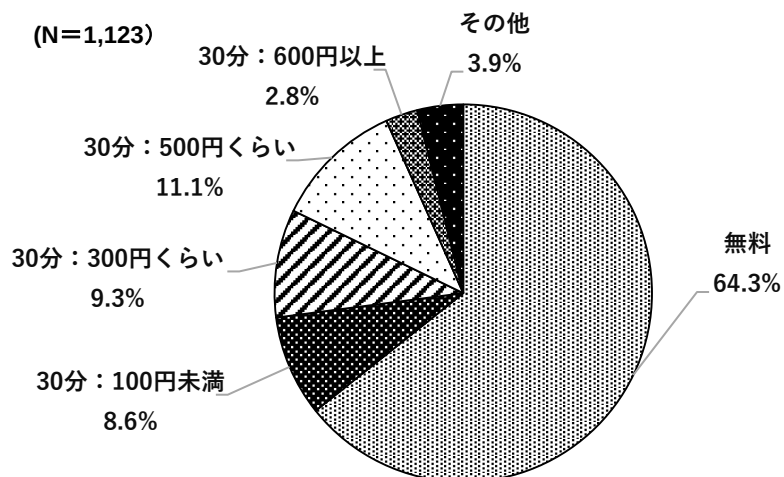
117. 【天気が悪い時】遊び場として利用する施設・場所

「外出して遊ばない」が45.4%と最も高く、次いで「大型商業施設内の子ども向け遊び場」が25.6%、「子育て支援施設（子育て支援センター、児童館等）」が10.6%となっている。

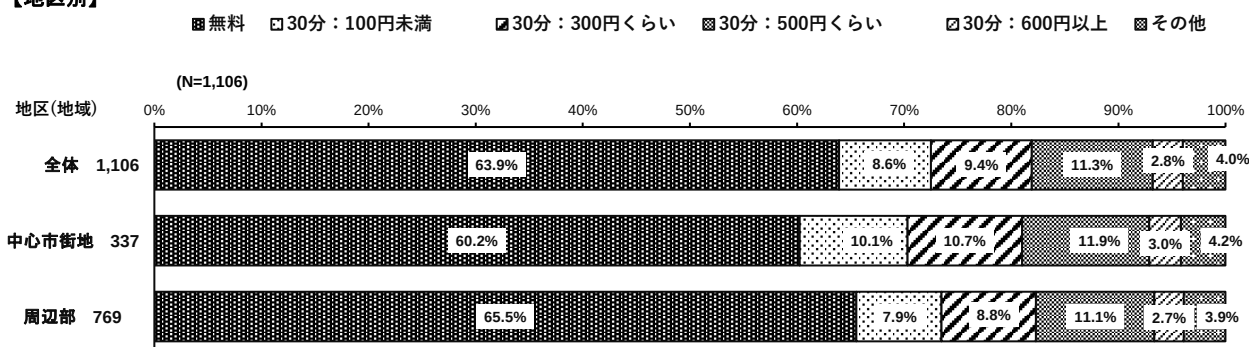


118. 【天気が悪い時】施設・場所の利用料

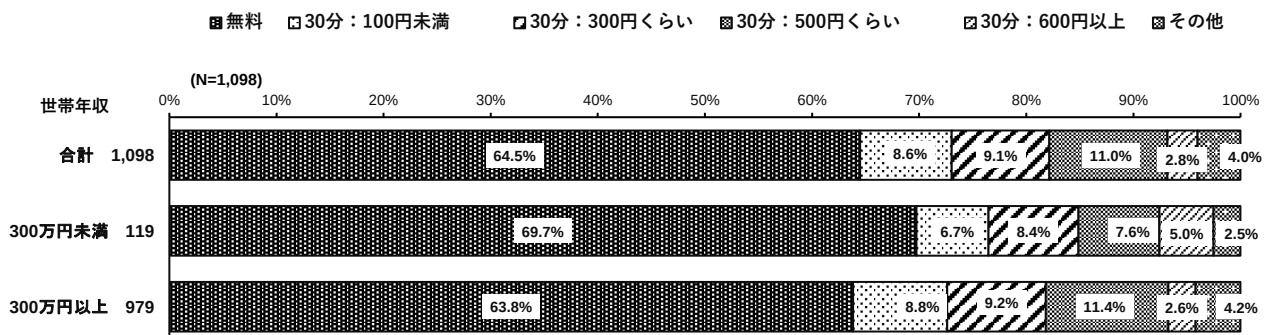
「無料」が64.3%と最も高く、次いで「30分：500円くらい」が11.1%、「30分：300円くらい」が9.3%となっている。



【地区別】



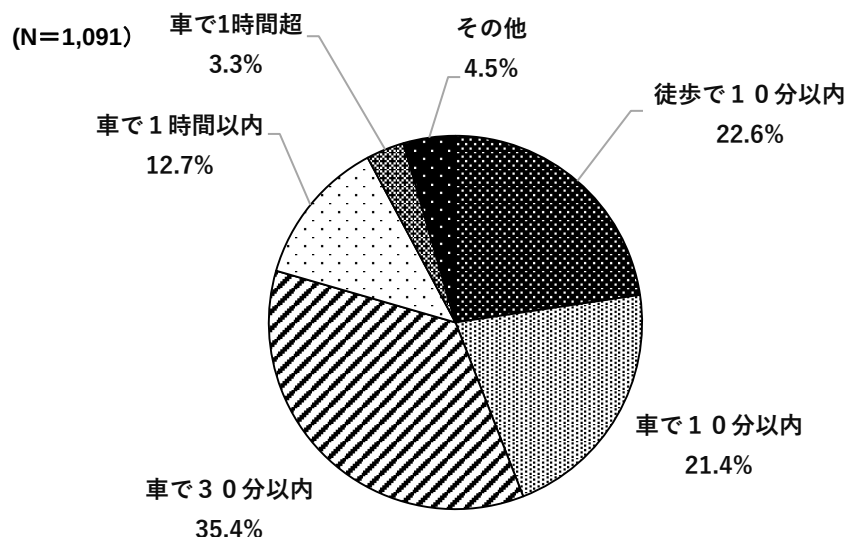
【世帯年収別】



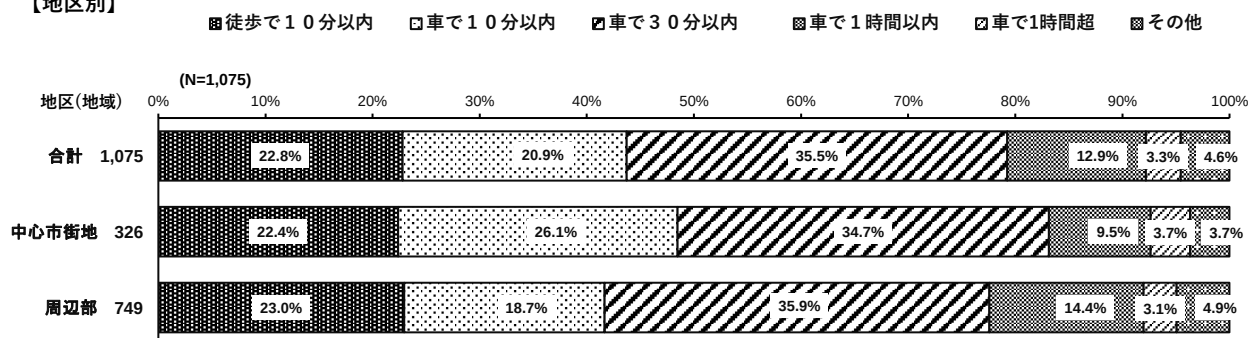
119. 【天気が悪い時】所要移動時間

「車で30分以内」が35.4%と最も高く、次いで「徒歩で10分以内」が22.6%、「車で10分以内」が21.4%となっている。

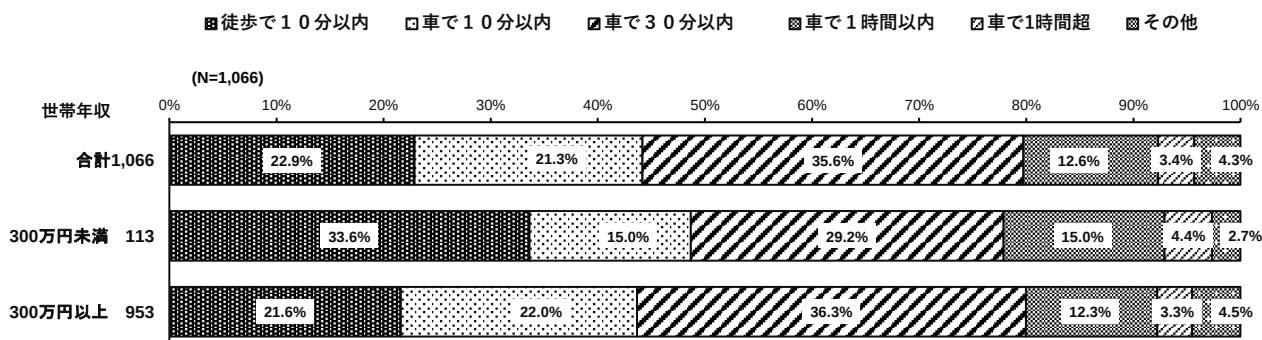
世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において、「徒歩で10分以内」が占める割合が300万円以上の世帯よりも12ポイント高くなっている。また、5年前の調査と比較しても17ポイント高くなっている。



【地区別】



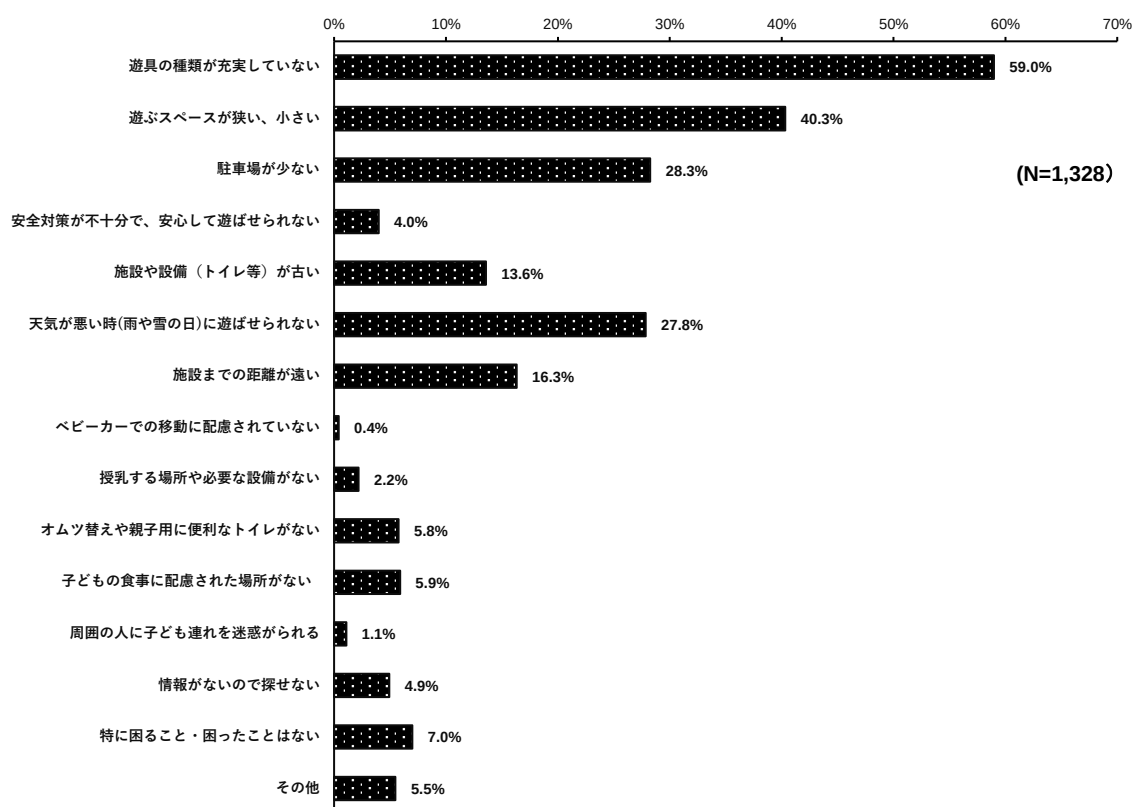
【世帯年収別】



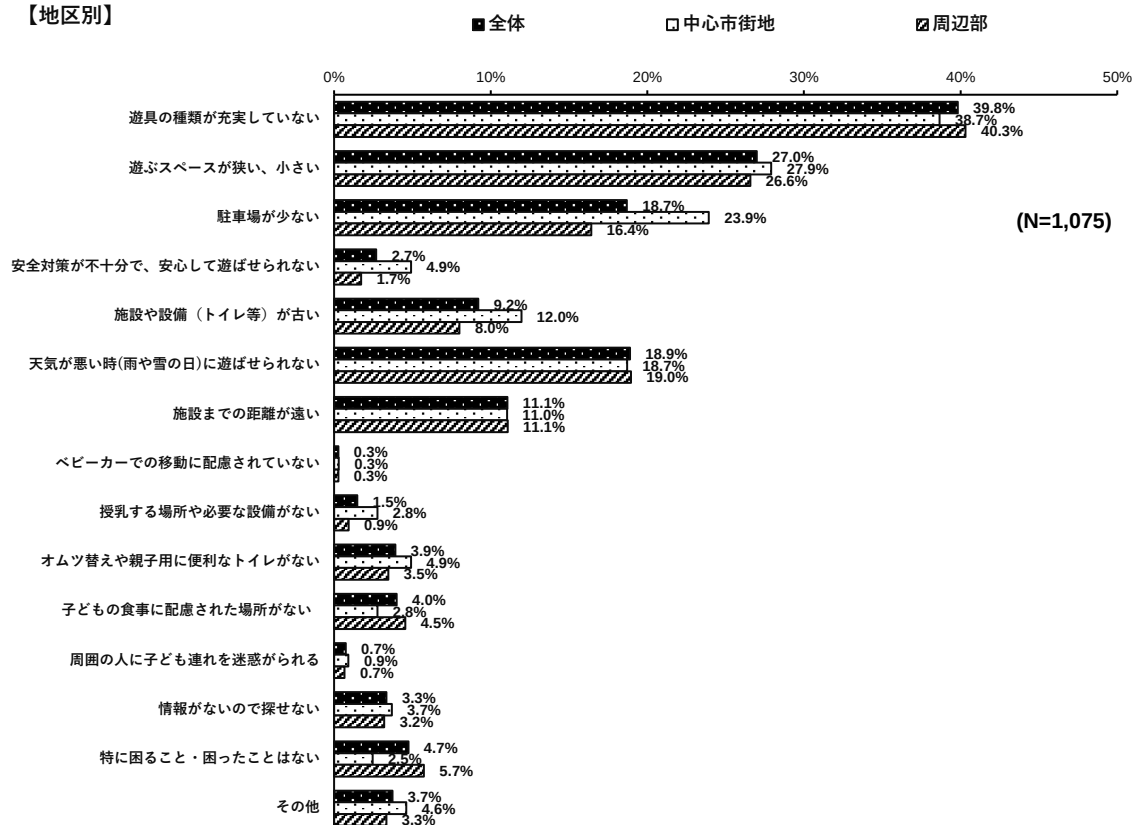
120. 遊び場を利用する時や探す際に困る・困ったこと

「遊具の種類が充実していない」が59.0%と最も高く、次いで「遊ぶスペースが狭い、小さい」が40.3%、「駐車場が少ない」が28.3%となっている。5年前の調査では「遊具の種類が充実していない」は24.1%だったため、35ポイント程度増加しているとわかった。

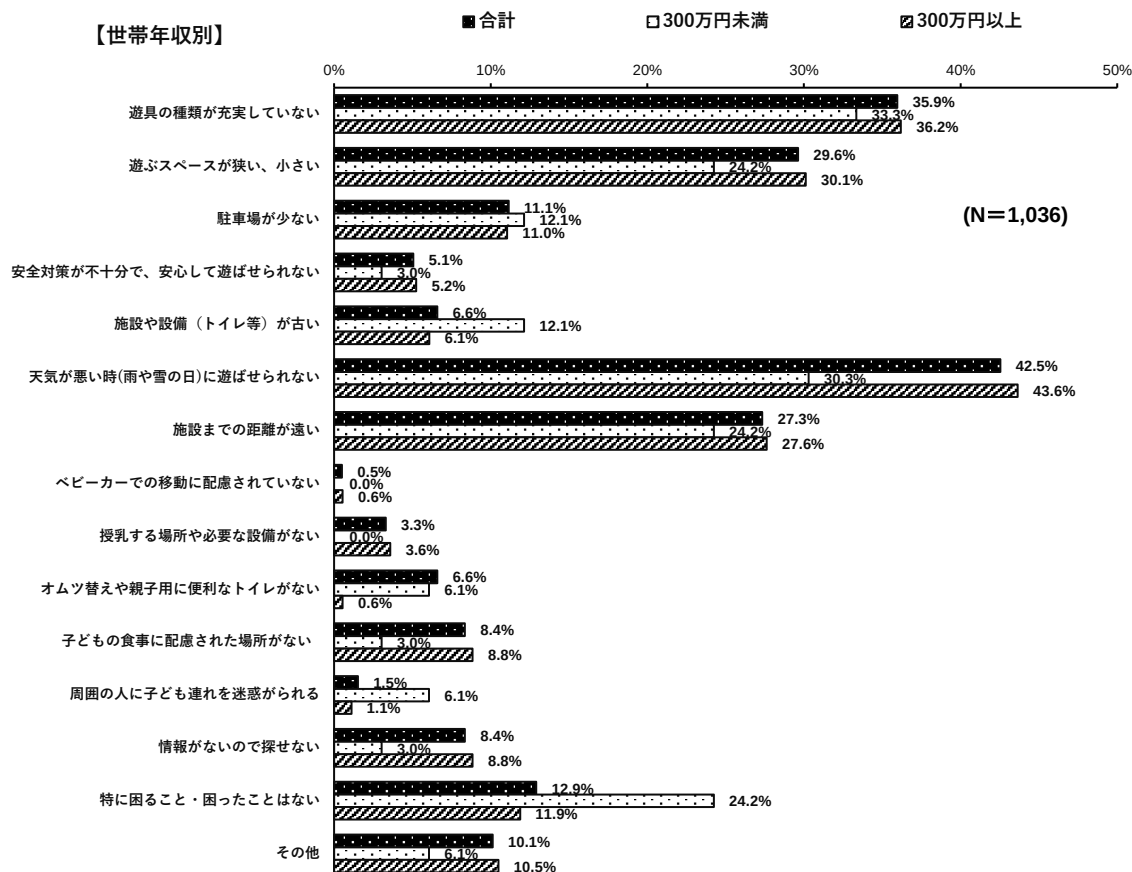
世帯年収別でみたとき、300万円以上の世帯では「天気が悪い時(雨や雪の日)に遊ばせられない」が43.6%であるが、300万円未満の世帯では30.3%と10ポイント程度低くなっている。



【地区別】



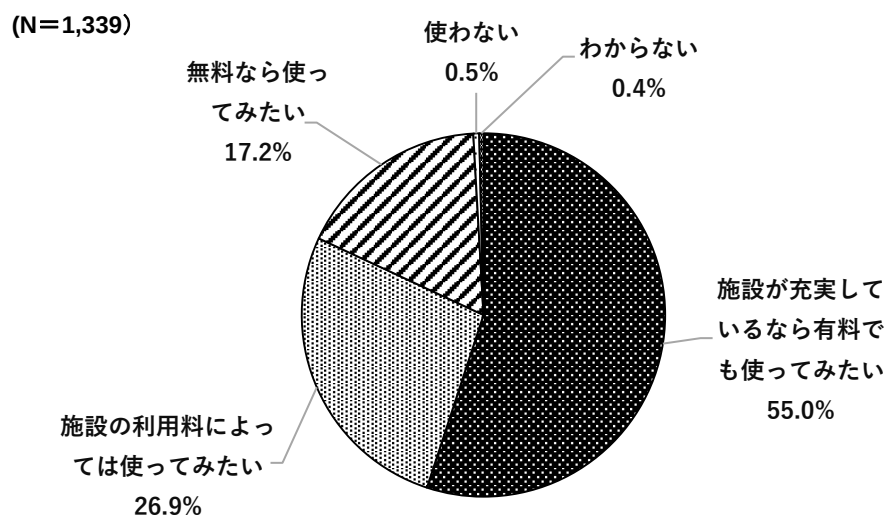
【世帯年収別】



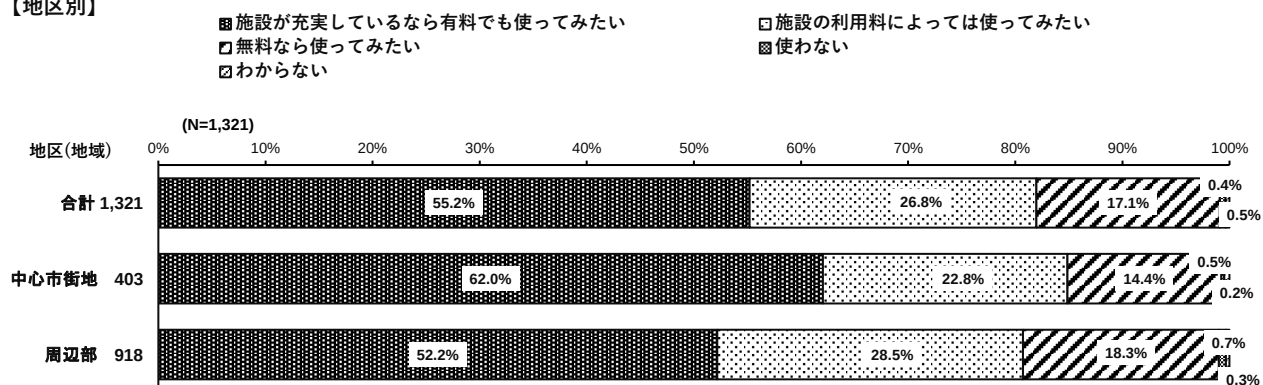
121. 有料の子どもの遊び場の利用希望

「施設が充実しているなら有料でも使ってみたい」が55.0%と最も高く、次いで「施設の利用料によっては使ってみたい」が26.9%、「無料なら使ってみたい」が17.2%となっている。

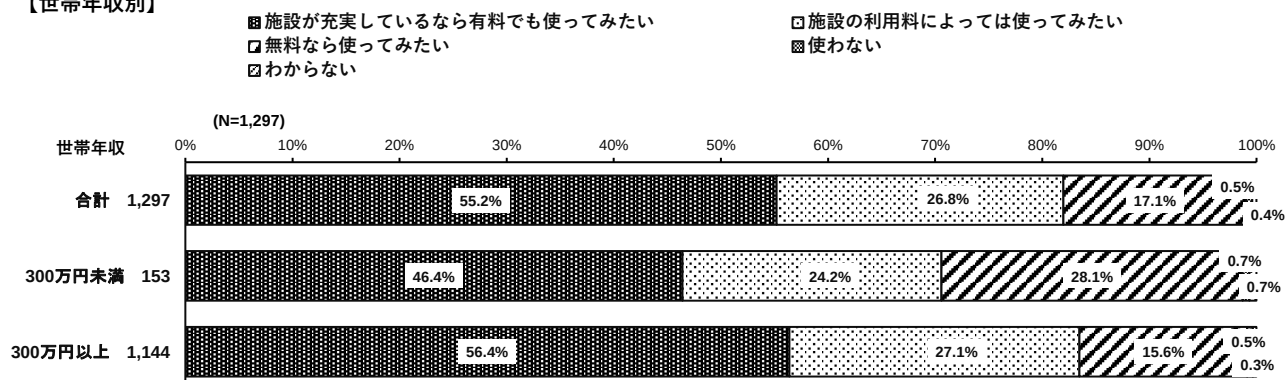
世帯年収別で見たとき、300万円未満の世帯では「無料なら使ってみたい」が28.1%だが、300万円以上の世帯では15.6%となっている。



【地区別】

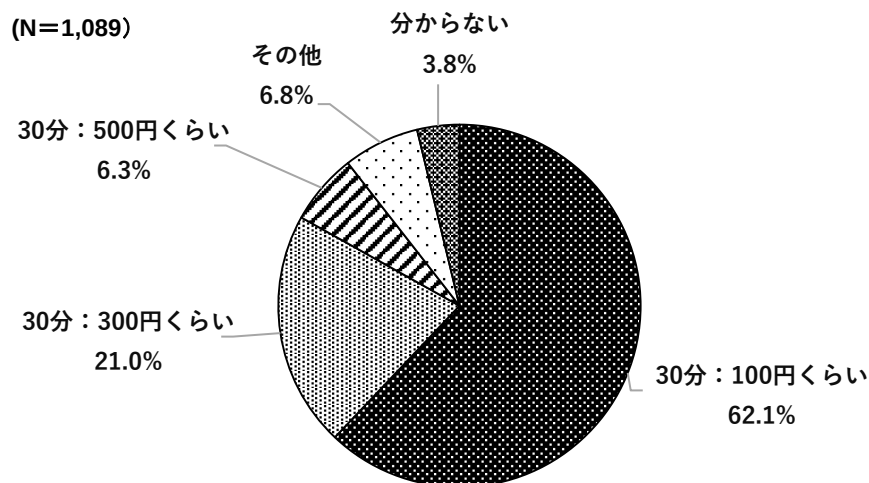


【世帯年収別】

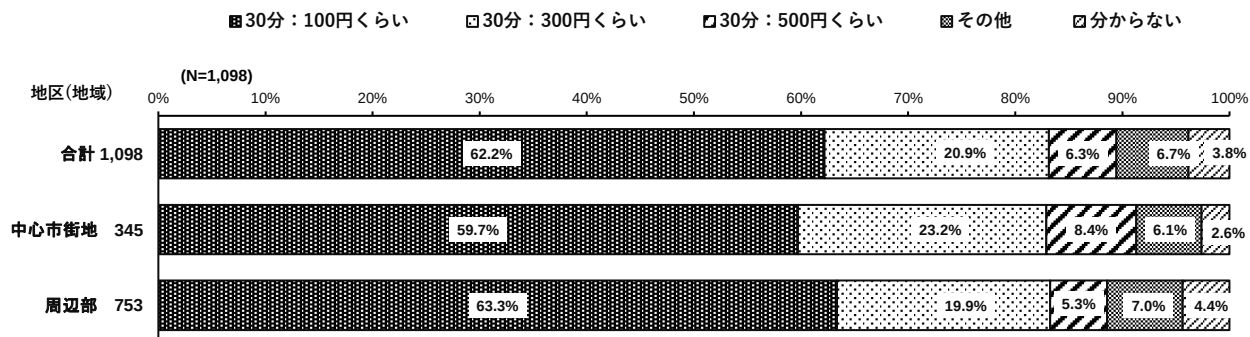


122. 負担してもよい金額

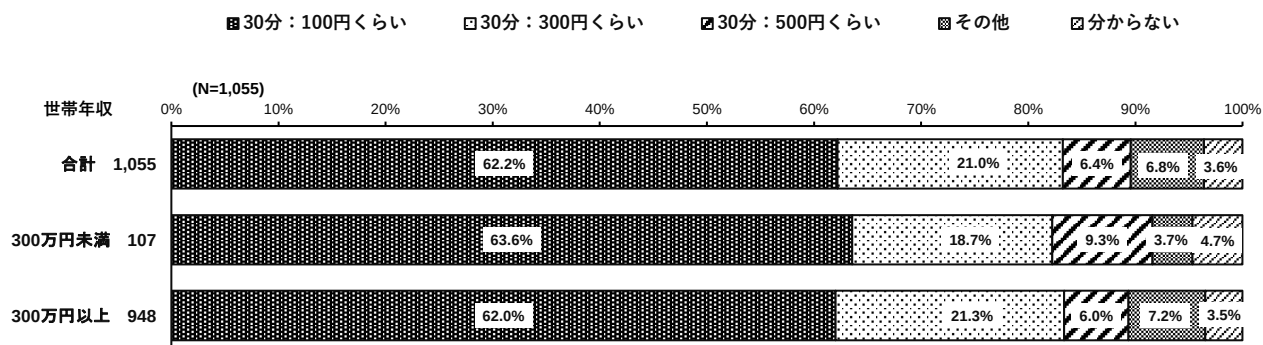
「30分：100円くらい」が62.1%と最も高く、次いで「30分：300円くらい」が21.0%、「その他」が6.8%となっている。



【地区別】



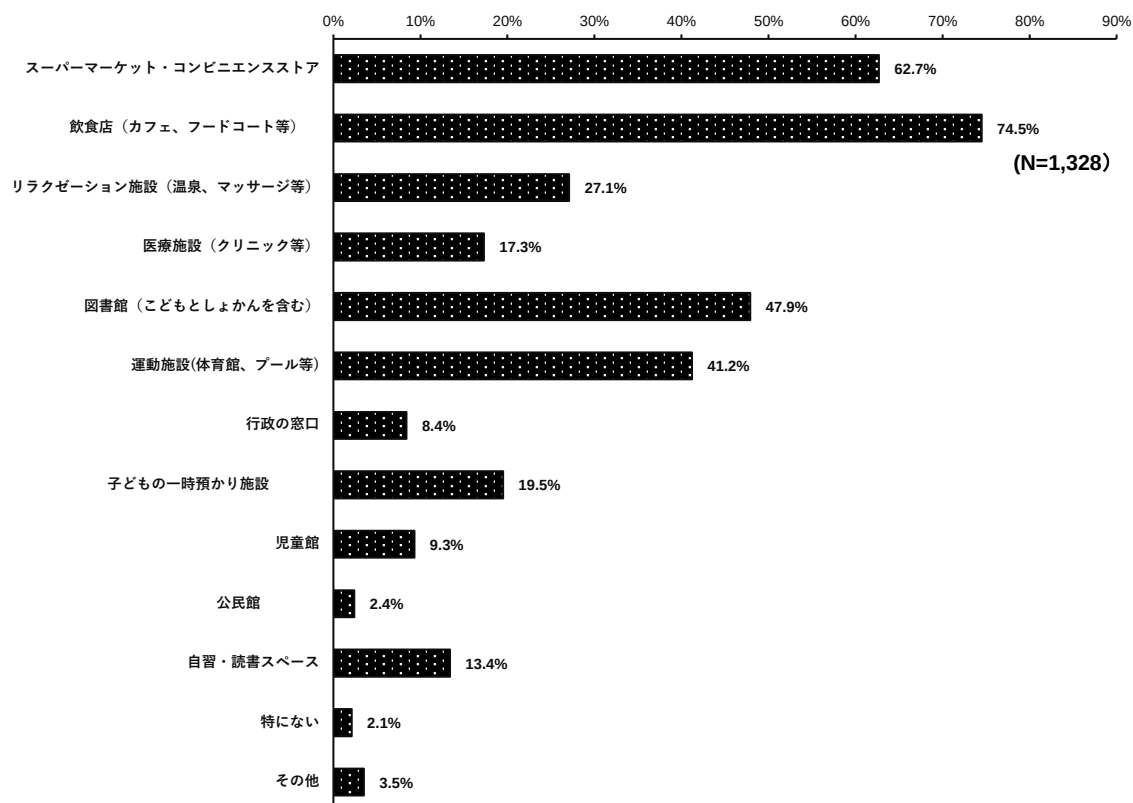
【世帯年収別】



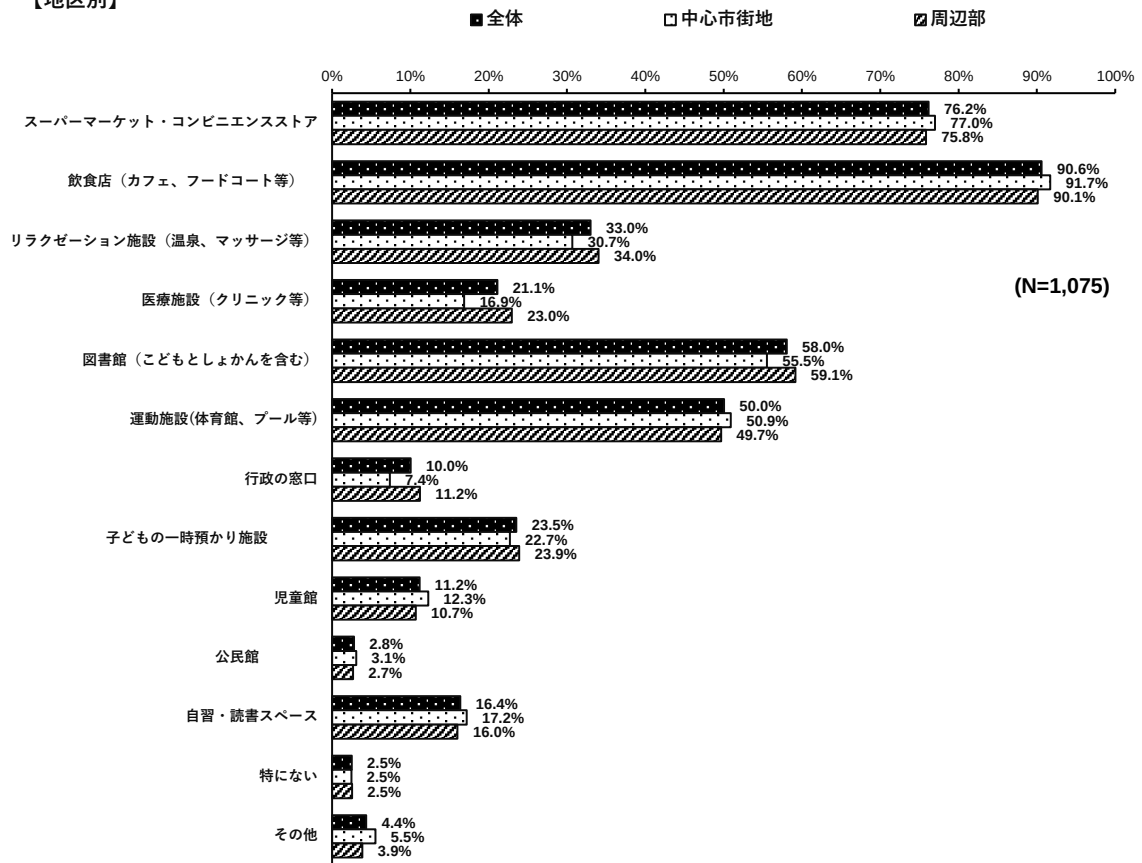
123. 遊び場の近くや施設内にあればよいと思う施設

「飲食店（カフェ、フードコート等）」が74.5%と最も高く、次いで「スーパーマーケット・コンビニエンスストア」が62.7%、「図書館（こども図書館を含む）」が47.9%となっている。

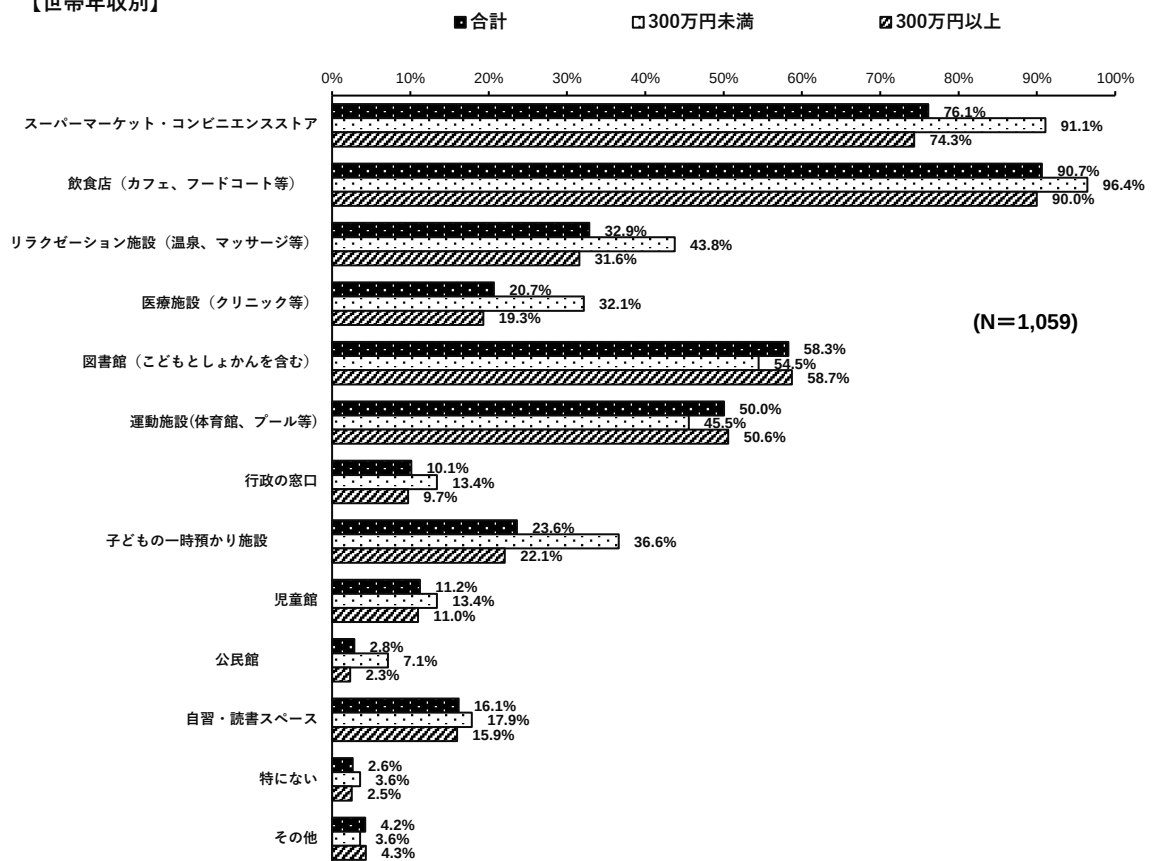
世帯年収別でみたとき、300万未満の世帯において「スーパーマーケット・コンビニエンスストア」が91.1%と300万円以上の世帯と比べて17ポイント程度高くなっている。



【地区別】



【世帯年収別】



124. 子育ての環境や支援に関してご意見（一部抜粋）

【行政(市)の子育て支援体制について】

- ・兵庫県明石市の様に子どもを産みたいと思わせる政策をとってほしい。現状保育料2人で7万円も支払っており、妻も働きに出ているがその給与の殆どが保育料で消えてしまい、何のために働きに出てもらっているか分からない状態である。実際に妻に3人目が欲しいと言われたが、これ以上お金を支払えないため断念してもらっている現状がある。子どもにのびのびと、何事にもチャレンジできる様に成長して欲しいが、経済的に挑戦させられない状態であるため、早急に改善して欲しい。これは私たちだけの意見では決していないと思われる。このアンケートについてもおおよそ解答率が低いと考察する。アンケートを記載しても反映されないのではないかと言う子育て世代の心情が出ているのではないか。その観点からも、是非市民の意見に目を通し、少しずつでいいので実現していただければ、住み良い街に変わっていくと思う。出産費用全額無償化、保育料無料、無料で使える屋内遊具施設などがあれば若者の人口が増えるのではないのでしょうか？
- ・10月の検診でわんぱく相談を提案され、翌日連絡すると言われましたが、連絡がくることはなく、3月での相談になりました。わんぱく相談を進められたので、3月まで不安な気持ちで過ごしていました。予約でいっぱいなので、しょうがないのかもしれませんが、もう少しスピーディーに動いてもらえると良かったです。または、わんぱく相談まで待たずに、どこか医療機関等も教えていただければ。聞けばよかったです。
- ・コロナ禍で妊婦検診の学級やヨガ等中止があり、子どもが6か月位になるまで子どもと二人きりで育児をすることが不安すぎて大変でした。1人目で子どもが何故泣くのかとかミルクの量が足りているのかなど分からないことが多く気軽に相談できる場所が引っ越ししたせいもあり、知りませんでした。今は少し緩和されているはずなので病院と役所の方々とどんな支援が受けられるのか妊娠中から知らせてもらえると安心できると思います。3年ほど住んでみて感じたことは、市内はコンパクトで買い物には便利だと思います。ただ、子どもと一緒に遊んだり食事をしたりと1日一緒に過ごせるような場所があまりないと思います。また、冬期間は晴れていても気温が低く、なかなか外では遊べないので、屋内で走り回れるような広いスペースがあれば子どもも楽しめるはずです。引っ越してきてよかったと思えるような街づくりを期待しています。保育料の見直し、無料にまではならなくても減額して頂けると子どもの預金に回せるのではないかと？と思います。
- ・サービスがあることは市政だより等でわかっているが、申し込みがもう少し手軽にできると利用しやすくなると思います。行ってみたいと思っても、手続きが面倒で諦めてしまうことが多々あります。
- ・子育て世代に向けた経済的な支援がもっと充実してほしい（第1子出産で10万円、第2子出産で20万など）。
- ・ほかの市町村と比べ、子どもに対しての助成(とくに児童手当以外の金銭的なもの)が少なく、保育料も高いため、家計の負担は厳しく、子どもも欲しいと思う人数は無理。もう少し助成制度があれば考えられる気もするため、少子化対策をしたいのであれば財政面で、低所得世帯と限らずに助成してほしい。低所得ではなくても現在の物価高騰では子育ても思うようにできないのが現実。給付金の情報があっても低所得世帯ばかりで、共働きでは低所得には該当することがほばないと思うが、どの家庭も苦しい思いをしていることに変わりはない。低所得世帯ばかりの援助ではいつまでも子どもが増えることは見込めないのではないのでしょうか。

- ・今の時代、いろんな面でお金がかかり共働き世帯も増えているので給食費の無償化や保育園の無償化などあれば負担軽減され、少子化が少しは改善すると思いました。

【子どもの遊び場や施設について】

- ・子どもの遊び場が少ないと思います。公園も故障している遊具が多い。マップ等があればほしいです。手に取りやすいところにおいてほしいと思いました。
- ・会津若松市にも喜多方のめぐぶらざのような大型室内遊具施設ができ、雨や雪でも子どもが体を動かすことのできるような環境づくりをしてほしい。0歳～小学生高学年まで遊べるような施設で利用料も市内在住は無料など正直、喜多方を見習ってほしい。市内の公園も大きい子(小学生位)が遊べるような大きさ・高さのものばかりなので、小さい子どもが遊べる遊具を増やして欲しい。特に河東地区は遊具が少ないです。総合運動公園まで遠い。河東支所前の公園にでもいいので、砂場や大型遊具と小さな子どもも楽しめるようなものを作ってほしいです。もう少し郊外にも目を向けて欲しいです。
- ・よく利用する喜多方のめぐぶらざのような施設があると、子育てしやすいまちになると思います。めぐぶらざには有料の大型遊び場だけでなく、幼児が遊べるおもちゃが多数おいてある遊び場もあり、おもちゃの貸し出しも行っています。(貸し出し含め無料です。)保育園以外で他の子どもたちと触れあい、コミュニケーション能力を育てることもできますし、ゆずりあい等、思いやりの心も育てることができると感じます。何より、遊び方や場所などに毎週迷うことなく外出でき、子どもも満足できるというのが、ささいなことかもしれませんが、大変な子育ての中で、非常に助かります。めぐぶらざは施設自体は大満足ですが、移動時間がネックです。金銭的な部分も重要ですが、「お出かけ」の悩みが減ることが、本当に助かります。
- ・私の家は、年が離れた兄弟なので年齢に合わせた室内で遊べる場所(広め)があればいいと思う。
- ・子どもを自由に遊ばせるスペースが少ない。子どもだけの施設とせず、大人も利用する施設に併設する形で増やしていけば、現在、子どもがいない人でも子育てに興味を持ったり、子どもを遊ばせる施設を知らない人がそういった場所を知るきっかけになり、知り合いが増えることで育児に対する不安も少なくなり、少子化対策にも繋がると思う。
- ・ふれあい体育館の玩具や床が汚れている。玩具は触ってほしくないレベル。市で予算を回せていないのですか？それともふれあいは市に関係ないのですか？遊び終わった後の清掃をしようにも、清掃用具が汚いです。きれいにして、もっと宣伝すべきだと思います。そもそも、あまり存在を知られていないです。
- ・もっと子どもが楽しく安全に遊べる施設がほしいです。雨の日でも遊べるような場所など。屋内施設で遊ぶ為に喜多方や郡山までいくことになるので、若松にも作って欲しいです。第三子が保育料無料になったのは大変助かりました。ですが、大きくなればなるほどお金もかかるので、小学校からの負担も減らしてもらおうと助かります。
- ・1年前の4月に会津若松市に引っ越してきました。この1年、住んでみて思ったことは公園が運動公園しかない。だからと言って室内遊び場があるわけでもない。皆さんはどこで遊んでいるのか・・・？以前住んでいた所は子どものフッ素治療無料、給食費無料・通学通園バス無料・学童保育年間2,000円などたくさん子どもにたいして支援がありました。それに比べ会津若松市は支援が少ないといった印象を持ちました。公園をもっと増やしてください。

【保育所・幼稚園の対応や要望について】

- ・家の近くの保育所を第一志望として書いたが、学区の違う第二希望の保育所に決まってしまった。お友達と一緒に小学校に行ければ子どもも安心だと思い、学区内の保育所に入れたかったのだが、ダメだった。ママ友に聞いたところ、河東地区以外の方も広田保育所にはたくさんいるとのこと。子どもの友達関係など考え、学区内の保育所に優先的に入れればうれしいと思いました。
- ・一時預りをお願いしたいときに、園児と一緒に一時預りを行っているところだと、感染症の心配があるので、預けにくい。支援センターの中で預かってくれる所もあるが、午前中だけなので、ゆっくり用事を済ませられないため(病院、美容室等)結局預けない選択をしまっている。もっと安心してゆっくり預けられるところが増えればいいと思う。県外からの転入などで親や知り合いが居ない人達にも安心して子育てが出来るまちになると思う。
- ・若松市内のほうにばかり保育所、幼稚園があり、河東地区に住んでいる人にとってはとても遠い。近場にもう少し保育所、幼稚園があると助かる。もしくは保育園入所条件に地元枠があると嬉しい。地元で仕事しているのに送迎が大変。
- ・保育園内に兄弟が通っていたら、優先的に同じ保育園に入れて欲しい。また、同じ保育園に空きがでたら、連絡がほしい。やはり姉妹で別な保育園に通うのは厳しい。しかも母親の職場が市内ではないから尚更。その辺の配慮がほしい。市役所に相談しても、淡々と質問に答えるのみで親身になってくれず、相談したくない。
- ・子ども誰でも通園制度があれば土日祝日でも働けるので創設されると嬉しいです。多くの施設でベビーカート、授乳室、おむつ替えの場所があればとても助かります。放課後過ごせる施設が増えると助かります。
- ・観光地で飲食店を経営しています。妊娠、出産で店に出られないため、営業時間の縮小、メニュー数を減らす、席数を減らすなどでやりくりしています。4月から7か月の子を園に預ける予定ですが、日曜日も祝日も預かってくれるところは少ないなあ...と感じました。観光に力を入れている街なので、日曜、祝日預かりをもっと充実させてほしいと思います。

【保育料の負担について】

- ・両親の収入に応じた保育料は納得がいかない。保育料が高いならそれに合わせた保育を受ける権利がほしい。子ども園自体、19時までの利用であっても、18時以降は預ける子どもが少ないため早めのお迎えを依頼されるため、夕方になると仕事を早く終わらせる必要があるためストレスがたまる。感染症がでると、学級閉鎖になり、感染症にかかっていない子どもまで呼び出し帰宅となる。親が医療者だったり、保育士の場合などは優遇してほしい。
- ・保育料を無料にしてほしい。2人目半額とか3人目から...ではなく1人目から無料だったら若い夫婦が会津に来てくれるはず。
- ・世帯収入での保育料を一律同じにしてほしい。(国の制度で難しいのはわかりますが...)

【市の子育て支援施設・サービスについて（保育所・幼稚園以外）】

- ・ファミリーサポートについて。登録はしているのですが、地域によってはおねがい会員が預かってほしい時に近くにサポート会員がおらず、結局あずけられなかったりします。マイカーがないのでサポート会員さんの交通費（往復）＋サポート料金がかかってしまいます。もうちょっとなんとかならないものかと思ってしまう。
- ・会津若松市には土日に利用できる子育て支援センターがないので会津坂下町の施設を利用しています。会津若松市にも土日に利用することができる子育て支援センターがあると有難いです。また暑さや雪で、屋外で体を動かすことができる期間が限られているので屋内遊び場が今後充実するとよいなと思っています。子ども達が安心して身体を動かすことができる街だと魅力的で活性化するのではないかと考えています。
- ・ファミリーサポート事業に申し込み後に利用となり、すぐ利用したい際に手間がかかる。もちろん安全安心のために諸手続きが必要なのは理解しているが、母親が数時間だけ今すぐにでも子どもを見てほしい！というニーズに対応できるサービスが会津若松市にあるといい。利用者の500メートル圏内にいるサポートの方が電話一本で利用者の自宅に駆けつけるようなサービスがあればいいと思う。私用やどうしても子どもを数時間だけでも見て欲しい時など利用できればいい。わが子はとてもかわいく、いとおしいですが24時間抱っこというわけにはいかないのでサポートを必要とするニーズはあるのではないかと思っています。
- ・授乳記録を、LINEなどを使い写真で送って、どうしたら授乳量を増やせるかなど、アドバイスがもらえたらうれしい。また、授乳（直母・哺乳瓶）中の動画を送って、どうしたらもっと飲んでもらえるか、離乳食が始まったら、食事の様子などで、こうしたらもっと食べてもらえるかもといったアドバイスがもらえたらうれしい。（担当番が家に来るタイミングが、困っているタイミングでなければ、アドバイスをもらいにくいから）

【子育てや家庭の悩みについて】

- ・子どもが産まれると、産休手当も無く、金銭的に本当に苦しいです。夫婦仲も悪くなり、子育てに心から余裕をもって安心して出来る状況ではありません。支払いで全て給付金を充てるしかなく・・・悩む時間が増えました。きっと育児ノイローゼになってしまったのだと思いますが、1カ月検診、赤ちゃん訪問で「つらい」と訴えてもわかつては貰えず・・・病院代を考えると我慢するしかありません。相談したくてもどこに相談して誰を頼ればいいのか分かりません。結果、引きこもってしまいます。
- ・多胎児世帯にもっと配慮してほしい。妊婦検診が何度も必要になってくるので無料にしてほしい。実費になると厳しい。検診無料になるチケットが2人分もらえず実費になることがあった。なぜだめにチケットいただけないんでしょうか。多胎児妊婦も安心して検診を受けたいです。
- ・オムツ着やミルクの補助をしてほしい。双子子育てならではの悩みや不安があるので、多胎児ファミリーが集まれるような企画やイベントがあったらいいと思う。
- ・小さい子どもとの外食は困難であることが多い上に会津若松市では小さい子どもと食事してもいいですよ、大歓迎のようなお店が少ないと思います。迷惑がられることが多いので頻繁にはできませんが、子どもにとって外で食事をするのも環境の慣れや躰の一環であると思っています。なにより、日々家事育児仕事と追われている母親にとっては、キッズスペースがあったり、快く受け入れてもらえる飲食店はとても有難いです。
- ・妊娠、出産、育休中の時期がちょうどコロナ禍ということもあり、子育て支援センターも閉鎖、誰にも会えず気軽に相談も出来ず、ずっと心細い思いをして産褥期から無理をしすぎて産後うつになりました。

1歳以降でも利用出来る産院での産後ケアがもっと充実していれば良かったなと感じました。(今もあれば利用したいくらいです)やはり親が元気で余裕がなければ、良い子育ては出来ません。子どもも親もリラックス出来て楽しめる環境や施設(宿泊施設等も含む)が欲しいです。保育士さんたちには頭が上がらないくらい感謝していますが、こども園の保育料も高すぎて(月5万)いくらフルタイムに残業付きで働いても生活費がギリギリな状態がずっと続いています。低所得やひとり親だけではなく、私たちにも給付金等がもっとあれば良かったのにと正直何度も思いました。

【職場・働き方について（自身・家族・配偶者など）】

- ・子どもがインフルエンザに罹患し、看病のために会社を休まなければならなかったのですが、当たり前なのかもしれませんが、いい顔をされず、冷たい態度を取られたことがありました。コロナやインフルエンザにかからない様にできるだけ人ごみに行かない、手洗いうがいをこまめにする等出来る対策をとっても学校や保育施設等でもらってきてしまう。その様な看病で休む社員がいた場合に、会社に補助金などあればもう少し社員の精神的負担が少なく、会社を休みやすくなるのかなと思いました。子育てされている親御さん、皆様同じ思いをされていると思いますが、看病はしなくてはならない。けれど休みにくい。解決につながる何かがあれば少し救われます。病児保育施設が増え、手続き等も簡単になれば助かります。
- ・子どもが体調不良だと、どうしても仕事を休まなければならない。収入も減ります。子どもの理由により、休みになってしまった部分の給料の一部の保証があってもよいのではないかと思います。働きたくても働けない日が多くあります。
- ・現在、時短勤務を取得させていただいていますが、金銭的に不安のため通常勤務に戻そうとしております。本当は子どもとの時間を大切にしたいので時短勤務を続けたいです。なにか補助金のような制度があるといいと思います。小学校入学以降のビジョンが浮かびません。仕事と子育てを両立させられるかが不安です。共働きの家庭にも優しいまちづくりをお願いいたします。
- ・時短勤務をもっと取りやすくしてほしい。むしろ、取るようにしてほしい(会社側から)。母親と子どもがもっと時間に余裕をもち、関わる時間が増えれば親子関係もよくなると思う。親子関係が良くなれば、子どもも情緒が安定し、いじめなど減り、親も会社で安心して働ける。
- ・共働きの人が多く、土日祝日、お盆、年末年始など休みが不定休でもある。子どもを預けられる環境があれば子どもを産んで育てたいと思う街になると思う。

【医療体制や医療支援制度の充実について】

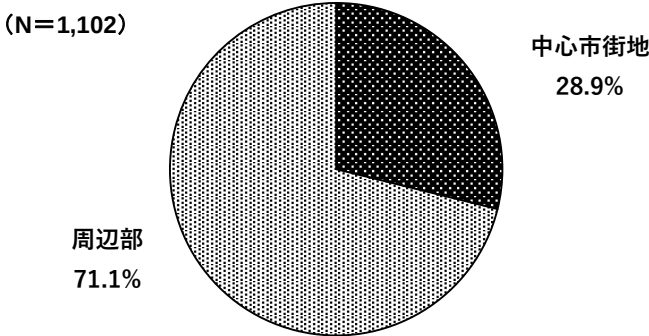
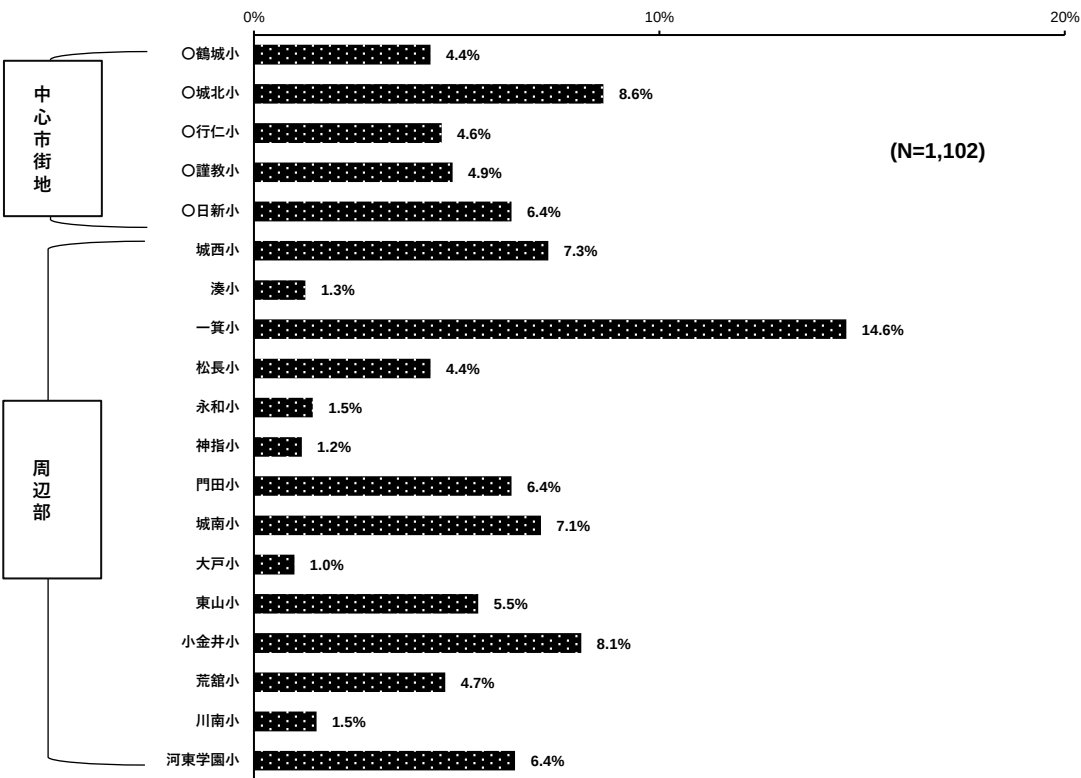
- ・休日当番医についてですが、高熱が出た子どもを見てもらおうと利用したかったのですが、当日当番医につれて行ったら〇歳(3〜5歳)以下の子ども(赤ちゃん)は見られないと断られました。翌日の当番医も同じような返答でした。何の為の休日当番医なのか疑問です。大人なら少しの体調不良も我慢できる所ありますが、子どもこそ、休日に見て欲しいし、我慢もできないのにと思います。子どもも見られる医師を当番医にあてるもしくは、小児科枠を別で作るべきではないでしょうか。また、小児科は予約制のところが多く、予約開始時刻から2分で予約がなくなってしまう。本来あるべき病院はこのようなものなのでしょうか。具合が悪い子どもを受診できず、仕事も休みづらい、子どもの具合が悪くなる度に不安や精神的に親も辛くなることがあります。県外出身ですが、地元はいつでも見てくれるような、かかりつけ医や医者がほとんどでした。会津若松市の病院の体制を今後より良く改善して頂きたいです。
- ・会津若松市に住んでいて、子育て支援が良くなることを願っています。小児科をもっと増やしてほしい。予約しないと利用できないのは、あまり良くないと思っています。体調が悪くなるのは前もって分かるわけではないので、予約しなくても見てもらえる小児科を増やした方が良いと思います。
- ・子どもが休日や夜間に具合が悪くなることがあり病院を受診する際、中学生未満となると当番医が内科の場合、何度か断られた事があり、竹田病院の救急を受診するように言われた。けれど、救急を受診すると選定料がかかった。休日や夜間の小児科体制が整ってないのにも関わらず、選定料がかかるのが納得出来ない。
- ・周産期医療で県内では医大付属病院に頼らざるを得ない部分が、次子を考えるときに不安になります。(会津からは時間の距離もあるので妊婦にも家族にも負担が大きいです。) 宿泊できる施設も少なく、コロナでの縮小もあったので、産後あまり都合のよくない実家に頼るしかなかったことも、子育てするうえでは心理的に負担でした。相談窓口は充実していたと思います。気にかけて訪問や電話をいただいたりなどありがたかったです。母も子も見守っていただいている実感が持てるのは良かったです。初めての子なので保活について何もわからない(市のHPや入所・入園のお知らせを見ても自分がどの時期に何をすればよいのかヒントがない) ままになってしまったのが、自分のリサーチ不足もありますが残念でした。男性(父親)が当たり前に1年間育休を取得する町になればいいなと思います…。子をどなたかに預ける場面では、預かる人や場所が安全・安心だと良いなと思います。(子が犯罪に巻き込まれたりしないよう)

第3章 調査結果 (小学生の保護者)

1. 子どもが通学している学校

「一箕小」が14.6%と最も高く、次いで「城北小」が8.6%、「小金井小」が8.1%となっている。
なお、「中心市街地」は28.9%、「周辺部」は71.1%であった。(※)

(※) 本章において、グラフ中の校名に○のある鶴城小、城北小、行仁小、謹教小、日新小を「中心市街地」とし、それ以外を「周辺部」として集計している。

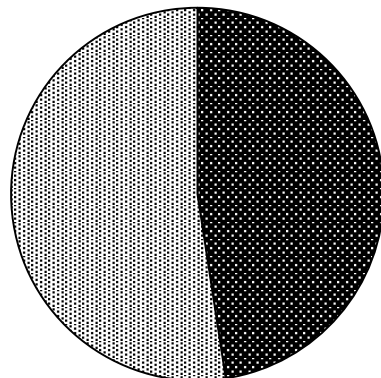


2. 子どもの学年

「5年生」が52.4%、「2年生」が47.6%となっている。

(N=1,093)

5年生
52.4%



2年生
47.6%

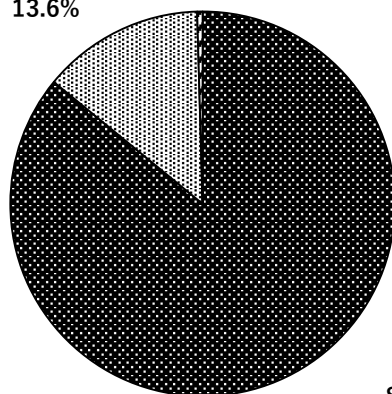
3. 調査票の回答者

「母親」が85.9%、「父親」が13.6%、「その他」が0.5%となっている。

(N=1,108)

父親
13.6%

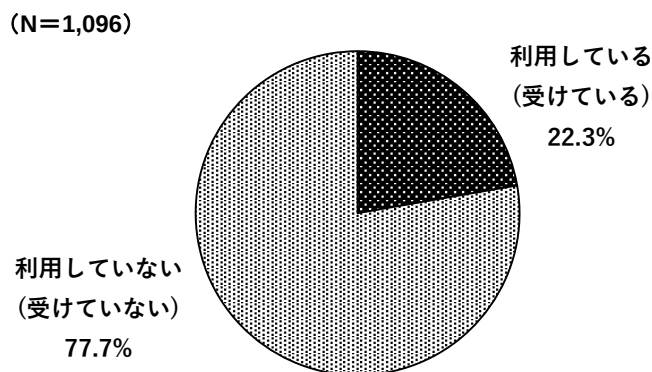
その他
0.5%



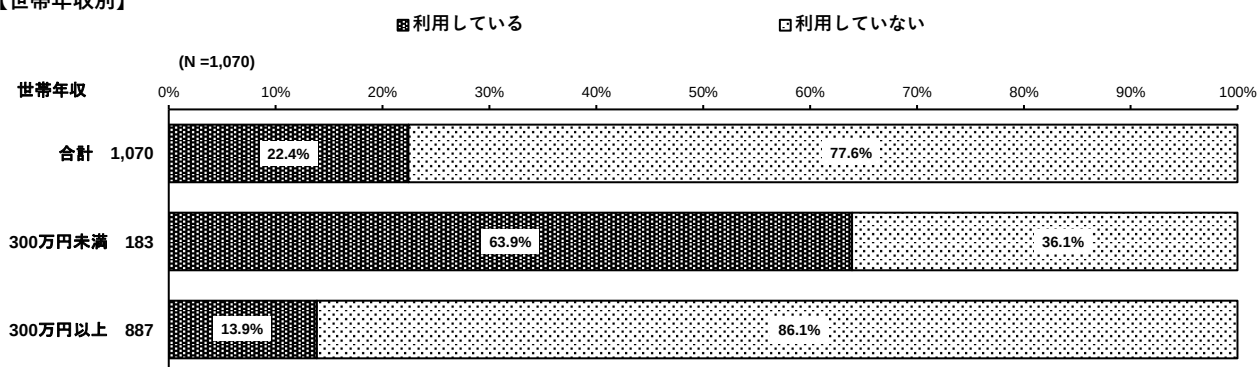
母親
85.9%

4. 公的制度（生活保護/児童扶養手当/ひとり親家庭医療費助成制度/就学支援）の利用状況

「利用している（受けている）」は22.3%、「利用していない（受けていない）」は77.7%であった。
世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯の6割以上が公的制度を利用している（受けている）結果となった。

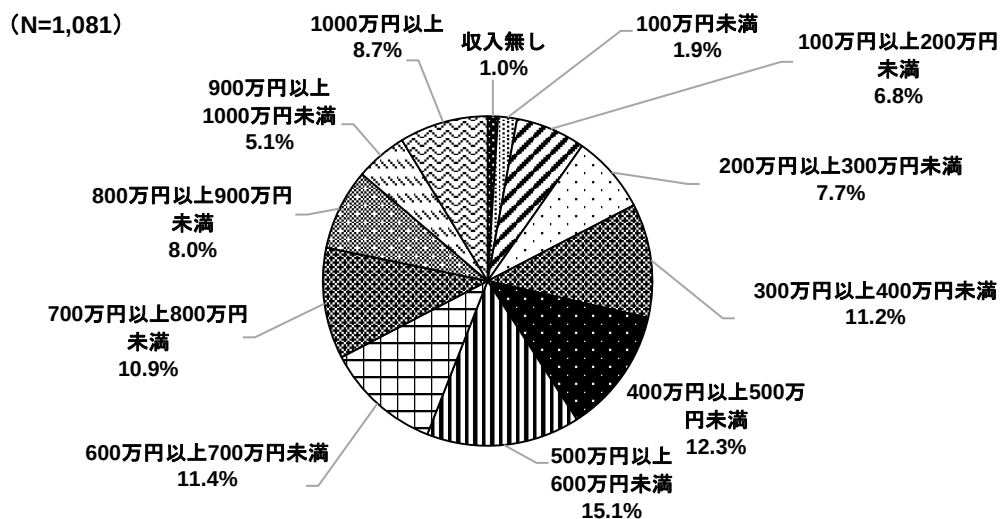


【世帯年収別】



5. 世帯年収

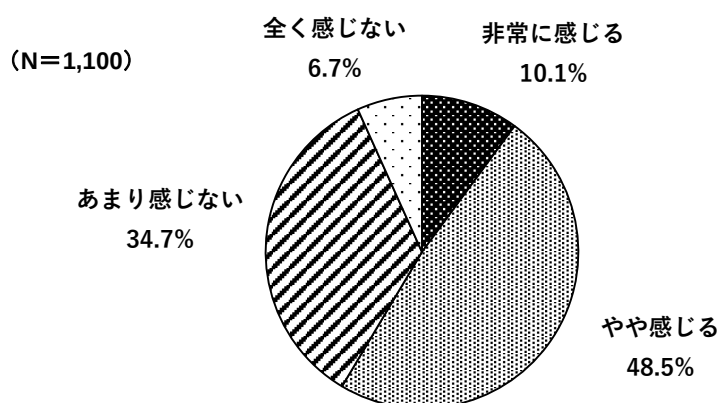
「500万円以上600万円未満」が15.1%と最も高く、次いで「400万円以上500万円未満」が12.3%、「600万円以上700万円未満」が11.4%となっている。
なお、「300万円未満」は17.4%、「300万円以上」は82.6%であった。



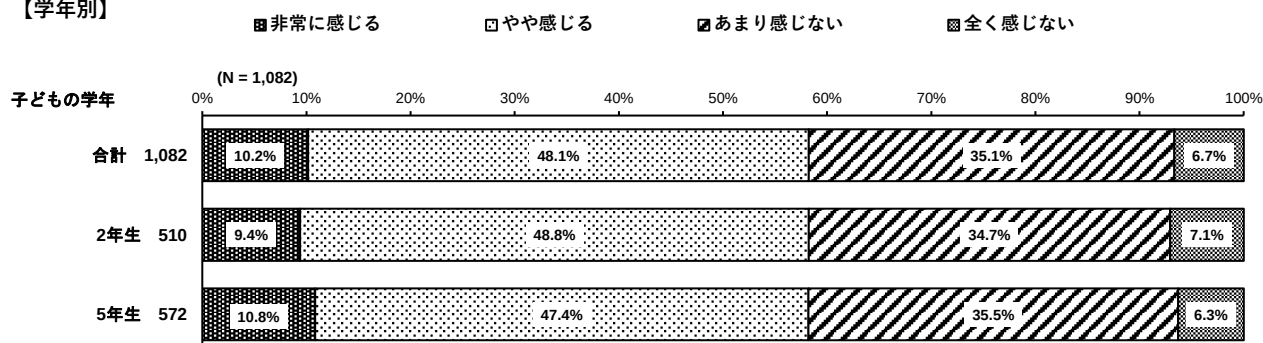
6. 子育てに関する不安や負担の有無

「やや感じる」が48.5%と最も高く、次いで「あまり感じない」が34.7%、「非常に感じる」が10.1%となっている。

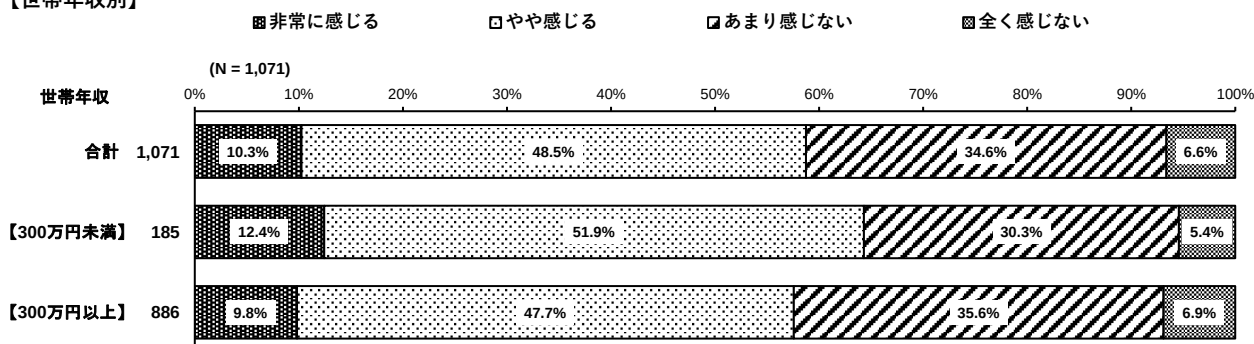
世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において「非常に感じる」「やや感じる」と回答した割合は6割を超えており、300万円以上の世帯の回答を6.8ポイント高くなっている。



【学年別】



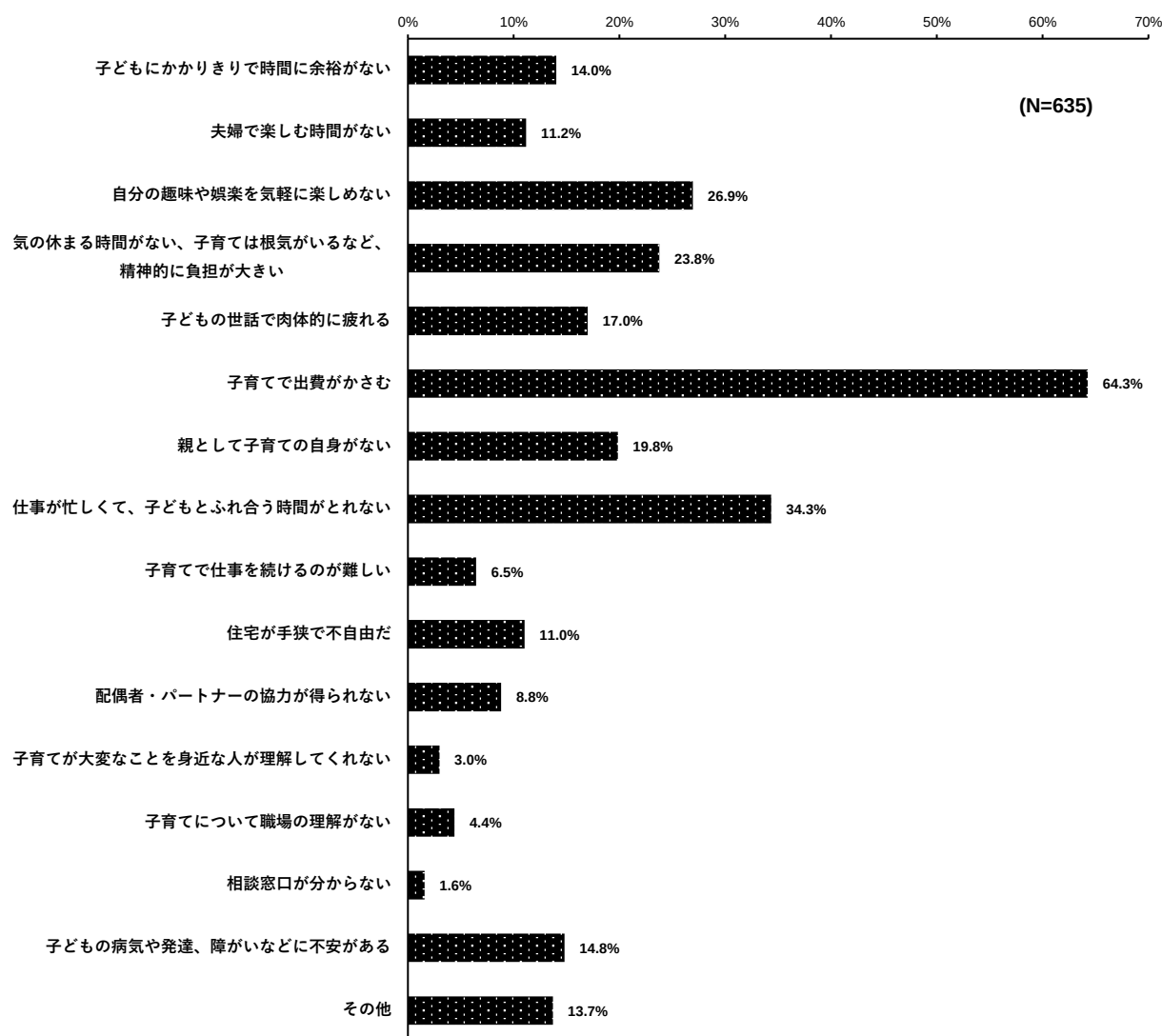
【世帯年収別】



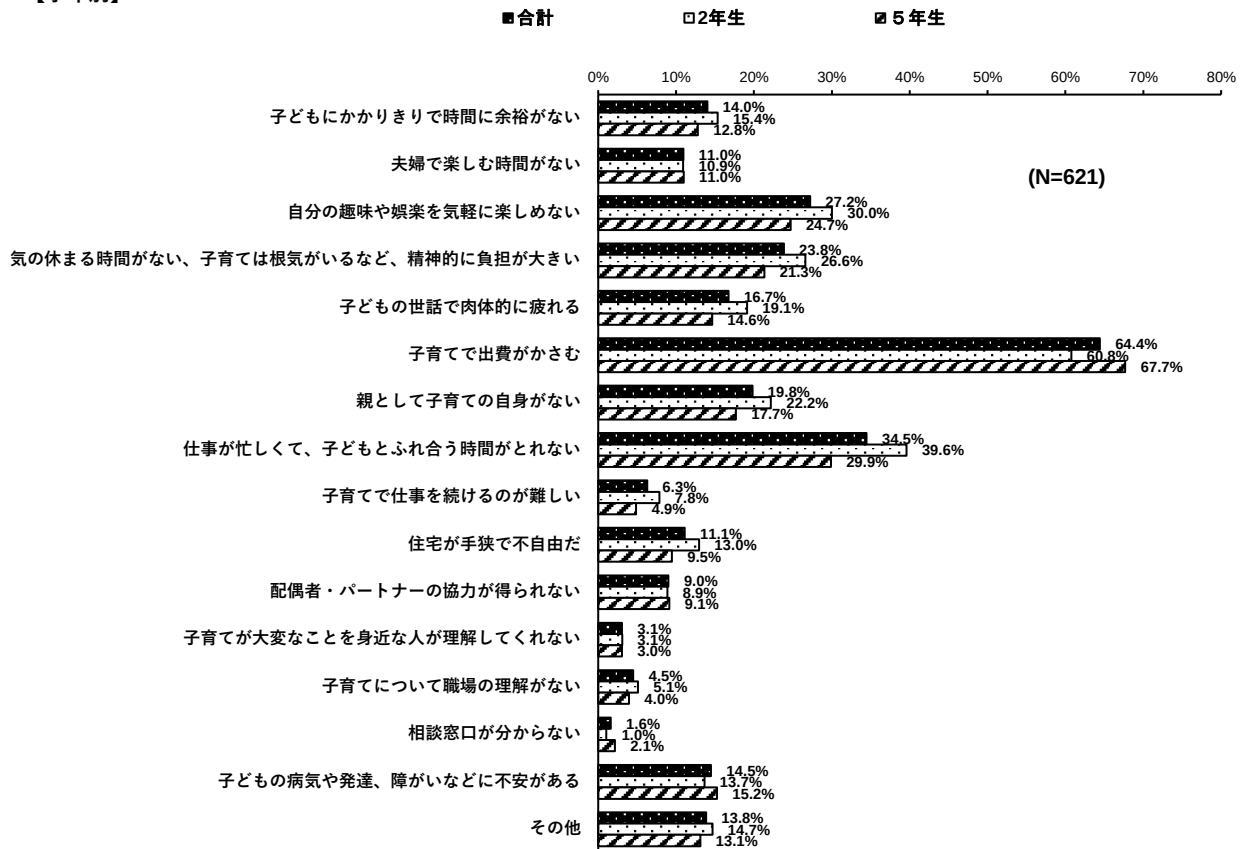
7. 子育てに関して不安や負担に思う理由

「子育てで出費がかさむ」が64.3%と最も高く、次いで、「仕事が忙しくて、子どもとふれ合う時間がとれない」が34.3%、「自分の趣味や娯楽を気軽に楽しめない」が26.9%となっている。

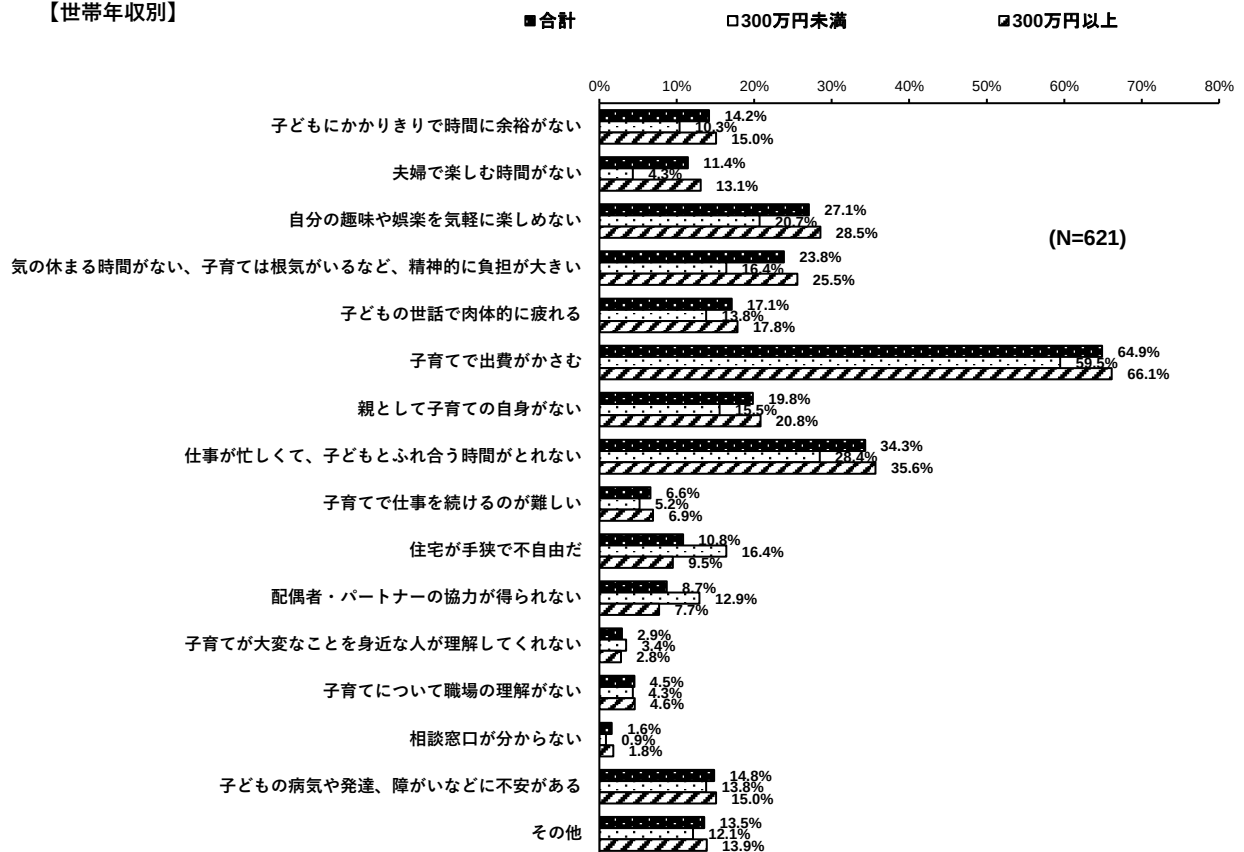
世帯年収別にみたとき、300万円以上の世帯において、「子育てで出費がかさむ」と回答した割合が300万円未満の世帯より6.6ポイント高くなっている。



【学年別】



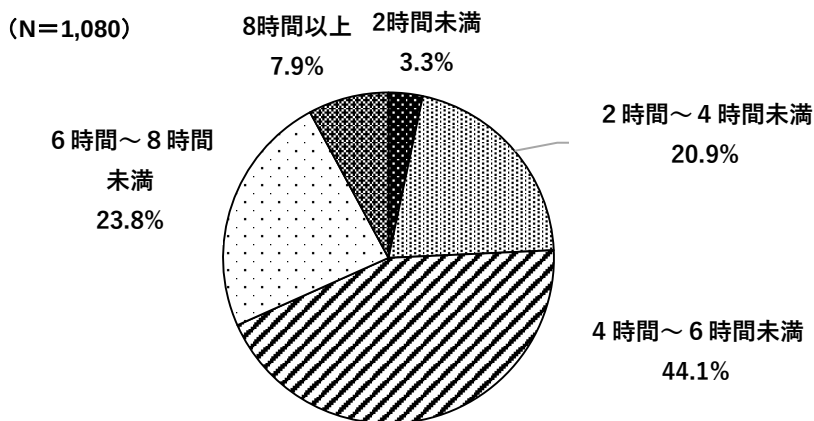
【世帯年収別】



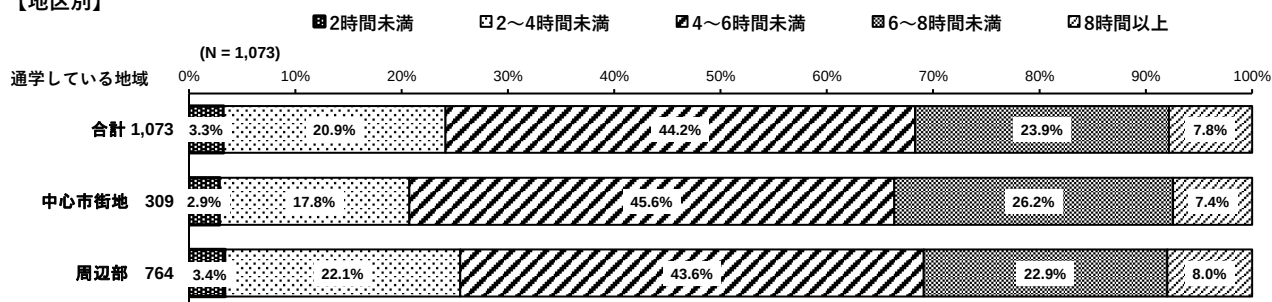
8. 【母親】子どもと過ごす時間（平日）

「4 時間～6 時間未満」が 44.1%と最も高く、次いで「6 時間～8 時間未満」が 23.8%、「2 時間～4 時間未満」が 20.9%となっている。

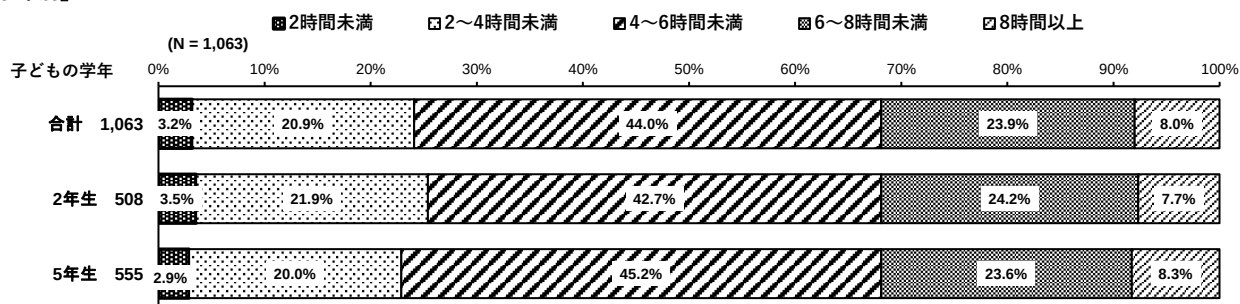
世帯年収別にみたとき、300 万円以上の世帯において、「4 時間～6 時間未満」と回答した割合が 300 万円未満の世帯より 5.2 ポイント高くなっている。



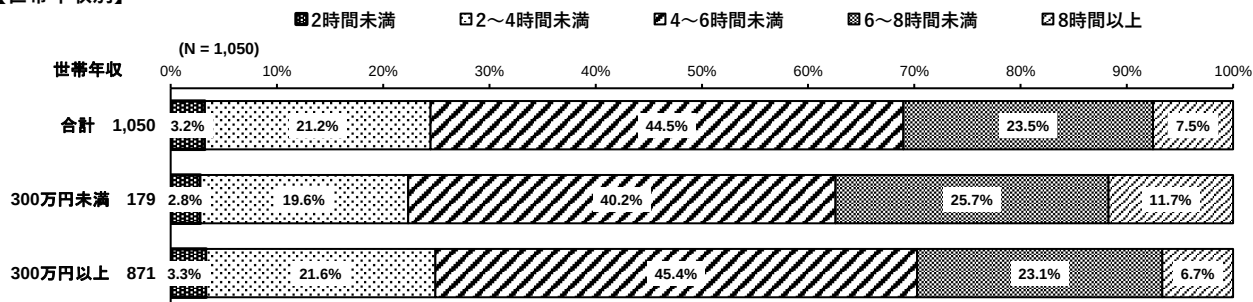
【地区別】



【学年別】



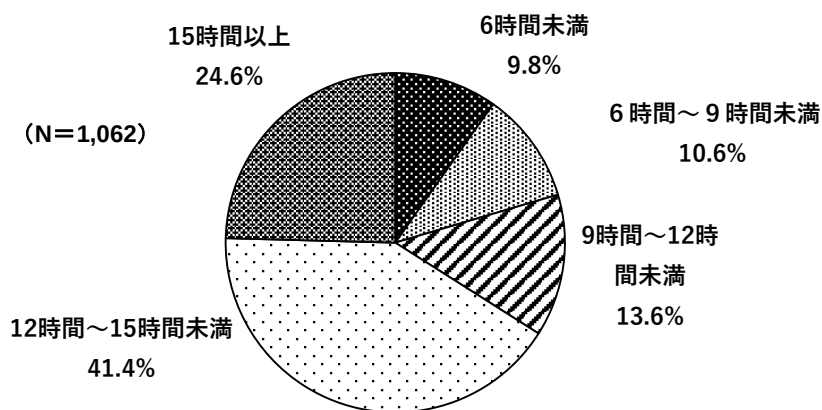
【世帯年収別】



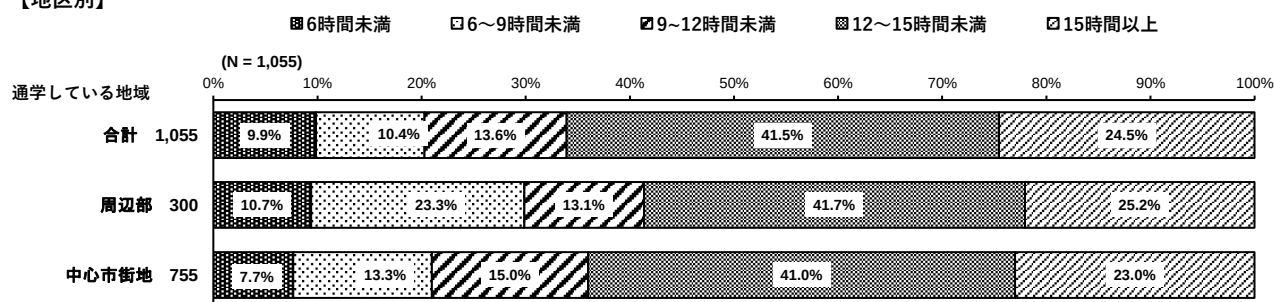
9. 【母親】子どもと過ごす時間（休日）

「12 時間～15 時間未満」が 41.4%と最も高く、次いで「15 時間以上」が 24.6%、「9 時間～12 時間未満」が 13.6%となっている。

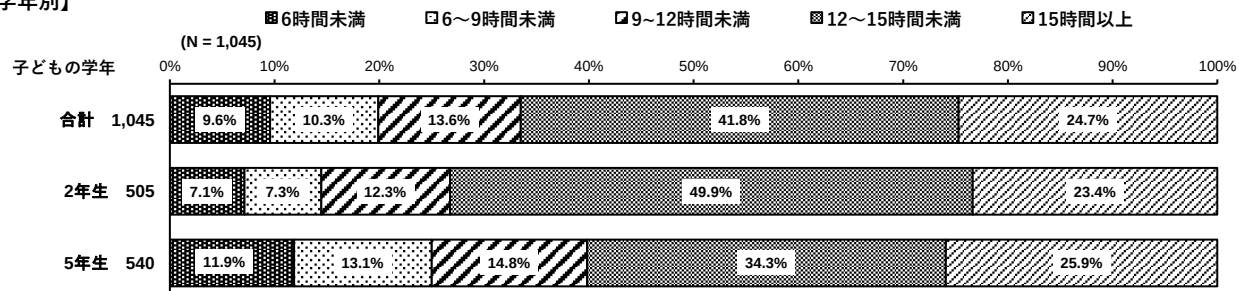
世帯年収別にみたとき、300 万円以上の世帯において、「12 時間～15 時間未満」と回答した割合が 300 万円未満の世帯より 7.3 ポイント高くなっている。



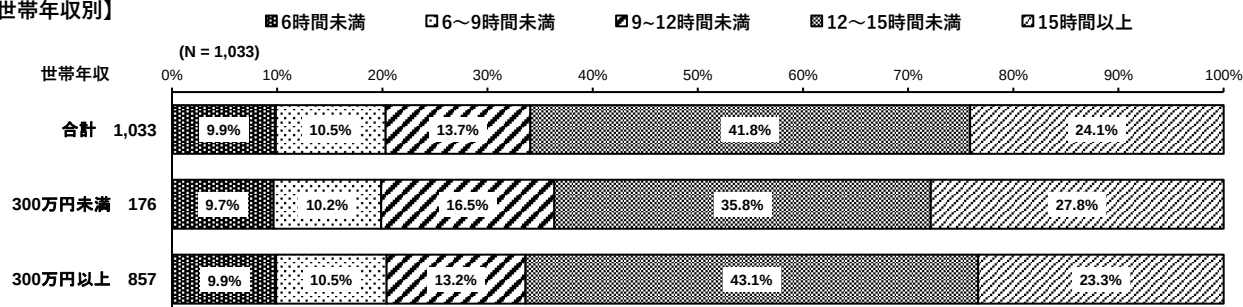
【地区別】



【学年別】

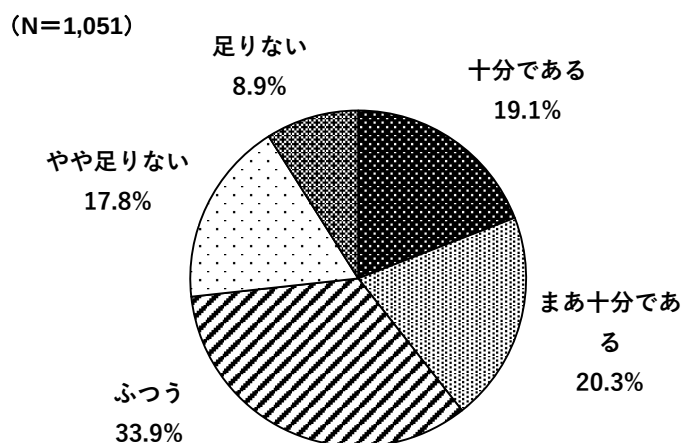


【世帯年収別】

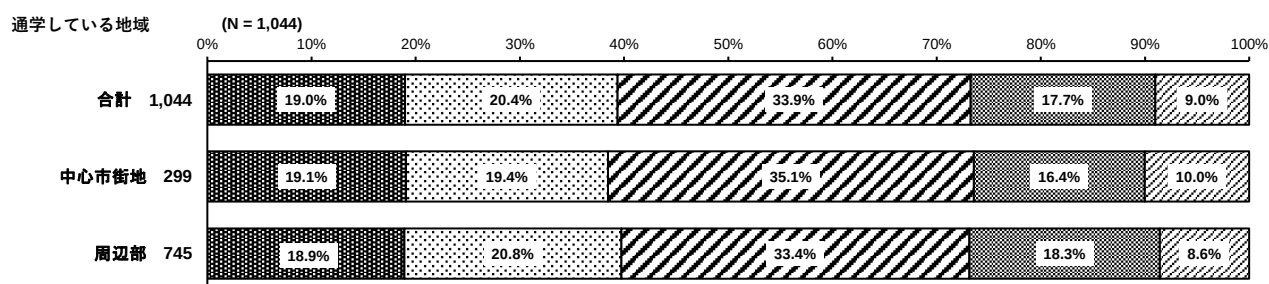


10. 【母親】/子どもと過ごす時間数をどのように感じているか

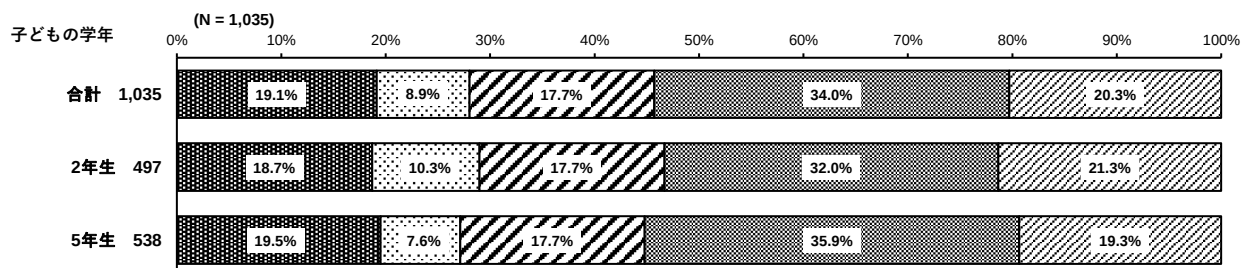
「ふつう」が33.9%と最も高く、次いで「まあ十分である」が20.3%、「十分である」が19.1%となっている。



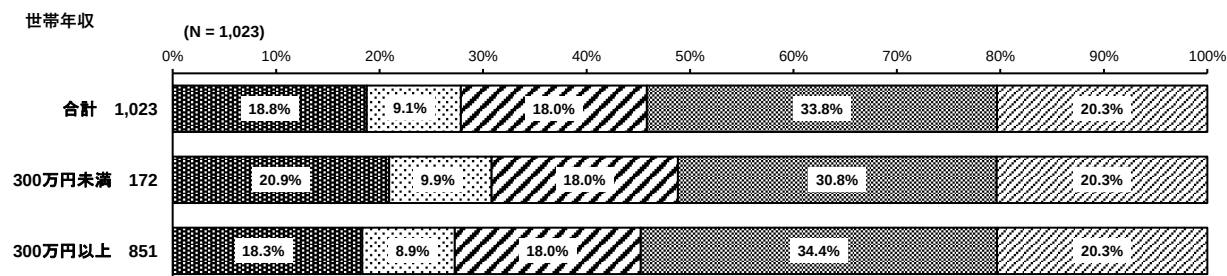
【地区別】



【学年別】



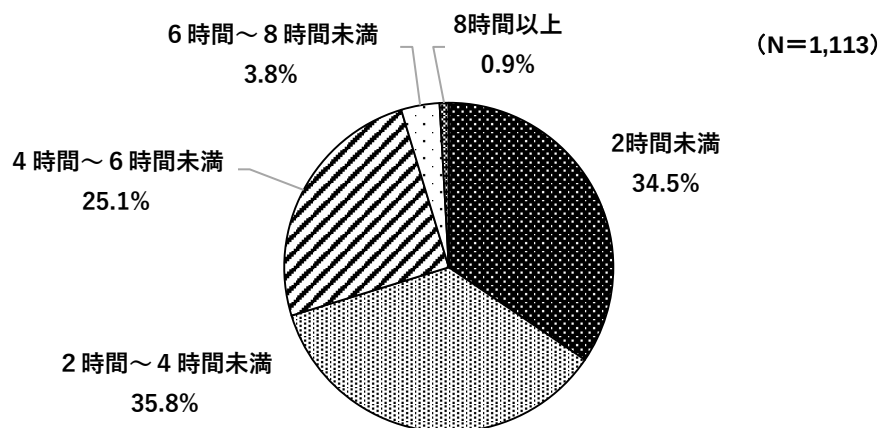
【世帯年収別】



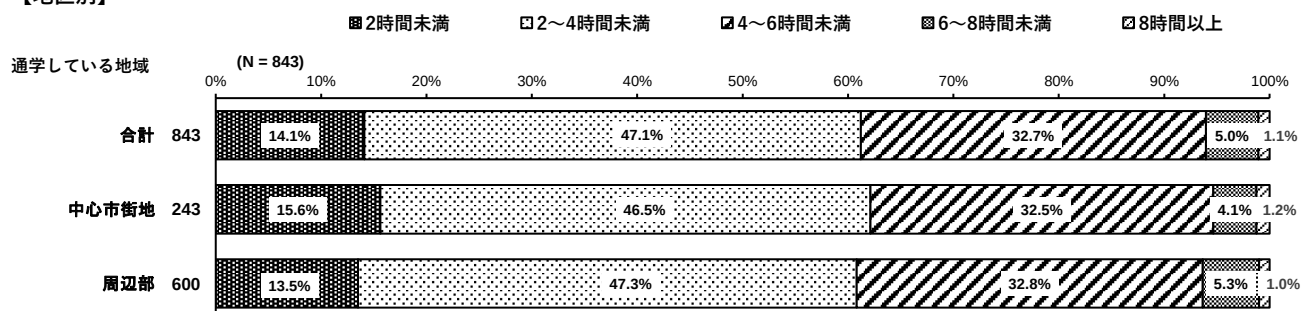
11. 【父親】子どもと過ごす時間（平日）

「2時間～4時間未満」が35.8%と最も高く、次いで「2時間未満」が34.5%、「4時間～6時間未満」が25.1%となっている。

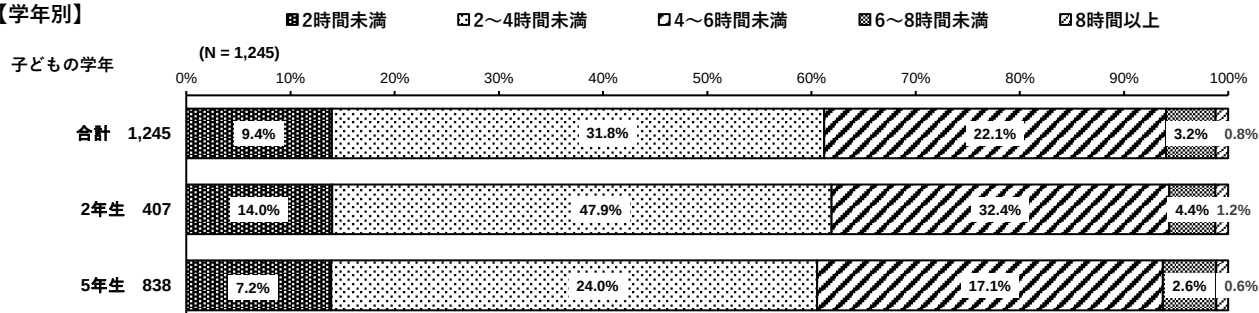
世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において、「6時間～8時間未満」と回答した割合が300万円以上の世帯より5.7ポイント高くなっている。



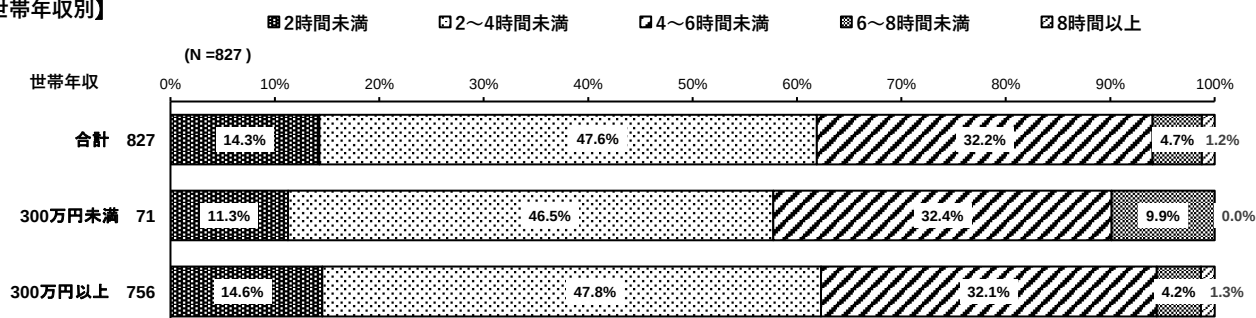
【地区別】



【学年別】



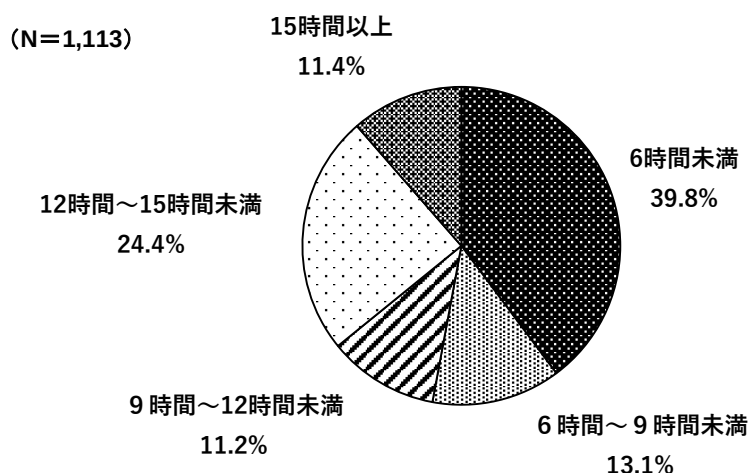
【世帯年収別】



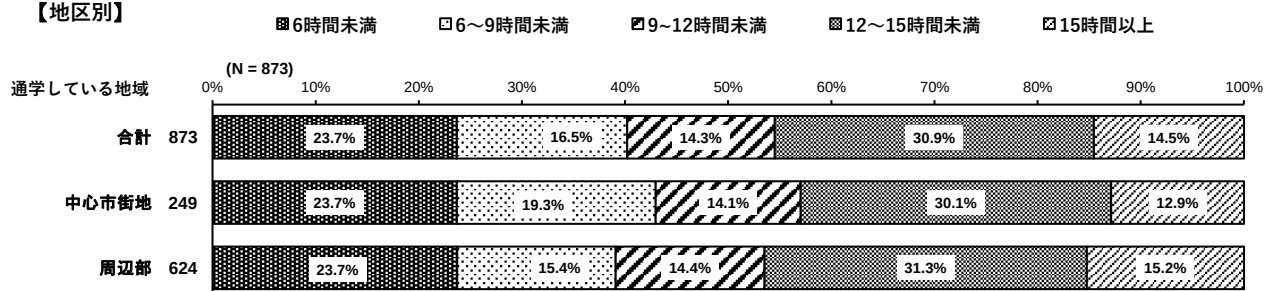
12. 【父親】子どもと過ごす時間（休日）

「6時間未満」が39.8%と最も高く、次いで「12時間～15時間未満」が24.4%、「6時間～9時間未満」が13.1%となっている。

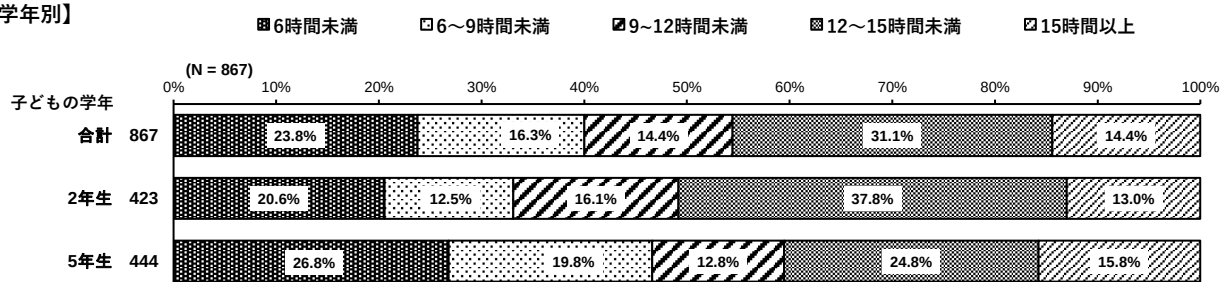
世帯年収別にみたとき、300万円以上の世帯において、「12時間～15時間未満」と回答した割合が300万円未満の世帯より11.4ポイント高くなっている。



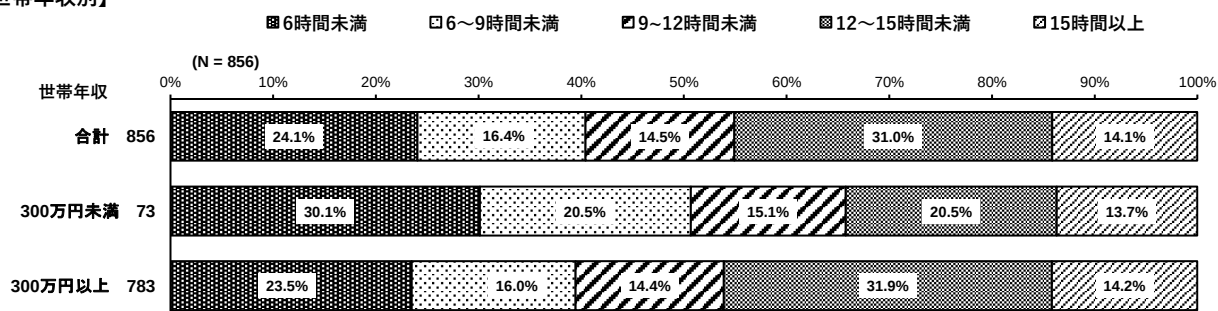
【地区別】



【学年別】



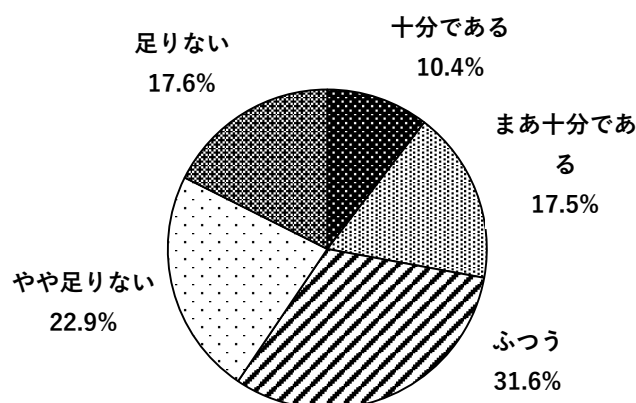
【世帯年収別】



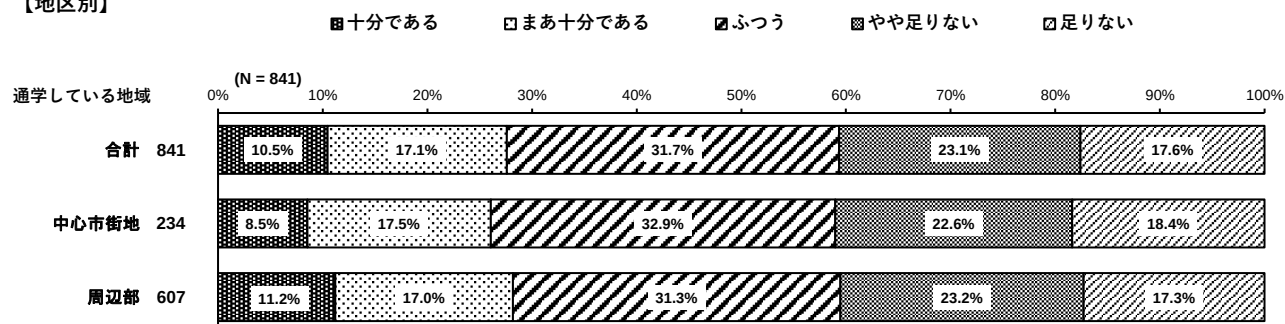
13. 【父親】/子どもと過ごす時間数をどの様に感じているか

「ふつう」が31.6%と最も高く、次いで「やや足りない」が22.9%となっている。
また、「まあ十分である」が17.5%、「足りない」が17.6%と僅差となっている。

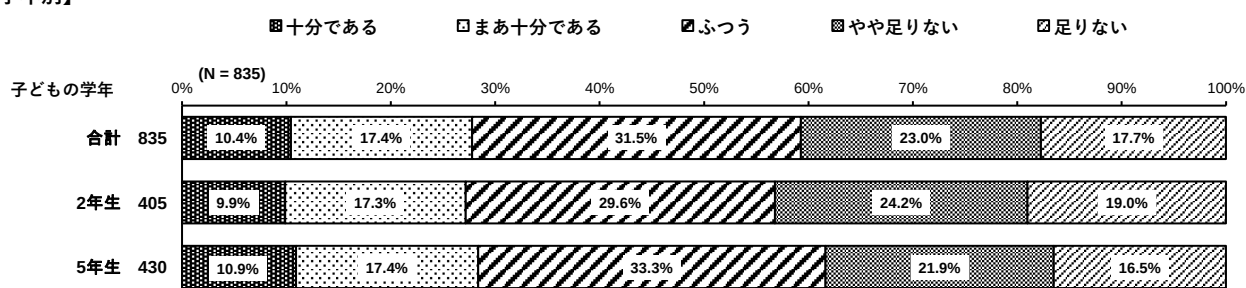
(N=846)



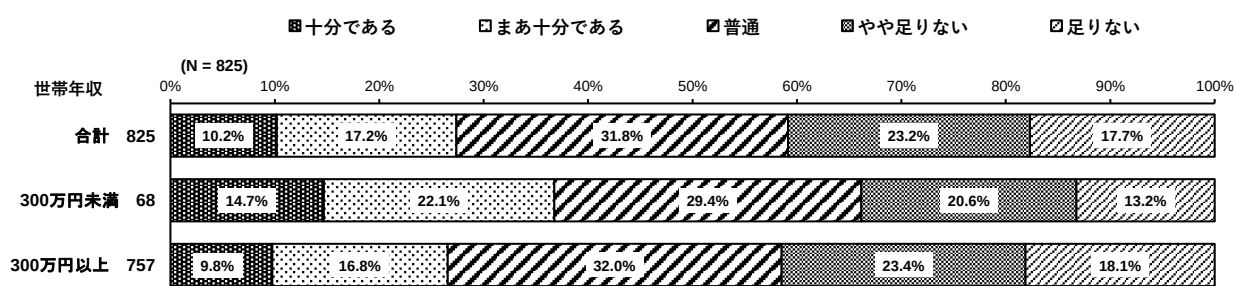
【地区別】



【学年別】



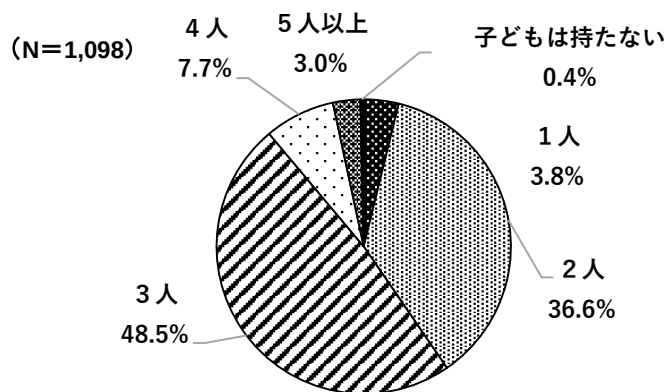
【世帯年収別】



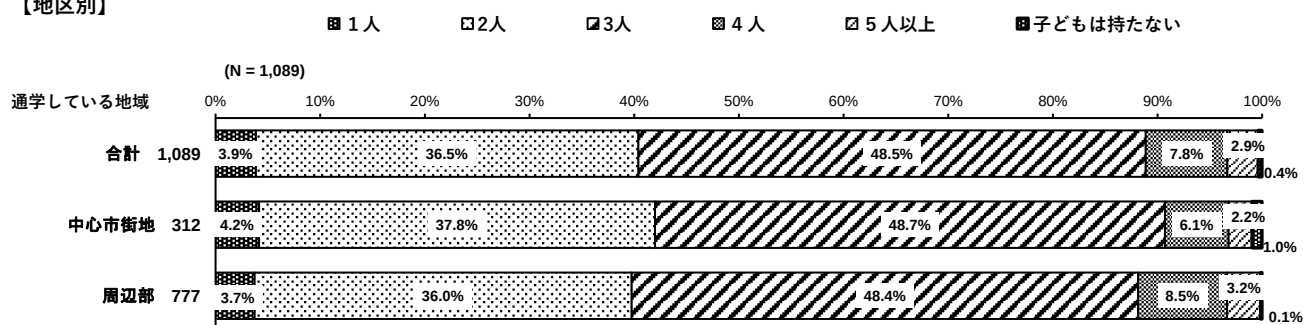
14. 理想と考える子どもの人数

「3人」が48.5%と最も高く、次いで「2人」が36.6%、「4人」が7.7%となっている。

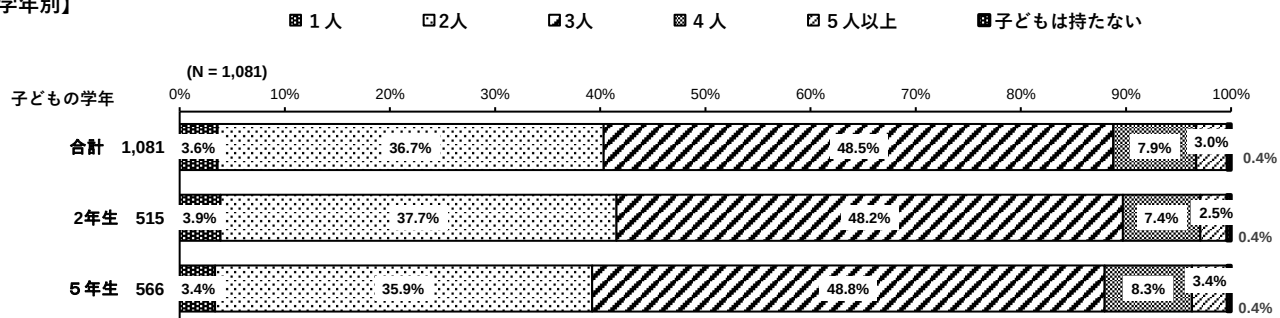
世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において「1人」もしくは「2人」と回答した合計の割合は53.1%となっており、300万円以上の世帯における37.9%よりも15.2ポイント高くなっている。また、300万円以上の世帯において、「3人」と回答した割合は51.2%となっており、300万円未満の世帯よりも14.7ポイント高くなっている。



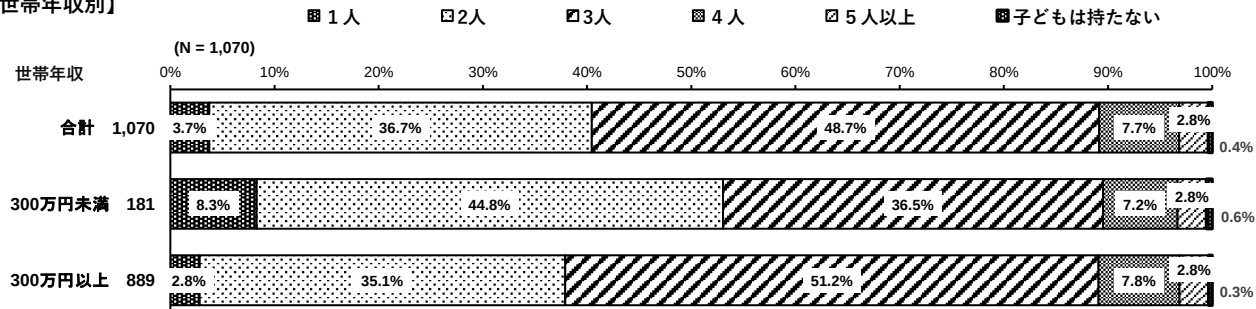
【地区別】



【学年別】



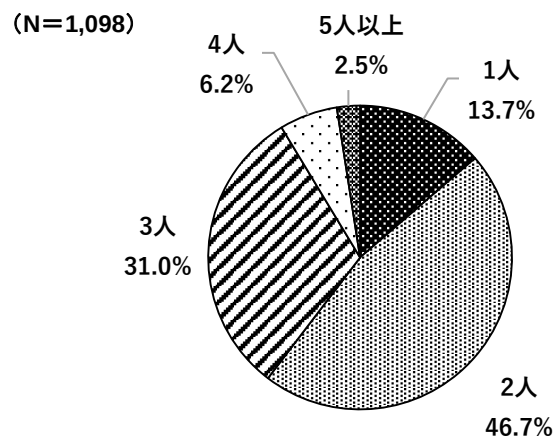
【世帯年収別】



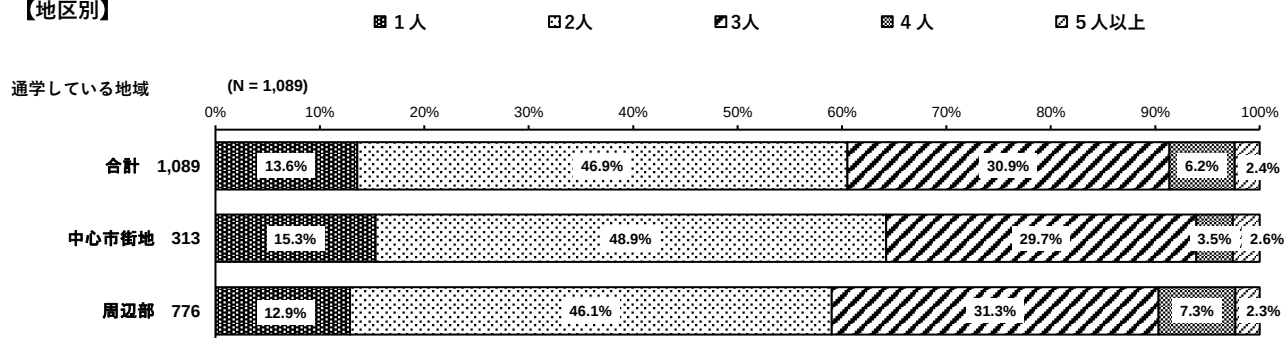
15. 実際、持とうとしている（持っている）子どもの人数

「2人」が46.7%と最も高く、次いで「3人」が31.0%となっている。

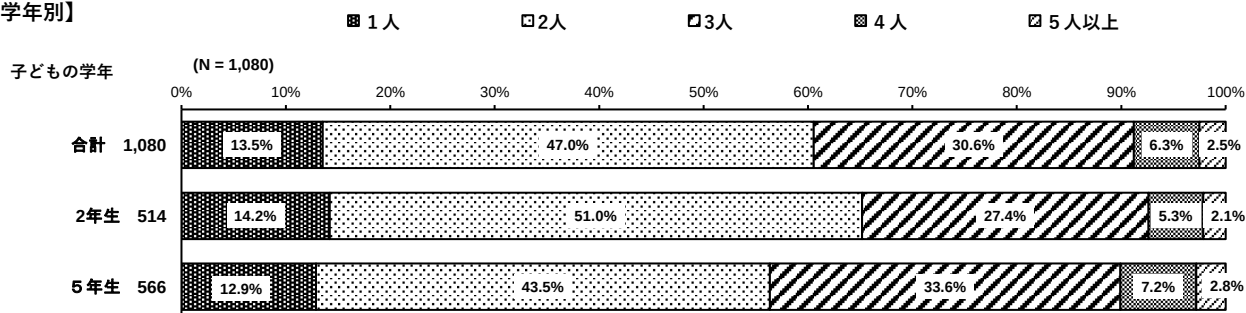
世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において「1人」が24.7%を占めており、300万円以上の世帯よりも13.2ポイント高くなっている。



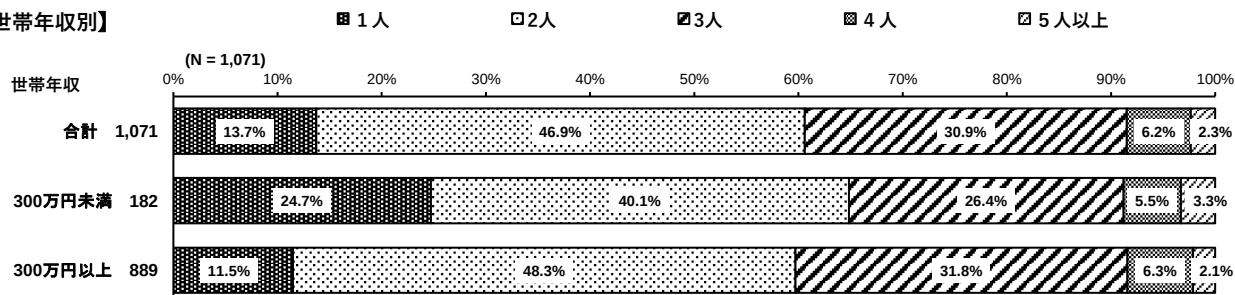
【地区別】



【学年別】



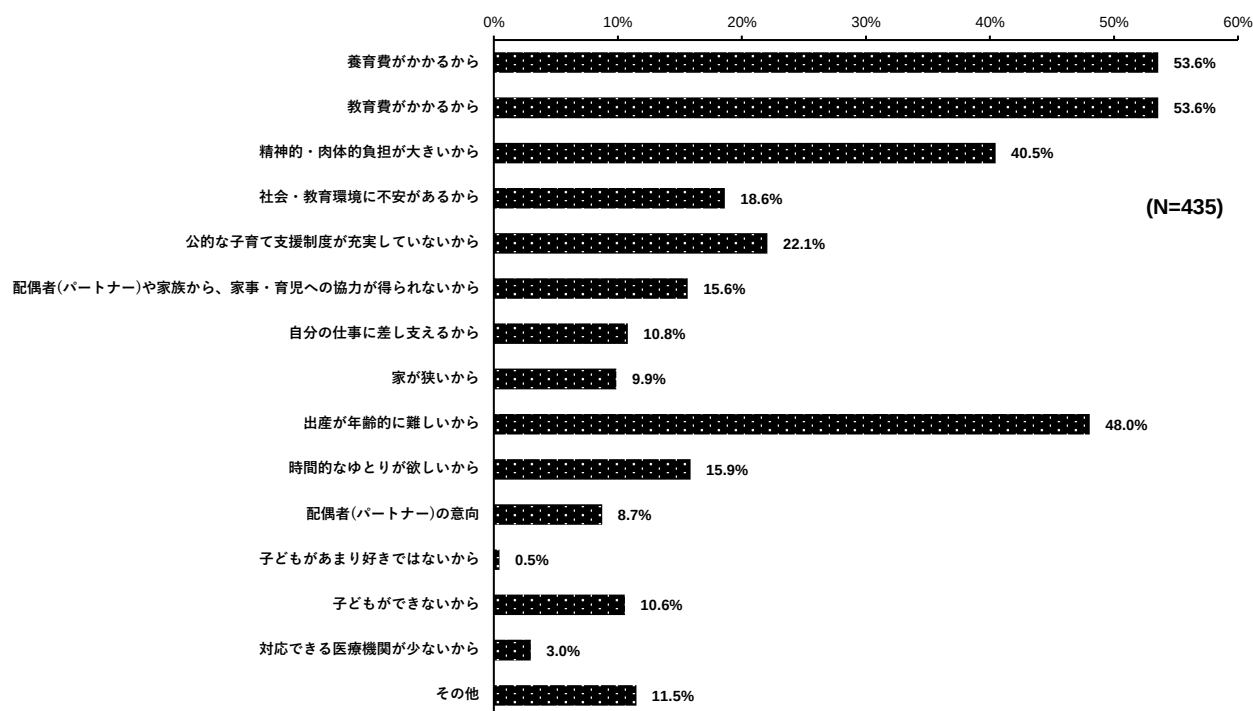
【世帯年収別】



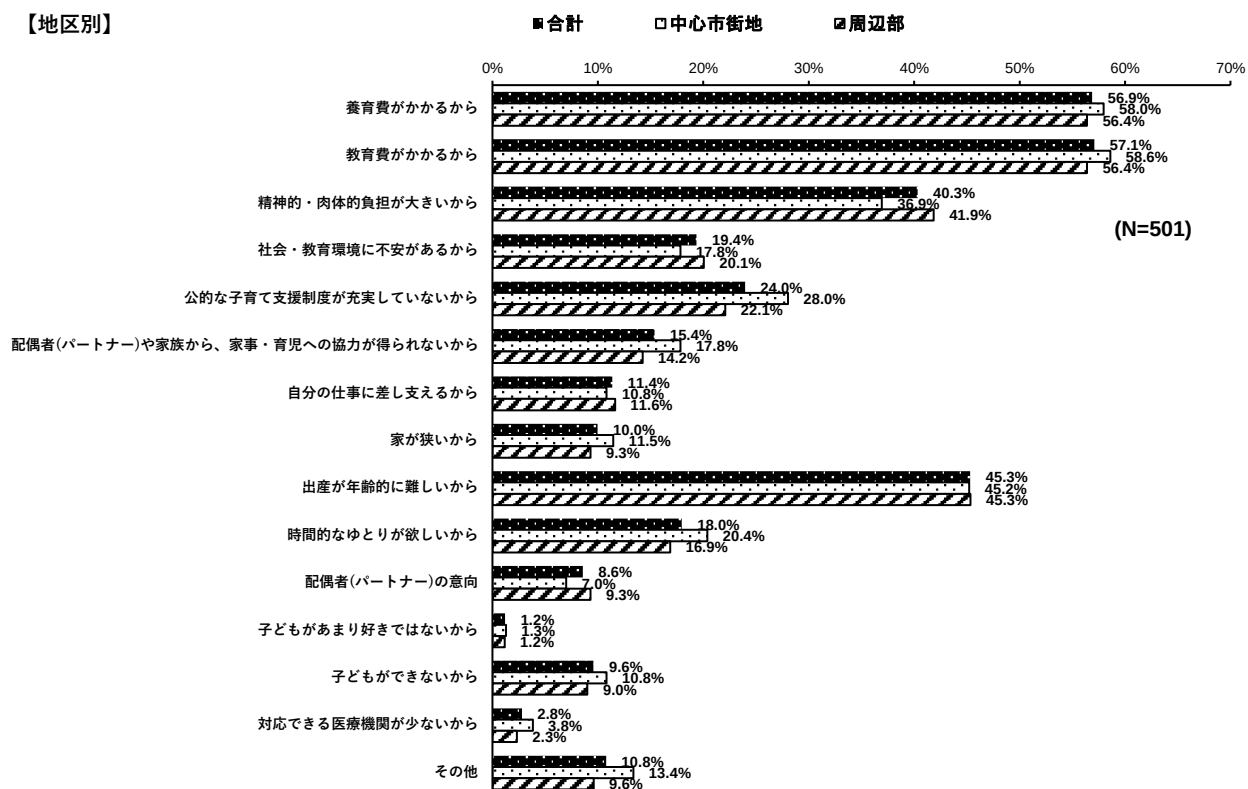
16. 理想的と考える人数の子どもを持たない・持たない理由

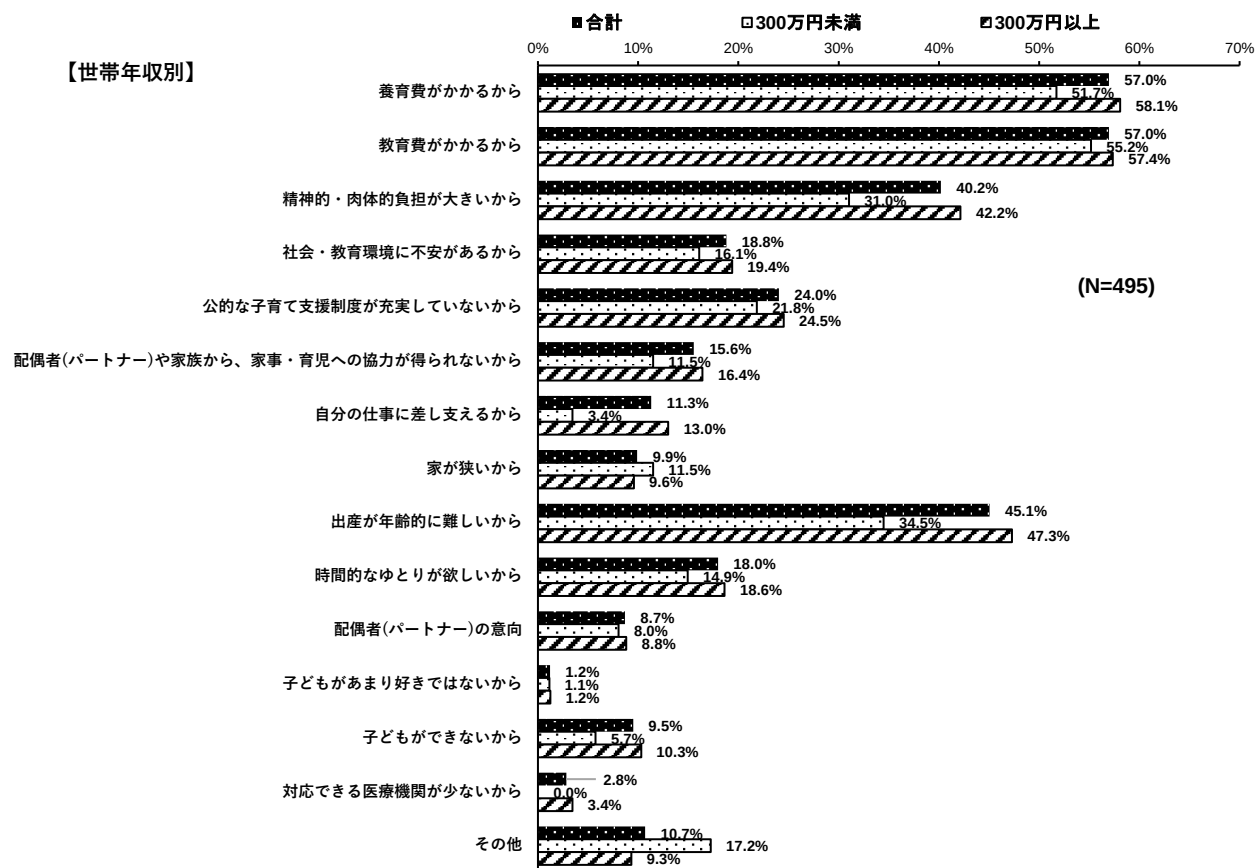
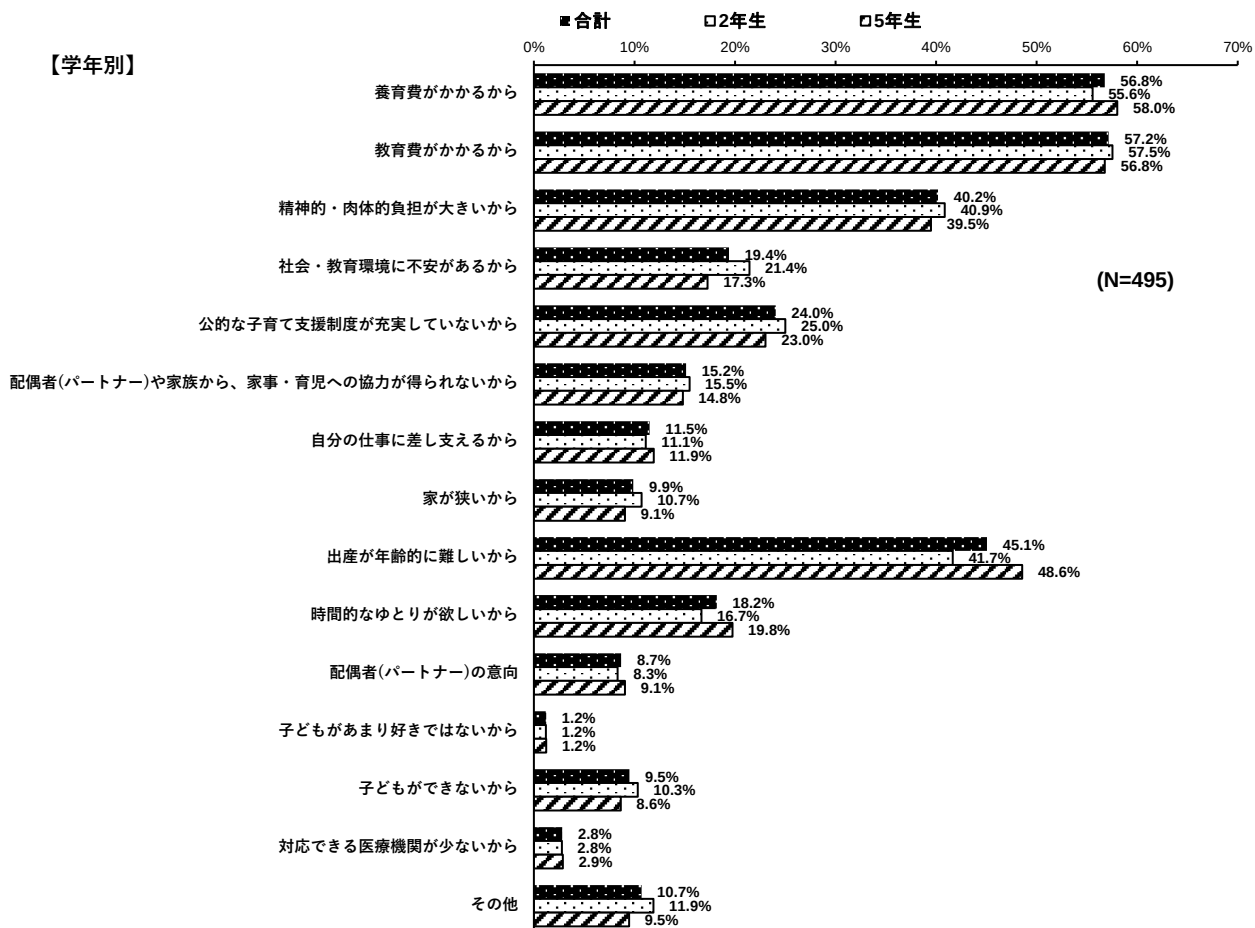
「養育費がかかるから」と「教育費がかかるから」が同率の53.6%と最も高く、次いで「出産が年齢的に難しいから」が48.0%となっている。

世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯で「出産が年齢的に難しいから」が34.5%に対し、300万円以上の世帯では47.3%と12.8ポイント高くなっている。



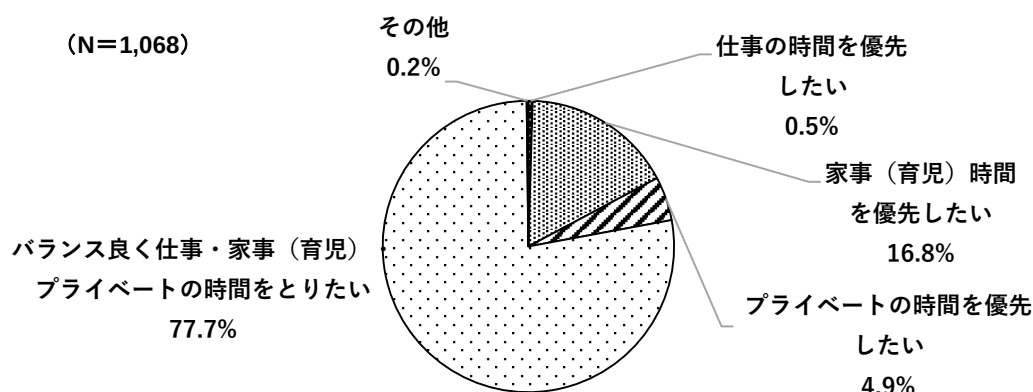
【地区別】



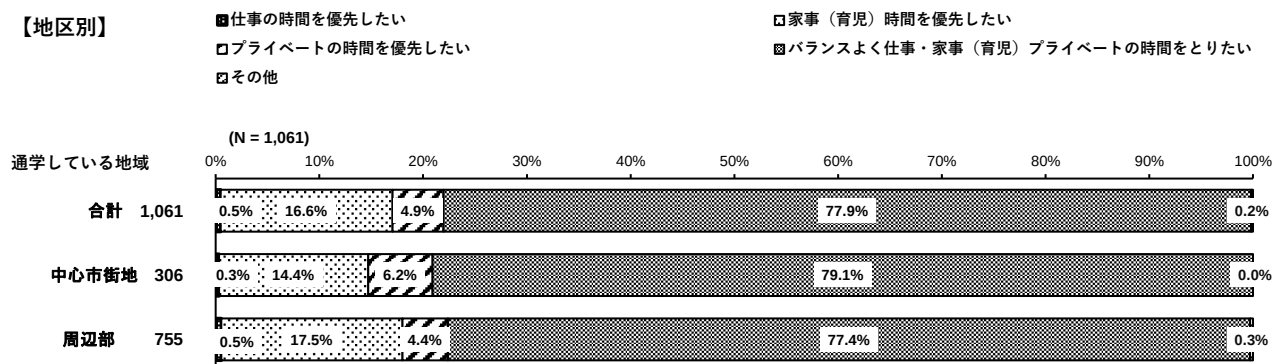


17. 【母親】「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【希望】

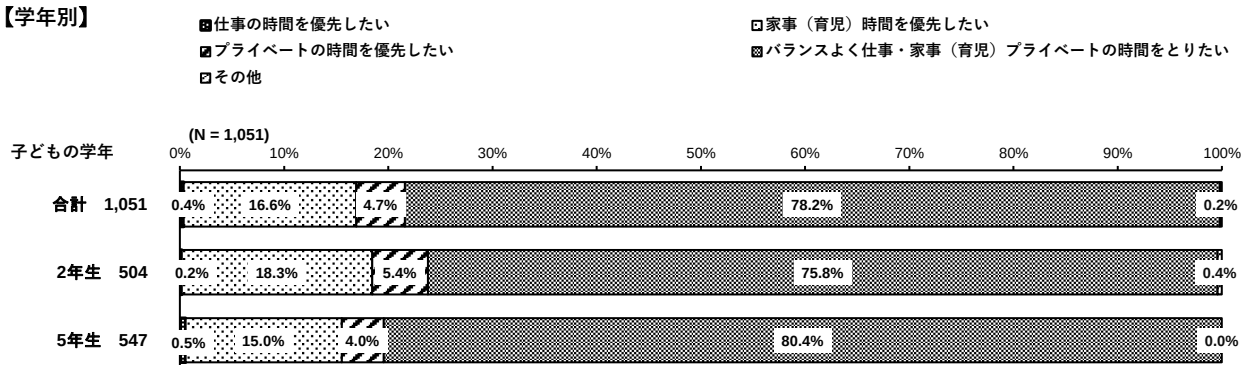
「バランス良く仕事・家事（育児）・プライベートの時間をとりたい」が77.7%と最も高く、次いで「家事（育児）時間を優先したい」が16.8%、「プライベートの時間を優先したい」が4.9%となっている。



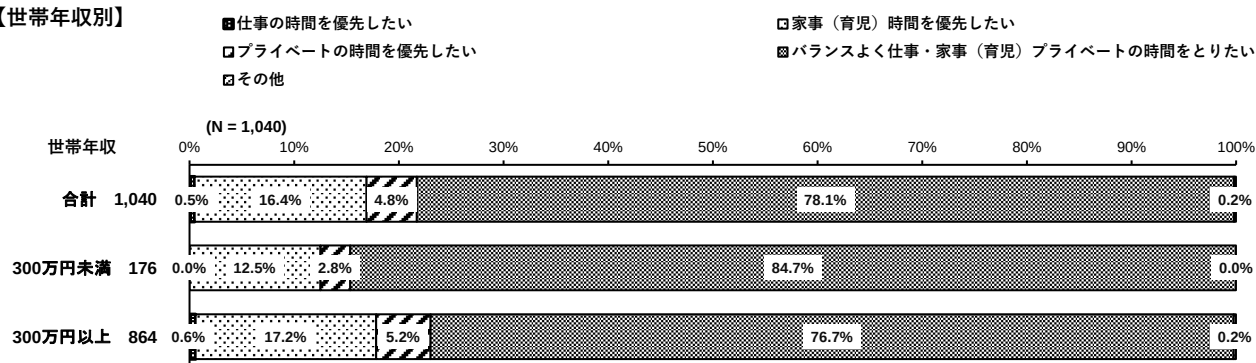
【地区別】



【学年別】



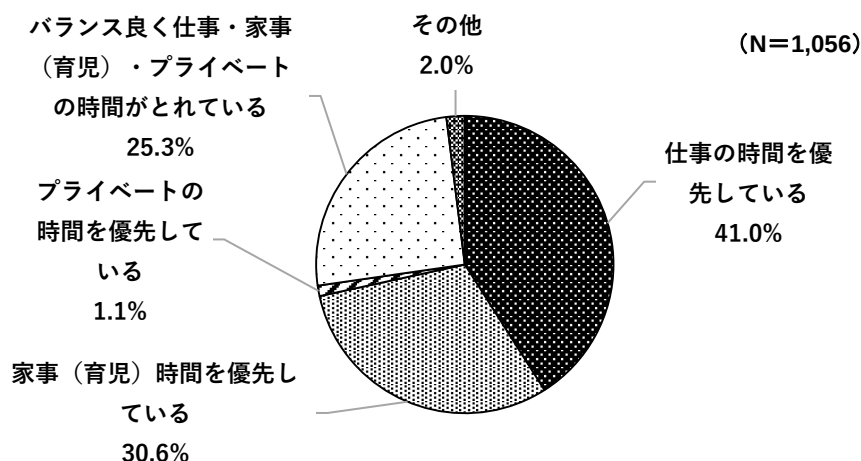
【世帯年収別】



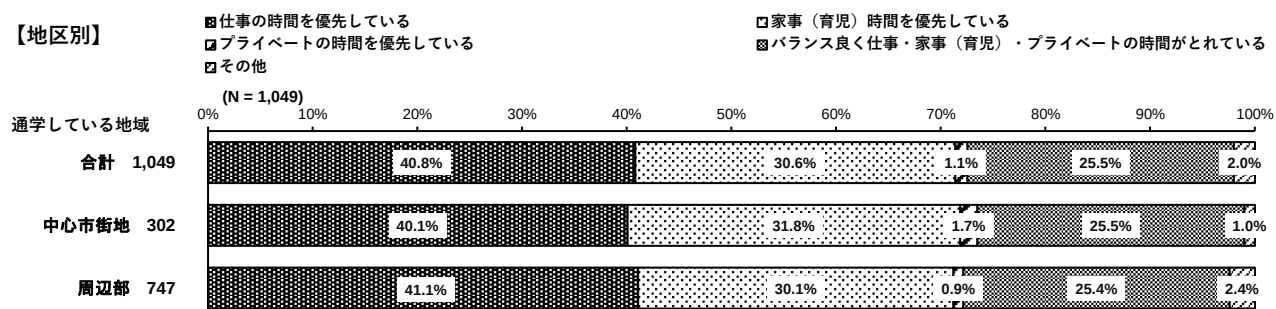
18. 【母親】「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【現実】

「仕事の時間を優先している」が41.0%と最も高く、次いで「家事（育児）時間を優先している」が30.6%となっている。

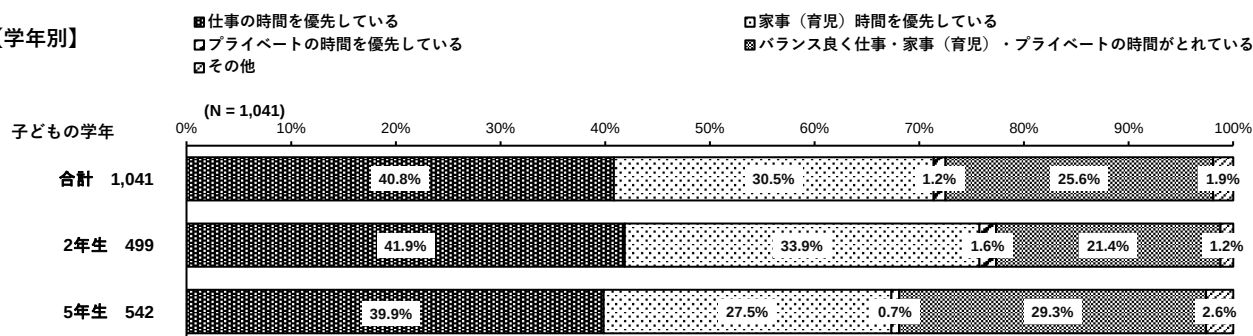
希望について質問した前設問では「バランス良く仕事・家事（育児）・プライベートの時間をとりたい」が77.7%であったが、現実に関する本設問では25.3%と、大きく差が出ている。



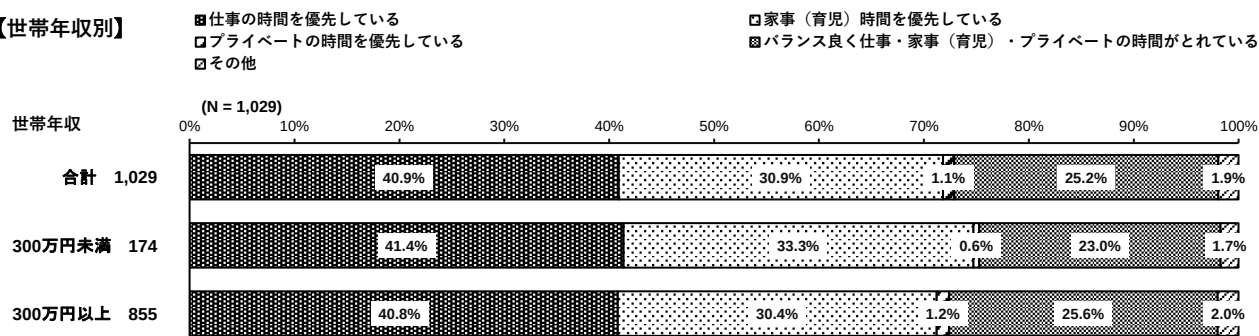
【地区別】



【学年別】

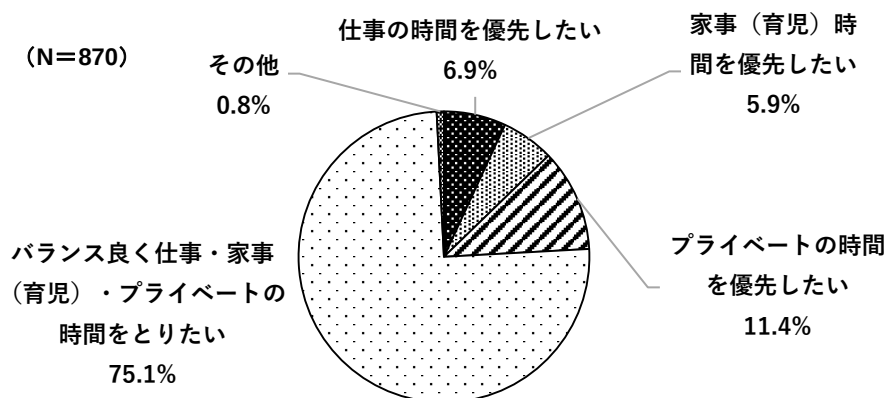


【世帯年収別】



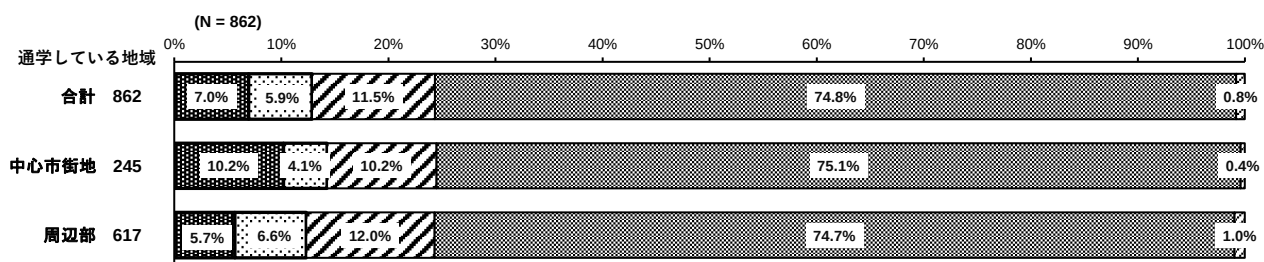
19. 【父親】「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【希望】

「バランス良く仕事・家事（育児）・プライベートの時間をとりたい」が75.1%と最も高く、次いで「プライベートの時間を優先したい」が11.4%、「仕事の時間を優先したい」が6.9%となっている。



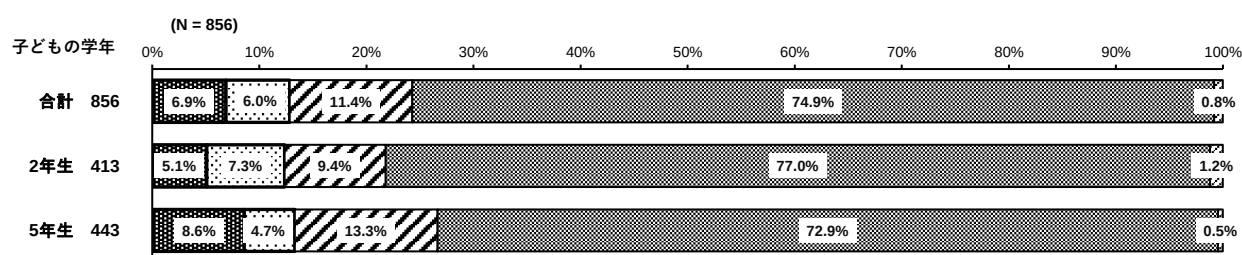
【地区別】

- 仕事の時間を優先したい
- 家事（育児）時間を優先したい
- バランス良く仕事・家事（育児）・プライベートの時間をとりたい
- その他



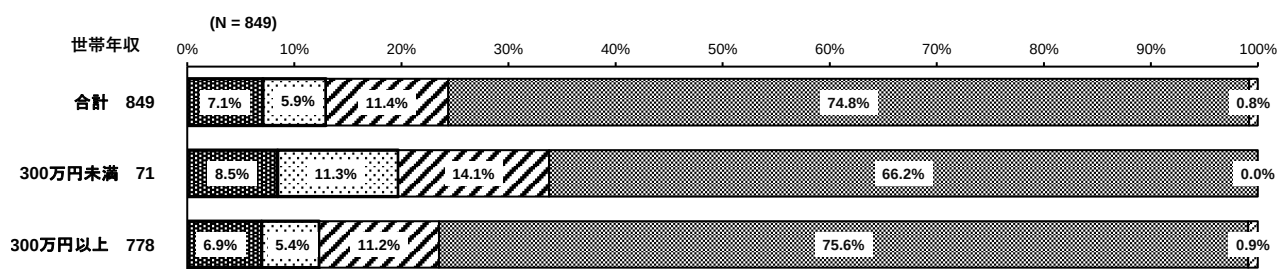
【学年別】

- 仕事の時間を優先したい
- 家事（育児）時間を優先したい
- バランス良く仕事・家事（育児）・プライベートの時間をとりたい
- その他



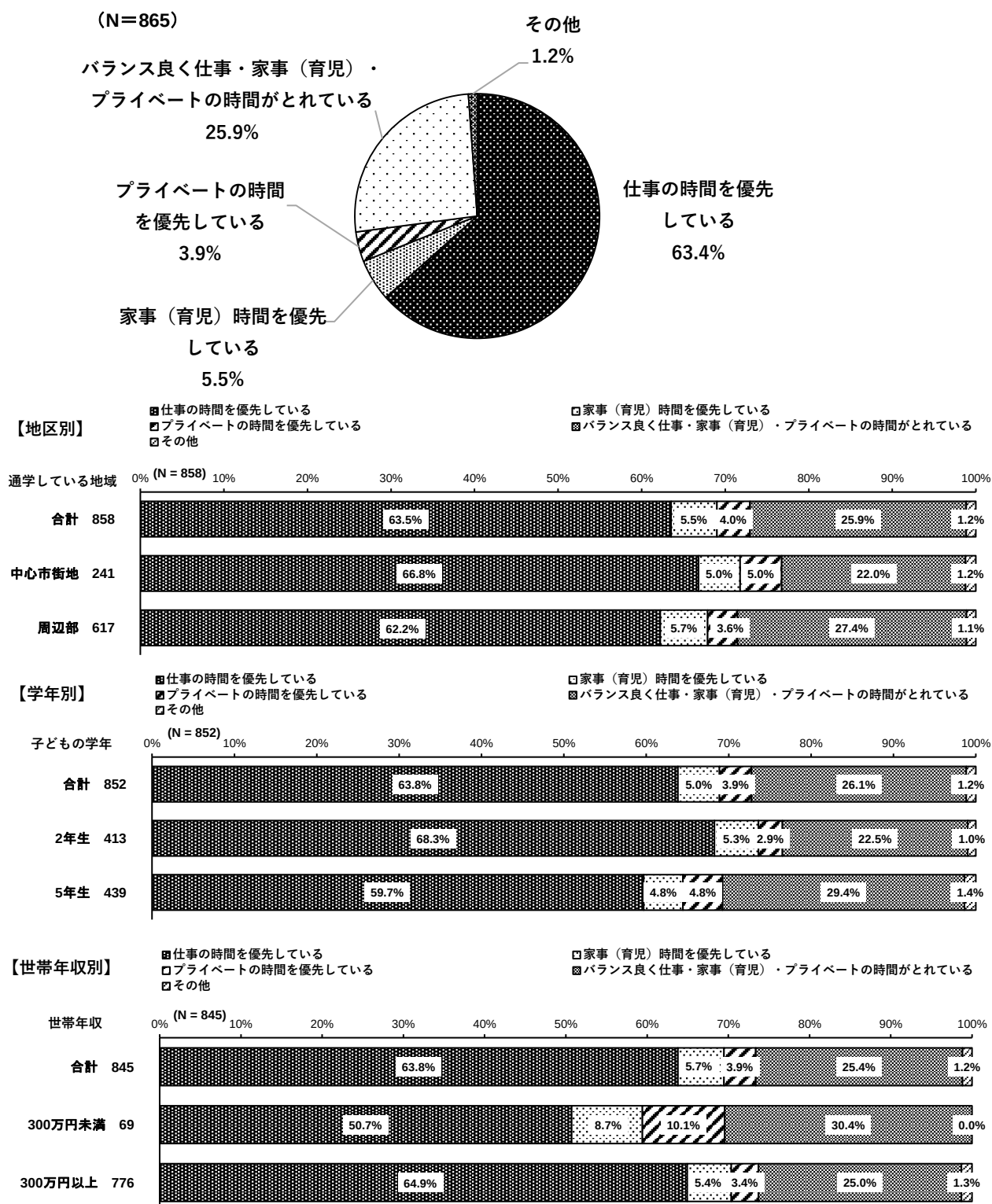
【世帯年収別】

- 仕事の時間を優先したい
- 家事（育児）時間を優先したい
- バランス良く仕事・家事（育児）・プライベートの時間をとりたい
- その他



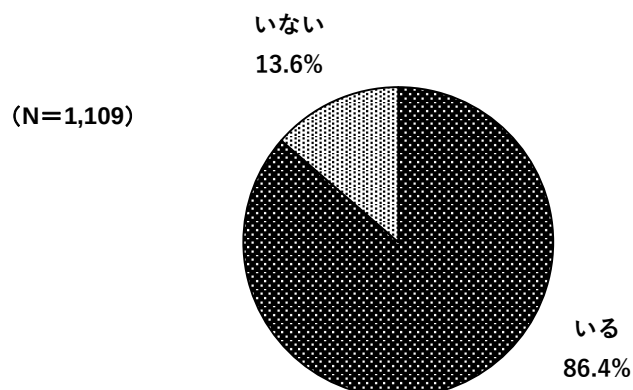
20. 【父親】「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の優先度【現実】

「仕事の時間を優先している」が63.4%と最も高く、次いで「バランス良く仕事・家事（育児）・プライベートの時間がとれている」が25.9%、「家事（育児）時間を優先している」が5.5%となっている。希望について質問した前設問では「バランス良く仕事・家事（育児）・プライベートの時間をとりたい」が75.1%であったが、現実では25.9%と、母親と同様に大きく差が出ている。

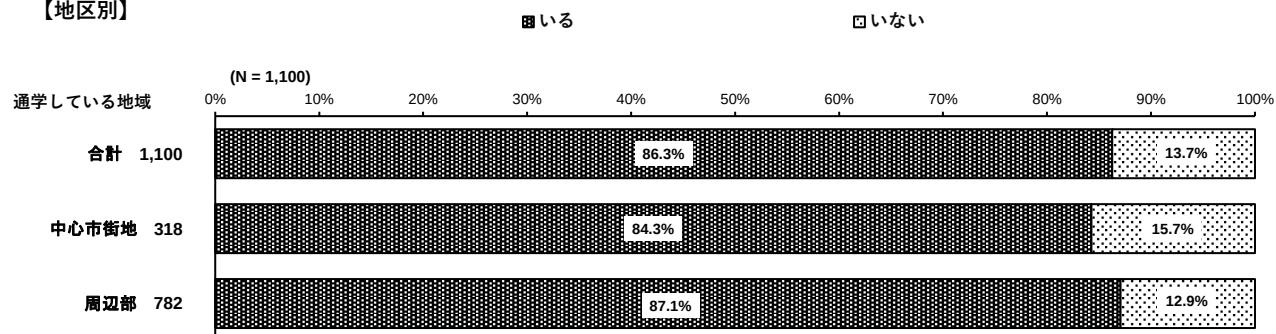


21. 子育てについて気軽に相談できる人（場所）の有無

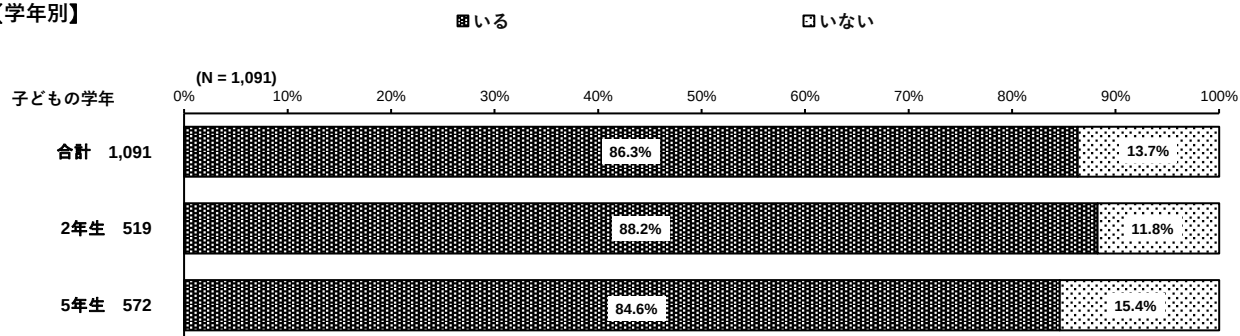
「いる」は86.4%、「いない」は13.6%であった。



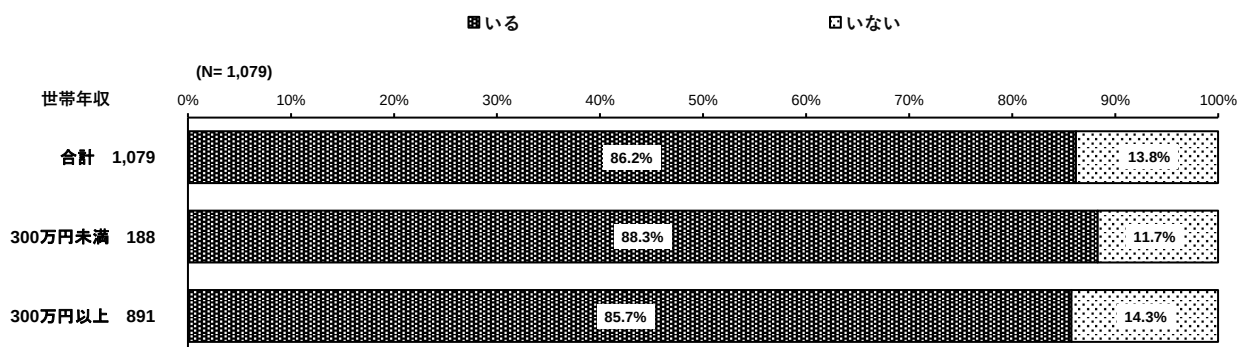
【地区別】



【学年別】



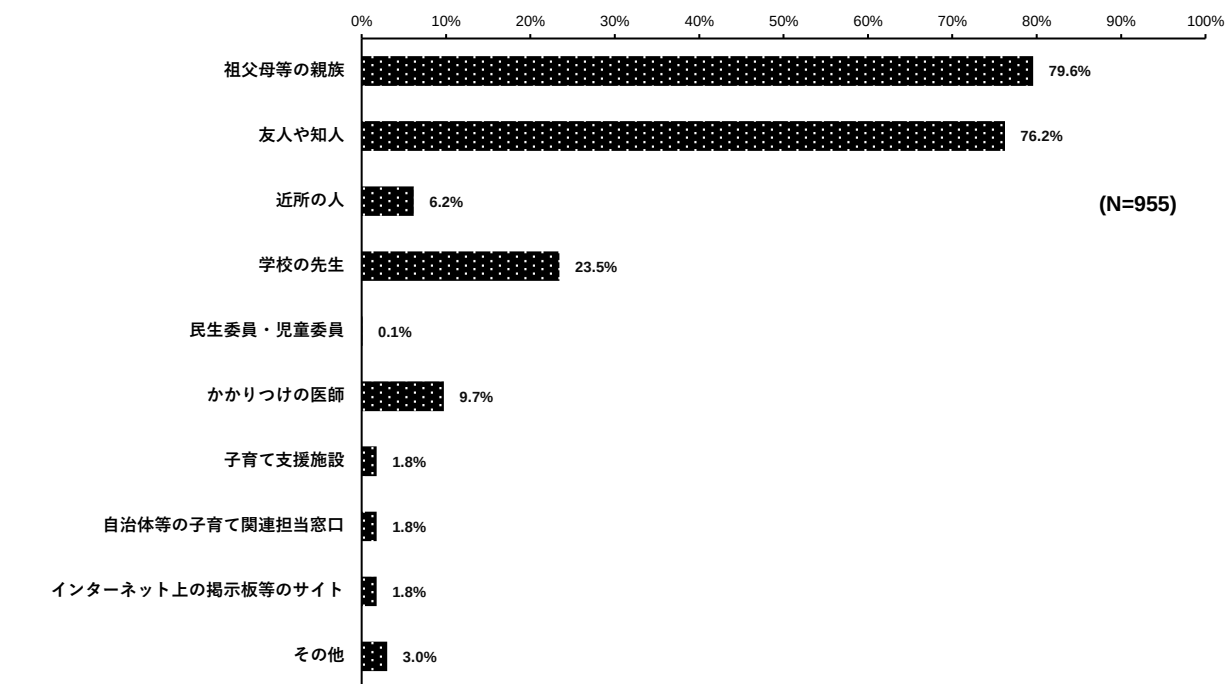
【世帯年収別】



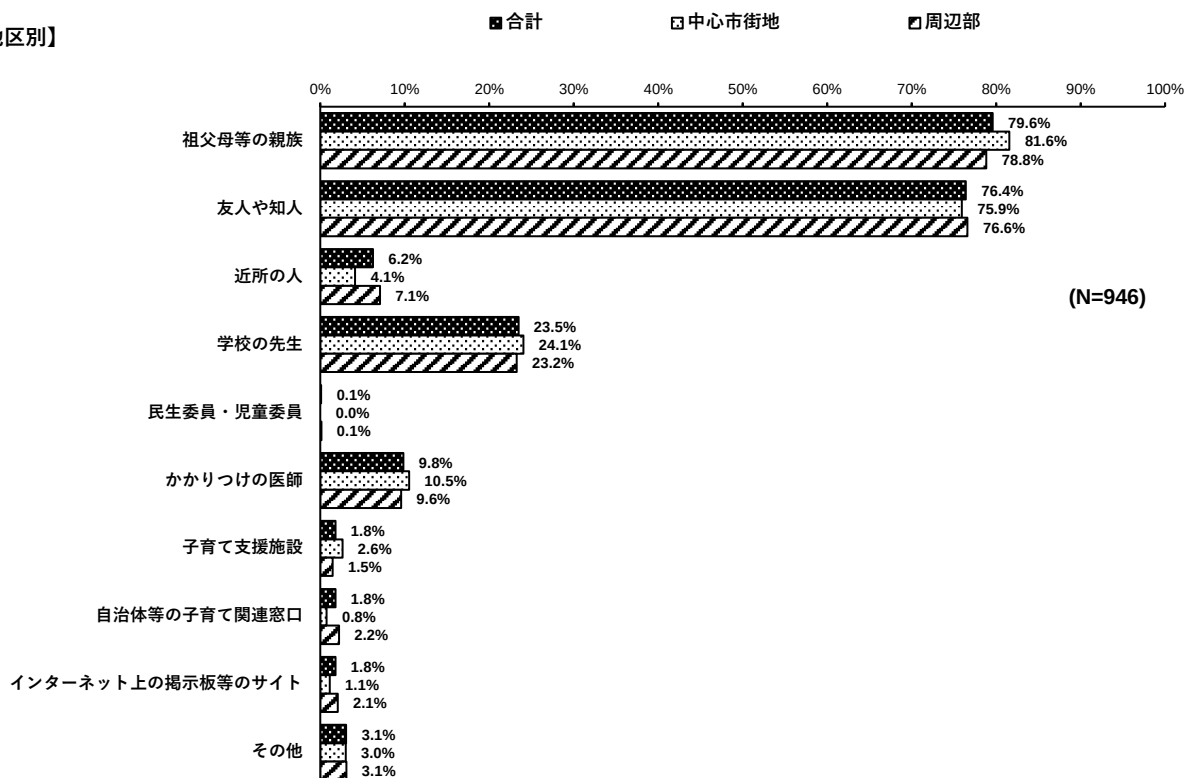
22. 子育てについて気軽に相談できる先

「祖父母等の親族」が79.6%と最も高く、次いで「友人や知人」が76.2%、「学校の先生」が23.5%となっている。5年前の調査では「友人や知人」が最も高く、次いで「祖父母等の親族」であった。

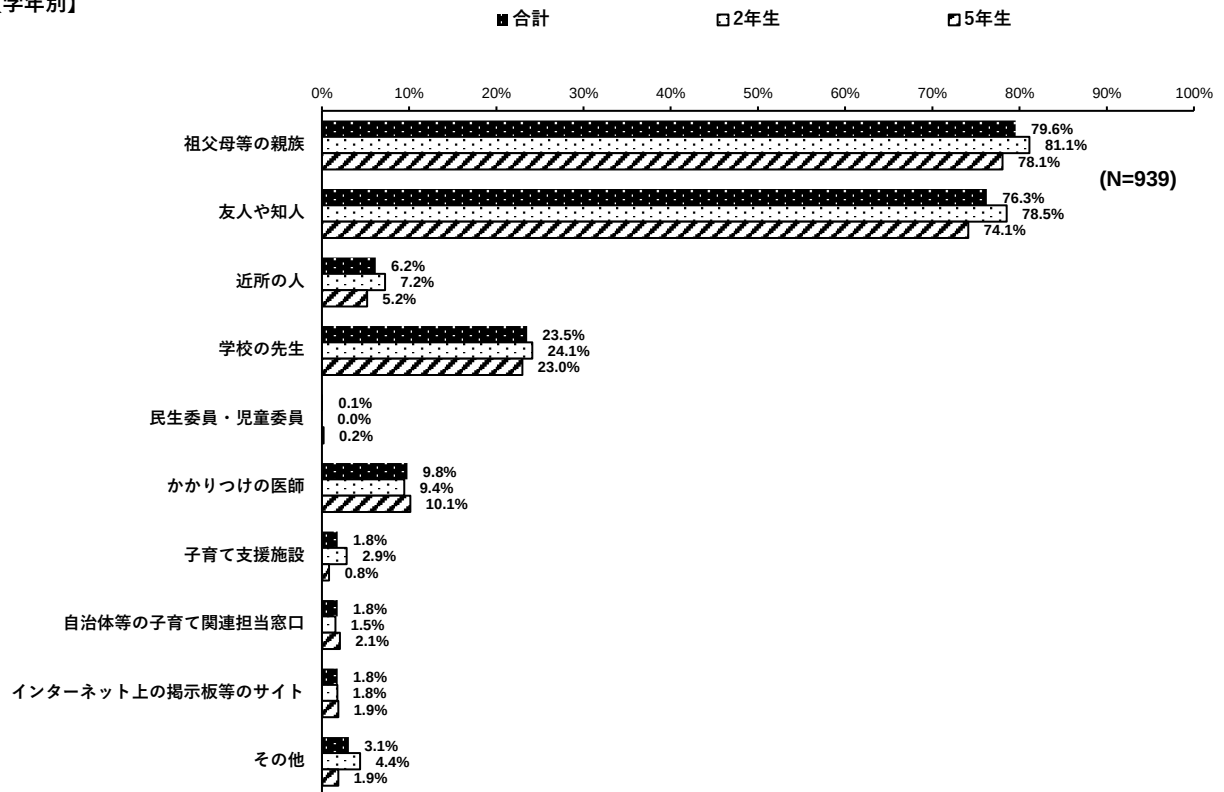
世帯年収別にみたとき、300万円以上の世帯において、「友人や知人」が79.5%とおおよそ8割となっており、300万円未満の世帯の64.5%よりも15ポイント高くなっている。



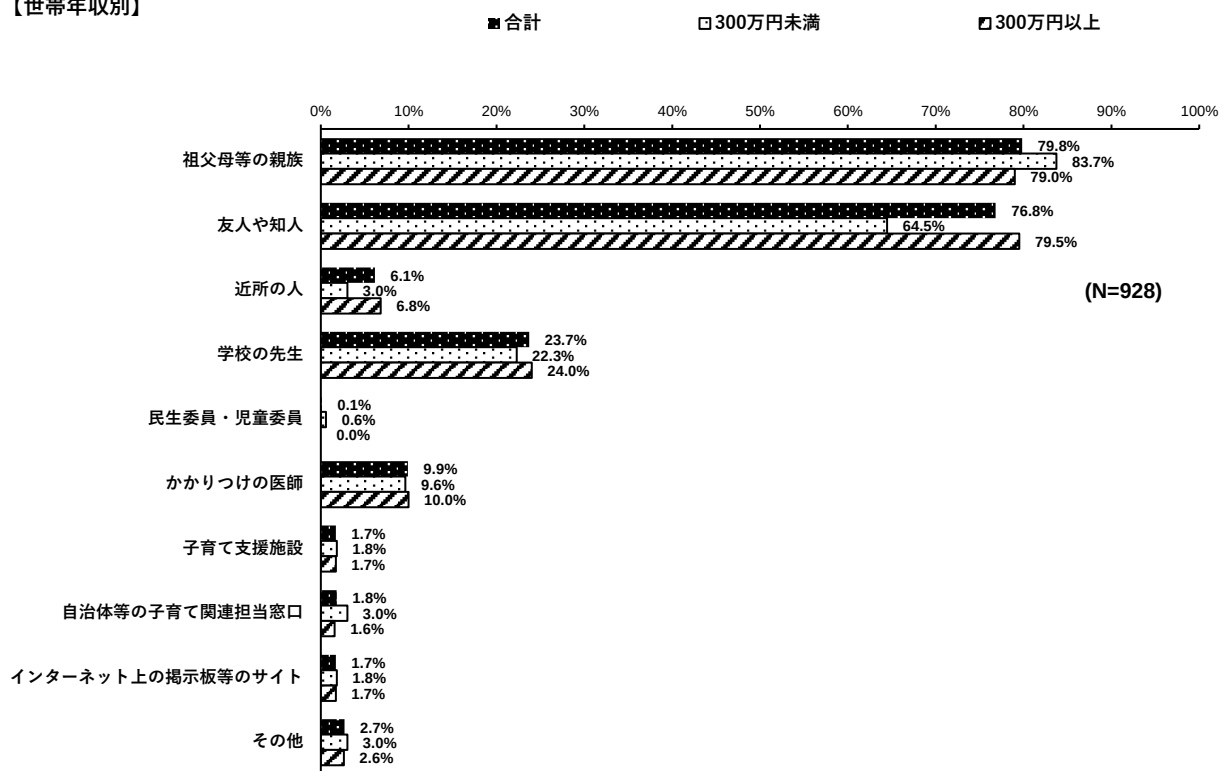
【地区別】



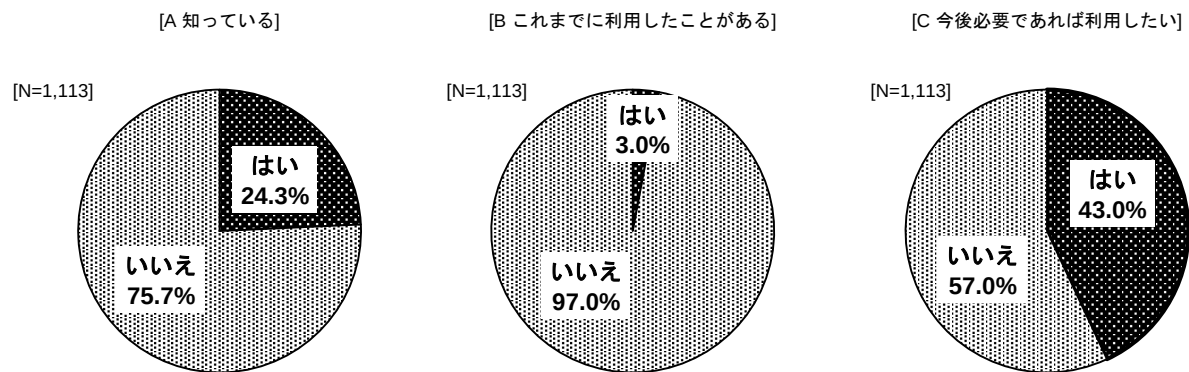
【学年別】



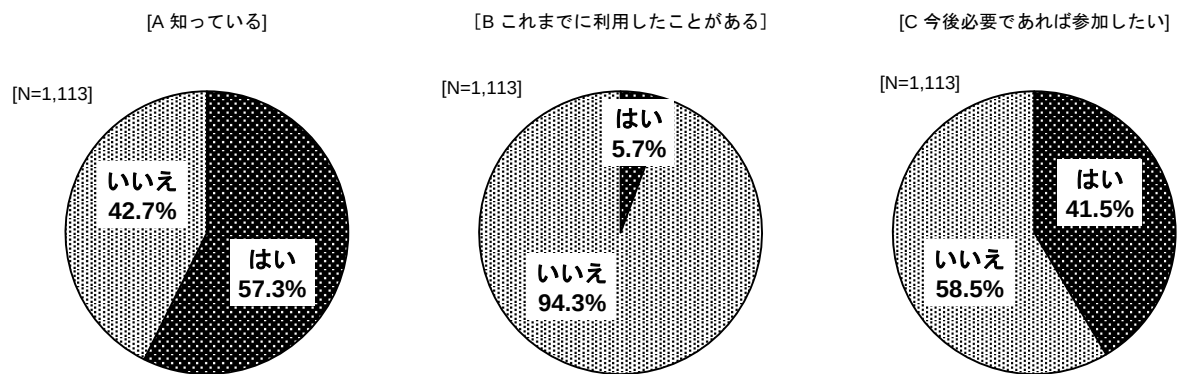
【世帯年収別】



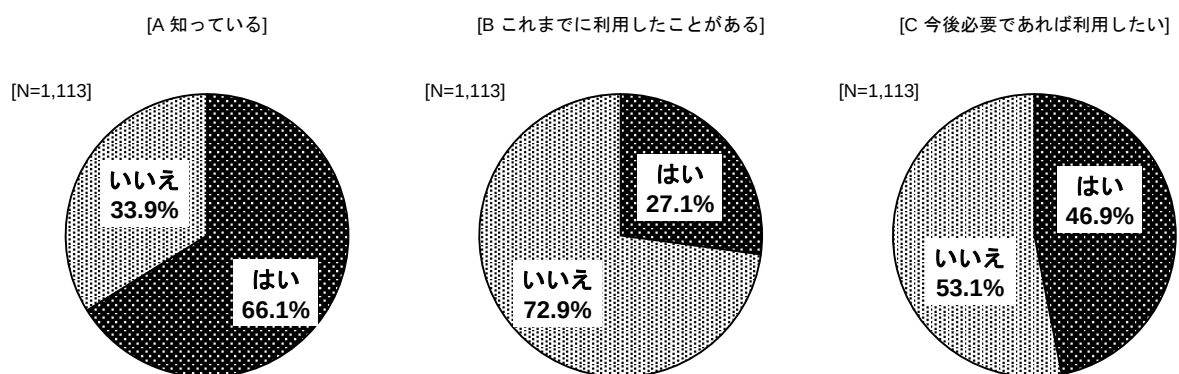
23. 【事業の利用状況】①家庭教育講座



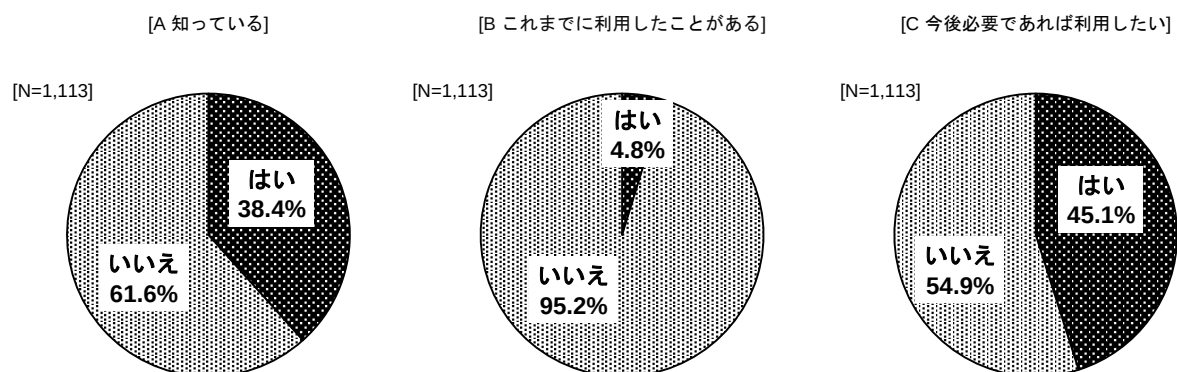
24. 【事業の利用状況】②家庭児童相談室



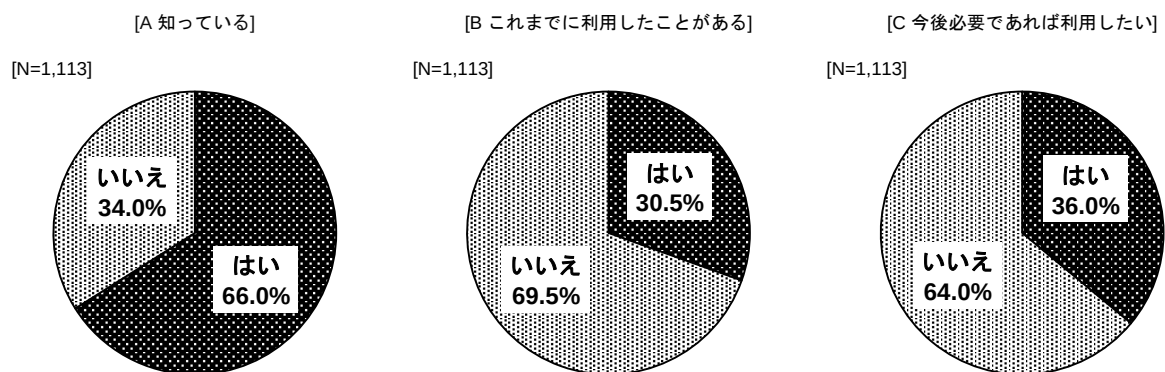
25. 【事業の利用状況】③子育て世代包括支援センター



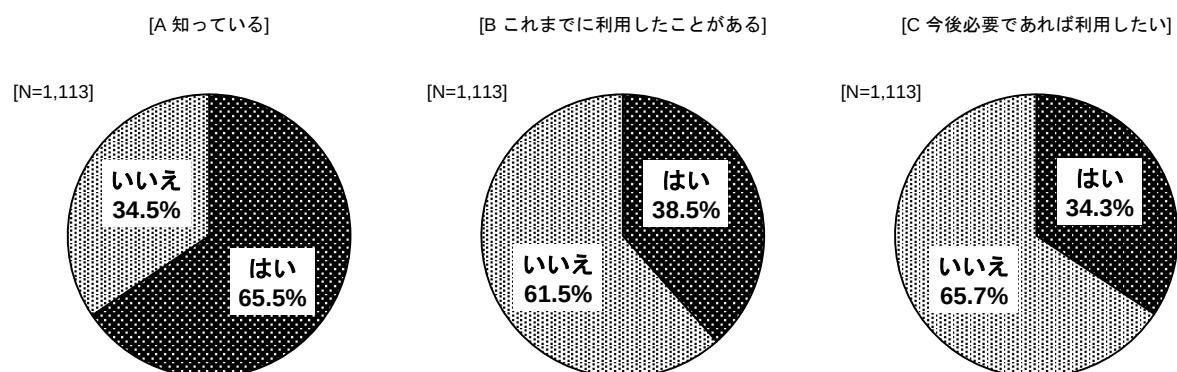
26. 【事業の利用状況】④教育相談室



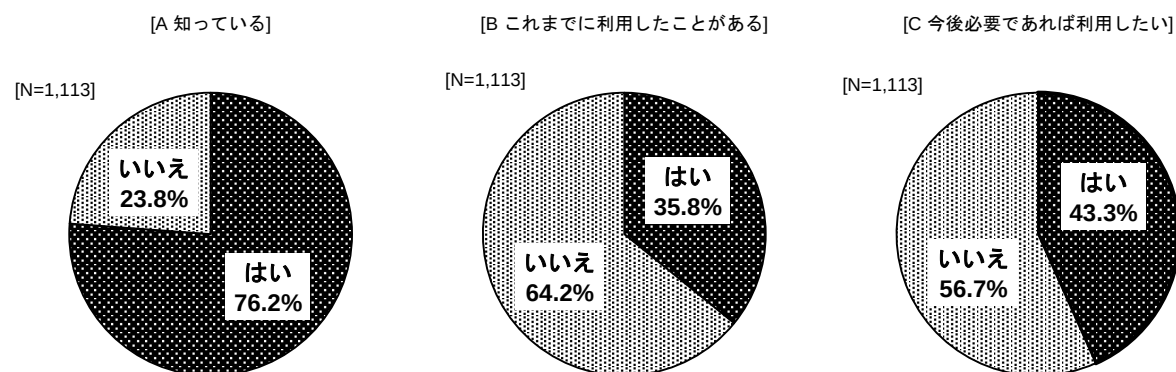
27. 【事業の利用状況】⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放



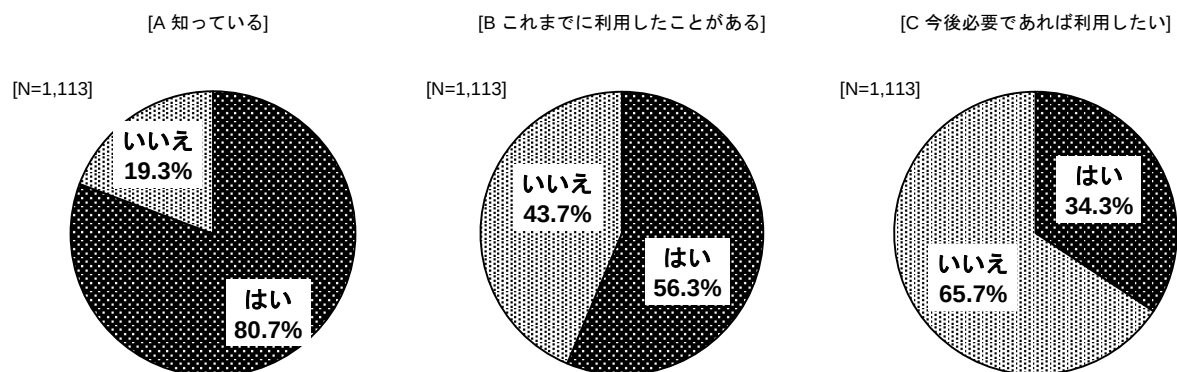
28. 【事業の利用状況】⑥地域子育て支援センター



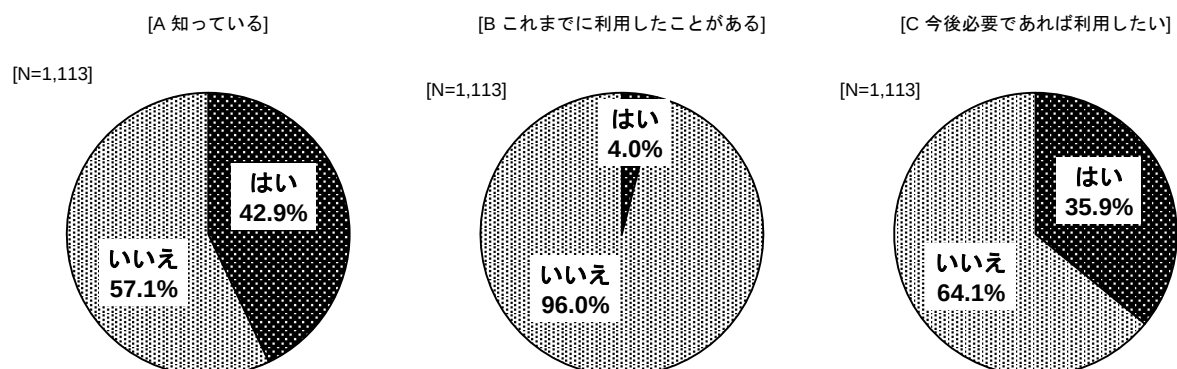
29. 【事業の利用状況】⑦児童館



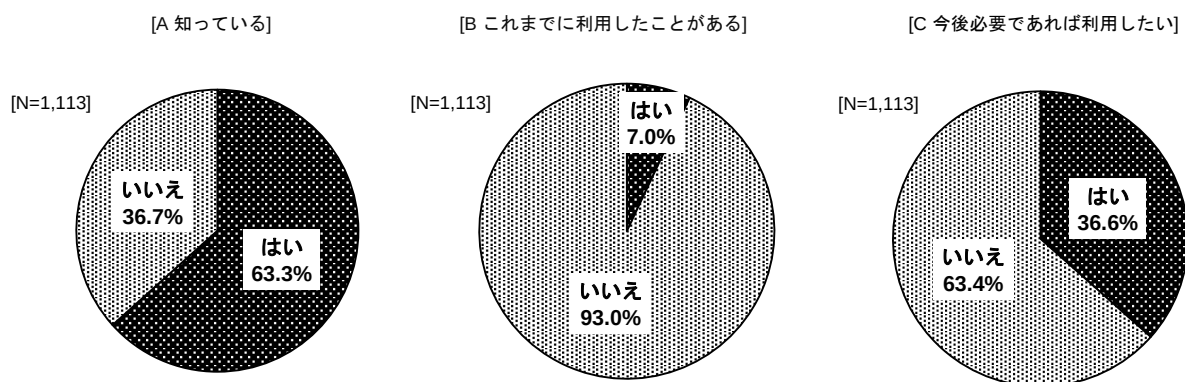
30. 【事業の利用状況】⑧認定こども園



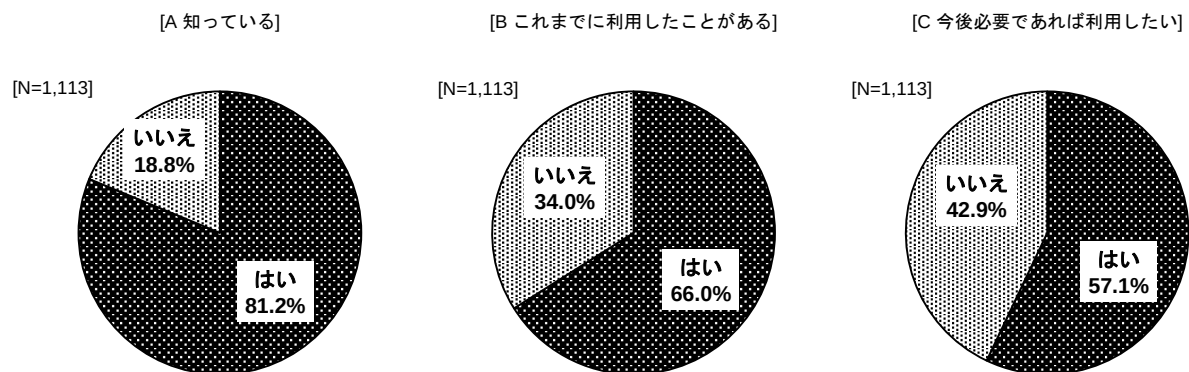
31. 【事業の利用状況】⑨特定保育



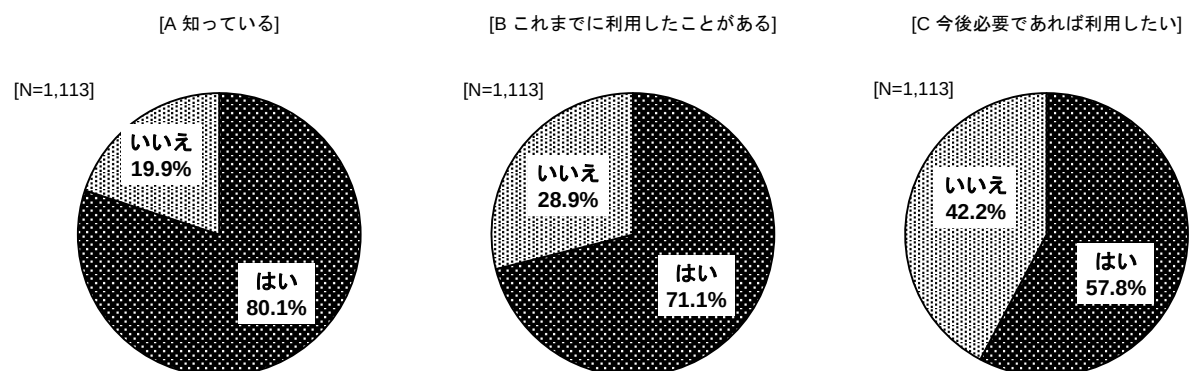
32. 【事業の利用状況】⑩ファミリーサポート・センター



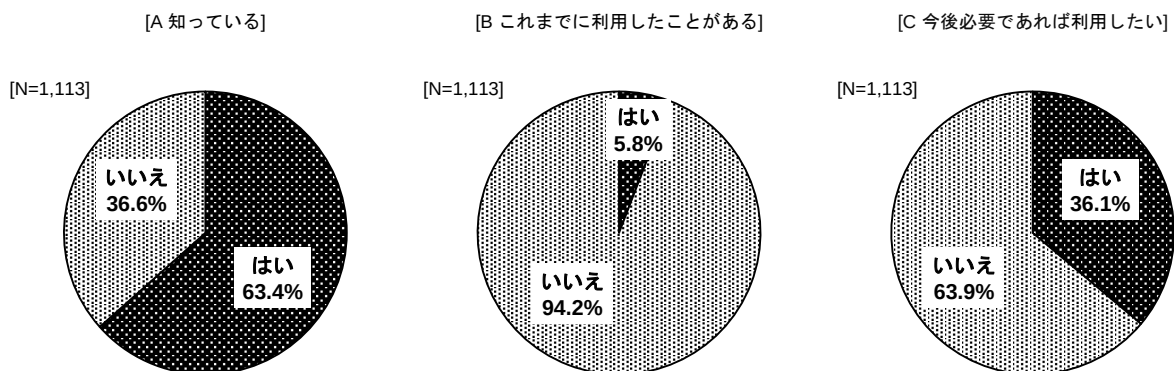
33. 【事業の利用状況】⑪夜間急病センター



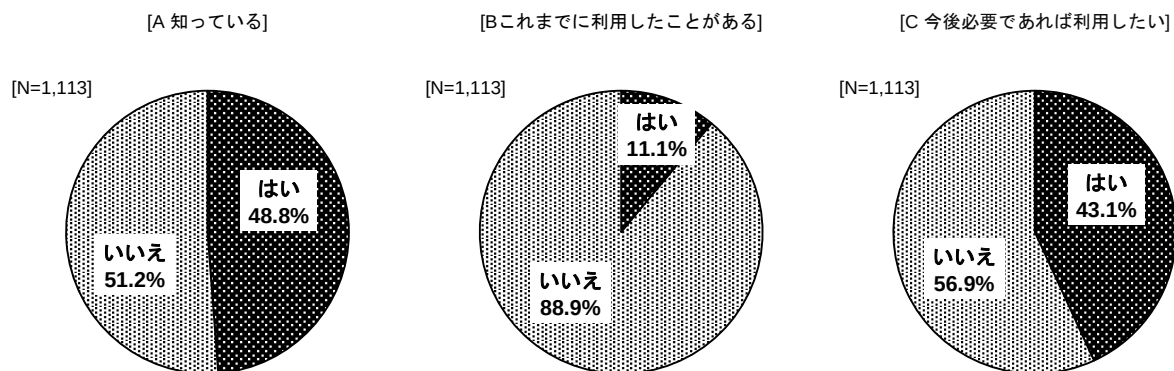
34. 【事業の利用状況】⑫休日当番医制事業



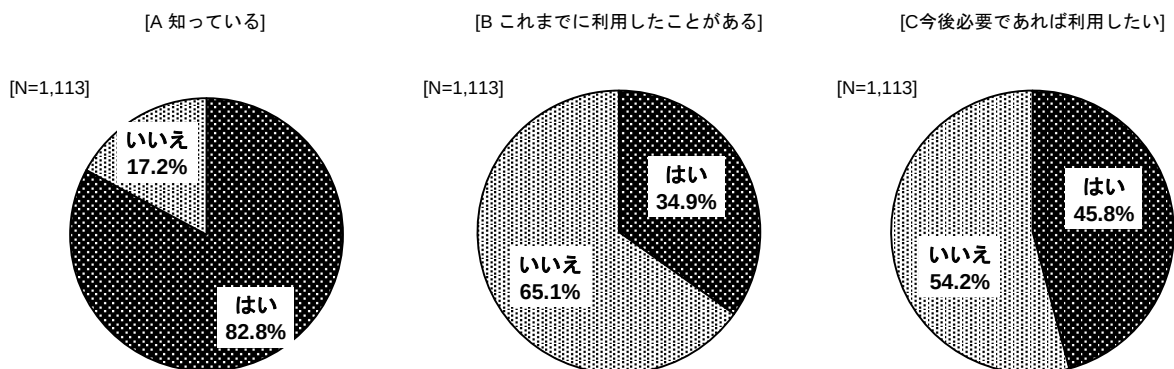
35. 【事業の利用状況】⑬障がい児相談支援・障がい福祉サービス



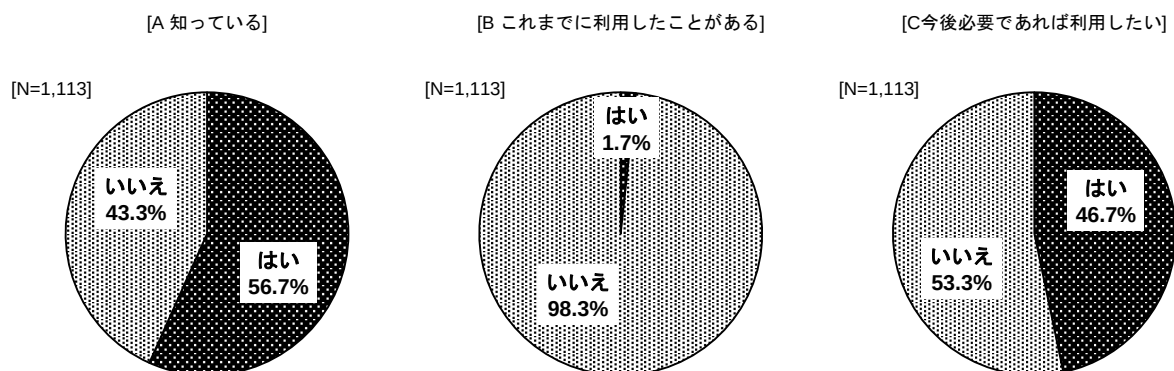
36. 【事業の利用状況】⑭子育て支援チラシ



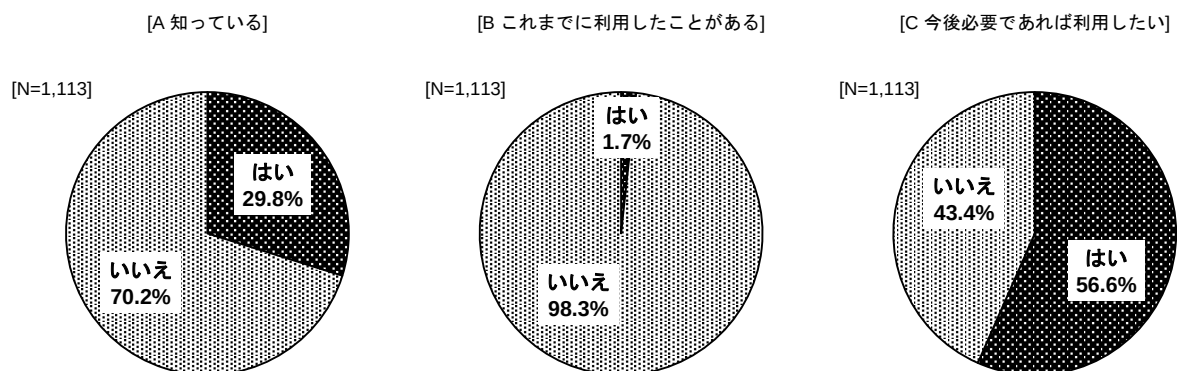
37. 【事業の利用状況】⑮市政だより、市のホームページ



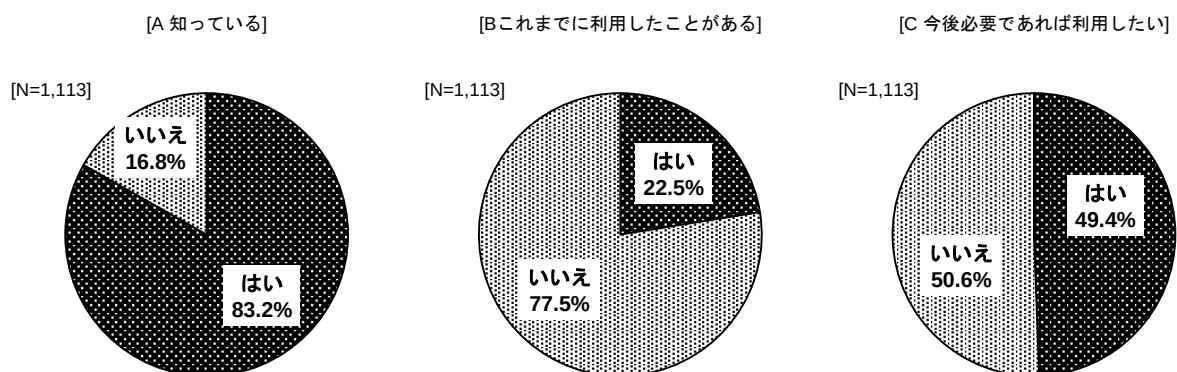
38. 【事業の利用状況】⑯虐待が心配な場合の市への通報制度



39. 【事業の利用状況】⑰子ども未来基金助成事業

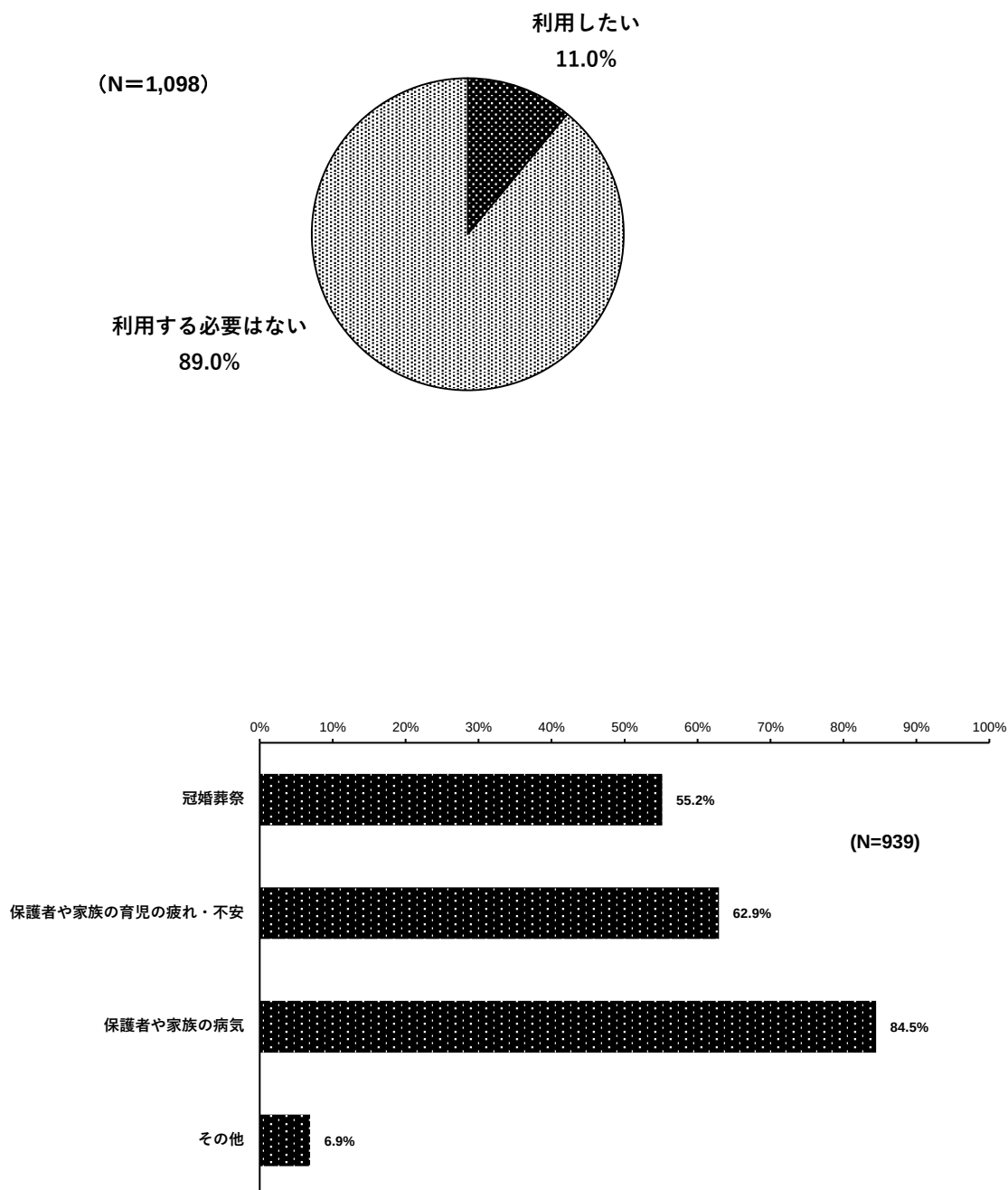


40. 【事業の利用状況】⑱生活保護、児童扶養手当、就学援助



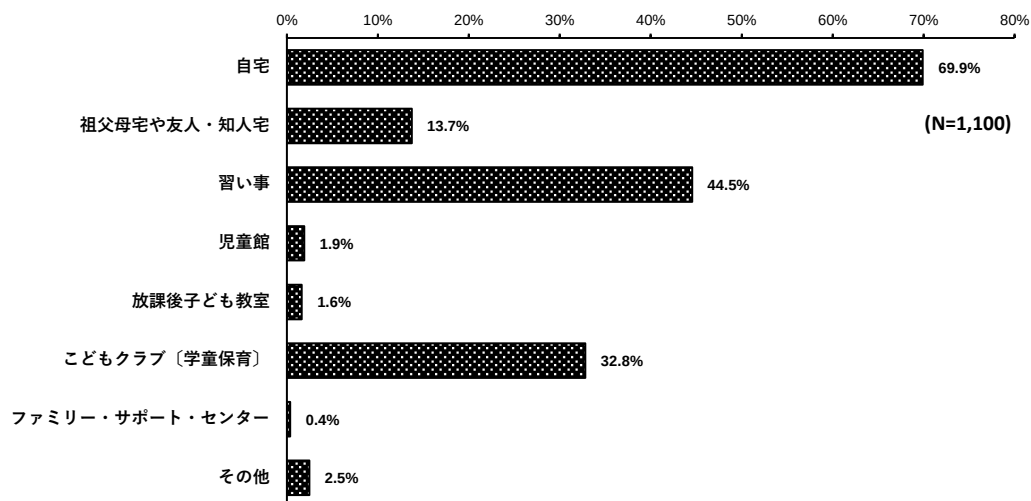
41. 短期入所生活援助事業の利用の有無

「利用する必要はない」は89.0%、「利用したい」は11.0%となっている。
利用する目的としては「保護者や家族の病気」が84.5%、次いで「保護者や家族の育児の疲れ」が62.9%、「冠婚葬祭」が55.2%となっている。



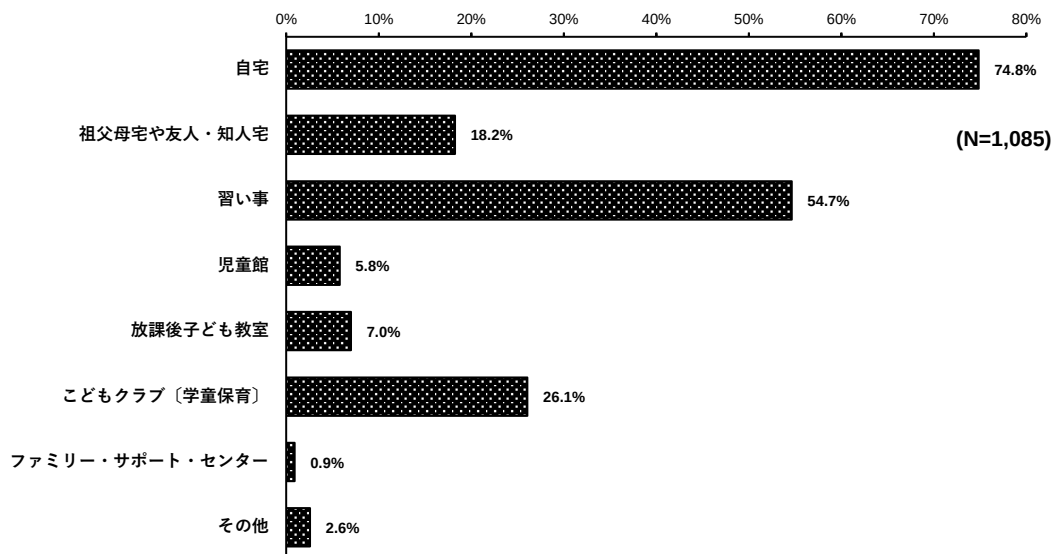
42. 放課後に過ごす場所/【現在の状況】

「自宅」が69.9%と最も高く、次いで「習い事」が44.5%、「こどもクラブ」が32.8%となっている。



43. 放課後に過ごす場所/【保護者としての思い】

「自宅」が74.8%と最も高く、次いで「習い事」が54.7%、「こどもクラブ」が26.1%となっている。
【現在の状況】では「習い事」が44.5%と5割未満であったが、【保護者としての思い】では54.7%と5割を超え、10.2ポイント高くなっている。

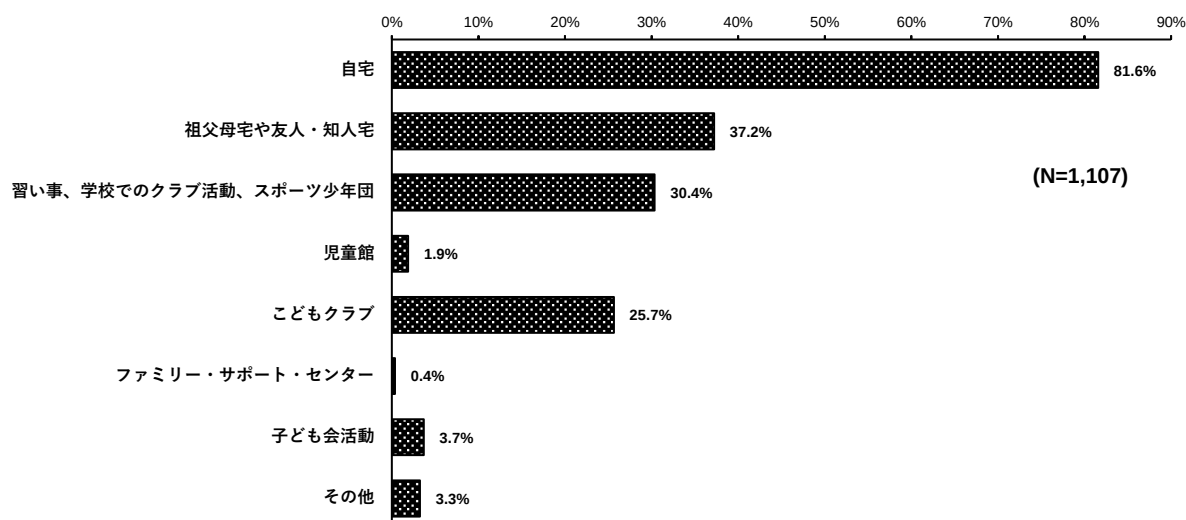


44. 学校が休みの日(夏休みなどを含む)に過ごす場所/【現在の状況】

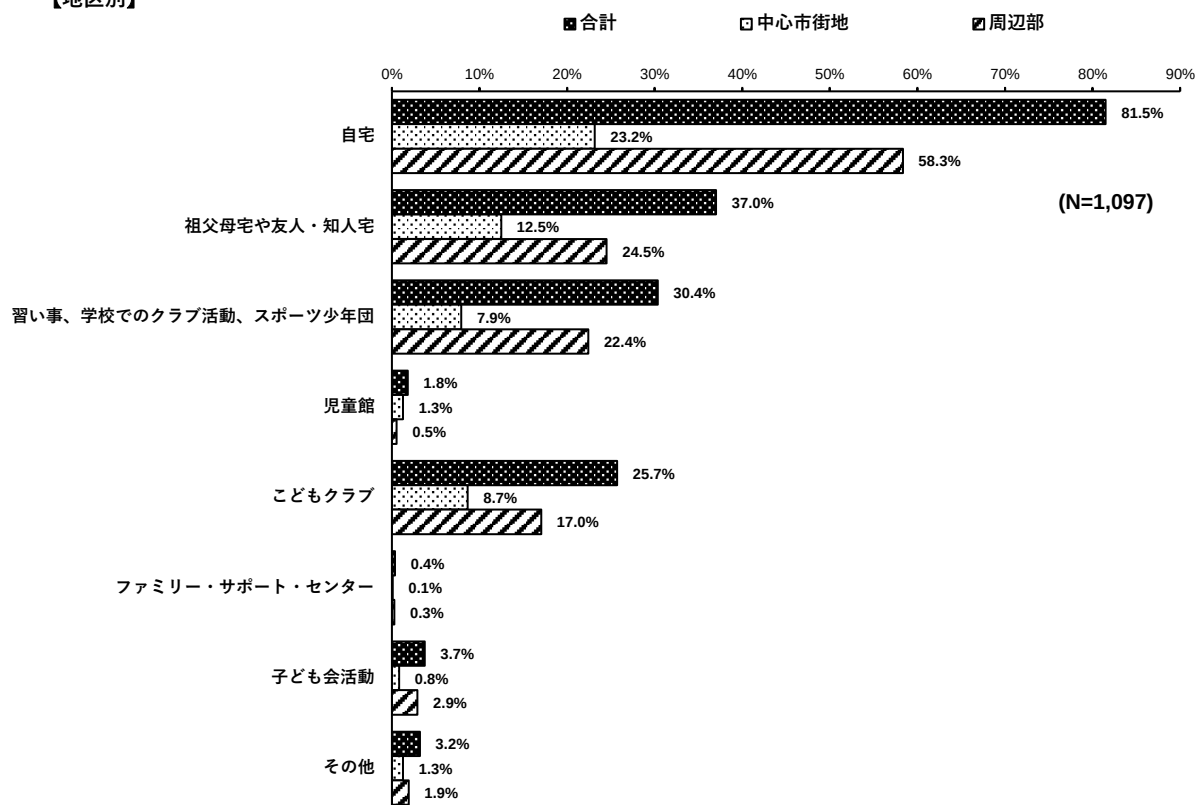
「自宅」が81.6%と最も高く、次いで「祖父母宅や友人・知人宅」が37.2%、「習い事、学校でのクラブ活動、スポーツ少年団」が30.4%となっている。

学年別にみたとき、5年生では「自宅」「習い事、学校でのクラブ活動、スポーツ少年団」の回答割合が2年生よりも高く、2年生では「こどもクラブ」の回答が4割を超えている。

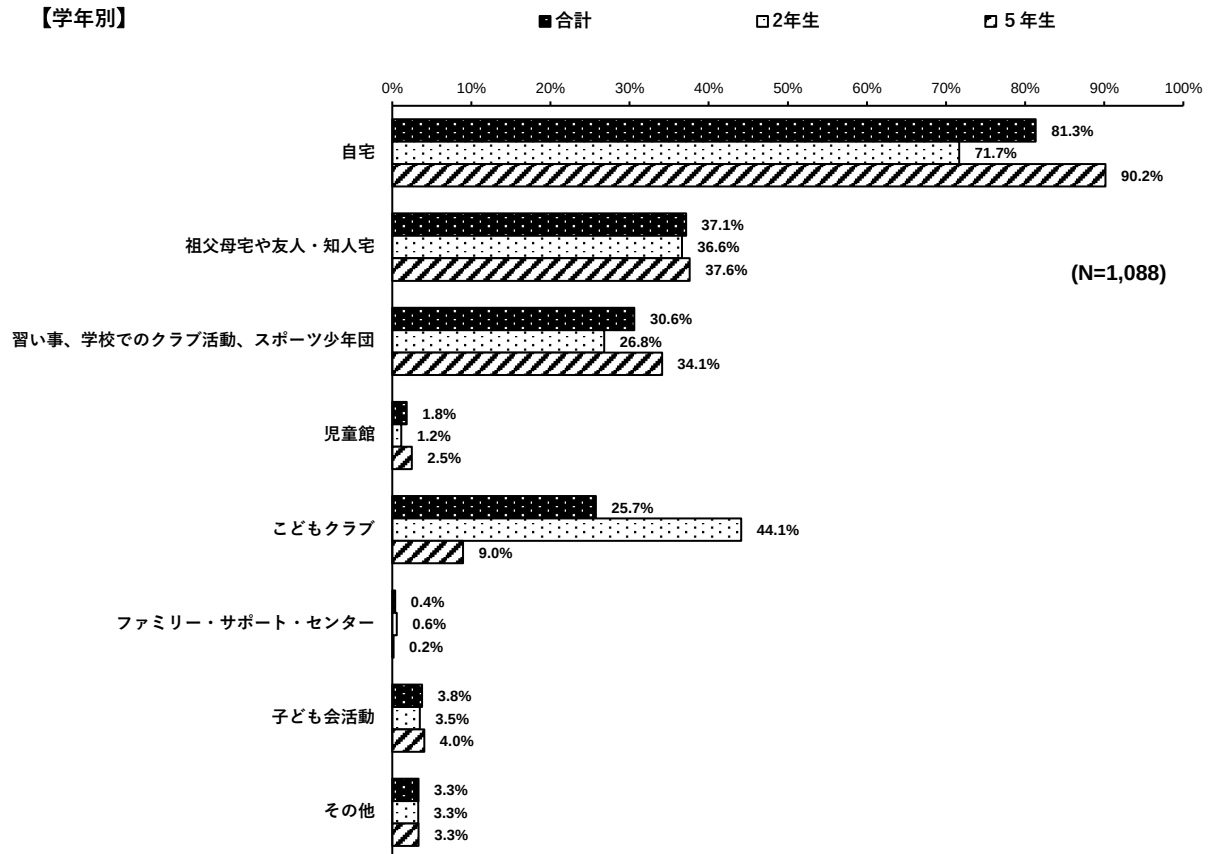
世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において、「習い事、学校でのクラブ活動、スポーツ少年団」の回答割合は22.3%となっており、300万円以上の世帯と比べ、10.2ポイント低くなっている。



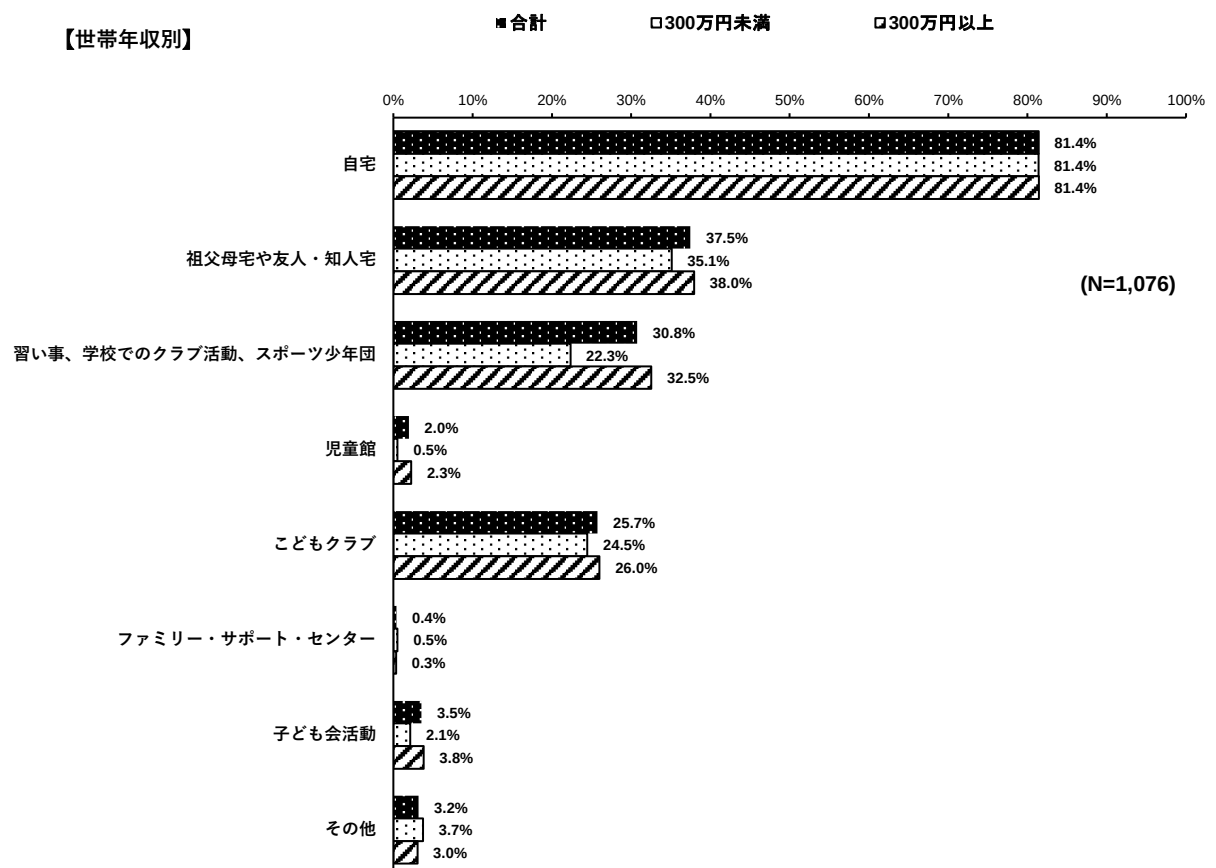
【地区別】



【学年別】



【世帯年収別】

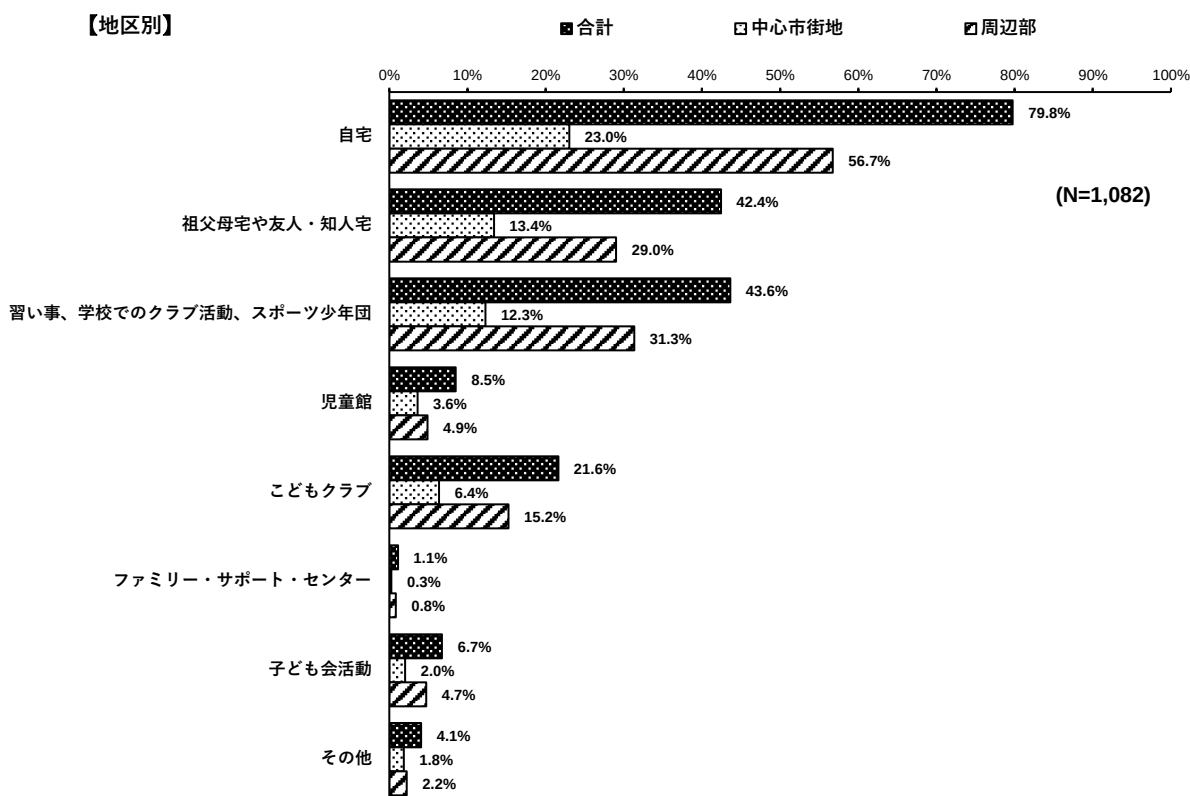
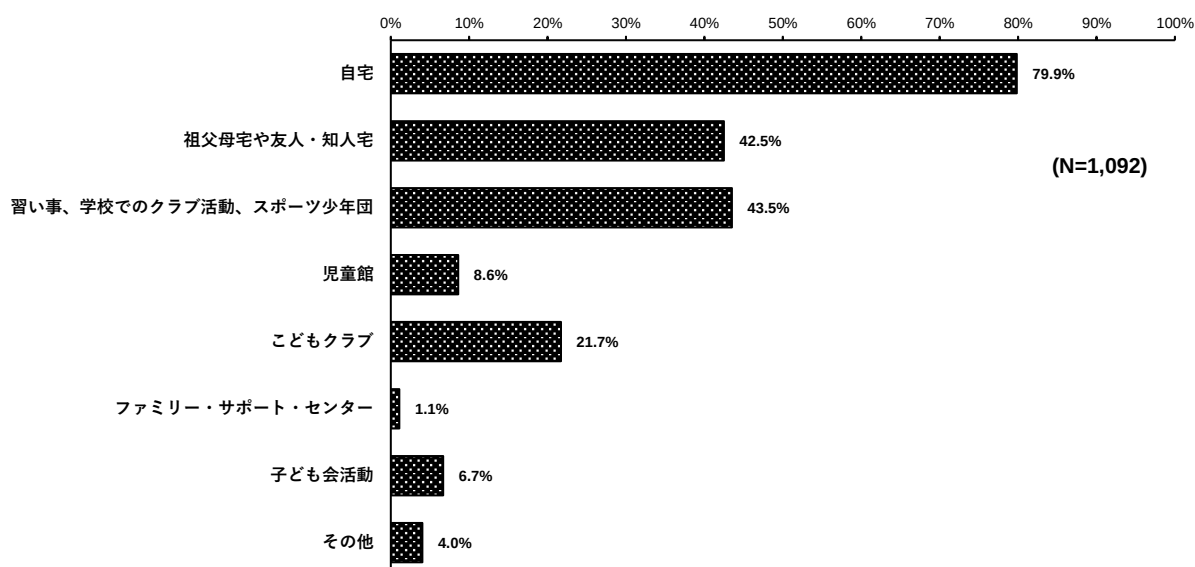


45. 【学校が休みの日(夏休みなどを含む)に過ごす場所/保護者としての思い】

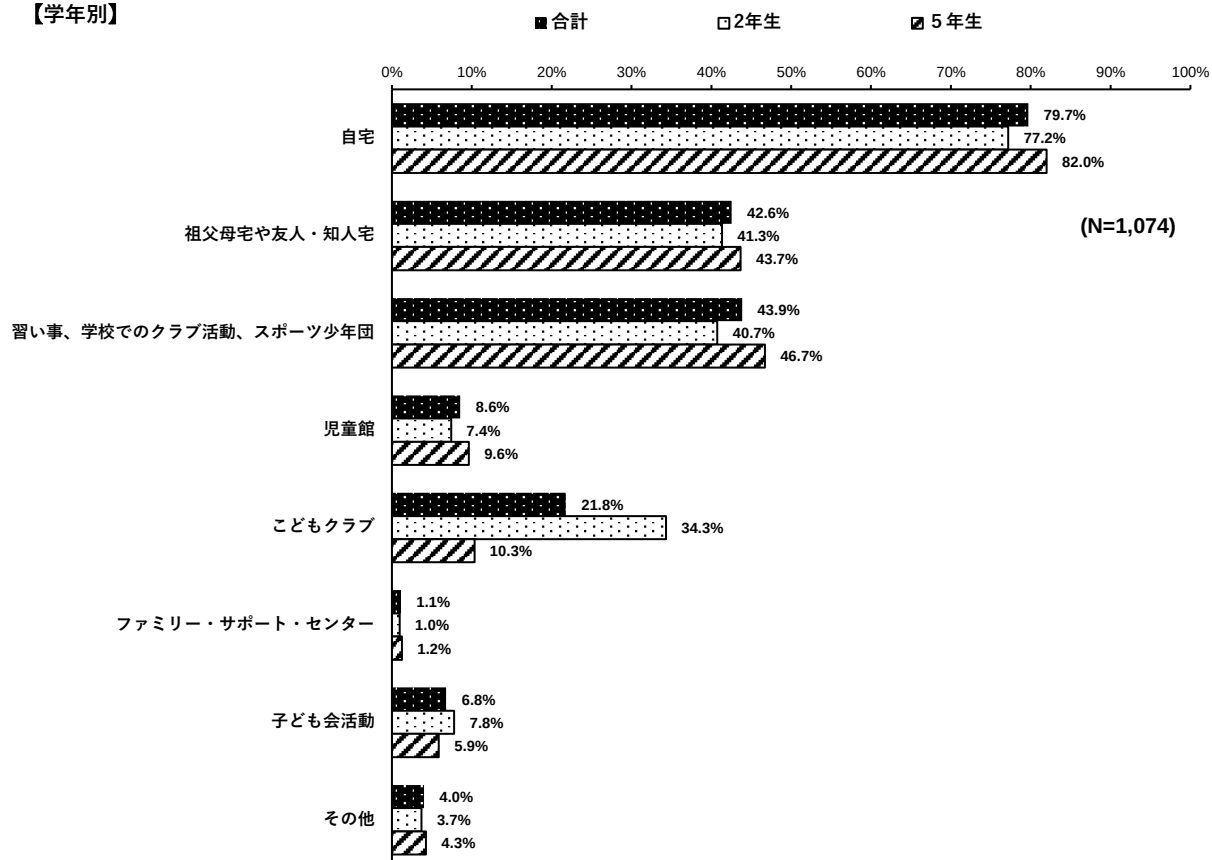
「自宅」が79.9%と最も高く、次いで「習い事、学校でのクラブ活動、スポーツ少年団」が43.5%、「祖父母宅や友人・知人宅」が42.5%となっている。

学年別にみたとき、5年生では「自宅」「習い事、学校でのクラブ活動、スポーツ少年団」の回答率が2年生よりも高く、2年生では「こどもクラブ」の回答が3割以上となっている。

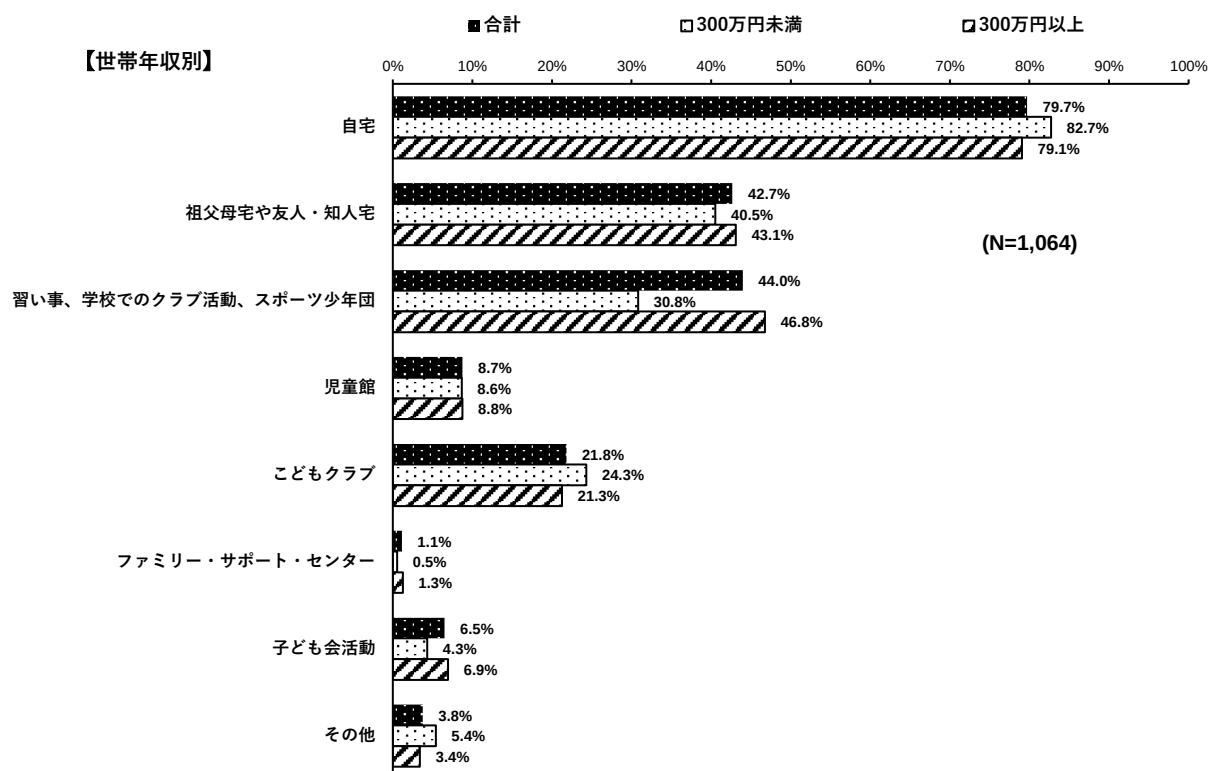
世帯年収別にみたとき、300万円未満の世帯において、「習い事、学校でのクラブ活動、スポーツ少年団」の回答割合は30.8%となっており、300万円以上の世帯と比べ16ポイント低くなっている。



【学年別】



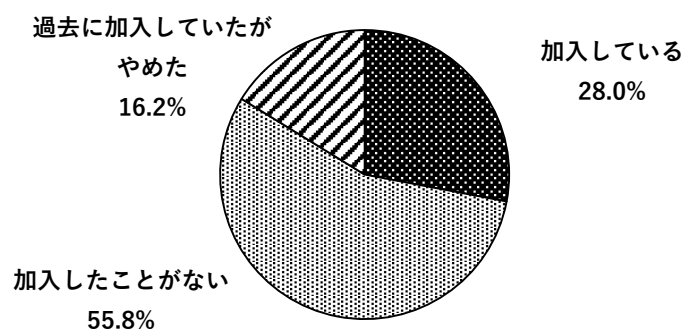
【世帯年収別】



46. 子ども会への加入の有無

「加入したことがない」が最も高く 55.8%と最も高く、「加入している」は 28.0%、「過去に加入していたがやめた」が 16.2%となっている。

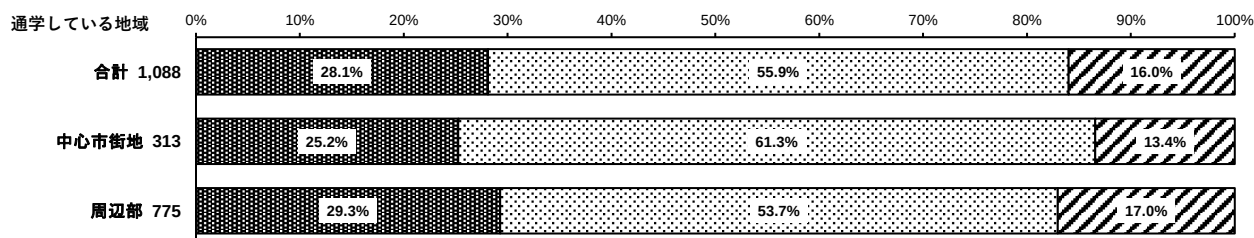
(N=1,097)



【地区別】

■ 加入している □ 加入したことがない ▨ 過去に加入していたがやめた

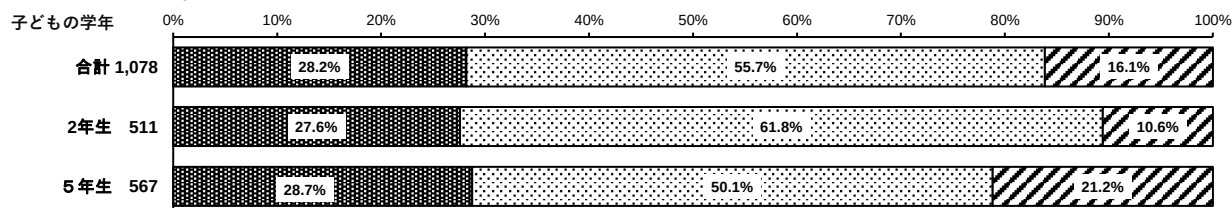
(N = 1,088)



【学年別】

■ 加入している □ 加入したことがない ▨ 過去に加入していたがやめた

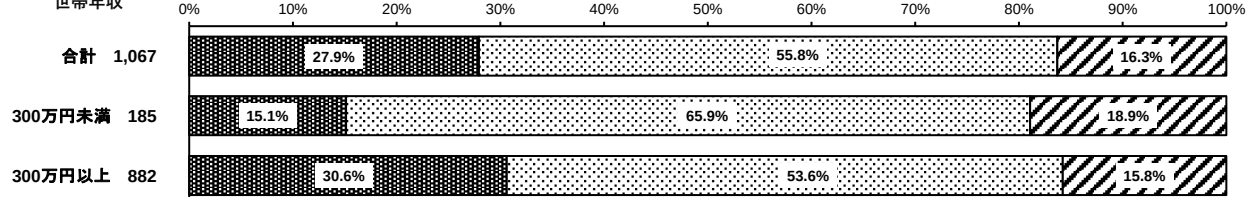
(N = 1,078)



【世帯年収別】

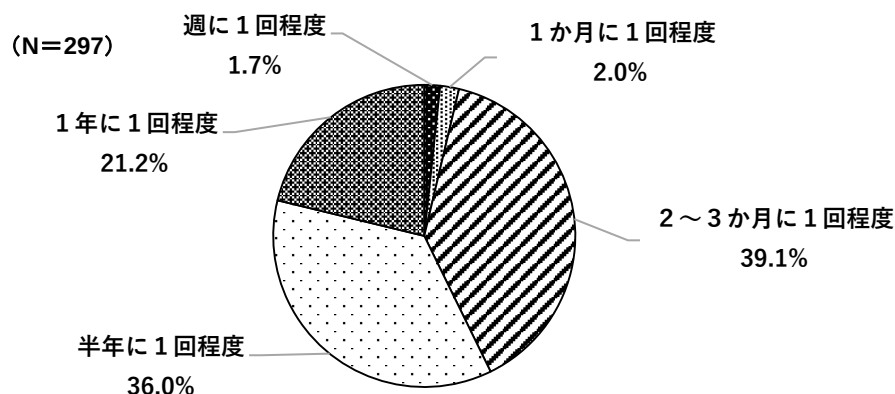
■ 加入している □ 加入したことがない ▨ 過去に加入していたがやめた

(N=1,067)

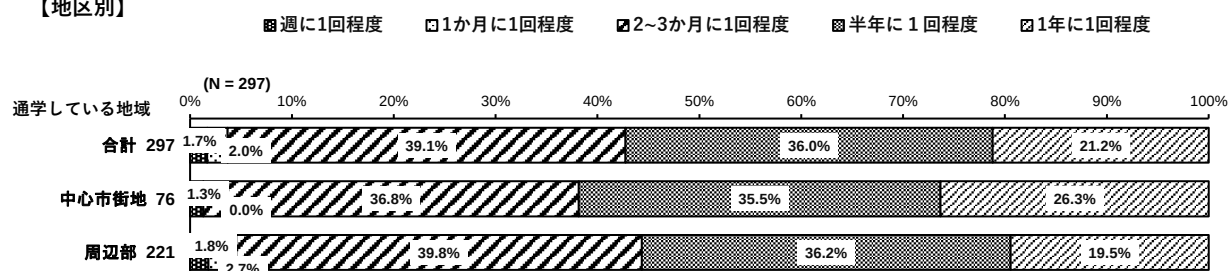


47. 子ども会への参加頻度

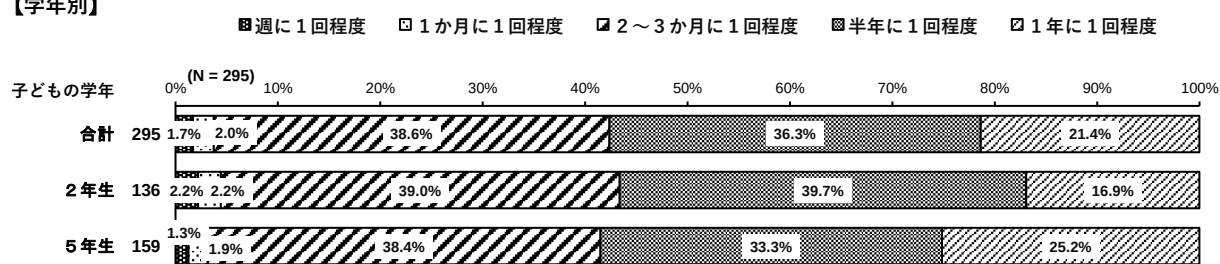
「2～3 か月に 1 回程度」が 39.1%と最も高く、次いで「半年に 1 回程度」が 36.0%、「1 年に 1 回程度」が 21.2%となっている。



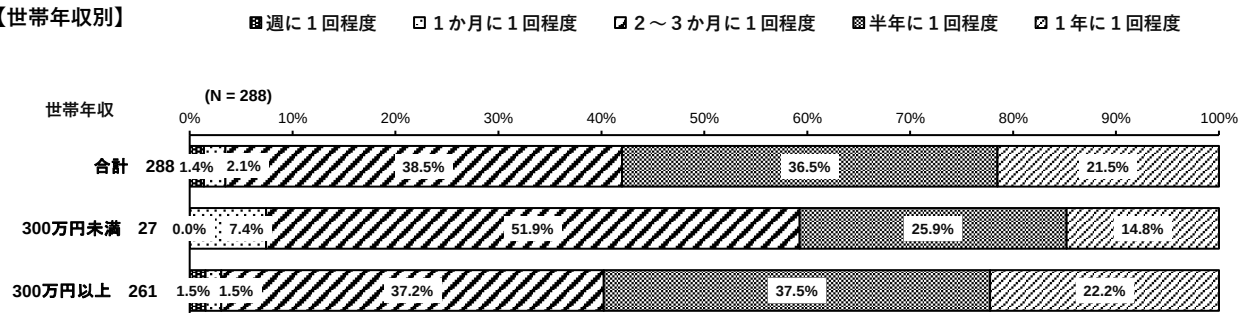
【地区別】



【学年別】

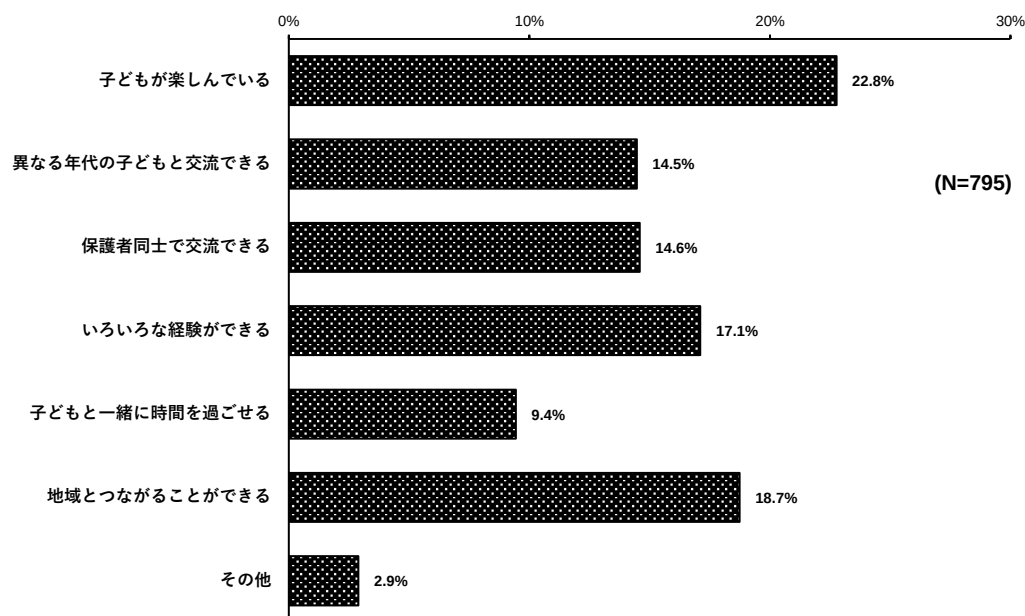


【世帯年収別】

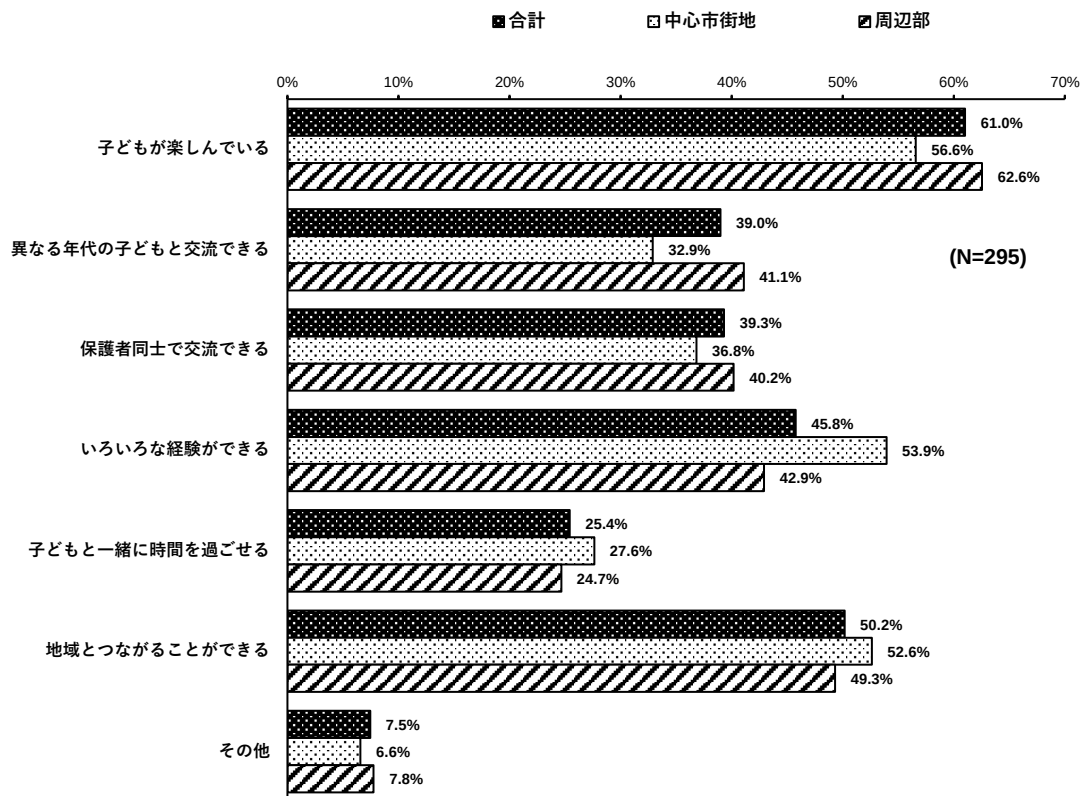


48. 子ども会に加入して良かったこと

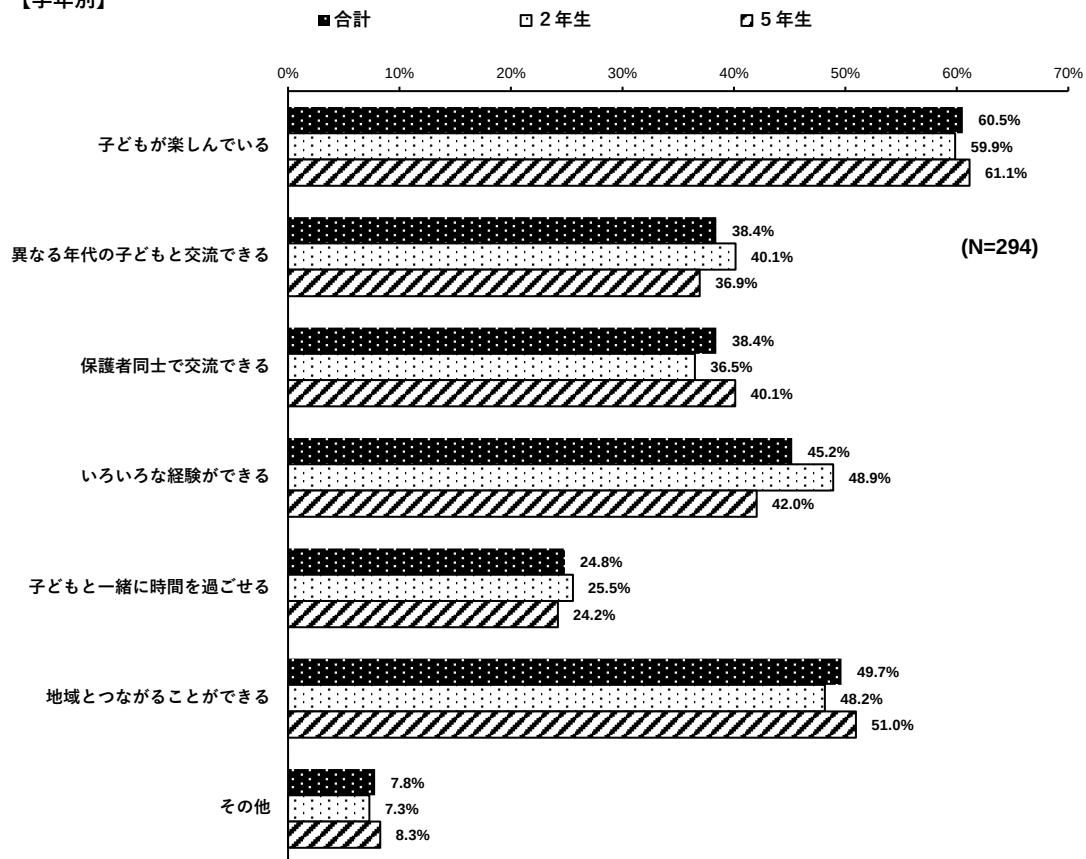
「子どもが楽しんでいる」が22.8%と最も高く、次いで「地域とつながることができる」が18.7%、「いろいろな経験ができる」が17.1%となっている。



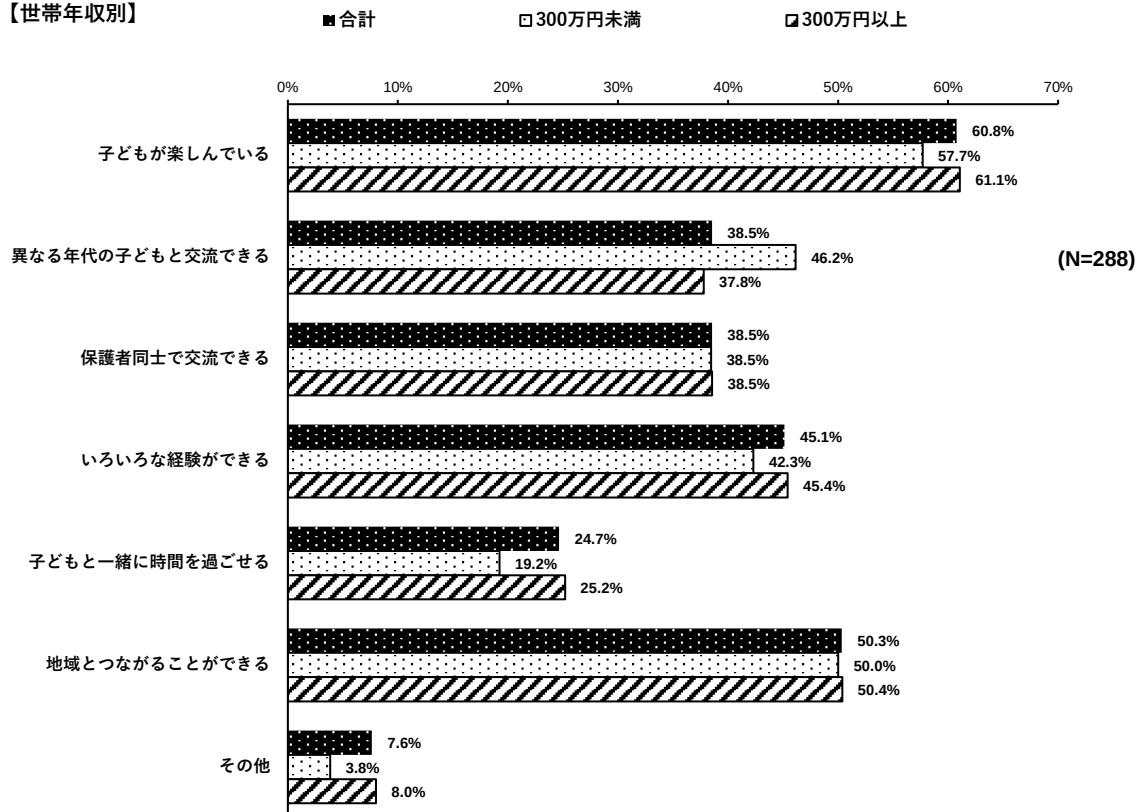
【地区別】



【学年別】

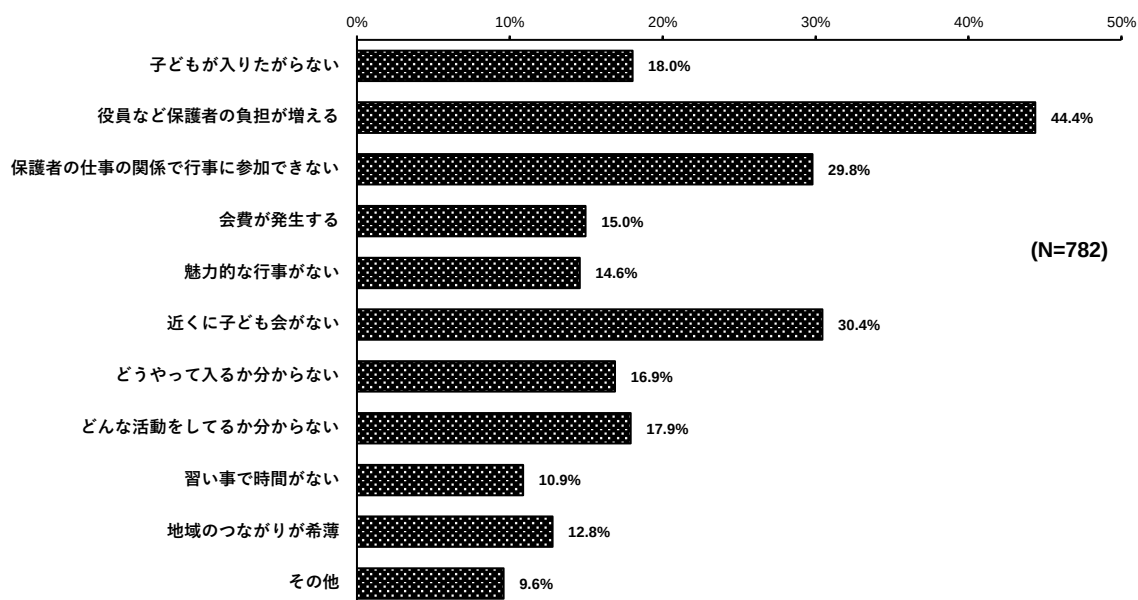


【世帯年収別】

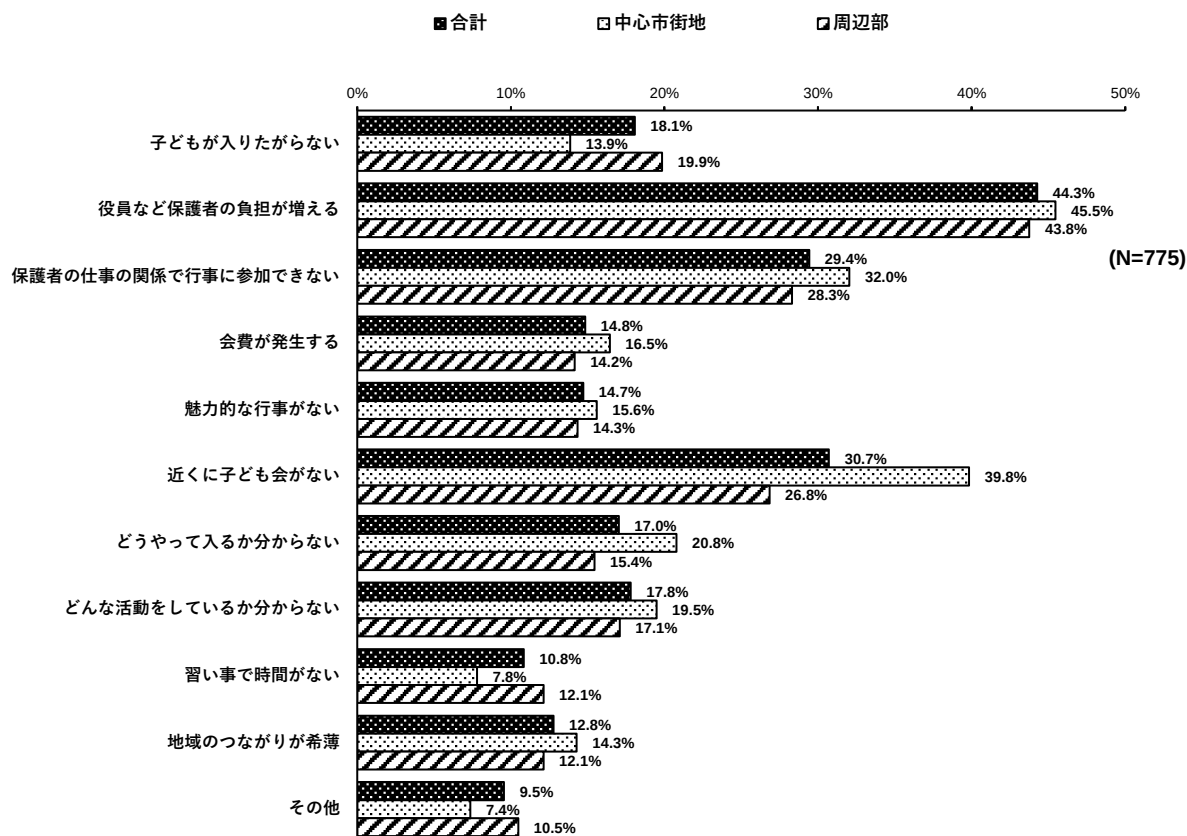


49. 子ども会に加入したことがない、または過去に加入していたがやめた理由

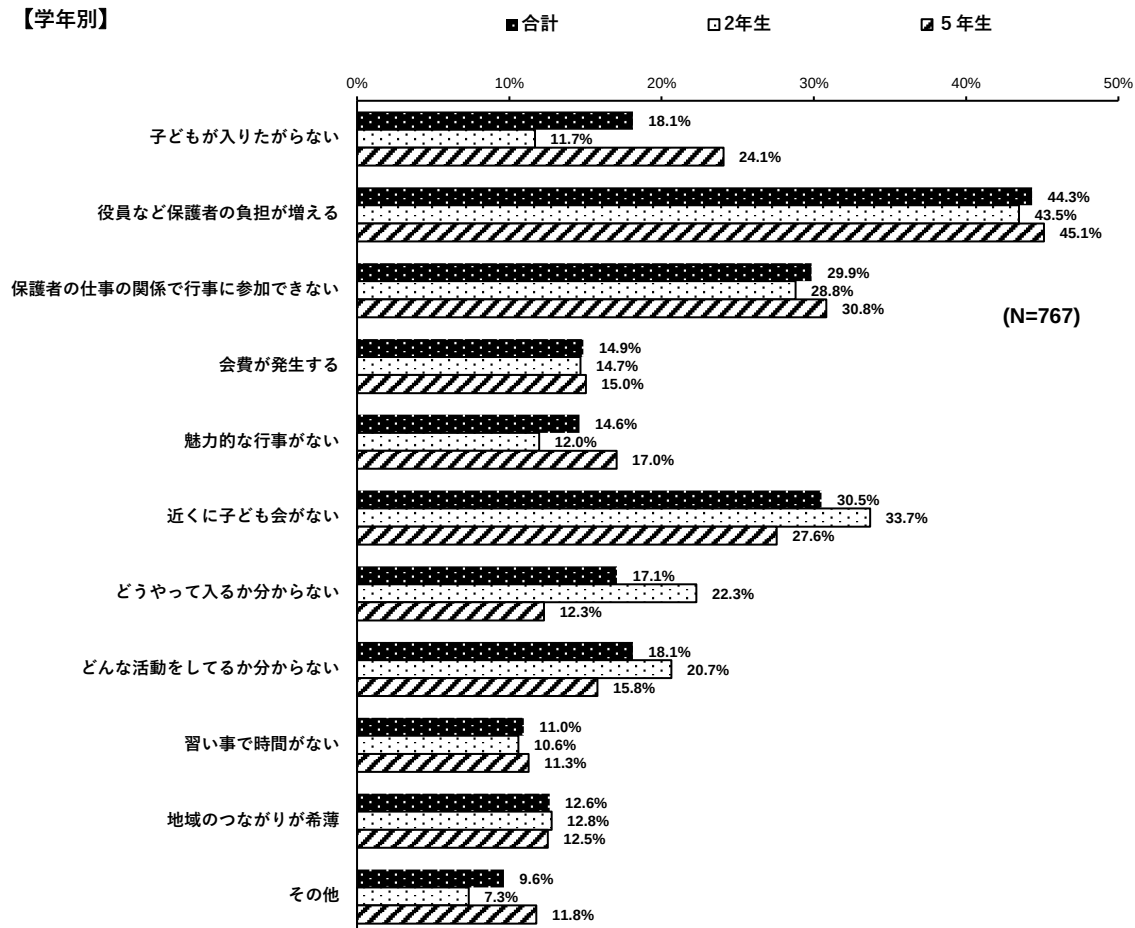
「役員など保護者の負担が増える」が44.4%と最も高く、次いで「近くに子ども会がない」が30.4%、「保護者の仕事の関係で行事に参加できない」が29.8%となっている。



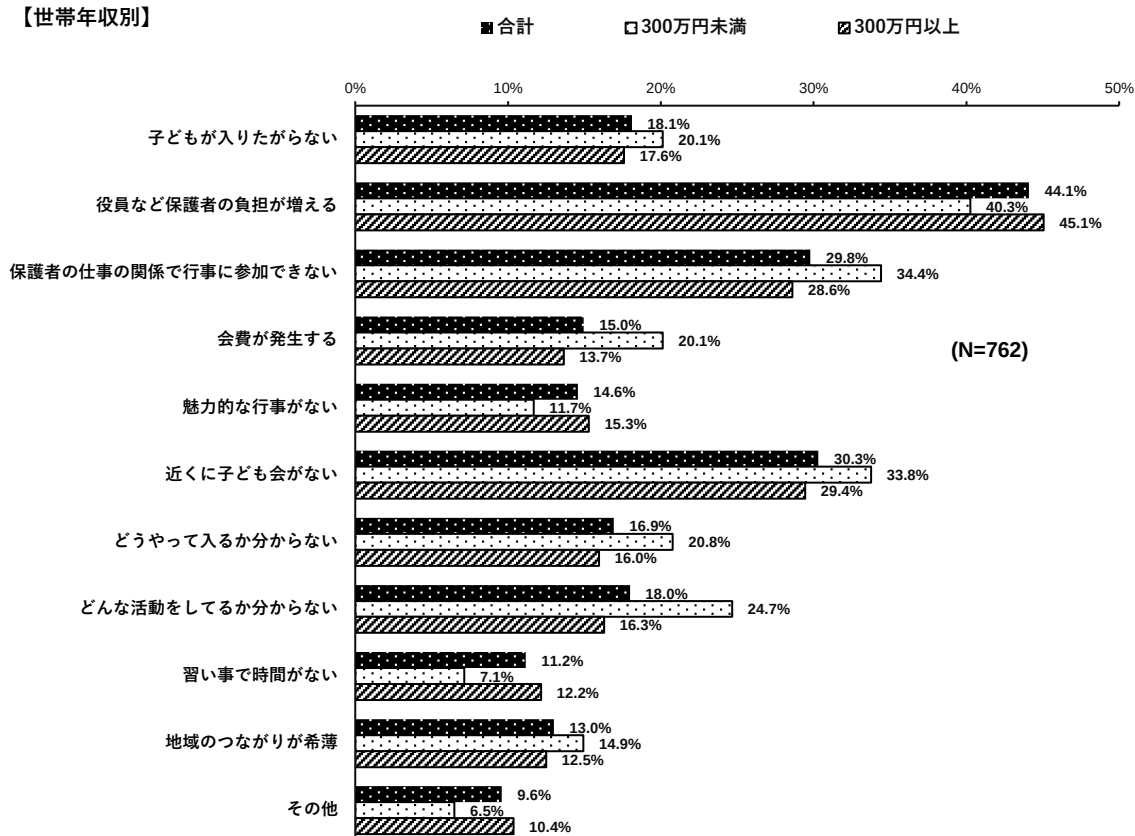
【地区別】



【学年別】

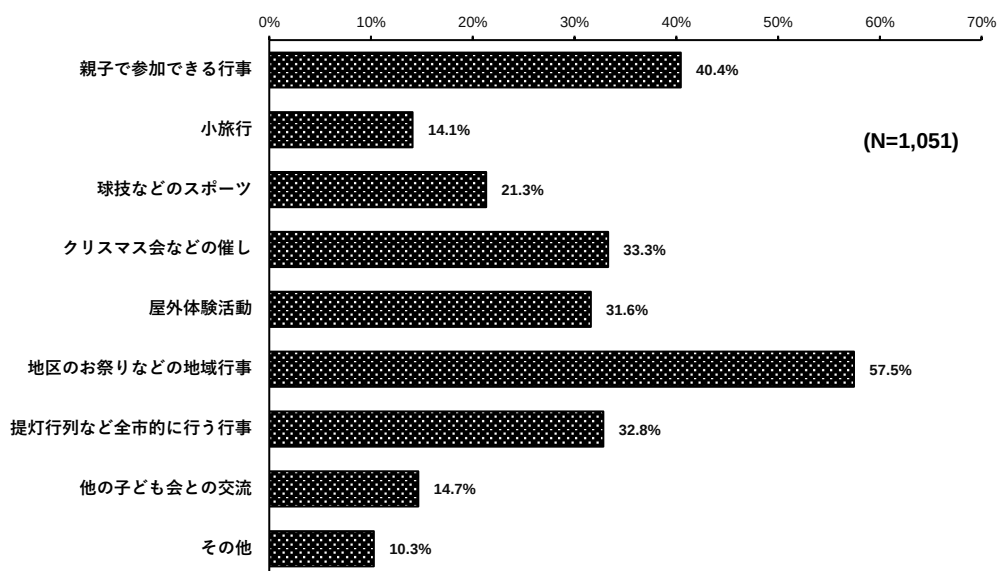


【世帯年収別】

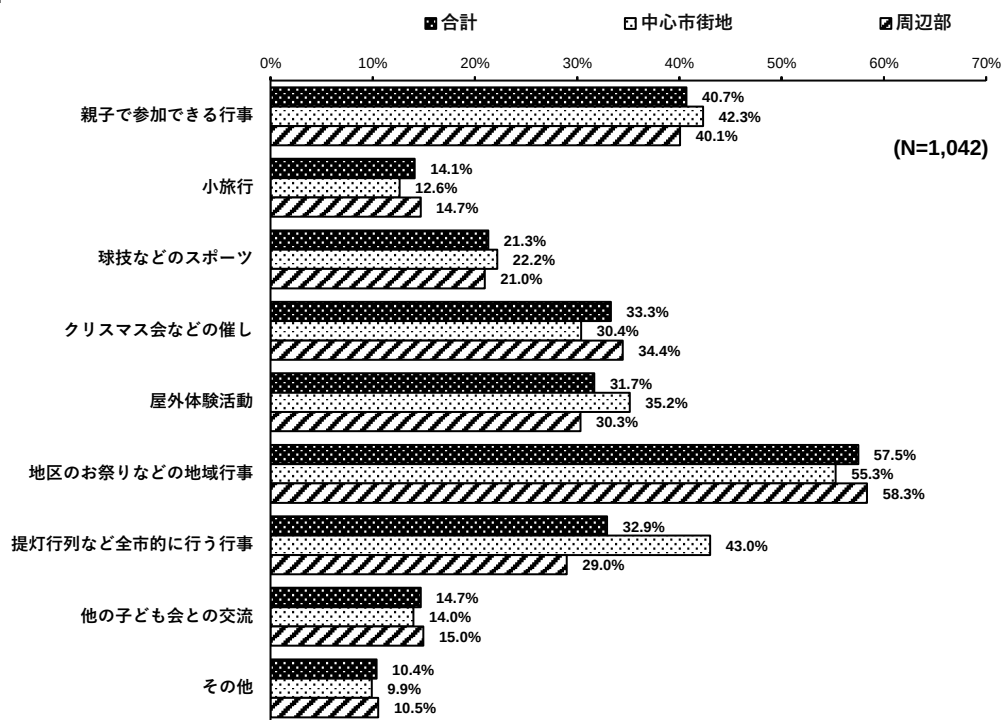


50. 子ども会に求める活動

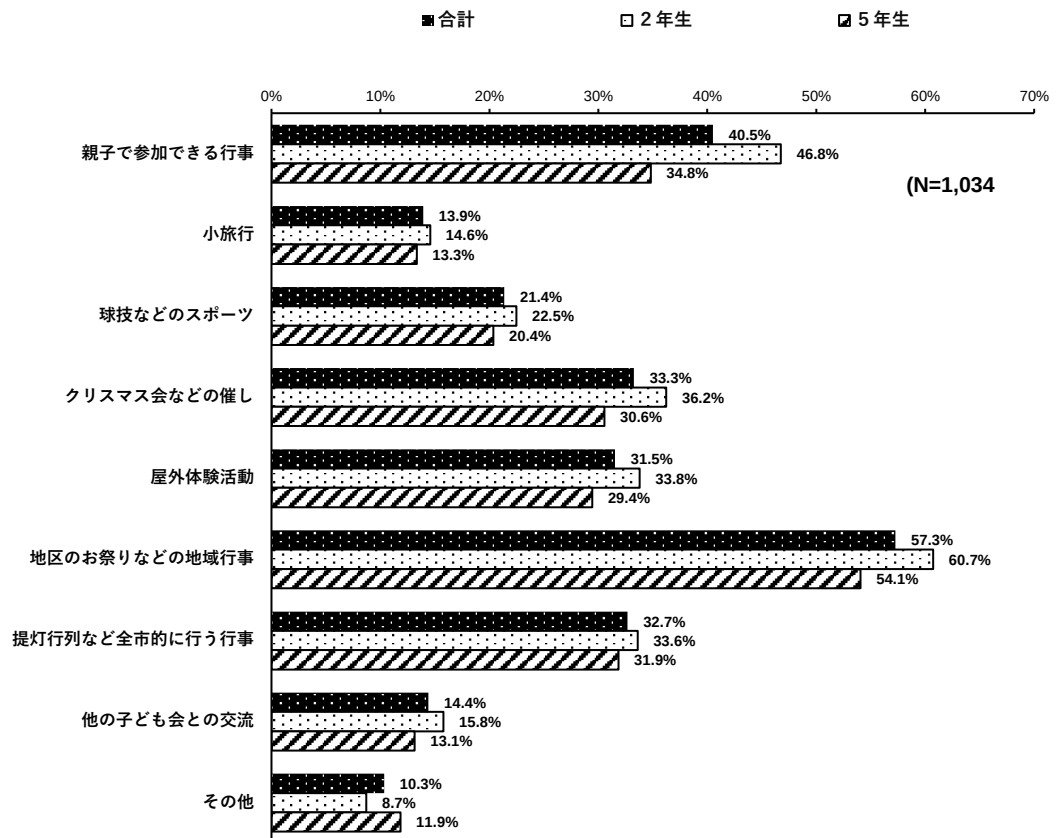
「地区のお祭りなどの地域行事」が57.5%と最も高く、次いで「親子で参加できる行事」が40.4%、「クリスマス会などの催し」が33.3%、「提灯行列など全市的に行う行事」が32.8%、「屋外体験活動」が31.6%となっている。



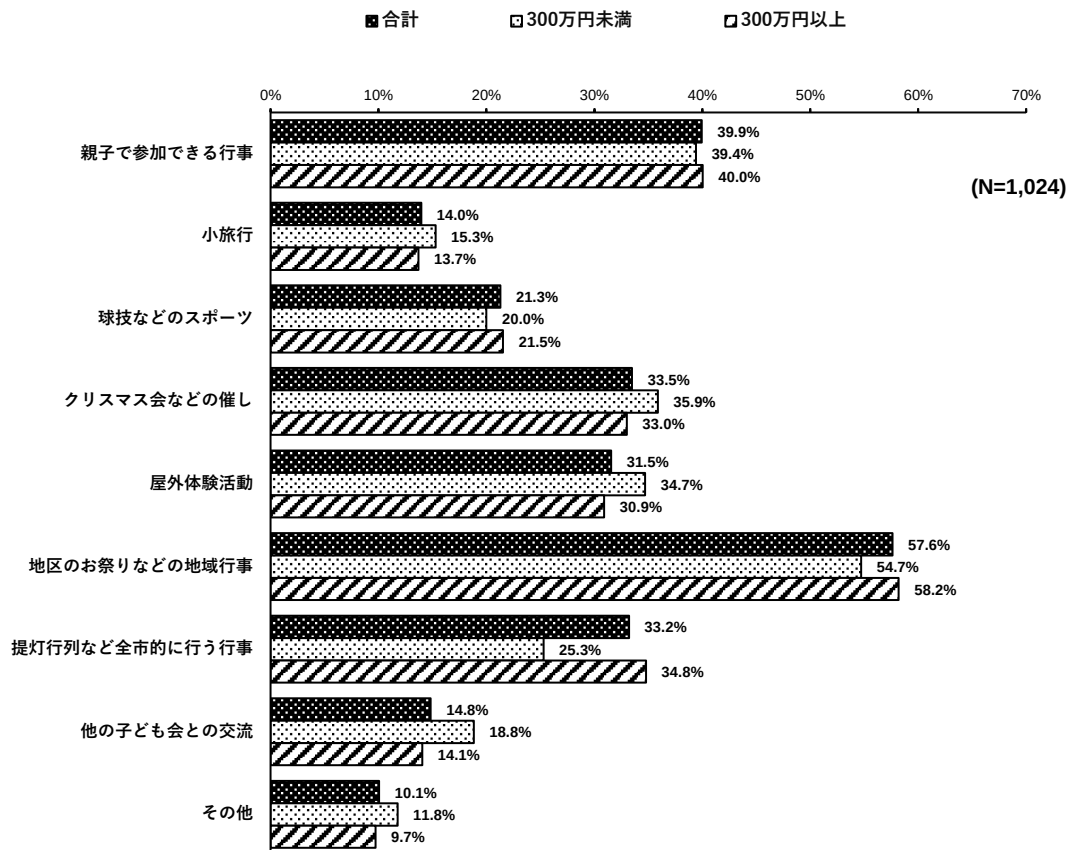
【地区別】



【学年別】

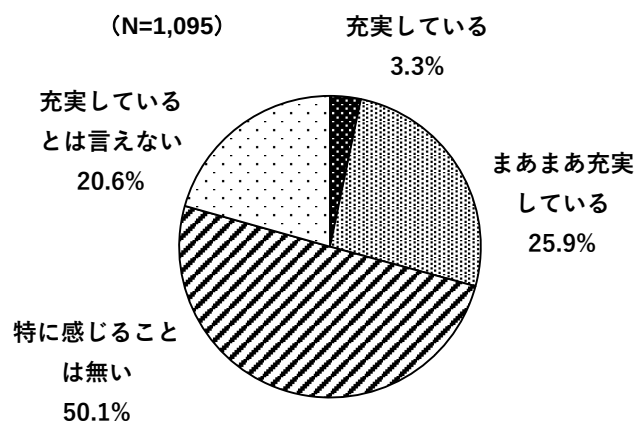


【世帯年収別】

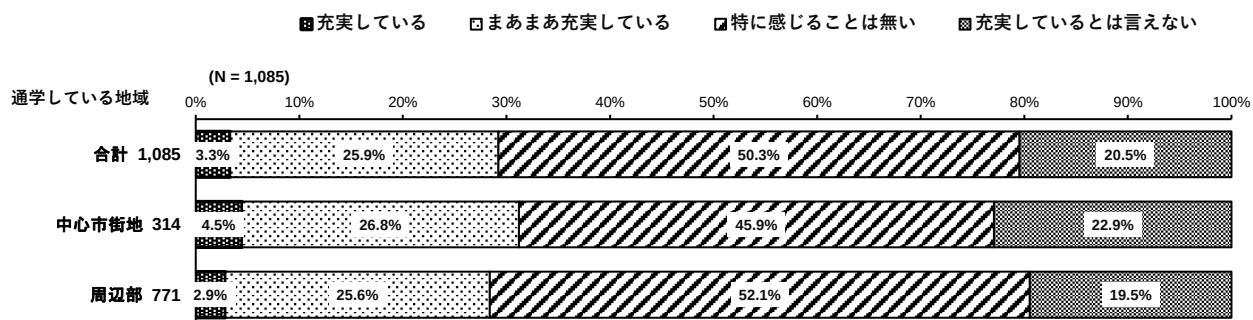


51. 会津若松市の子育て支援事業について

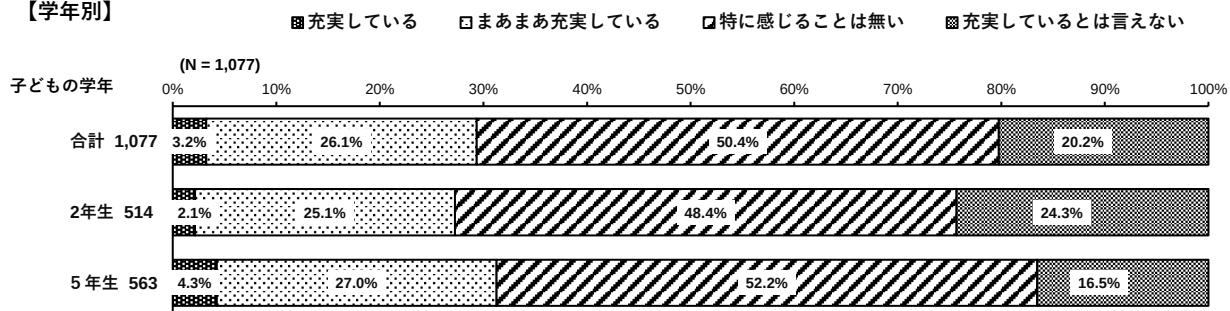
「特に感じることは無い」が50.1%と最も高く、次いで「まあまあ充実している」が25.9%、「充実しているとは言えない」が20.6%となっている。



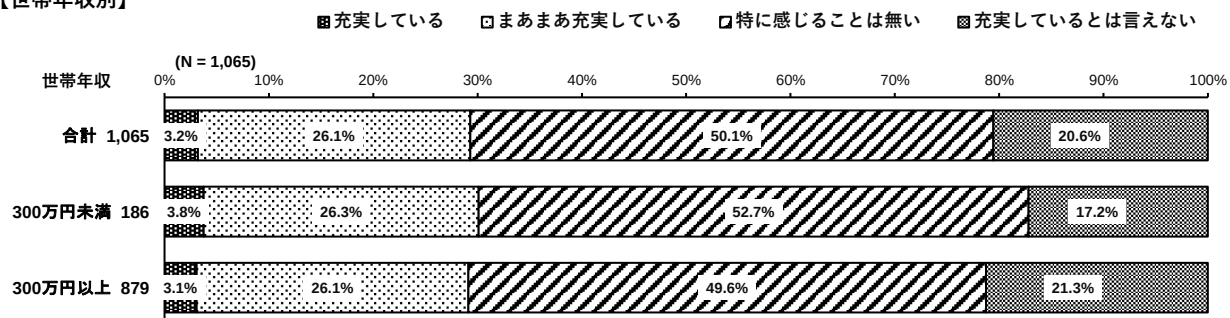
【地区別】



【学年別】

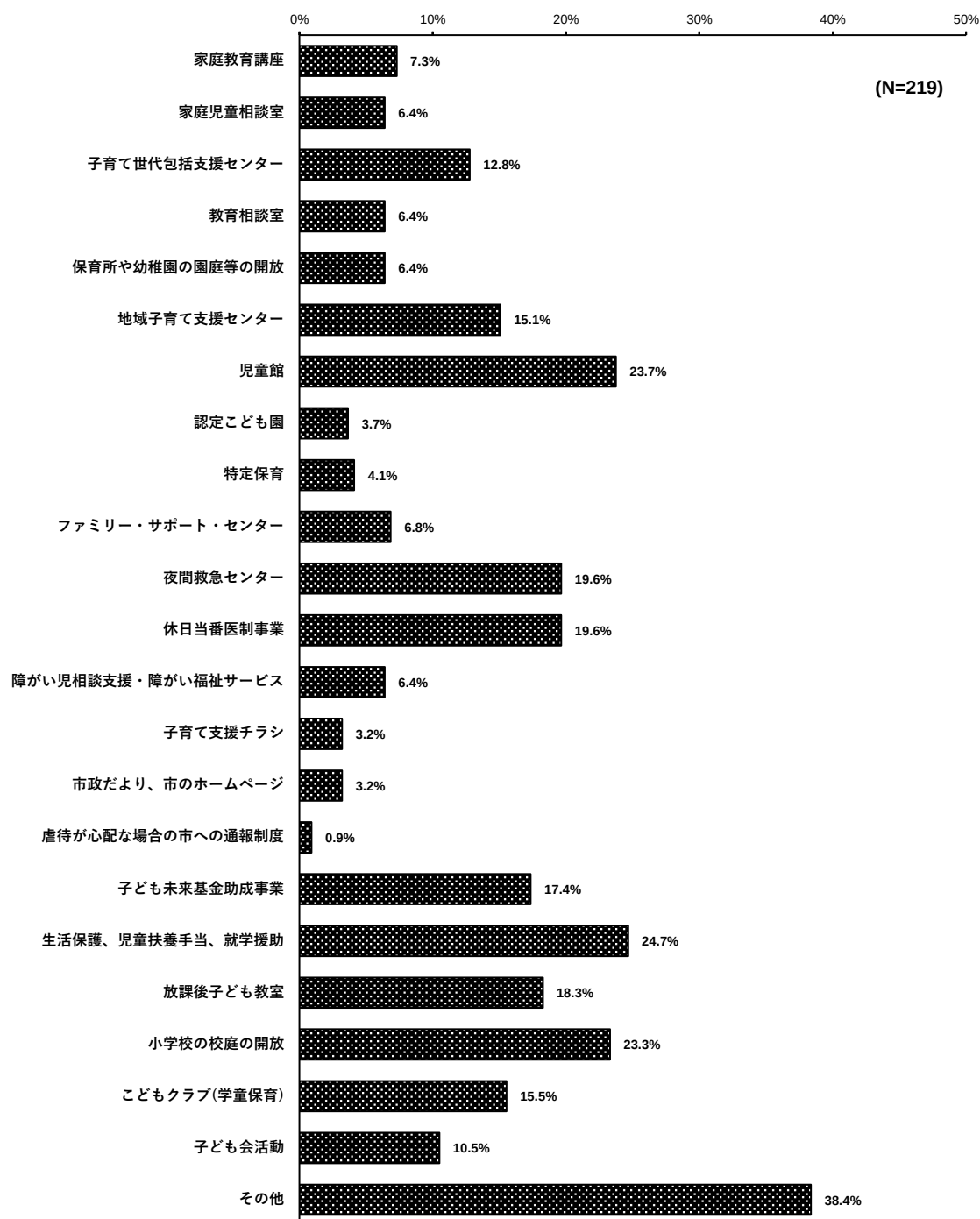


【世帯年収別】

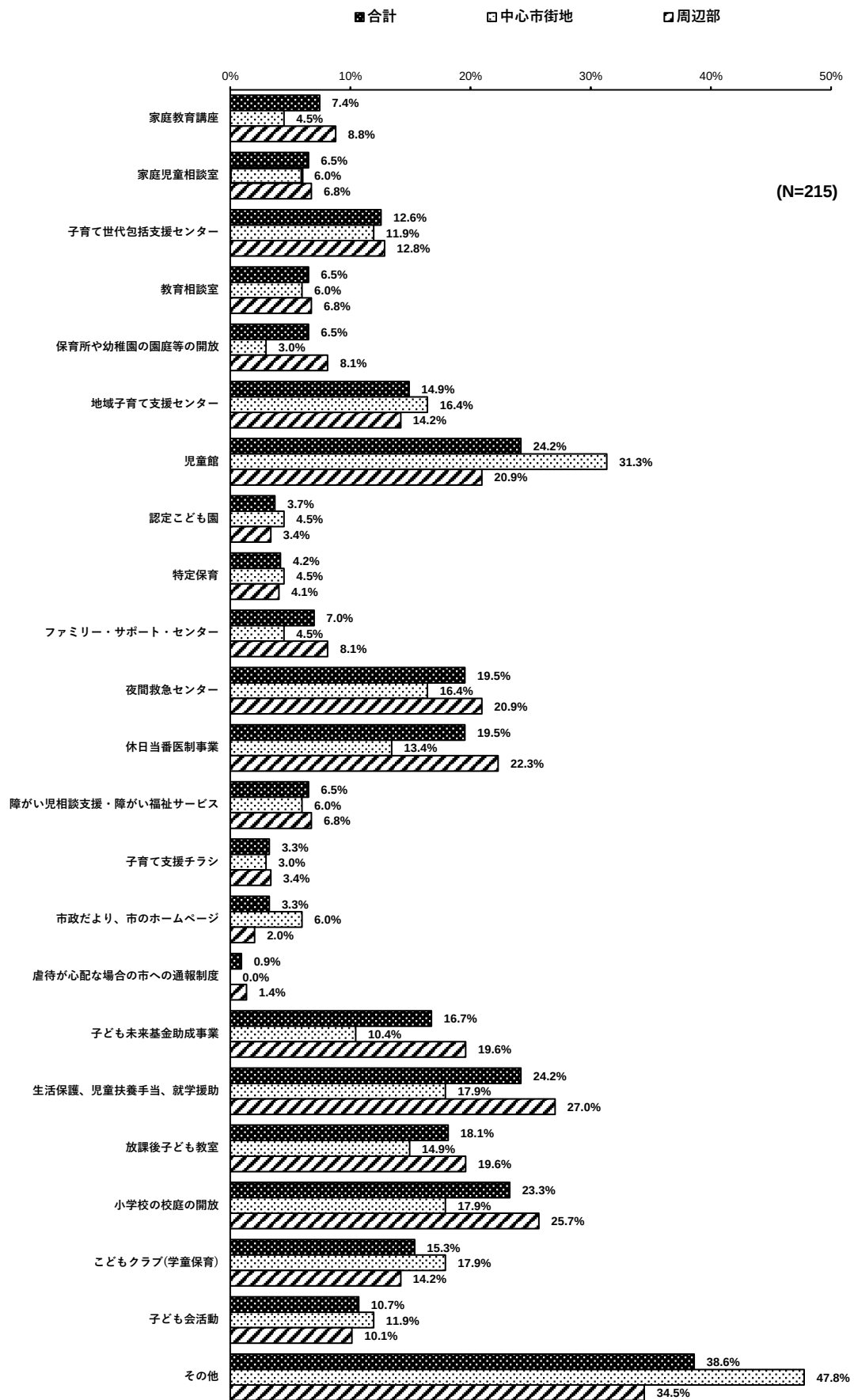


52. 充実させるべき事業

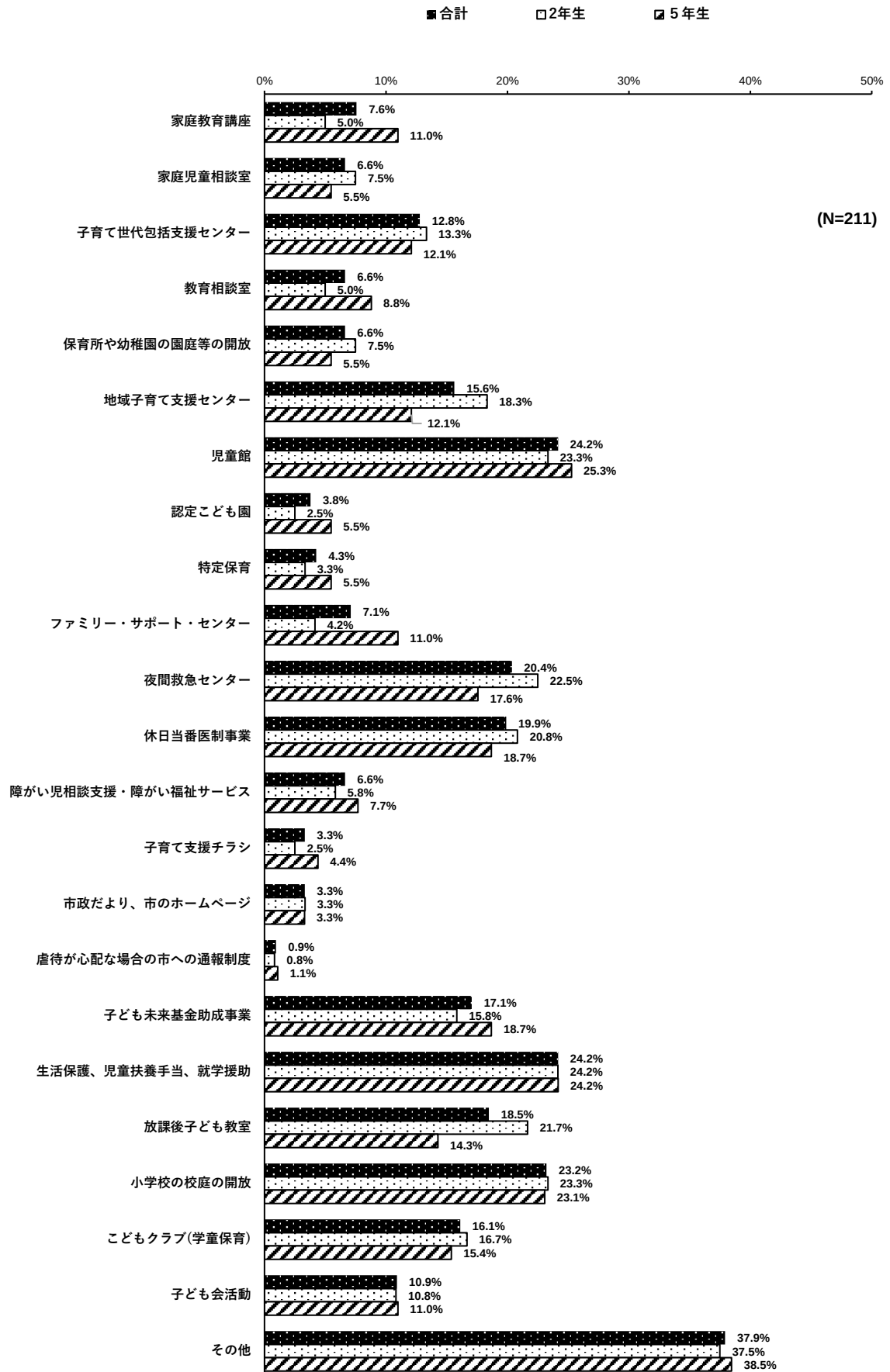
「その他」が38.4%と最も高いが、「生活保護、児童扶養手当、就学援助」が24.7%、次いで「児童館」が23.7%、「小学校の校庭の開放」が23.3%となっている。



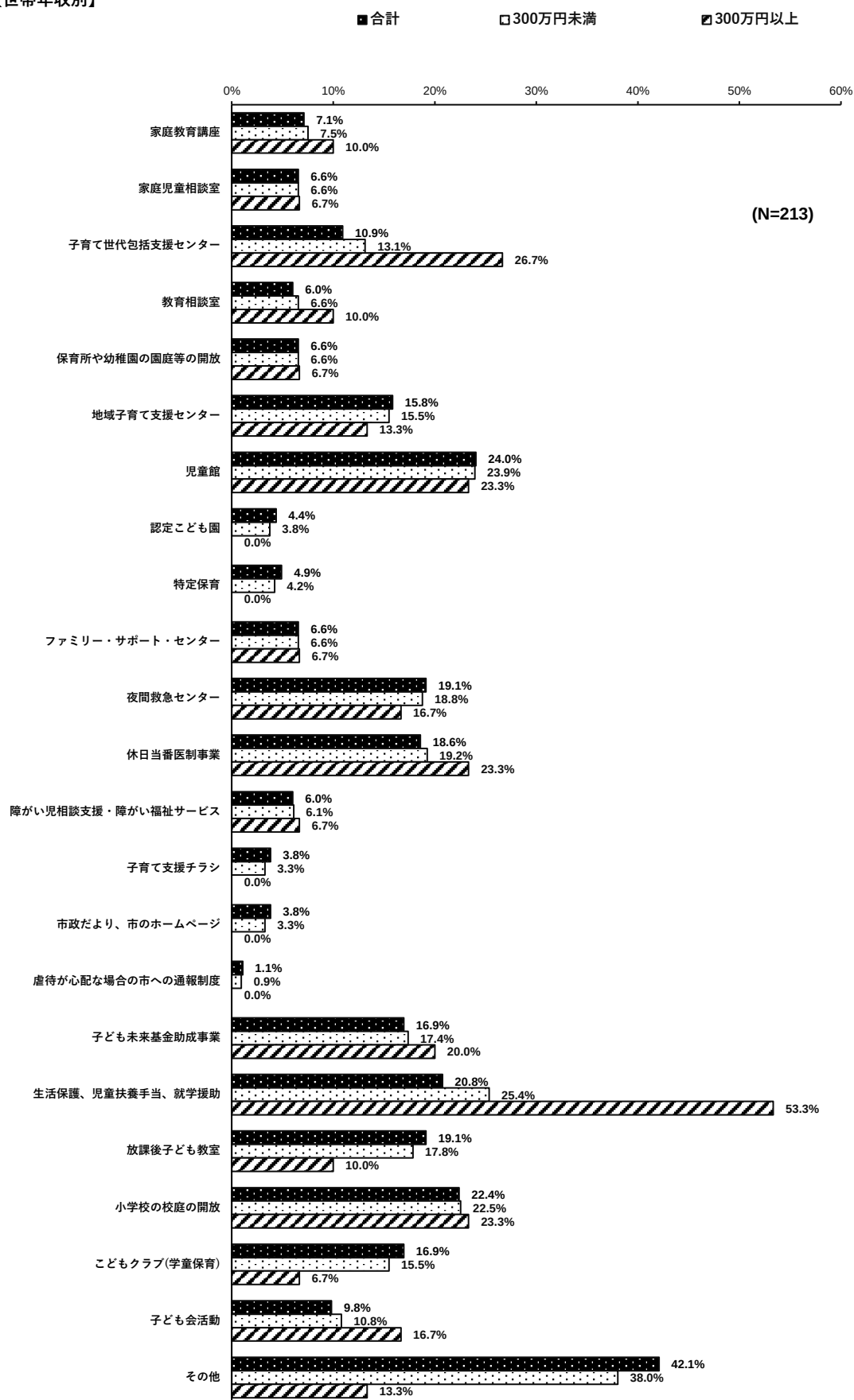
【地区別】



【学年別】

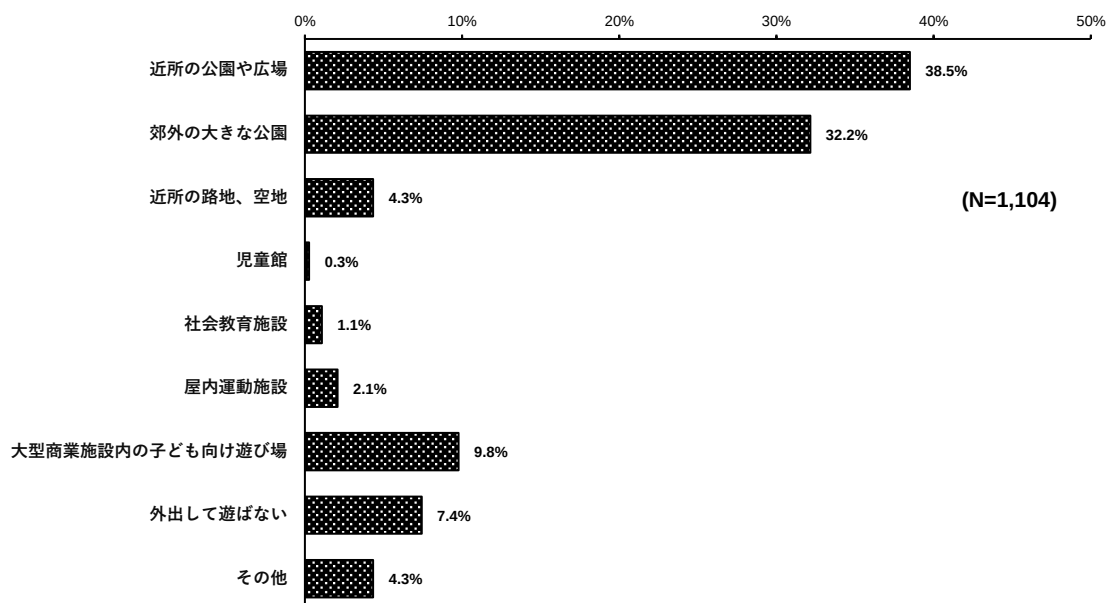


【世帯年収別】

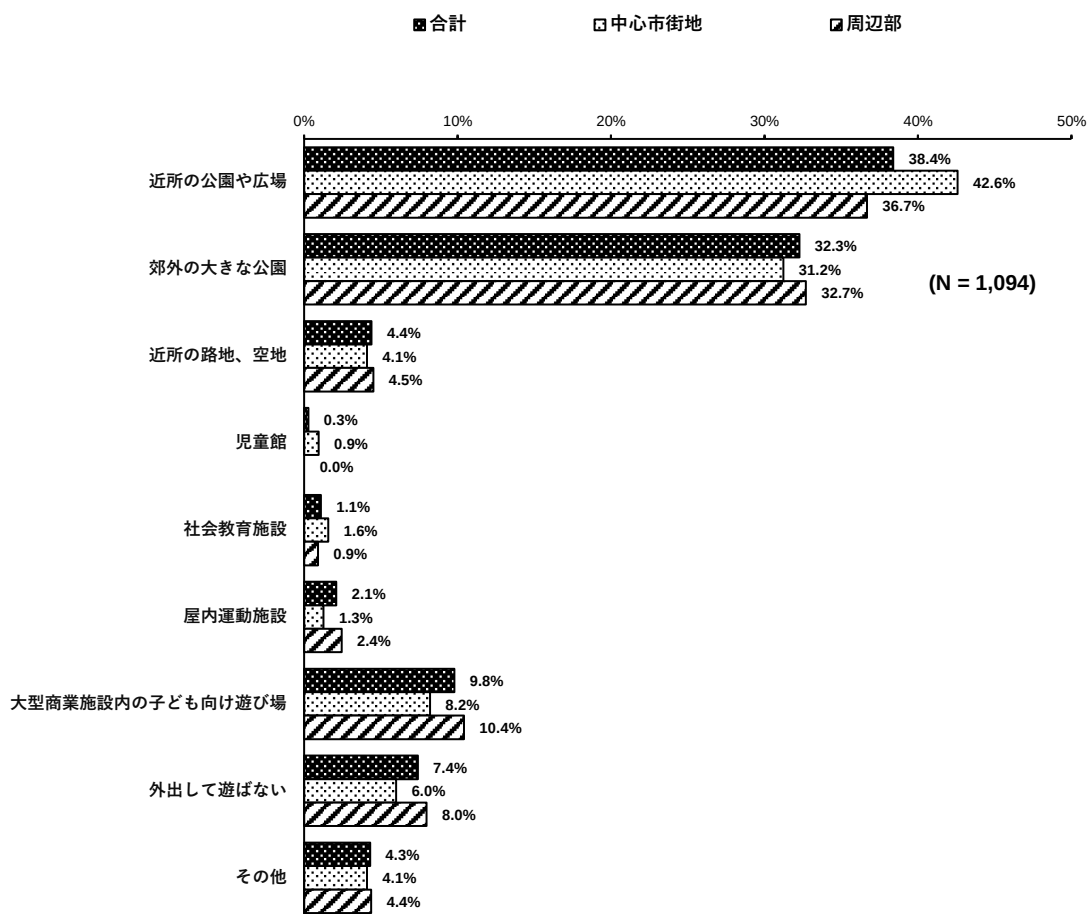


53. 遊び場 利用する施設・場所【天気の良い時】

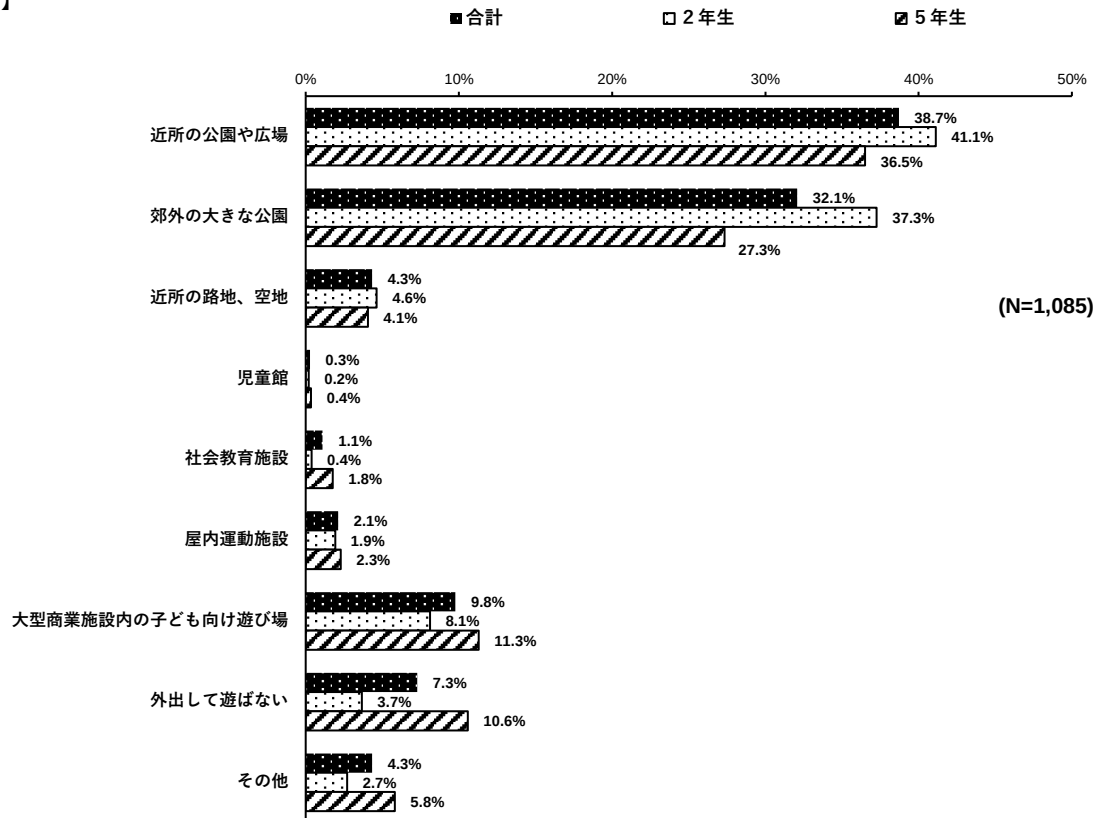
「近所の公園や広場」が38.5%と最も高く、次いで「郊外の大きな公園」が32.2%、「大型商業施設内の子ども向け遊び場」が9.8%となっている。



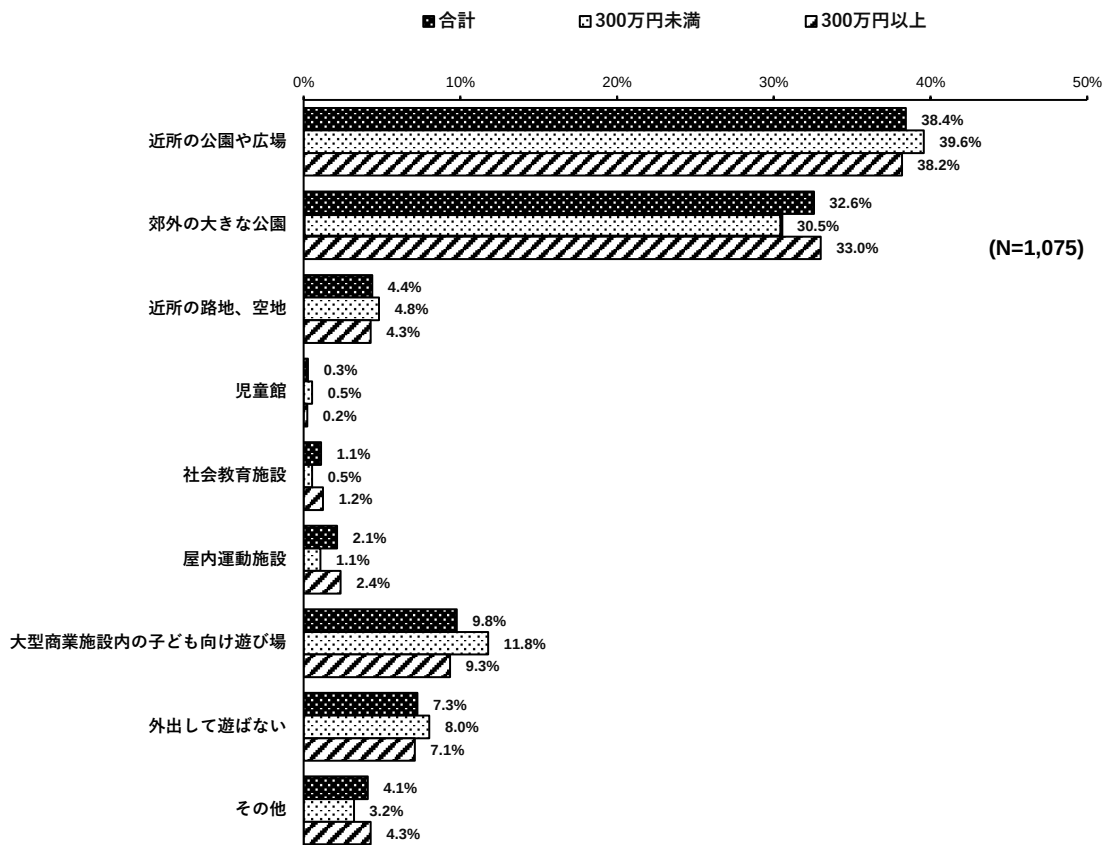
【地区別】



【学年別】

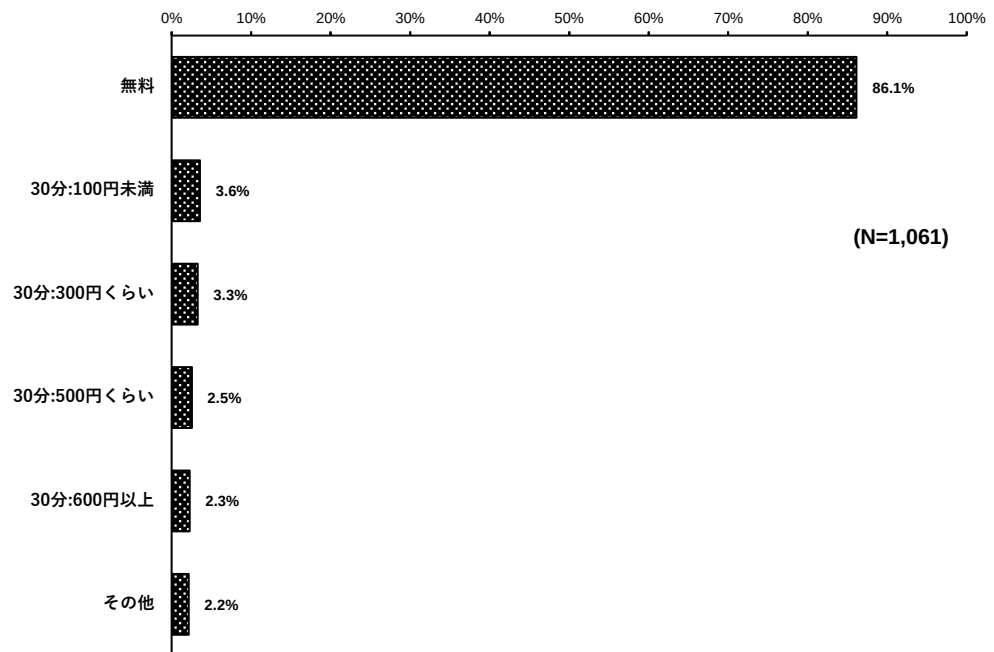


【世帯年収別】

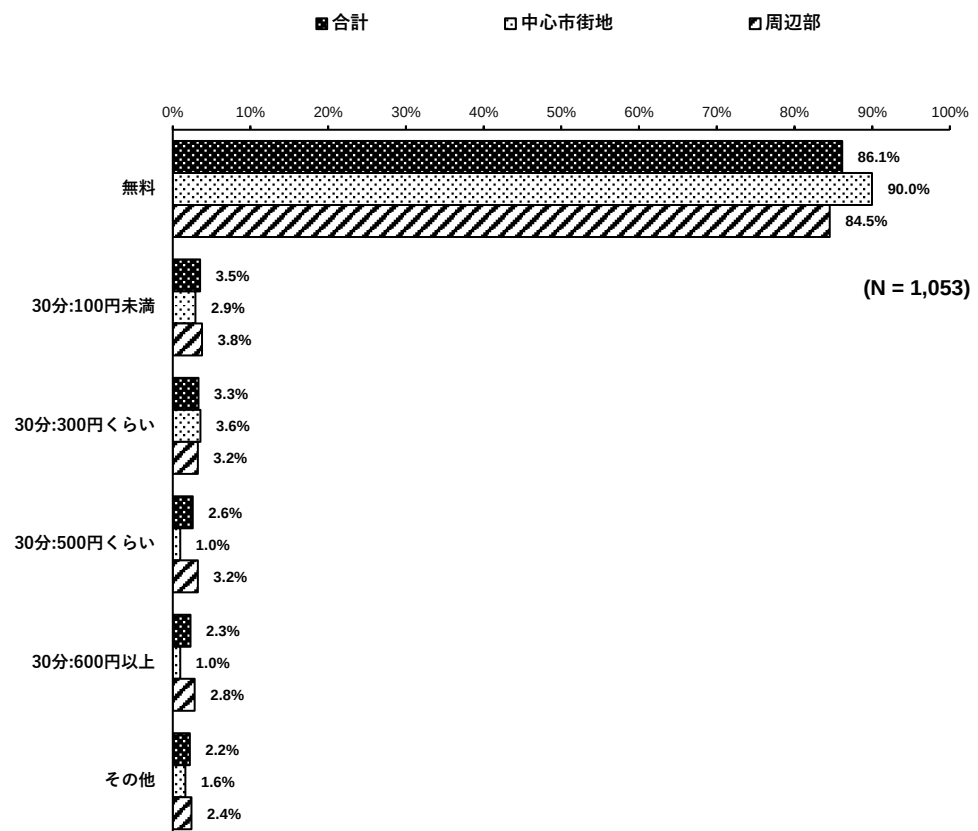


54. 遊び場 施設・場所の利用料【天気の良い時】

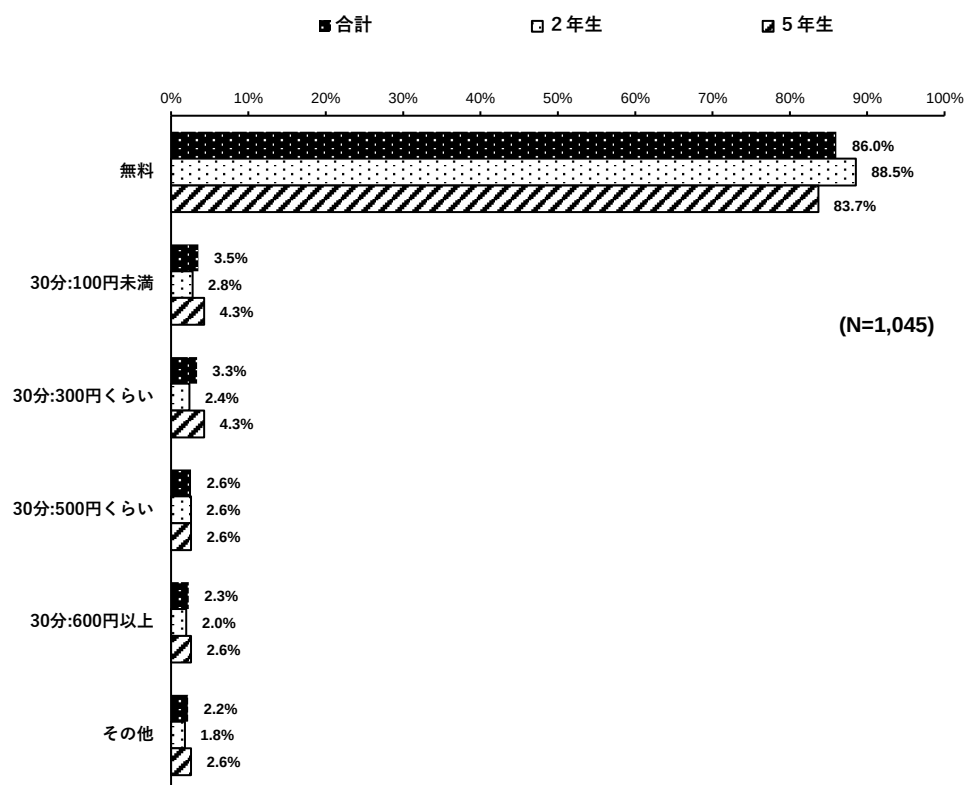
「無料」が86.1%と最も高くなっている。



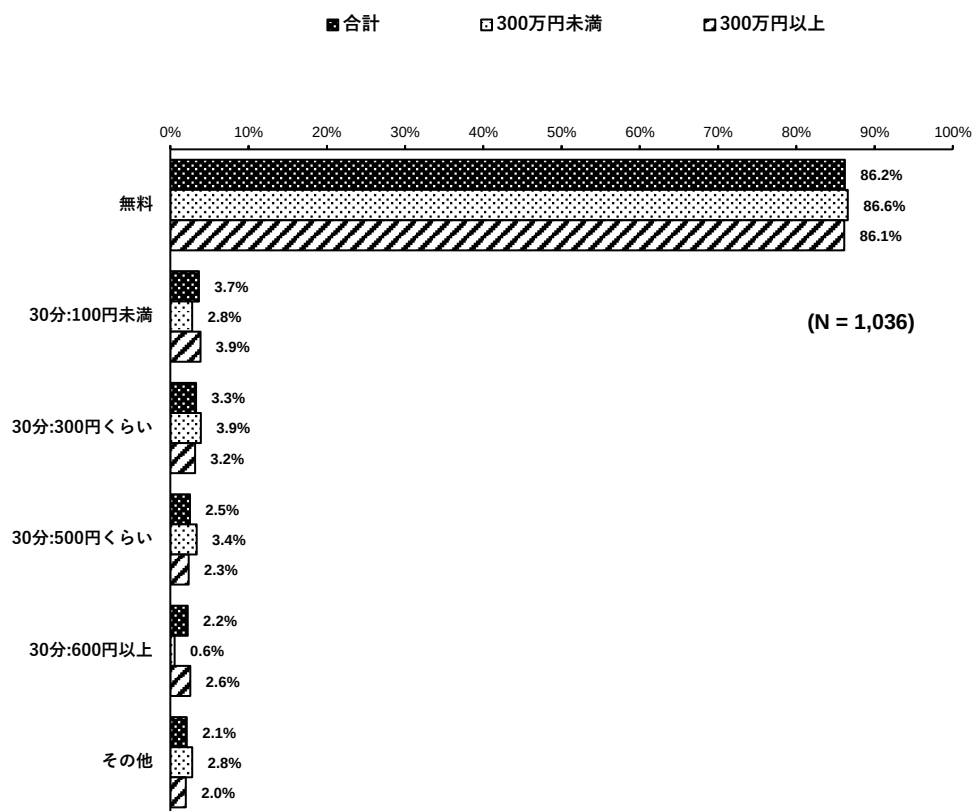
【地区別】



【学年別】

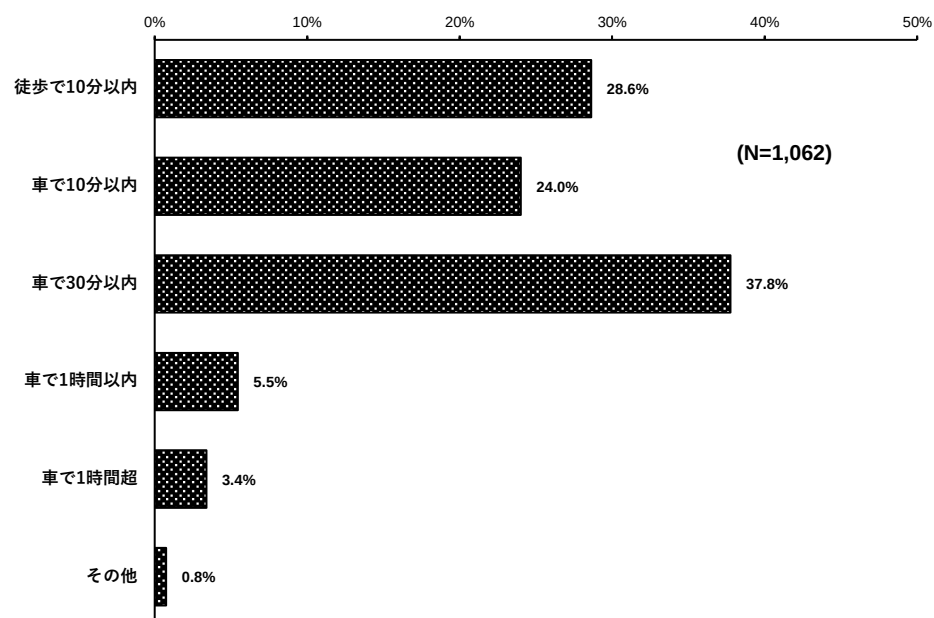


【世帯年収別】

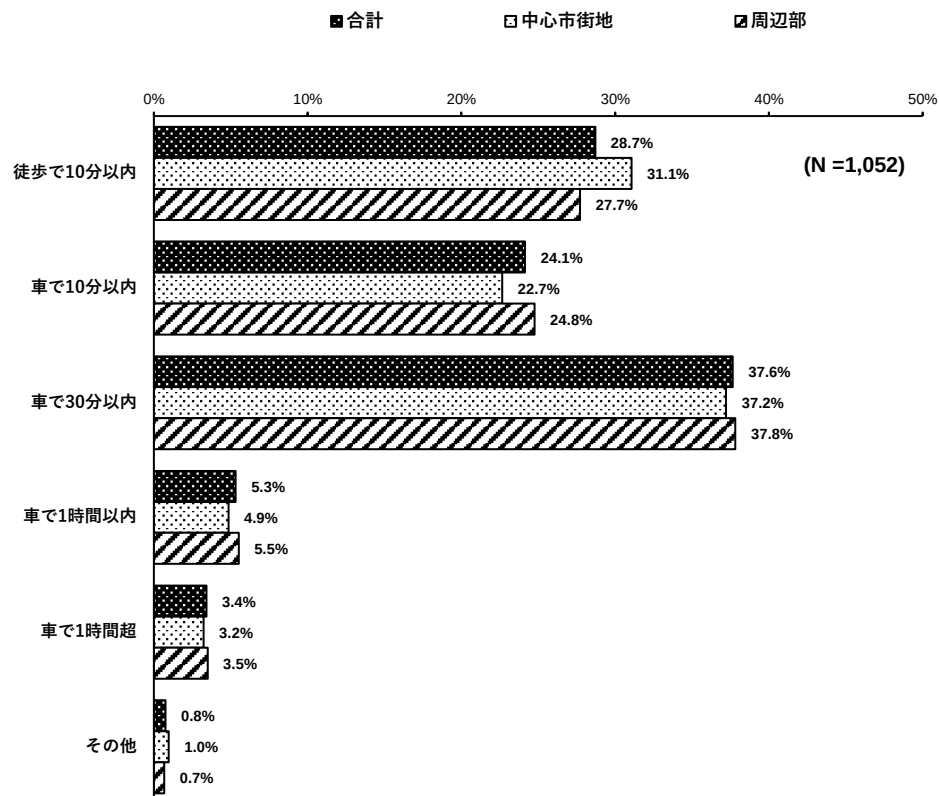


55. 遊び場 所要移動時間【天気が良い時】

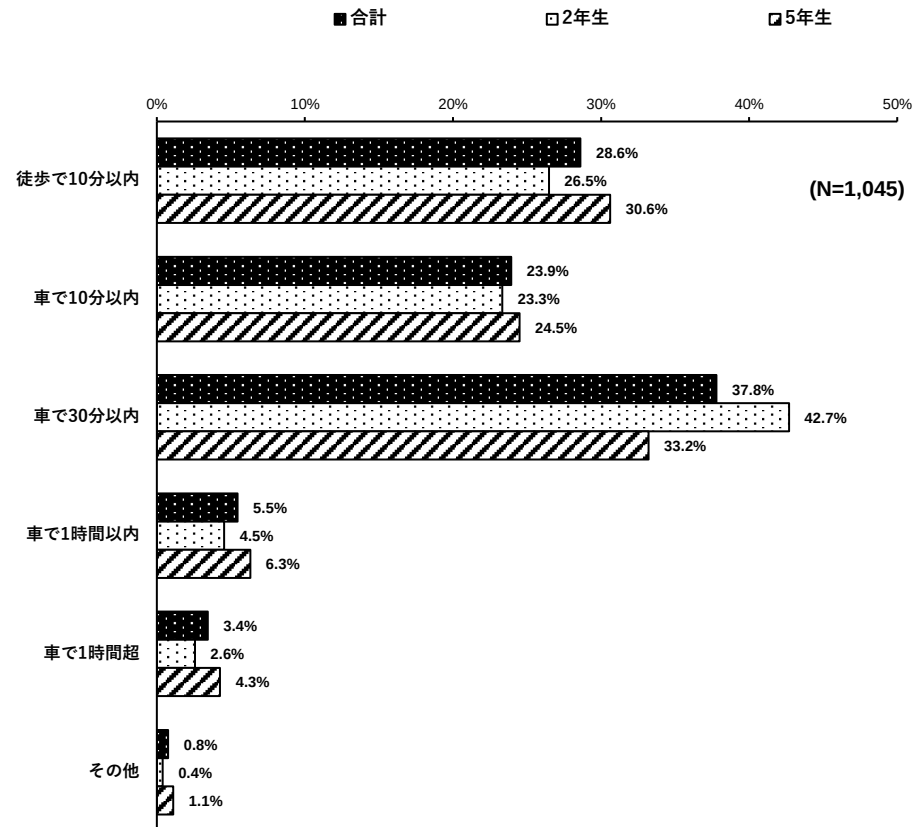
「車で 30 分以内」が 37.8%と最も高く、次いで「徒歩 10 分以内」が 28.6%、「車で 10 分以内」が 24.0%となっている。



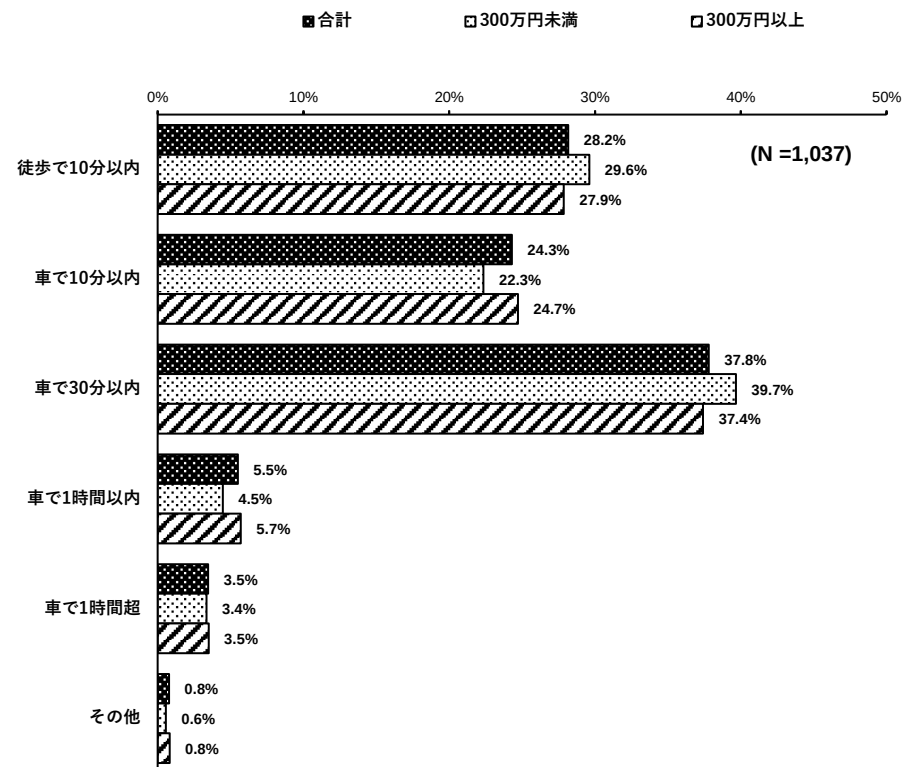
【地区別】



【学年別】

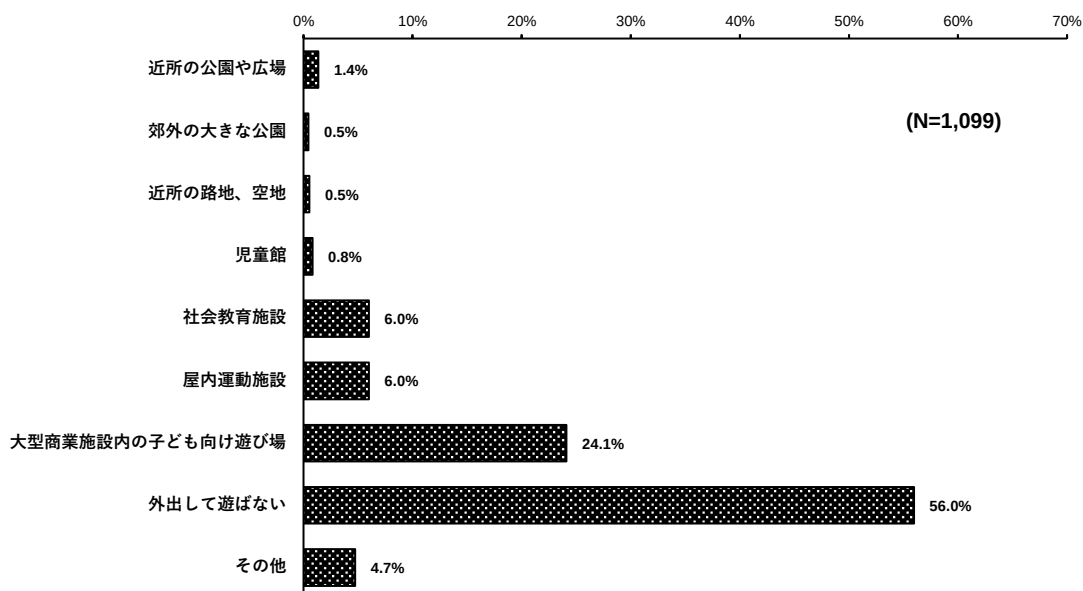


【世帯年収別】

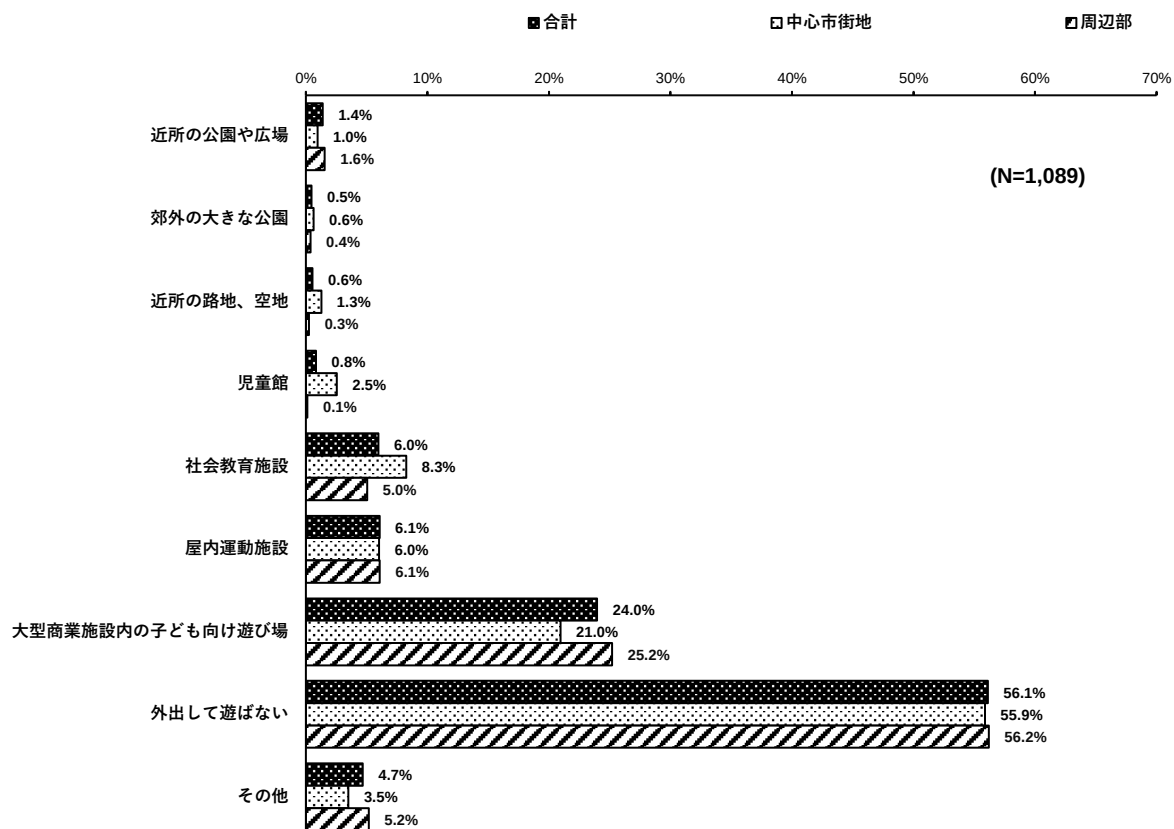


56. 遊び場 利用する施設・場所【天気が悪い時】

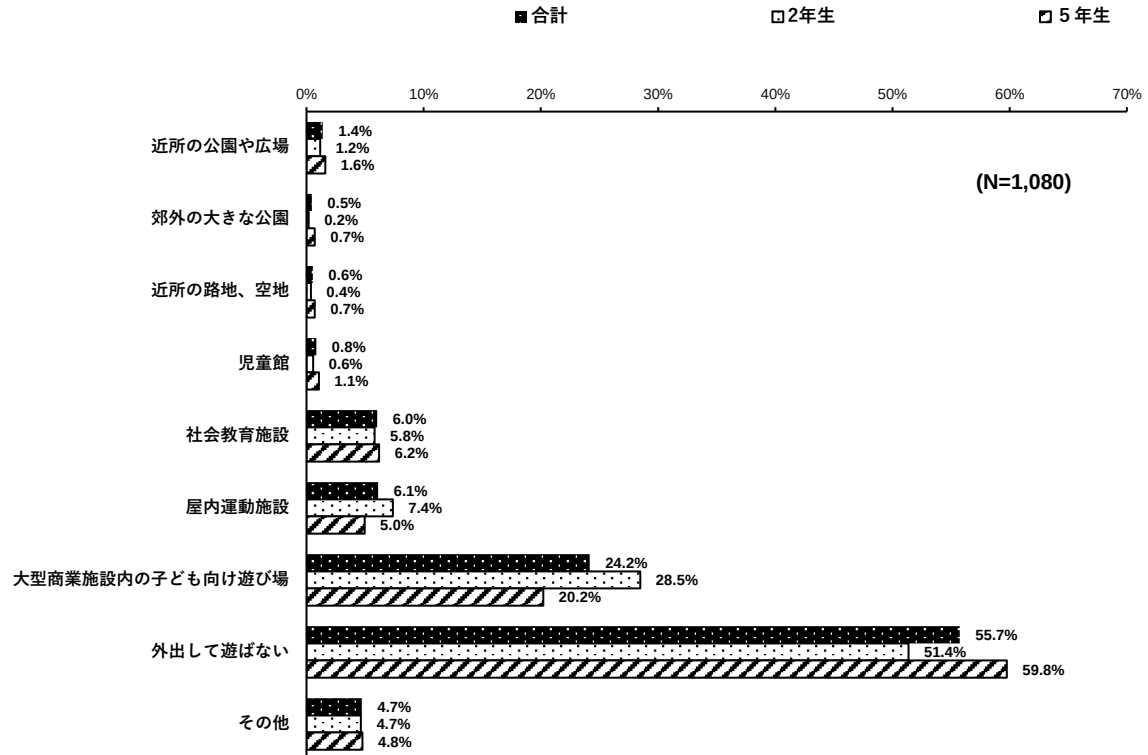
「外出して遊ばない」が56.0%と最も高く、次いで「大型商業施設内の子ども向け遊び場」が24.1%、「社会教育施設」と「屋内運動施設」が同率6.0%となっている。



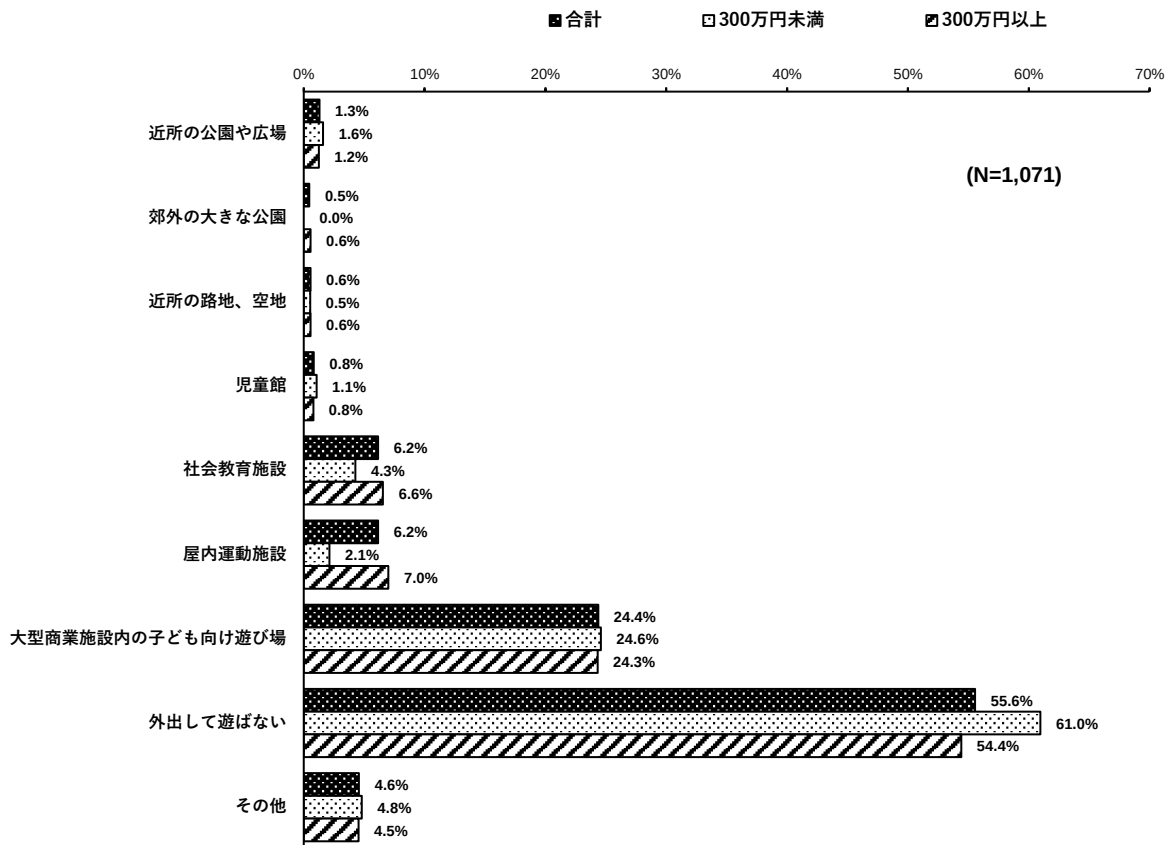
【地区別】



【学年別】

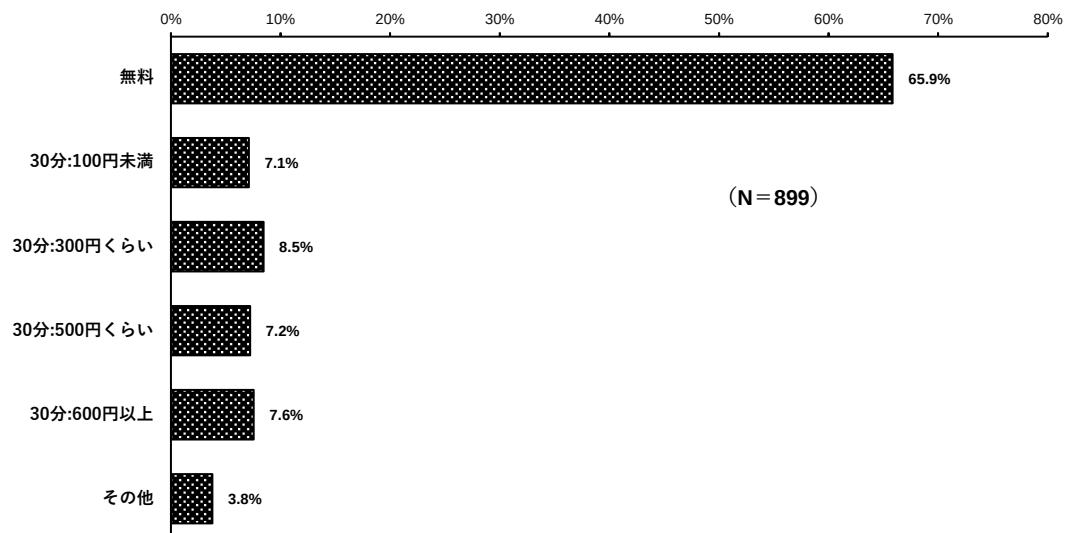


【世帯年収別】

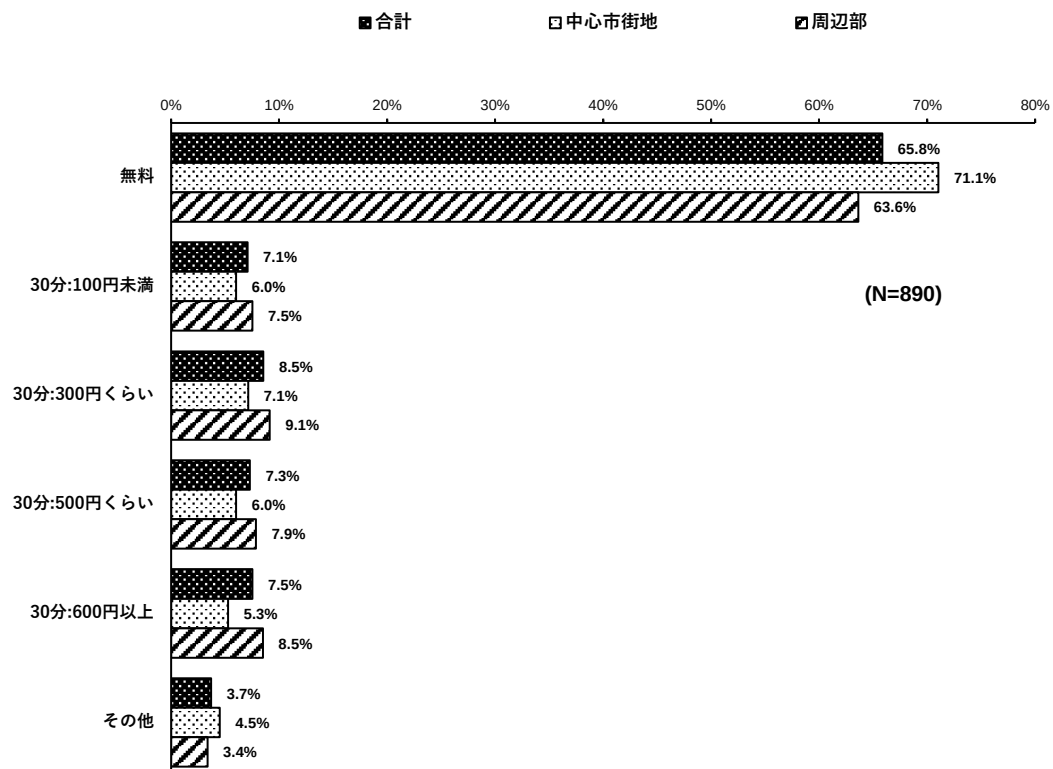


57. 遊び場 施設・場所の利用料【天気が悪い時】

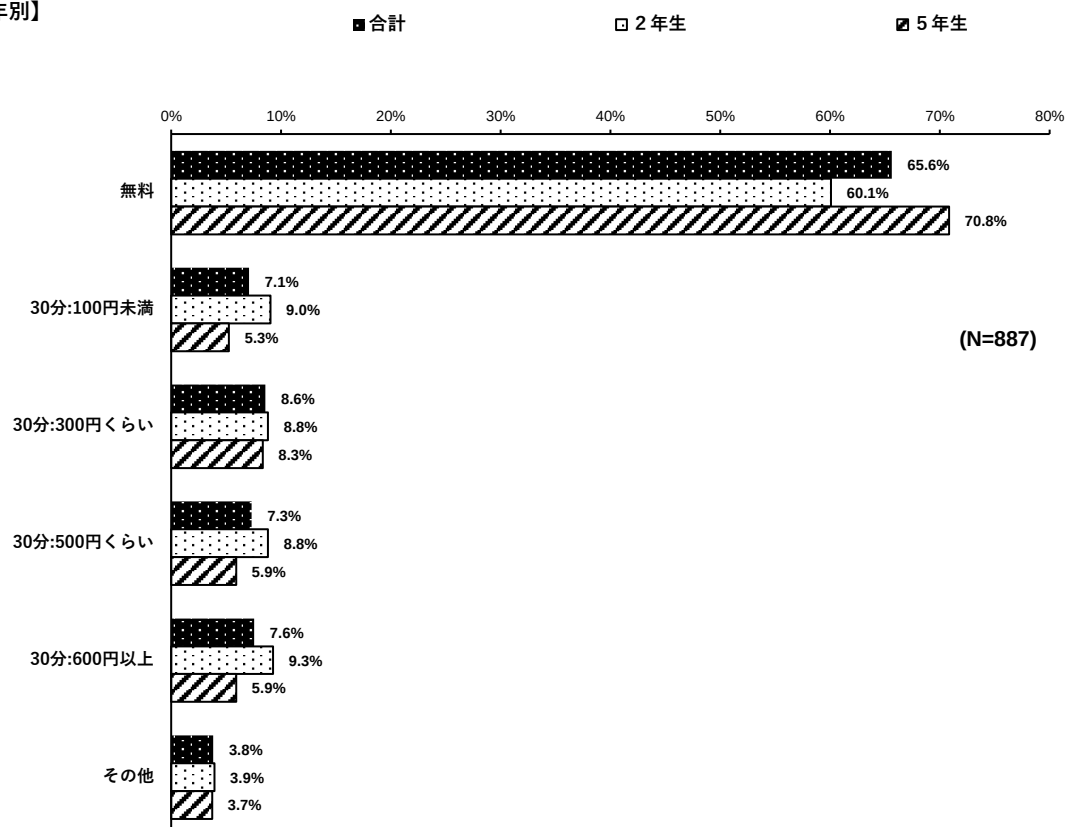
「無料」が65.9%と最も高くなっている。



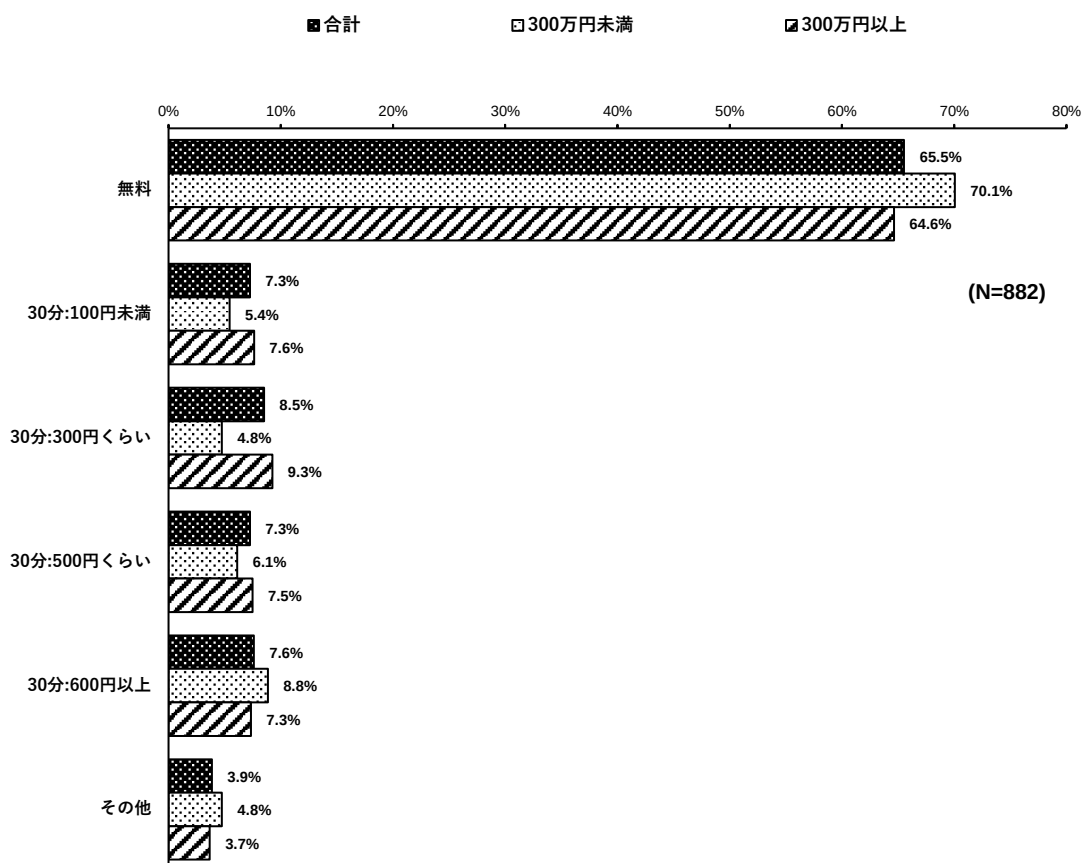
【地区別】



【学年別】

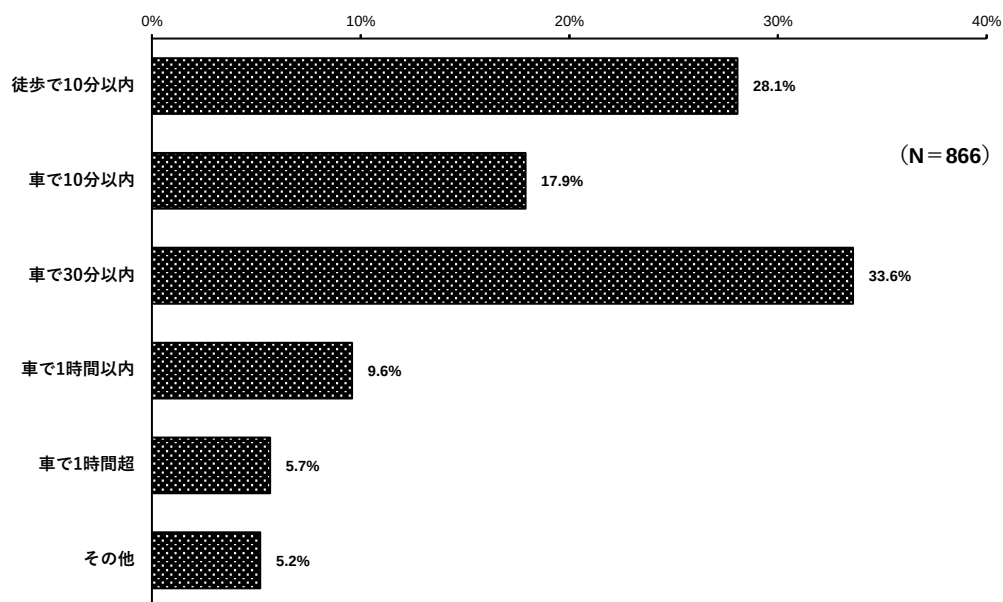


【世帯年収別】

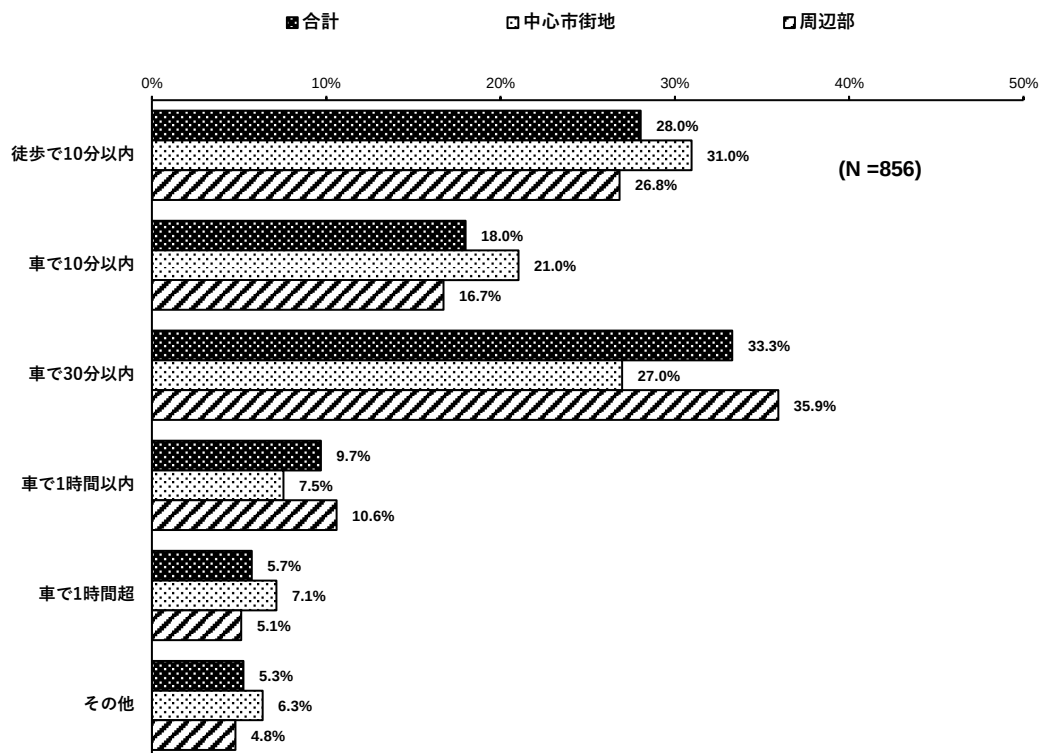


58. 遊び場 施設・場所までの所要移動時間【天気が悪い時】

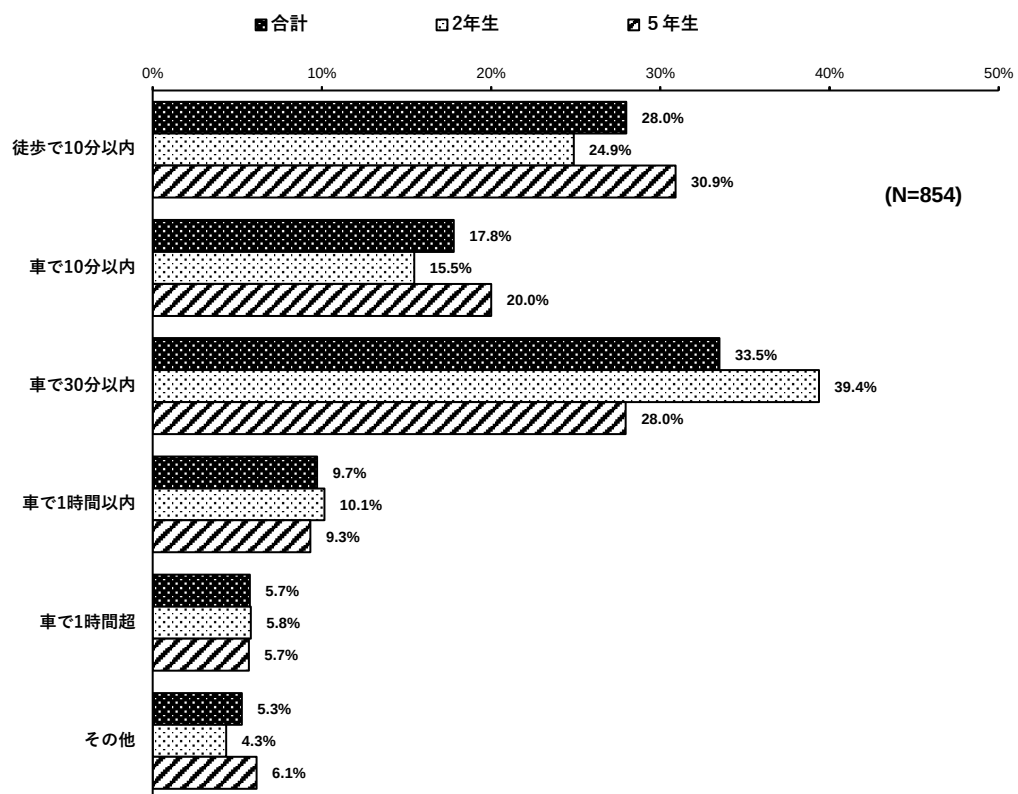
「車で 30 分以内」が 33.6%と最も高く、次いで「徒歩 10 分以内」が 28.1%、「車で 10 分以内」が 17.9%となっている。



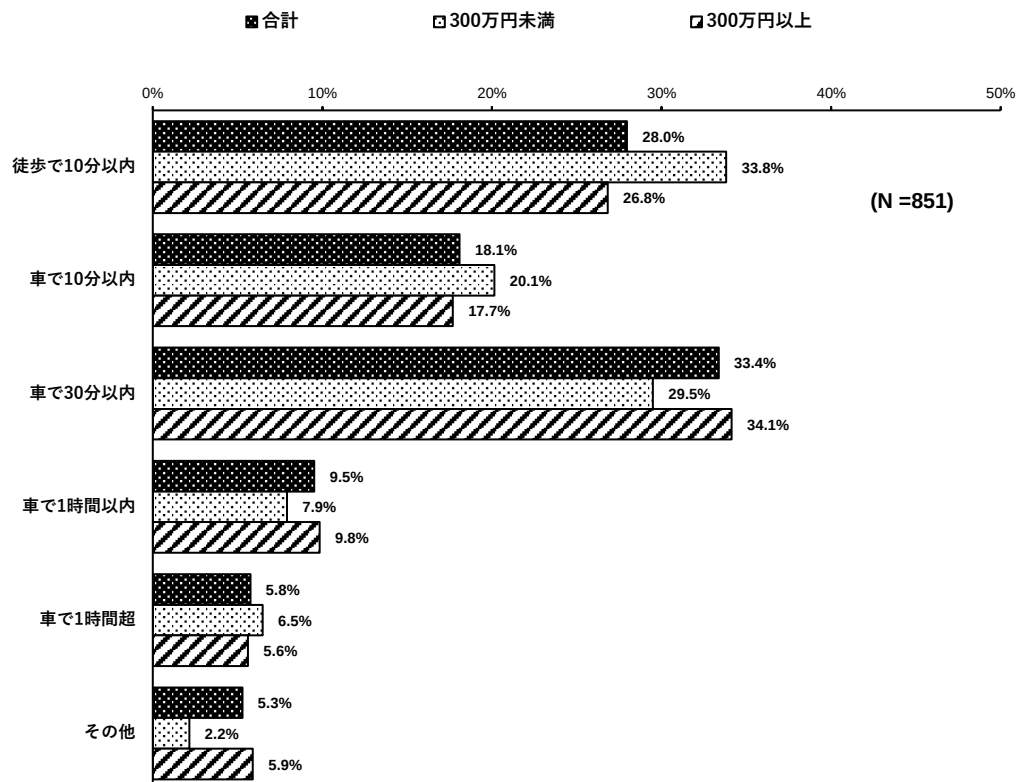
【地区別】



【学年別】

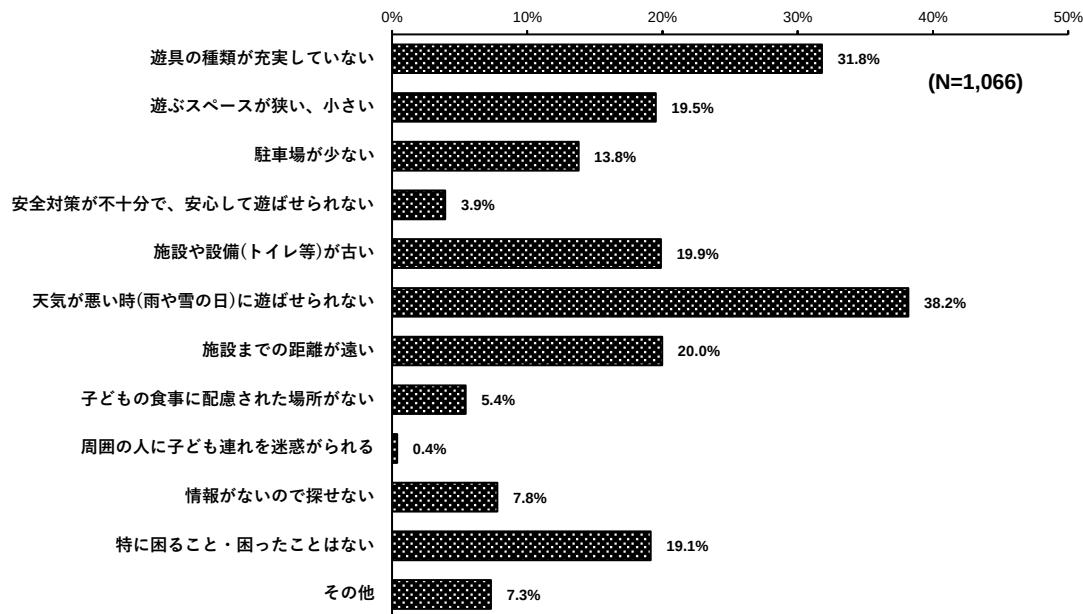


【世帯年収別】

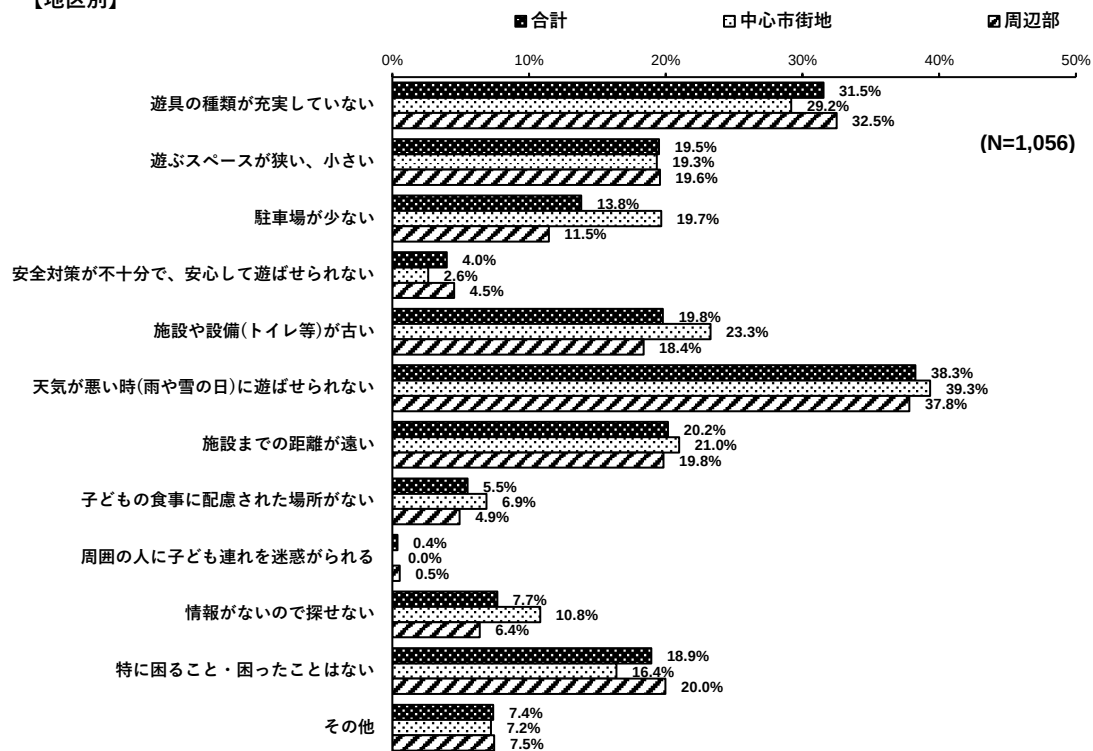


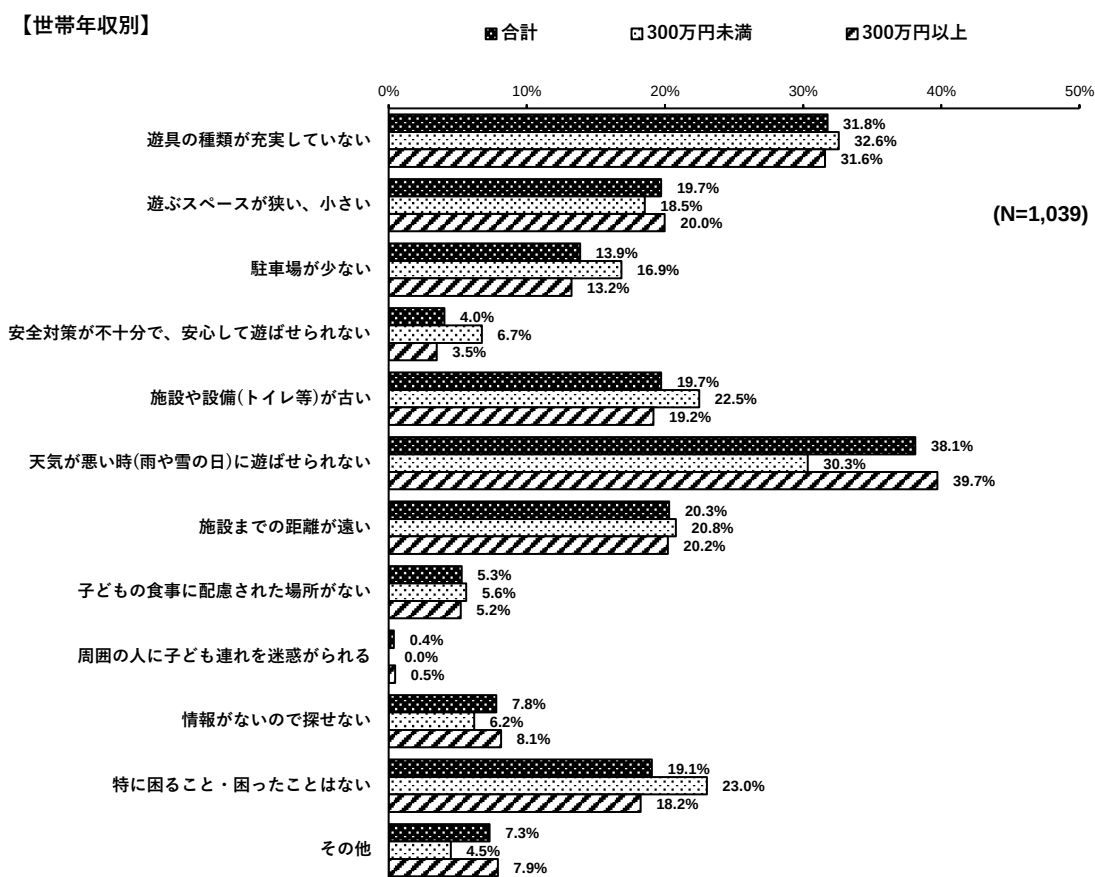
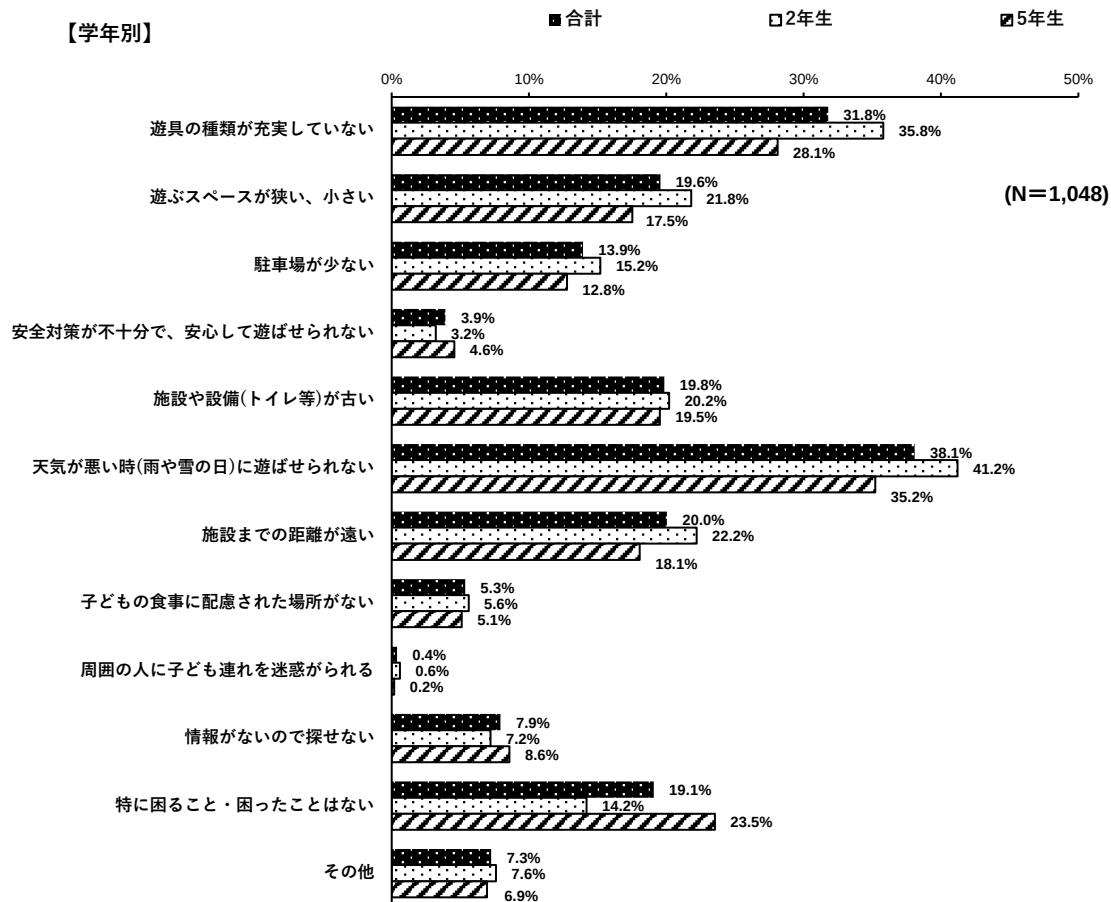
59. 遊び場を利用する時や探す時に困る事、困った事

「天気が悪い時(雨や雪の日)に遊ばせられない」が38.2%と最も高く、次いで「遊具の種類が充実していない」が31.8%、「施設までの距離が遠い」が20.0%、他には「施設や設備(トイレ等)が古い」が19.9%、「遊ぶスペースが狭い、小さい」が19.5%となっている。



【地区別】

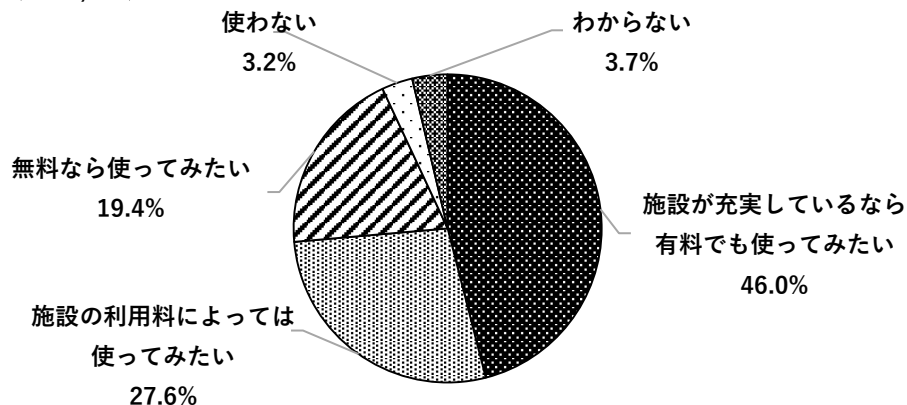




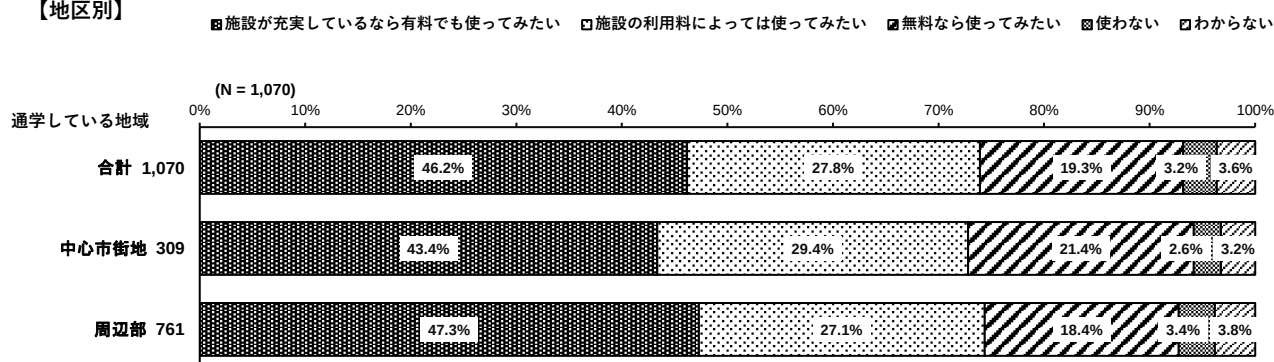
60. 屋内施設を利用したいか

「施設が充実しているなら有料でも使ってみたい」が46.0%と最も高く、次いで「施設の利用料によっては使ってみたい」が27.6%、「無料なら使ってみたい」が19.4%となっている。

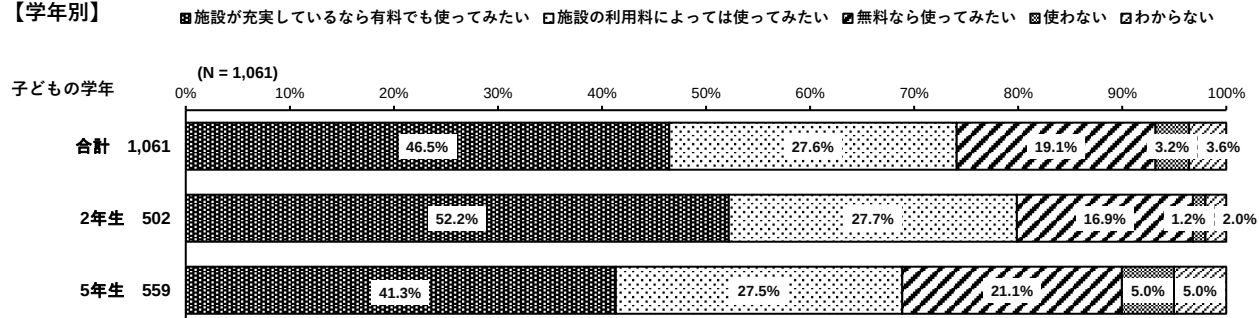
(N=1,080)



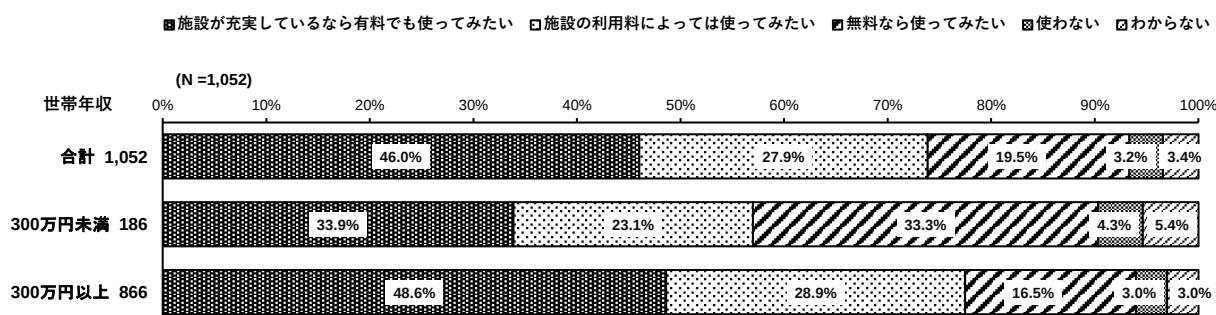
【地区別】



【学年別】

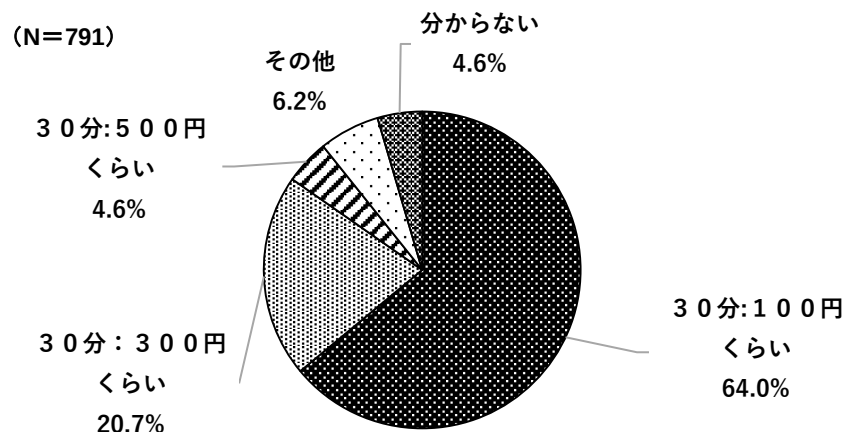


【世帯年収別】

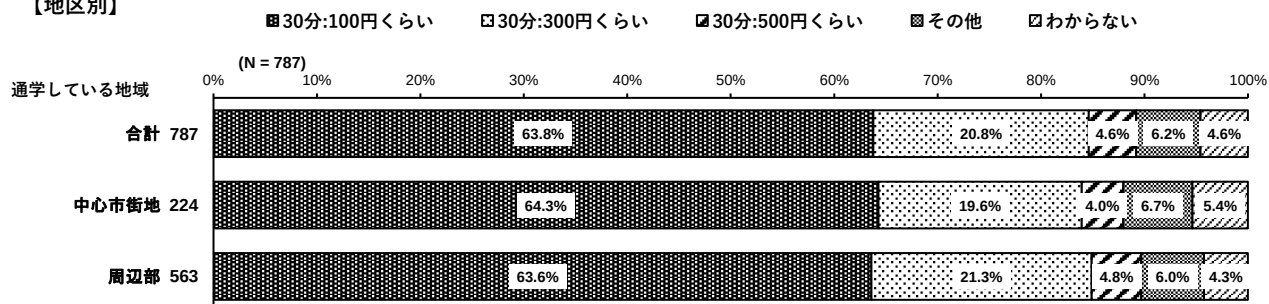


61. 屋内施設の利用料金の負担額（目安）

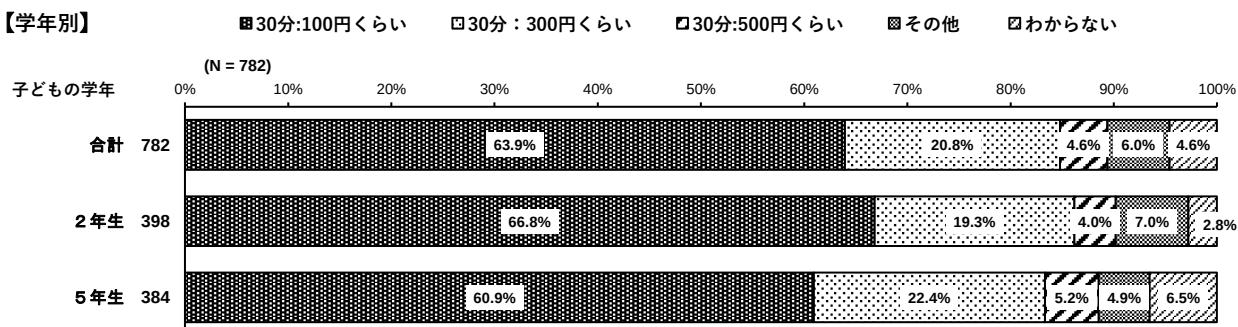
「30分：100円くらい」が64.0%と最も高く、次いで「30分：300円くらい」が20.7%、「30分：500円くらい」が4.6%となっている。



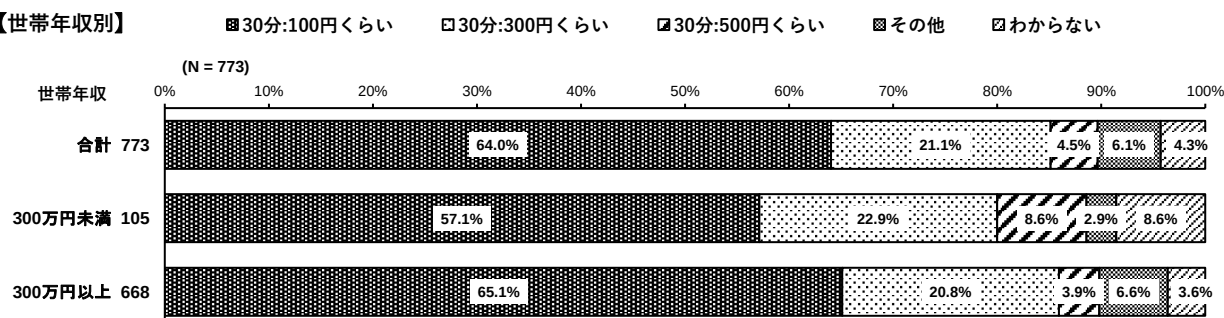
【地区別】



【学年別】

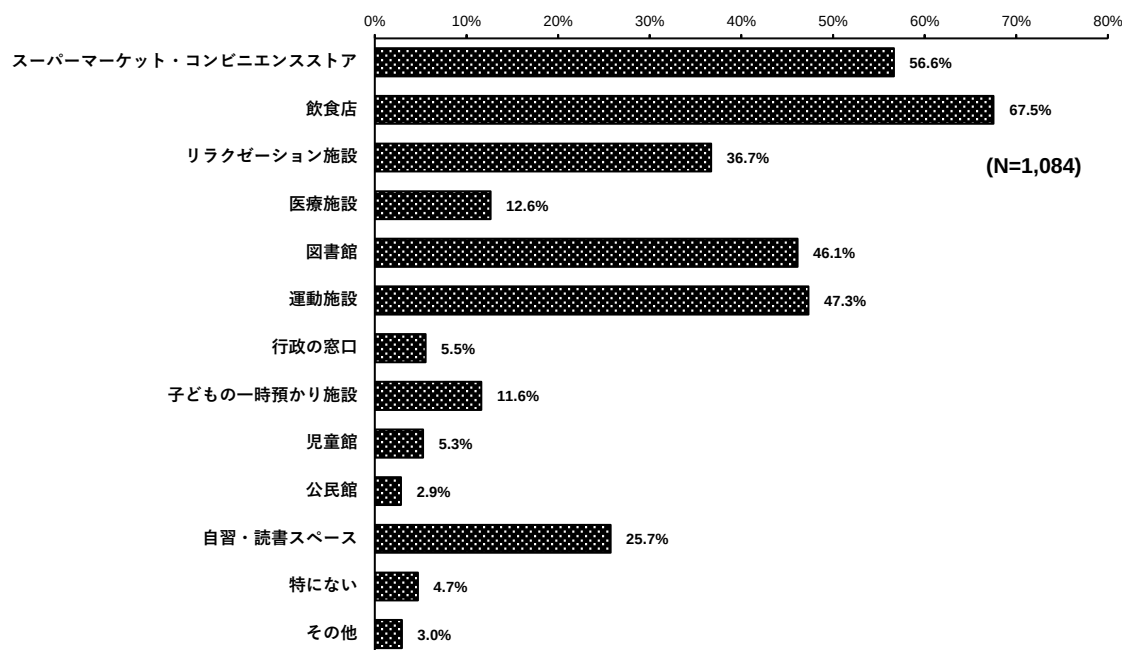


【世帯年収別】

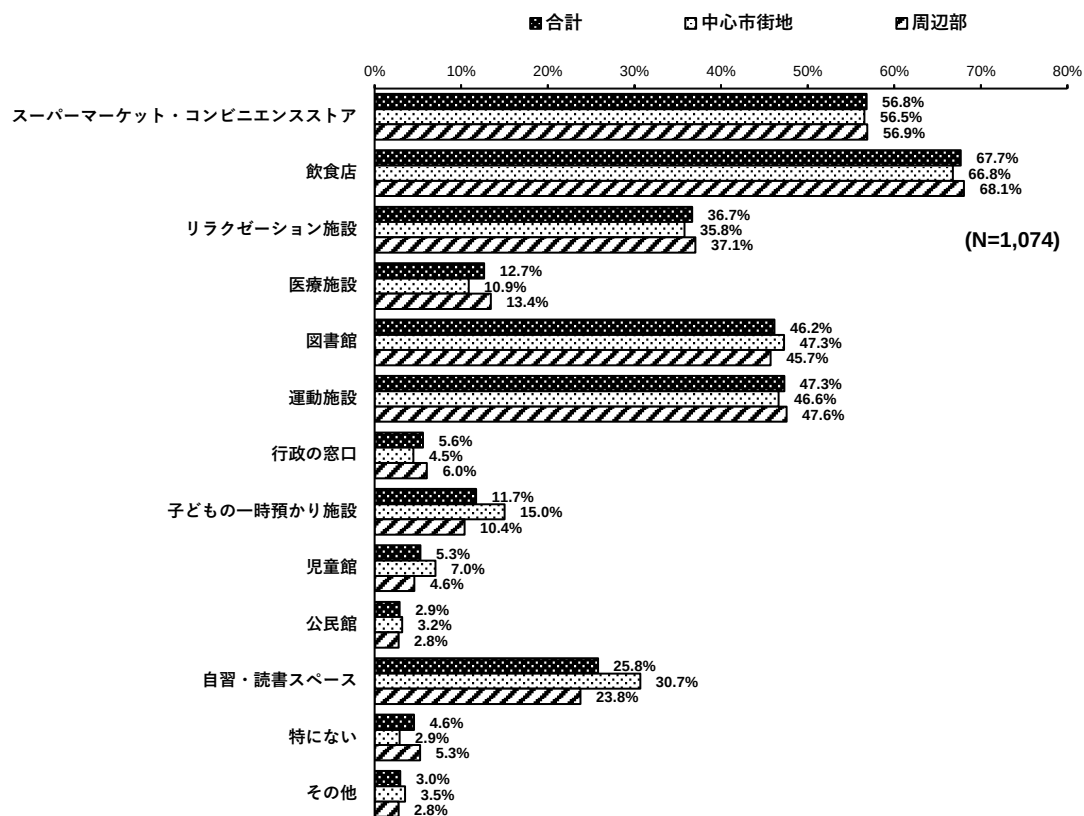


62. 子どもと遊ぶ施設・施設内に有れば良い施設

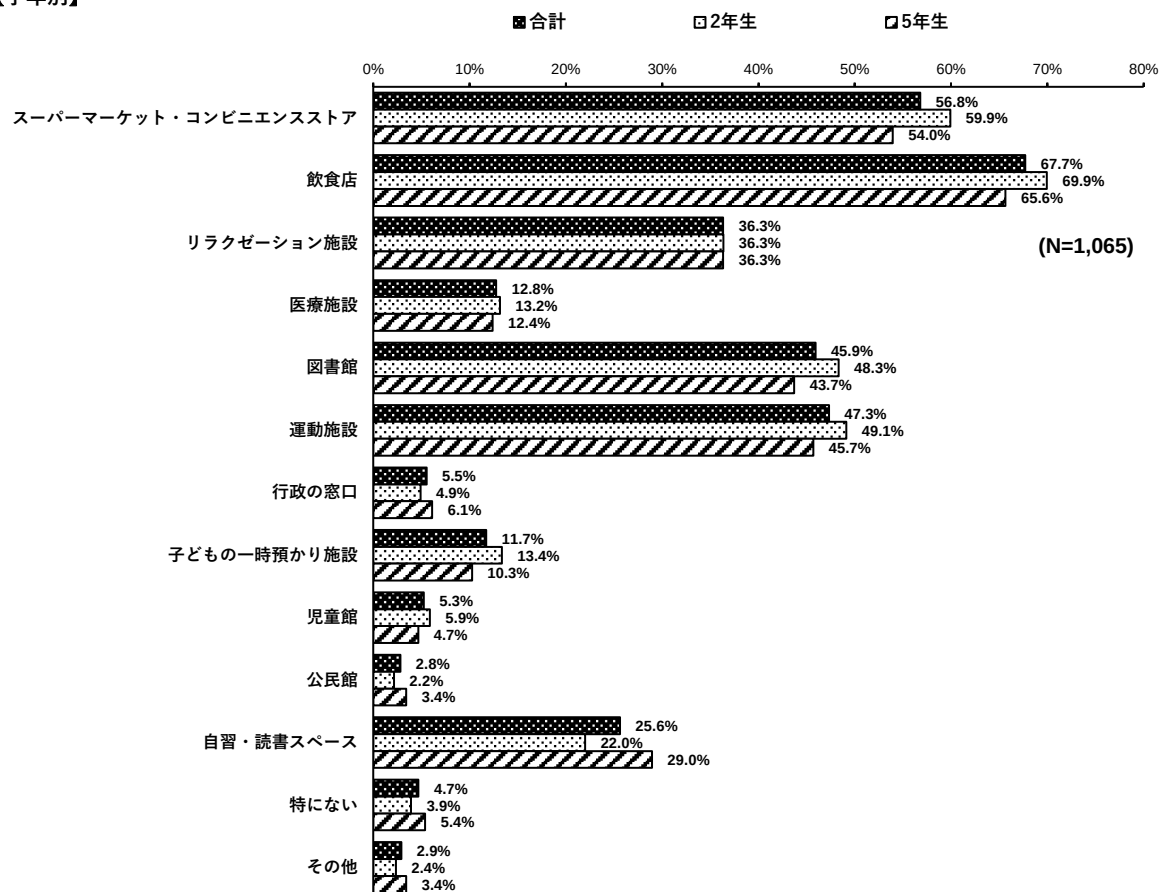
「飲食店」が67.5%と最も高く、次いで「スーパーマーケット・コンビニエンスストア」が56.6%、「運動施設」が47.3%、「図書館」が46.1%となっている。



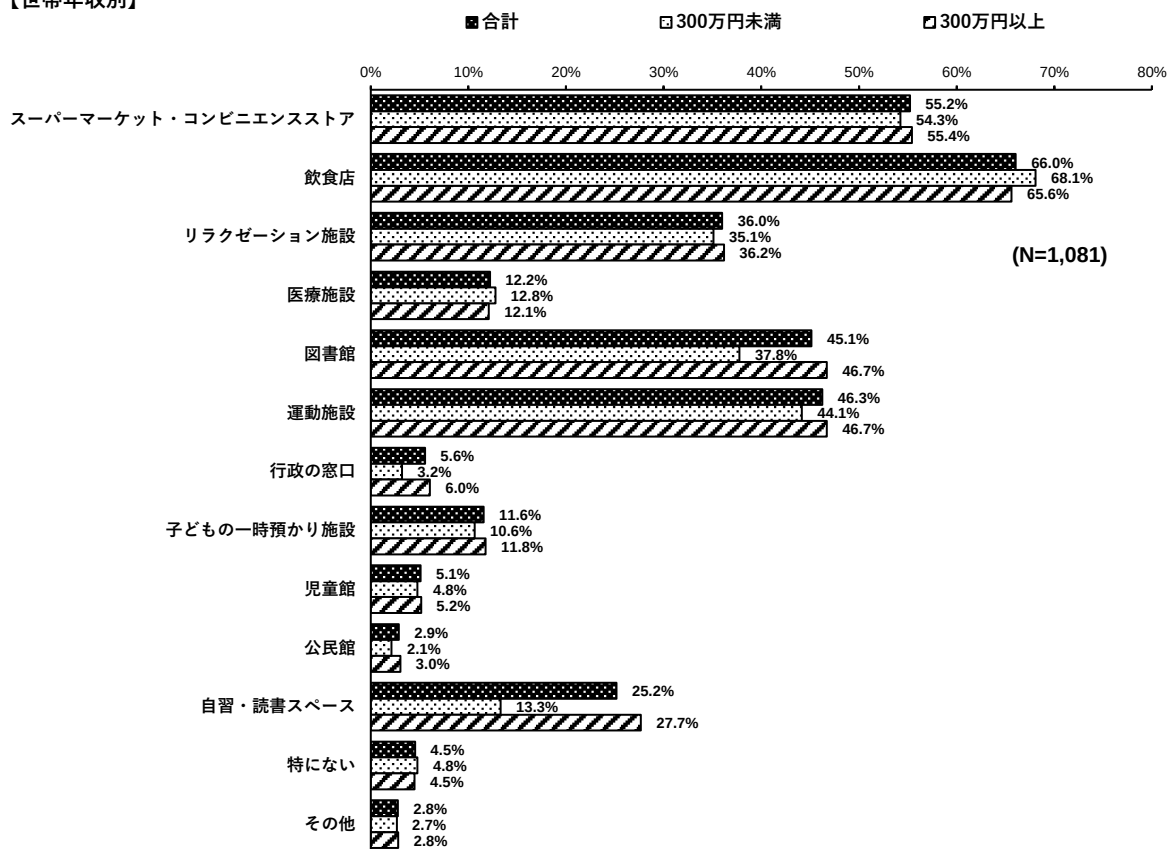
【地区別】



【学年別】



【世帯年収別】



【「その他」の内訳（一部抜粋）】

【遊び場に関すること】

- ・実家が中通りにあり、あだたらキッズパークや白沢キッズパーク、えぼか等でよく遊ばせました。会津にもそういった大きな施設が出来たら、親子で楽しく過ごせると思います。
- ・カフェとか子育て中の母が子からはなれるなどが流行りだがそもそも別問題である。子と遊ぶ施設は遊びが目的である。カフェでおしゃべりしている時、誰が子の面倒を見るのか。県病跡地のことについてもそうだが、はき違えてはいけないと思う。保護者が喜ぶことを優先させてばかりは鵜呑みにしているだけ。
- ・障がい者向けの家族休憩スペース、障がい者向けの遊具、屋根付きの屋外遊具が欲しい。
- ・アレルギー対応食（市のお店の方に協力いただき当番制で）対応の飲食店が欲しいです。

63. 子育ての環境や支援に関してご意見（一部抜粋）

【行政・（市）の子育て体制について】

- ・〇〇支援といった内容での給付金などがあると思いますが、必ずしも子どもに使用されていないことを耳にします。親が必ずしも適切に使用しないのであれば支援の意味もなくなってしまうので市で行う事業は必ずしもお金での援助でなくてもよいのではないかと思います。公平性を保つうえではお金が簡単なのかもしれませんが何かほかの形での支援を考えていただければと思います。（同じ予算で別のかたちでの支援という意味です。）
- ・父親学級の回数や内容を充実させてほしい。母親が子育てに奮闘している中、夫が父親になりきれていないと妻の負担が多すぎる。父親の自覚や知識をもって育児と家事に関わってくれるようになれば、離婚率が下がり、出生率が上がると思います。
- ・シングルマザーです。児童扶養手当を受けていますが、年収があがれば手当金額が減ります。年収をあげるためにたくさん働けば、子どもと過ごす時間は少なくなります。完全にワンオペで預け先もありません。年齢があがれば預けられる施設は減ります。会津はせっかく自然が豊かなのに、友達にもよく話を聞くと近県へ出てしまうようです。もっとイベント力の強い行事でぜひ親子で行ける機会がほしいです。
- ・子育ての環境や支援などのアンケートをとっている場合ではないと思う。もっともっと抜本的な出産祝い金制度や給食費の無償化など、取り組むべきことがたくさんあると思う。非常に子育てする環境が厳しい。親の金銭的負担が多いため、子どもは産めない。産まない方がいい。これからの会津若松市に大きな期待をしています。観光都市の会津若松市ではなく、「観光都市の会津若松市と、子どもがたくさんいて生き生きとしている会津若松市」になってほしいです。これからどんどん変わること期待しています。
- ・子育て支援は金銭的な支援も必要だと思います。近隣の市町村で行われている給食費無料等、親の金銭的負担を減らすことで子どもを負担に感じないと思います。
- ・塾や、習い事の助成金があるといいと思う。
- ・乳幼児期の支援は充実してきましたが、学齢期の相談窓口や居場所がないので、気軽に相談できるところや中高校生の居場所があると子育てに寄り添ってくれる市になると思う。
- ・もう少し体験型のイベントを行って欲しい。
- ・せっかく博物館や文化センターがあるのに、幼児、小中学生が来なくなるようなイベントなどが少ないと思う。
- ・一番有難いのは金銭的な支援です。子どもへの投資に使える資金が少なく困っています。

- ・ 周り(会津美里町や喜多方、南会津町)に比べて子育ての支援がなさすぎると思う。支援する気も感じられない。
- ・ ひとり親家庭医療費助成や児童扶養手当などの所得額の制限を見直して欲しい。所得制限があり、母子家庭でも手当を受けられない為。
- ・ 子育てにかかる支援。子育て世代への手当、給食費、学費無料など、一時的な給付ではなく、永続的な支援があれば、子どもが増え会津若松市が魅力ある町になると思う。
- ・ 他市町村では充実している子育てに関する補助金やサービス（予防接種や入学祝い金、教育費に関する支援、チャイルドシートや制服、その他の備品等の負担軽減）が充実すれば出産に対するハードルが下がり、子どもの数が増えると思う。地域として賃金の底上げや税金の負担軽減も大事だと思う。一度、市の教育相談室を利用したが、こちらは必死な思いで足を運んでいるのに、対応が軽くとてもがっかりした上に、他の家庭の資料を持ってくるなど、個人情報への配慮もかけており、もう二度といかないと決めた。市職員の地域住民への思いはこんなものなのだと悲しくなった。何よりもまずはそこから変えなければいけないと思う。
- ・ まだ子どもが小さい時にファミリーサポートに登録しようとその建物まで行ったことがあります、とても入りにくそうな雰囲気です。車もどこに止めていいのかわからず、あきらめた事がありました。そういったサービスを利用したいと思うのはほとんどまだ幼いお子さんがいる家庭で、車で行くと思うので、もう少し駐車場を分かりやすく入りやすい雰囲気にされた方がいいのではないのでしょうか。また小学生達が放課後に、例えば、集まって宿題をやったりする施設が徒歩圏内にあると良いと思います。以前は材木町にも児童館があったようですが、どうしてなくなってしまったのでしょうか。
- ・ 子育てしやすい市ではない。もう少し子育て世代にお金を出してくれたり、補助的に何かしてくれたらありがたい。遊ぶ場所もない。結局県外で遊んで、県外でお金を使う。だからもう少し会津を活気のある市にして欲しい。
- ・ ひとり親に対しての補助をもっと充実させてほしい。世帯収入が補助対象を上回っているから補助は受けられないと言われました。親の収入を頼るわけにもいかないのに同じひとり親でももらえる人ともらえない人が居るのは不公平だと思う。親の収入だけで補助が受けられるようにしてほしい。給食費や学級費、入学にかかる費用もひとり親でも負担は同じなものひとり親としては辛いです。
- ・ 昨年から幼稚園の保育料の利用額が安くなり助かっています。(第一子が小3ではなく年齢が引き上げられて子どもの数を計算していただけるようになったため)。
- ・ もっと1人1人の家庭に寄り添ってほしい。ひとり親の手当がなくなり、給食費も支払い、学習支援を受けられなくなりました。子どもの為に頑張って働いた結果がこれです。市に相談窓口があっても「収入に依じてなので」の返答しかもらえません。苦しい時はどこに相談すれば良いのですか？正直、若松市の支援に期待していません。現状を把握して、しっかり、対応や支援を検討してください。そうでないとアンケートの意味がないです。
- ・ こども園入園前は、子育て支援が充実していてとても助かりました。他の市はこんなに充実していないと聞きました。

【こどもクラブ（学童保育）の対応や要望について】

- ・ こどもクラブ（学童保育）について、1年間を通して利用する子どもだけでなく、希望日に利用できるようなると有難い。(自宅で子どもを見ている者が入院したり冠婚葬祭などの時、利用できる则有難い。)
- ・ こどもクラブの長期休みの開所時間が7時ならば、親が遅刻して仕事に行くことがなく安心して子どもも

親も暮らすことができる。建物の老朽化、学校のトイレの整備などでもしてもらえれば気持ちよく学習、学校生活を送れて明るい市が見えてくると思う。

- ・会津若松市に日曜日、年末年始も開放しているこどもクラブがあればうれしい。
- ・こどもクラブの中で習い事が出来れば良いと思う。(そろばんや習字など)。
- ・こどもクラブを利用していますが、土曜や夏休み、冬休みなどの長期休暇は開所時間を7時からや7時半開所にしていただけませんか？小学校前にひとり置いて行ったり、8時過ぎに着くよう一人歩かせて行ったり、とても心配でした。

【職場・働き方について（自身・家族・配偶者など）】

- ・男性の家庭、子育てに対する意識がまだまだ低いことと、男性にしても女性にしても、子育てしたくても、子のための休暇に対して会社がよく思わない風潮がまだ多くあることから、子を産み育てることに躊躇してしまいます。結婚、出産、子育てに躊躇することなく、社会がおおらかに見守れるよう、会津若松市は支援してほしいと思います。

【教育に関する費用の負担について】

- ・金銭的に余裕がなくても、安心して高校、大学に進学できると嬉しい。

【教育施設の体制・対応(学校給食費等)について】

- ・給食費無償化 こんな長ったらしいアンケートやる暇あるなら他に行動できる事があると思う。
- ・給食費の無償化があれば移住してくる人たちも増え子どもの多い町にできる。
- ・給食費や高校授業料の無償化、所得制限撤廃、手当ての増額など、子どもへの助成を充実させることで、子どもにいろいろな経験をさせてあげられるし、親子の時間が取れるようになる。
- ・義務教育の小中学で、体操着や制服、学用品、給食費、その他集金の負担が多すぎて、学校に関わる出費の負担が多い。そこをまず見直して子育てしやすくしてほしい。
- ・教員不足などで、子ども達の考えや個性を大事にした教育がされているか不安です。確かに、規律や協調性は大事だが、だからといって教師がボーダーラインを引き障がい児と判断し、自らの負担を減らすような行動に繋がっているのでは？と思います。教員へのフォローや手当てがあればよりいいと思います。

【医療体制や医療支援制度の充実について】

- ・休日当番医の数を増やしていただきたいです。日曜日に発熱等子どもの体調が悪い時、休日当番医に電話するが、すでにいっぱいその日に受診できない場合があります。
- ・休日当番について。休日当番なのに、「子どもは受け入れません。」と言われ、大人も子どもも受け入れてもらえる休日当番をお願いしたい。受け入れ拒否だったのがビックリした。コロナ検査やインフル検査も当日小児科を予約したくてもいっぱいどこも予約できない。もっと何とかならないか？
- ・乳幼児健診は、午前中だとありがたいと感じていました。午後は、お昼寝の時間と被っていたり、他の兄弟の帰宅時間と被ってしまう。
- ・例えば幼稚園や保育園の近くに、病児保育があって、利用しやすかったら（手続きが簡単だったり）、祖父母が病気等で預けられない状況であっても親が仕事を休まずに済むと思う。職場環境によっては仕方なく休んでいるのに理解を得られにくい職場もあるので。
- ・休日や夜間に小児科が診てくれる病院が充実してほしい。先日、夜間救急センターを利用したくて1.5時

間電話し続けたが、一度もつながらず、予約できなかった。電話予約ではなく、WEB 予約にする。休日当番には必ず小児科を入れるようにしてほしい。平日、休日にかかわらず、子どもが安心して受診できる街になってほしい。

- ・小児科が少なすぎます。
- ・予約が取れなくて受診できない、予約が午後しか取れない、検査しないと診てもらえない、など。
- ・検査結果待ちの間に痙攣を起こして入院したり、結局竹田病院にまわされてしまったりする(また検査からやり直し)ので、今は竹田病院一択ですが、それでも予約がいっぱいだと断られます。夜間救急の時間まで待つように言われます。苦しい思いをしながら受診を待つのはかわいそうです。また、受診できないと、私の仕事もまた休まなくてはなりません。子どもから先にこの意見を言われて、私もハッと気がつき、こういうことでも良いのかなと思い書かせていただきました。
- ・遊ぶ施設よりまず、子どもが健康でないと遊べないので、小児科、特に入院できる小児科が増えることを望みます。

【障がいを持つ子どもの支援について】

- ・子ども 3 人目から児童手当が 3 万円になるのに、障がいのある子どもを育てている(療育手帳を持っている子どもは特に。)世帯にも応援がほしい。会津独自の障がい児童手当を手厚くしてほしいです。世帯収支によって放課後デイサービスなどの利用料が 0 円、4,700 円、37,200 円(上限負担)をなくして一律にして欲しい。障がいのある子どもには想像以上にお金がかかります。本当に大変なんです。
- ・会津支援学校は生徒が多く、教室が不足していて、1 つの教室に多くの生徒が無理やり利用していると聞きました。新しい建屋をつくるなりする必要があると思います。早急に新校舎を計画してほしいです。校舎内を見学しましたが、光が入らない場所が多いのか暗く感じました。子どもは人口が減っていますが、発達障がいの子どもの数は増えています！療育を充実させてほしい。児童発達支援は(就学前?)は利用料 0 円なのにどうして小学生からは有料なのでしょう？できれば小学生～高校生も 0 円にしてほしい。(放課後デイサービスなど)

【公園・遊び場・体育館・スポーツのできる場所について】

- ・会津若松市には、運動公園しか遊び場がありません。天候にも左右されない屋内施設(大型。障がい者対応)があると、子育てしやすい環境になると思います。
- ・会津総合運動公園は小学生になると行きづらい。小さい子ども達が多いので遊びづらい。小学生でものびのび遊べる施設が町中心にあると良い。こどもクラブを利用していない子が、放課後に自由に学習できる場所があると良い。
- ・上の子が小さい時に他地域より引っ越してきました。以前住んでいた地域には無料でいつ行ってもいい支援員さん？(保育士さん?)が常駐している施設があり、子どもはもちろん親も安心して過ごすことができました。会津若松市にきて日にち指定であったり、予約が必要だったりと気軽に利用できるには難しいと感じました。私の情報収集不足だったのかもしれませんが、いつでも気軽に利用できる施設があったらもっと楽しかったらと思うました。最近子どもが児童館の案内をもらってきていつでも行けて楽しそうだなと思ったので、利用してみたいなと思っています。出かける機会が増えるともっと活発な市になると思います。
- ・ベップキッズや喜多方の施設のような、屋内の遊び場が充実してくれると、子育て支援が充実した町になると思います。

- ・以前、福島市に住んでいましたが、屋内遊び場が充実していて天気に関係なく行けたし、ももりんパークは安価で沢山の乗り物が乗れたり子育ての環境としてはとても良かったです。若松は豪雪地帯なのに、屋内遊び場がほぼなく、冬場は家でゲームやYouTubeがほとんどです。会津は車移動がほとんどなので、駐車場が広い屋内でも屋外でも遊べるような施設があると市外からも人がくるような賑やかな町にできるかと思います。隣に少し休めるカフェなどあれば親としても休めて嬉しいです。
- ・運動公園はあるが、冬季間や悪天候時に遊ばせられる大型施設がない。喜多方のめぐぶらざのような施設が欲しいが、めぐぶらざも設備として十分とは言えない。本屋や図書館、カフェ、スーパーが併設しているような親子で利用しやすい機能的な施設がほしい。映画館もなく、神明通りも利用する店舗がなく、ドンキくらいしか大型商業施設がない会津若松市に子育て世代は住む街として魅力を感じない。これでは、自分の子どもがこの街で子育てすることを勧められず、県外に出ても仕方ないと感じてしまう。会津コインや電子商品券を導入しているが、高齢者には使いづらく、若い世代が利用する設備も少なく、会津若松市は住む街として魅力がない。
- ・会津には子どもが遊べる施設が少ないと思います。そのため県外などに行くことが多いです。県外に行けばそこでお金を使ってくるので、今のままでは会津内で経済もよくすることは難しいのかなと思います。会津の人もそうでない人も会津で遊びたいと思えるような子どもたちが思いっきり楽しめる施設が欲しいと思います。子どもにも将来「会津で子育てしたい」と思ってもらえるような施設が出来ると良いと思います。
- ・会津若松には、子どもが休日に遊べる施設が全くありません。自分を含め多くの人は、市外または県外に遊びに行きます。それでは市は潤いません。商業施設、娯楽施設の充実を求めます。例えば子育ての環境が良くても、将来子どもたちが住みたいと思う町づくりをしなければ、子どもは帰ってきません。
- ・誰でも(障がいがある子ども達等)、思いっきり遊べる場所があったらいいと思う。静かにしなくてもいい図書館があっても良い。
- ・遊び場が少ないため子ども達だけで集合して遊べる場所が少ない。交通量も多いわりには安全な道が少ない。
- ・今は子どもたちが大きくなってきたので、少し暑い寒いくらいでも外で遊ぶことが出来ますが、1歳~2歳くらいの時には室内で遊べる所があったらいいなと思っていました。こども園の子育て支援も利用していましたが時間が合わない時もあり、子どものペース(生活リズム)に合わせて利用が出来たらいいなと思っていました。学校での学習はもちろんですがいろいろなところに行っているいろいろなものを見たり、経験をするのが大切だと思います。学校に行っているだけでもたくさんの経験ができていると思いますが、イベントをいろいろしてほしいです。(小学生向け)
- ・無料の屋内遊び場があると良い。郡山や喜多方など今ではどこでも大きい屋内遊び場があるのに、なんで会津若松市にはないのか。とても不便。こんな環境で子育てするのは大変で、子どもを産みたくても産もうと思わない人も増える。ショッピングモールなどもなく、休日家族で過ごす場所が少ないし、住みづらい。もっと子育てに向けた施設を増やすべき。

【その他(どんな街にしたいかなど)】

- ・会津若松市には大型スーパーがありません。郊外にカインズホームやスターバックス等でしたが、家族でショッピングできるような施設がないため、市外に出かけることが多いです。イオンモール等、様々なお店が入っていてフードコートなど入っている施設が会津にあれば若者も会津で遊んだり、活気がわくのではないのでしょうか。

- ・以前、子どもについて2才〜3才くらいの時にも同じようなアンケートに答えて子どもが遊べる施設等の要望を書いたが、何一つ子育ての環境は改善されていると感じられない。
- ・会津若松市で、たくさんの自然の中でのびのびと育て欲しい。地域のおじいちゃん、おばあちゃんと交流して、世代間交流して欲しい。
- ・会津若松市に映画館や、商業施設があればいい。
- ・会津若松市に市営の科学館、会津大学と共同開発のITを学べる施設、動物園、遊園地等の1日遊べる施設があれば、子どもたちの学力向上や様々な体験を通しての学びが得られる素晴らしいまちになると思います。また、1年を通して遊べる施設があれば、子育てがしやすいまちになると思います。会津若松市は、スマートシティを推進しているので、子ども達の教育にもIT分野をどんどん触れる機会を与えてほしいです。
- ・喜多方にある施設のような、遊具の充実さや安全性の高さがある施設だと、親は有料でも行かせたいと思う。無料だけを求めているのではない。公共であっても有料でもいいので良いサービスは求めたい。一方で子育て世代への税金の高さが一番の負担。ひとり親や世帯年収に関わらず、一律での助成金をしてほしい。
- ・子育て世帯への金銭的負担が多すぎる。他県では給食費無償化など行っている。会津は、夏は暑く冬は寒く雪も降る。物価も高く税金（市民税）も他の市町村より高くお金がかかります。生活の事を考えると子どもを産みたくても出費が多く諦めます。地域活性化のためにも子育て世帯に商店やスーパーで使えるクーポン券など無料で配ったりしてはどうかと思う。会津若松の人口も毎年減っている所以で子育て世帯への負担を減らした方が良くと思います。
- ・子ども会は親が手伝うことが多いイメージがあり、最近は入会を希望しない世帯が多いです。文化祭、敬老会、マラソン大会、トライアスロンなど子ども会に関係ない行事まで子ども会からのボランティアを募るのは親の負担になりますので減らせないでしょうか……。市民から募集するなど。ますます子ども会への入会が減ってしまう気がします。
- ・自然に触れ、学ぶことができる場所が市内にあると良い。
- ・伝統文化を学び、継承できる場があると良い。
- ・幼少期からICTに慣れ親しみ高いスキルを身につけることができる場があると良い。
- ・出来るだけ戸外で遊ばせたいが天候によっては室内で存分に遊ばせたい。大きな屋内施設が一つできても若松市内の子どもたちが集中することを考えると行きづらい。2, 3ヶ所こうした施設があれば分散してのびのび遊べるし運動不足も解消すると思う。
- ・前、明石市市長の泉房穂氏が「お金が無い時こそ子どもにお金をかけるべき」とおっしゃってました。国の政策(正直、期待していません)を待つのではなく、市区町村単位で取り組むべきだと思います。子育てをしやすい会津にすることで他からの転入者も増えるし、将来戻ってくる人も増えると思います。こども食堂も増やすと良いですね。これも支援に頼るのではなく、市が率先してお金をかけるべきです。収入によっての格差は無くすべきです。
- ・中学生の子どもも言っているが、自習スペースがもっとあると良い。子どもを預けて買い物出来たり、一緒に遊んだり、時間を過ごすところがあれば会津から出て行ってしまいう大部分の高校生も将来的に戻って来てここで子育てしたいと思うのではないかな。また、補助ももっとあると良い。美里町のようにお祝い金が出るとか、皆に自慢できるような事があると良い。このままでは人口流出につながる。ファミリーサポートももっと充実させて細かなニーズに対応してほしい。(習い事の送迎はあるが、毎日はダメ)そうすれば共働きもふえて会津に税金が入って来て潤って住みやすい町になる。とにかく会津から子どもを出した

くない。子どもが喜ぶ施設を作り、良い環境だと思える所になってほしい。高校生や中学生も集えるような交流ができるようなフリースペース。(稽古堂のロビーの延長のような感じ)そこで展示したりお茶したり、雨の日でも遊べる時間を過ごせる所があれば子どもが喜び、休みの日も県外で遊ばないで会津にいてお金を使う。イオンとか郡山とかにあるお店を会津にも作れば子どもが喜ぶ町になる。地元のお店がワークショップを出せる場所。子どもはそういう体験が好きなので、体験できる場所があれば子どもが集まるまちになる。例えばうちの子でいえば、ムシテックの様な色々な体験ができるところ。観光客に目を向けるだけでなく、子どもが喜ぶ場所をつくると人が集まる町になる。

- ・被災の人にはばかりお金を使うのではなく市民が負担しているのなら、市民が目で見えてわかることに使用してほしいものです。税金を上げるばかりではお金を使おうとも思わないし、まして、働く施設も少ない若松では子どもも外へ出てしまいます。遊べる施設も少なく、住みたいまちづくりをしなければ何も変わらないと思います。お金を使ってほしいならば、どこかの市のように、施設に払うより市民に払い使用させることで回るようにと思う。
- ・必要なものは、新しく箱ものを作るのではなく、保護者が安心して子育てができる支援の充実だと思う。給食のオーガニック化など。また、学校の設備の老朽化について、外部委託することで予算を削減する(謹教小のプール)などは、不利益を子どもに押し付けているとしか思えず、憤りを感じる。遊び場を新しく造るのは対外的なアピールになるかもしれないが、必要なことは目に見えない小さなことである場合が多いと思っている。子育て事業に関する発想の転換を求めます。
- ・物作りの体験が出来る機会があればよい。
- ・歴史のある町に住んでいるのだから校外学習(会津若松市の良いところ、人気の場所、有名なところなど)をもっと授業で学べると良いと思う。子どもの店が少ない。服、靴など。遊べる場所の充実。毎回、運動公園は人が多いので、気を使って遊ばないといけなから行かなくなった。室内遊び場を増やす。病院の待ち時間をサイトで見られるようにする。小児科は予約がとれない、いつも混んでいる。
- ・子育てで、困っている親が確実に孤立せず、外と繋がれるような仕組みがより整っていくと町が充実していくと思う。
- ・もっと国際交流ができると良いと思う。異文化を体験したり、交流したり。
- ・会津は子ども支援を充実させているという町になってほしいです。(健常児・障がい児ともに)
- ・学校までの通学路をしっかりと整備してほしい。道路が狭い、側溝、老朽化、歩道がないなど。
- ・教育については、算数などの躓きに対応できるように、先生の数をしっかり増やして欲しいと思います。勉強出来ない子を減らし、素行の悪い中学生が少なくなることを願います。